

筑後西部地区遺跡群Ⅱ

福岡県筑後市大字島田、水田、折地、常用、井田所在遺跡の調査
筑後市文化財調査報告書
第29集

2000

筑後市教育委員会

筑後西部地区遺跡群Ⅱ

福岡県筑後市大字島田、水田、折地、常用、井田所在遺跡の調査
筑後市文化財調査報告書
第29集

2000

筑後市教育委員会

筑後西部地区遺跡群Ⅱ

福岡県筑後市大字島田、水田、折地、常用、井田所在遺跡の調査

- つねもと た
・常用ビンセ田遺跡
- みずたしろうけ
・水田正吹遺跡
- しまだそとやしき
・島田外屋敷遺跡
- せいでんくりのうら
・井田栗ノ内遺跡
- みずたいせのわき
・水田伊勢ノ脇遺跡
- おりちちようけんじ
・折地長間寺遺跡
- せいでんほりごし
・井田堀越遺跡
- せいでんしもほりごし
・井田下堀越遺跡
- うめじま
・梅島遺跡（第2次調査）

2000

筑後市教育委員会

序

永きにわたって実施されてきました県営干拓地等農地整備事業に係る筑後西部地区の発掘調査は平成9年度をもって終了しました。

発掘調査の結果、筑後市南西部一帯には、広範囲に及んで多数の遺跡が分布していることがわかり、筑後市の中でも多数の遺跡宝庫地であることが明らかになりました。

こうした成果を挙げることができましたのも、調査にご理解とご協力をいただきました関係者及び地元の方々の賜とっております。

最後に、本報告が文化財保護の一助として広く活用していただければ幸いです。

平成12年3月

筑後市教育委員会
教育長 牟田口和良

例 言

- 1.本書は、県営干拓地等農地整備事業に係る筑後西部地区の工事に伴い、福岡県筑後川水系農地開発事務所からの委託を受けて、筑後市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
- 2.発掘調査及び出土遺物の整理は筑後市教育委員会が行い、出土遺物・図面・写真などは筑後市教育委員会において所蔵・保管をしている。なお、発掘調査及び整理作業の関係者は「Ⅰ.調査経過と組織」に記したとおりで、調査担当者は本文中の「(1)はじめに」に記した。
- 3.調査に用いた測量座標は、国土調査法第Ⅱ座標系を基準としている。従って、本書に示される方位はすべてG.N.(座標北)を示し、本文中に記される遺構の角度はこれを基準としたものである。また、水準はT.P.を基準としている。
- 4.本書に使用した図面のうち、遺構の実測図は永見秀徳、小林勇作、田中剛、柴田剛、塚本映子(現:三谿町教育委員会)、大島真一郎(現:黒木町教育委員会)、田中洋子、末吉隆弥(現:川崎町教育委員会)、奥村太郎が作成した。また、遺構の全体図は、梅島遺跡(第2次調査)及び水田正吹遺跡をアジア航測株式会社、鳥田外屋敷遺跡は大成ジオテック株式会社に委託した。遺物の実測図は永見、平塚あけみ、江藤玲子が作成し、図版の浄書は永見、平塚が行った。
- 5.本書に使用した写真のうち、遺構の写真撮影は永見、小林、田中、柴田、塚本、大島、末吉が行い、遺物の写真撮影は永見、小林が行った。現場における空中写真撮影は(有)空中写真企画に委託した。
- 6.本書に使用した遺構表示は下記の略号による。
SB—掘立柱建物 SD—溝 SK—土壘 SP—ピット ST—墓 SX—周溝状遺構・不明遺構
- 7.本書に掲載した地図(Fig.1)は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したもの(承認番号 平12九複、第60号)である。
- 8.本書の執筆は「Ⅲ—9.梅島遺跡(第2次調査)の調査」を永見、その他は小林が担当し、編集は小林が担当した。

本文目次

Ⅰ.調査経過と組織	1
Ⅱ.位置と環境	3
Ⅲ.調査の概要	7
1.常用ビンセ田遺跡の調査	7
(1)はじめに	7
(2)遺構	7
(3)出土遺物	8
(4)小結	8
2.水田正吹遺跡の調査	9
(1)はじめに	9
(2)遺構	10
(3)出土遺物	20
(4)小結	30
3.鳥田外屋敷遺跡の調査	35
(1)はじめに	35
(2)遺構	35
(3)出土遺物	43
(4)小結	49

4.井田栗ノ内遺跡の調査	53
(1) はじめに	53
(2) 遺構	53
(3) 出土遺物	54
(4) 小結	54
5.水田伊勢ノ脇遺跡の調査	55
(1) はじめに	55
(2) 遺構	55
(3) 出土遺物	59
(4) 小結	63
6.折地長間寺遺跡の調査	65
(1) はじめに	65
(2) 遺構	65
(3) 出土遺物	73
(4) 小結	80
7.井田堀越遺跡の調査	83
(1) はじめに	83
(2) 遺構	83
(3) 出土遺物	84
(4) 小結	88
8.井田下堀越遺跡の調査	91
(1) はじめに	91
(2) 遺構	92
(3) 出土遺物	92
(4) 小結	96
9.梅島遺跡(第2次調査)の調査	97
(1) はじめに	97
(2) 遺構	97
(3) 出土遺物	100
(4) 小結	173
IV.総括	175

挿図目次

Fig.1	周辺遺跡分布図(1/25,000)	3
Fig.2	県営干拓地等農地整備事業筑後西部地区一般計画平面図(1/10,000)	(折り込み)
Fig.3	常用ビンセ田遺跡調査地点位置図(1/2,500)	7
Fig.4	常用ビンセ田遺跡遺構全体実測図(1/200)	8
Fig.5	水田正吹遺跡調査地点位置図(1/2,500)	9
Fig.6	調査区A(SB020)実測図(1/60)	10
Fig.7	調査区A(SB030)実測図(1/60)	11
Fig.8	調査区A(SB040)実測図(1/60)	12
Fig.9	調査区A(SK001~004・006・007・012~014, SX009・011, SP016)実測図(1/60)	13
Fig.10	調査区A(SK005・010・015)実測図(1/30・1/60)	14
Fig.11	調査区B(SD050)実測図(1/60)	15

Fig.12	調査区B (SK025・035・045) 実測図 (1/30・1/60)	16
Fig.13	調査区B (SX064) 実測図 (1/60)	17
Fig.14	調査区C (SD080・090、SX100) 実測図 (1/60)	18
Fig.15	調査区D (SD104・108・120、SK102・105・115・111・125) 実測図 (1/60)	19
Fig.16	調査区A (SB040—P3) 出土土器実測図 (1/3)	20
Fig.17	調査区A (SK002～006・010・069) 出土土器実測図 (1/3)	21
Fig.18	調査区A (SK015、SX011) 出土土器実測図 (1/3)	23
Fig.19	調査区B出土土器実測図 (1/3)	24
Fig.20	調査区C溝出土土器実測図 (1/3)	25
Fig.21	調査区C (SX100) 出土土器実測図① (1/3)	26
Fig.22	調査区C (SX100) 出土土器実測図② (1/3)	27
Fig.23	調査区C (SX100) 出土土器実測図③ (1/3)	28
Fig.24	調査区C (SX100) 出土土器実測図④ (1/3)	29
Fig.25	調査区C (SX100) 出土土器実測図⑤ (1/3)	30
Fig.26	調査区D溝出土土器実測図 (1/3)	30
Fig.27	石製品・鉄製品実測図 (1/2)	30
Fig.28	烏田外屋敷遺跡調査地点位置図 (1/2,500)	35
Fig.29	調査区A (SD05・65・75、SK71～73) 実測図 (1/50・1/100)	36
Fig.30	烏田外屋敷遺跡遺構全体実測図 (1/200) (折り込み)	
Fig.31	調査区C (SD15・20・60、SK22・23、SX31) 実測図 (1/50・1/100)	39
Fig.32	調査区D (SD10) 実測図 (1/50)	41
Fig.33	調査区D (SD30・35、SK40) 実測図 (1/50)	42
Fig.34	調査区D (SK24・26・45) 実測図 (1/50)	43
Fig.35	調査区A (SD05) 出土土器実測図 (1/3)	44
Fig.36	調査区C (SD20、ST02・03・12・23) 出土土器実測図 (1/3)	44
Fig.37	調査区D (SD10) 出土土器実測図① (1/3)	45
Fig.38	調査区D (SD10) 出土土器実測図② (1/3)	46
Fig.39	調査区D (SD10) 出土土器実測図③ (1/3)	47
Fig.40	調査区D (SD30、SK40、SP26) 出土遺物実測図 (1/3)	48
Fig.41	包含層出土土器実測図 (1/3)	49
Fig.42	井田栗ノ内遺跡調査地点位置図 (1/2,500)	53
Fig.43	SD1土層断面実測図 (1/40)	54
Fig.44	井田栗ノ内遺跡遺構全体実測図 (1/200)	54
Fig.45	水田伊勢ノ脇遺跡調査地点位置図 (1/2,500)	55
Fig.46	溝土層断面実測図 (1/40)	57
Fig.47	SX040・050遺構実測図 (1/40)	58
Fig.48	土壌実測図 (1/40)	59
Fig.49	溝出土土器実測図 (1/3)	60
Fig.50	周溝状遺構・土壌出土土器実測図 (1/3)	62
Fig.51	石製品実測図 (1/2)	63
Fig.52	折地長間寺遺跡調査地点位置図 (1/2,500)	65
Fig.53	SD05・10・20実測図 (1/40・1/80)	66
Fig.54	折地長間寺遺跡遺構全体実測図 (1/200) (折り込み)	
Fig.55	SD30・60実測図 (1/40・1/80)	70
Fig.56	土壌・ピット実測図 (1/30・1/60)	72
Fig.57	SD05・10・30・51・52出土土器実測図 (1/3)	74

Fig.58	SD60出土土器実測図 (1/3)	76
Fig.59	SK04・21・31・46・53出土土器実測図 (1/3)	77
Fig.60	SK50出土土器実測図 (1/3・1/6)	78
Fig.61	その他の出土土器実測図 (1/3)	79
Fig.62	石製品・鉄製品・銅製品実測図 (1/2)	79
Fig.63	井田堀越遺跡調査地点位置図 (1/2,500)	83
Fig.64	SD01土層断面実測図 (1/40)	84
Fig.65	SD05土層断面実測図 (1/40)	84
Fig.66	井田堀越遺跡遺構全体実測図 (1/200)	(折り込み)
Fig.67	SD10土層断面実測図 (1/40)	87
Fig.68	SD15土層断面実測図 (1/40)	88
Fig.69	SD10出土土器実測図 (1/3)	88
Fig.70	SD10出土木製品実測図 (1/2)	88
Fig.71	SD15出土土器実測図 (1/3)	88
Fig.72	井田下堀越遺跡調査地点位置図 (1/2,500)	91
Fig.73	井田下堀越遺跡遺構全体実測図 (1/200)	91
Fig.74	SD15実測図 (1/60)	92
Fig.75	土壌実測図 (1/60)	93
Fig.76	SD15出土土器実測図 (1/3)	93
Fig.77	SK10出土土器実測図 (1/3)	94
Fig.78	石製品実測図 (1/2・1/4)	95
Fig.79	SP01出土土器実測図 (1/3)	96
Fig.80	梅島遺跡 (第2次調査) 調査地点位置図 (1/2,500)	97
Fig.81	周溝状遺構平面図① (1/100)	98
Fig.82	周溝状遺構平面図② (1/100)	99
Fig.83	周溝状遺構平面図③ (1/100)	100
Fig.84	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図① (1/3)	101
Fig.85	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図② (1/3)	102
Fig.86	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図③ (1/3)	103
Fig.87	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図④ (1/3)	104
Fig.88	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑤ (1/3)	105
Fig.89	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑥ (1/3)	106
Fig.90	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑦ (1/3)	107
Fig.91	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑧ (1/3)	108
Fig.92	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑨ (1/3)	109
Fig.93	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑩ (1/3)	110
Fig.94	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑪ (1/3)	111
Fig.95	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑫ (1/3)	112
Fig.96	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑬ (1/3)	113
Fig.97	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑭ (1/3)	114
Fig.98	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑮ (1/3)	115
Fig.99	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑯ (1/3)	116
Fig.100	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑰ (1/3)	117
Fig.101	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑱ (1/3)	118
Fig.102	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑲ (1/3)	119
Fig.103	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑳ (1/3)	120

Fig.104	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㉑	(1/3)	121
Fig.105	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㉒	(1/3)	122
Fig.106	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㉓	(1/3)	123
Fig.107	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㉔	(1/3)	124
Fig.108	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㉕	(1/3)	125
Fig.109	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㉖	(1/3)	126
Fig.110	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㉗	(1/3)	127
Fig.111	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㉘	(1/3)	128
Fig.112	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㉙	(1/3)	129
Fig.113	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㉚	(1/3)	130
Fig.114	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㉛	(1/3)	131
Fig.115	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㉜	(1/3)	132
Fig.116	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㉝	(1/3)	133
Fig.117	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㉞	(1/3)	134
Fig.118	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㉟	(1/3)	135
Fig.119	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㊱	(1/3)	136
Fig.120	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㊲	(1/3)	137
Fig.121	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㊳	(1/3)	138
Fig.122	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㊴	(1/3)	139
Fig.123	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㊵	(1/3)	140
Fig.124	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㊶	(1/3)	141
Fig.125	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㊷	(1/3)	142
Fig.126	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㊸	(1/3)	143
Fig.127	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㊹	(1/3)	144
Fig.128	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㊺	(1/3)	145
Fig.129	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㊻	(1/3)	146
Fig.130	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㊼	(1/3)	147
Fig.131	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㊽	(1/3)	148
Fig.132	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㊾	(1/3)	149
Fig.133	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㊿	(1/3)	150
Fig.134	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図①	(1/3)	151
Fig.135	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図②	(1/3)	152
Fig.136	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図③	(1/3)	153
Fig.137	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図④	(1/3)	154
Fig.138	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑤	(1/3)	155
Fig.139	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑥	(1/3)	156
Fig.140	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑦	(2/3)	156
Fig.141	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑧	(2/3)	157
Fig.142	梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑨	(2/3)	158
付図①	水田正吹遺跡遺構全体実測図 (1/350)		
付図②	水田伊勢ノ脇遺跡遺構全体実測図 (1/200)		
付図③	梅島遺跡 (第2次調査) 遺構全体実測図 (1/350)		

I. 調査経過と組織

筑後西部地区遺跡群は、福岡県の南部、筑後市の南西部に位置する。この地区は古くから米や麦を中心とした二毛作農耕が盛んに行われており、近年では農業経営の多様化によってハウスでの園芸栽培といった施設園芸が導入されるようになった。こうした状況の中、耕地の集団化や大区画整理、農道整備、用排水路分離などの営農体系を確立させるため、平成元年度から大規模な農地整備事業が実施されるようになった。

これに伴い、工事によって破壊される恐れのある埋蔵文化財の取り扱いについて、福岡県筑後川水系農地開発事務所から筑後市教育委員会へ照会があった。これを受けた筑後市教育委員会は、工事前に確認調査を実施し、その結果をもとに協議を行った。協議の結果、埋蔵文化財が確認された場所において掘削・削平の及ぶ箇所を「筑後西部地区遺跡群埋蔵文化財発掘調査」として実施することになった。発掘調査は工事の進行状況に応じて平成3年度～9年度まで実施された。なお、埋蔵文化財発掘調査に係る費用は、国・福岡県から一部の補助を受け、受益者負担分については筑後市が負担し、残る費用については福岡県筑後川水系農地開発事務所において負担した。

発掘調査において出土した遺物の整理と報告書作成については、随時、筑後市役所内文化財整理室で行った。なお、筑後西部地区遺跡群内で発掘調査された榎崎遺跡（平成4年度調査）；井田西中野遺跡（平成5年度調査）；島田三反田遺跡；古島島相遺跡（平成6年度調査）の報告書は既に刊行されている。

以下は、発掘調査及び整理における組織を挙げるが、各発掘調査の実施期間や面積、調査担当者などについては、各章の「(1) はじめに」に記した。

調査組織

報告する調査が多年度にまたがるため、ここで一括して調査体制をあげる。

1) 平成3年度調査体制（梅島遺跡—第2次調査—）

総括	教育長	森田 基之
	教育部長	橋本 益夫
庶務	社会教育課長	延 文雄
	社会教育係長	松永盛四郎
	社会教育係	永見 秀徳
		小林 勇作（嘱託：H3.8.1～）

2) 平成7年度調査体制（常用ビンセ田遺跡・水田正吹遺跡・島田外屋敷遺跡）

総括	教育長	森田 基之
	教育部長	津留 忠義
庶務	社会教育課長	下川 雅晴（～H7.9.30）
		山口 逸郎（H7.10.1～）
	社会教育係長	本村 正晴
	社会教育係	永見 秀徳
		小林 勇作
		田中 剛
	塚本 映子（嘱託）	
	大島真一郎（嘱託：H7.12.1～H8.3.31）	

3) 平成8年度調査体制（井田栗ノ内遺跡）

総括	教育長	森田 基之
	教育部長	津留 忠義
庶務	社会教育課長	山口 逸郎
	社会教育係長	本村 正晴

- | | | |
|--|-------|---|
| | 社会教育係 | 永見 秀徳
小林 勇作
田中 剛
柴田 剛 (嘱託) |
| 4) 平成9年度調査体制 (水田伊勢ノ脇遺跡・折地長間寺遺跡・井田堀越遺跡・井田下堀越遺跡) | 総括 | 教育長 森田 基之
教育部長 津留 忠義 |
| | 庶務 | 社会教育課長 山口 逸郎
社会教育係長 田中 清通
社会教育係 永見 秀徳
小林 勇作
田中 剛
上村 英士 (H9.6.1～)
上村 英士 (嘱託：H9.4.1～H9.5.31)
柴田 剛 (嘱託)
立石 真二 (嘱託：H9.8.1～) |
| 5) 平成11年度報告書作成 | 総括 | 教育長 牟田口和良
教育部長 下川 雅晴 |
| | 庶務 | 社会教育課長 庄村 國義
文化係長 田中 僚一
文化係 永見 秀徳
小林 勇作
上村 英士
柴田 剛 (嘱託)
立石 真二 (嘱託) |
| 6) 発掘調査参加者 (順不同、敬称略) | 調査補助員 | 塚本 映子
大島真一郎
野田 洋子
永田 佳子
地元有志 |
| | 発掘作業員 | |
| 整理作業参加者 (順不同、敬称略) | 整理補助員 | 平塚あけみ
江藤 玲子 |
| | 整理作業員 | 江藤 玲子、野間口靖子、馬場 敏子、野口 晴香、
湯川 琴美、深川 善子、湊 まど香、末吉 隆弥、
江崎 貴浩、奥村 太郎 |

なお、調査及び報告書作成に際しては、以下の方々にご指導、ご教示を賜った。記して感謝の意を表したい。

佐々木隆彦、伊崎俊秋、馬田稔、小田和利 (福岡県教育庁)、城戸康利、中島恒次郎、山村信榮 (太宰府市教育委員会)、富永直樹、白木守 (久留米市教育委員会)、大塚恵治 (八女市教育委員会)、片岡宏二 (小郡市教育委員会)、塩地調一 (大分市教育委員会)、狭川真一 (元興寺文化財研究所)、宮本佐知子 (財団法人大阪市文化財協会)

II.位置と環境

本題に入る前に、当遺跡が所在する筑後市について若干紹介する。

筑後市は、福岡県の南部で、日本有数の穀倉地帯である筑後平野のほぼ中央部に位置する。市域の北縁は久留米市、北東縁は八女郡広川町、東縁は八女市、北西縁は三潁郡三潁町、西縁は三潁郡大木町、南縁は山門郡瀬高町、同郡三橋町と接する。人口約47,000人、面積41.85km²、標高3.5～40.5mで、主な交通網としては、久留米市と大牟田市を結ぶ国道209号線、八女市と大川市を結ぶ国道442号線、JR鹿児島本線（西牟田駅・羽犬塚駅・船小屋駅）、九州縦貫自動車道（八女インターチェンジ）である。筑後市は水田農業・酪農・畑作農耕・電子工業・印刷業といった農業と工業が調和のとれた街で、なかでもい草、なし、ぶどうは地場の特産品となっている。

さて、今回報告する筑後西部地区遺跡群は筑後市の南西部に位置し、標高4～6mの低位段丘から低湿地へと移行するところにあたり、西流する花宗川と矢部川に挟まれた平野部に所在する。近年、この地区にはは場整備や開発行為などに伴って実施されてきた発掘調査によって、多くの遺跡が点在していることがわかりつつあり、太古から住みやすい立地であったことが窺える。

ここでは、現在わかっている筑後西部地区並びにその周辺の遺跡をFig.1に示し、県営干拓地等農地整備事業筑後西部地区の一般計画概要をFig.2に示した。また、Fig.1に示した各遺跡の概略についてはTab.1に表したので参照されたい。

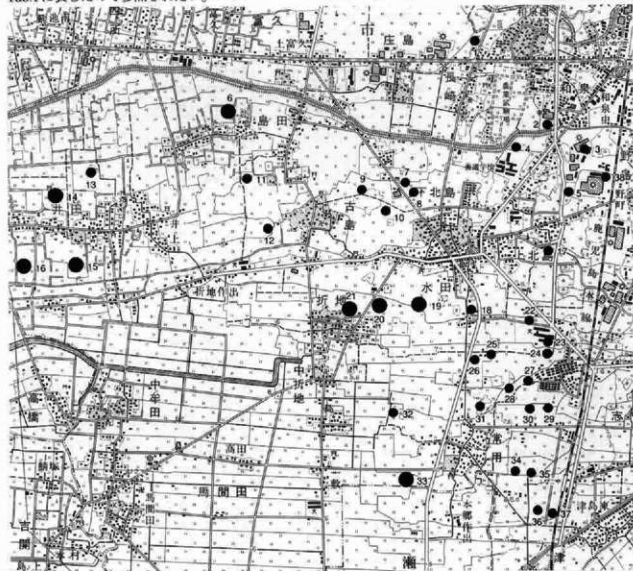


Fig.1 周辺遺跡分布図 (1/25,000)

道跡No.	道跡名	所在地	調査期間	道跡の時代・性格(特記事項)
1	長崎坊田道跡	筑後志大字長崎坊田	1991年09月～11月	縄文・中世：(区画遺存など)
2	相泉近道道跡	* 相泉近道	1997年06月～07月	弥生～中世：集落(溝など)
3	井原口道跡	* 上北島字井原口	1985年06月	奈良：集落(聖穴式住居など)
4	下北島橋引道跡	* 下北島字橋引	1992年02月	中世：(区画遺存など)
5	上北島花畑道跡	* 上北島字花畑	1992年09月	弥生：集落(聖穴式住居など)
6	島田外屋敷道跡	* 島田字外屋敷	1996年03月	中世～近世：集落(溝など)
7	下北島久清道跡	* 下北島字久清	1991年09月～1992年02月	弥生：集落(掘立柱建物など)
8	下北島久ア道跡	* 下北島字久ア	1989年09月～11月	弥生：集落(土壌など)
9	古島榎崎道跡(第1次調査)	* 古島字榎崎	1997年04月～07月	縄文・弥生：集落(聖穴式住居など)
9	古島榎崎道跡(第2次調査)	* 古島字榎崎	1998年05月	縄文・弥生：(溝)
9	古島榎崎道跡(第3次調査)	* 古島字榎崎	1998年05月～06月	縄文・弥生：集落(聖穴式住居など)
10	下北島榎崎道跡	* 下北島字榎崎	1992年07月～12月	弥生：集落(掘立柱建物など)・中世～近世：道路
11	島田三反田道跡	* 島田字三反田	1994年09月～12月	弥生・中世：近世：集落(土壌など)
12	古島島相道跡	* 古島字島相	1984年09月～12月	弥生・中世：集落(土壌など)
13	井田西中野道跡	* 井田字西中野	1993年11月	中世：(区画遺存など)
14	井田栗ノ内道跡	* 井田字栗ノ内	1996年09月～11月	中世：(溝)
15	井田堀越道跡	* 井田字堀越	1997年12月～1998年02月	弥生・中世：集落(溝など)
16	井田下堀越道跡	* 井田字下堀越	1998年01月～02月	古墳：集落(土壌など)
17	上北島前田道跡	* 上北島字前田	1989年07月～09月	中世：集落(溝など)
18	水田下桜町道跡	* 水田字下桜町	1997年03月	中世：集落(掘立柱建物、土壌、溝など)
19	水田正水道跡	* 水田字正水	1996年01月～03月	縄文～近世：集落(溝とし穴、掘立柱建物など)
20	水田伊勢ノ脇道跡	* 水田字伊勢ノ脇	1997年10月～11月	弥生～近世：集落(区画遺存など)
21	新地長閑寺道跡	* 新地字長閑寺	1997年11月～12月	中世～近世：(溝など)
22	水田杉ノ元道跡(第1次調査)	* 水田字杉ノ元	1996年07月～09月	弥生：集落(土壌群など)
22	水田杉ノ元道跡(第2次調査)	* 水田字杉ノ元	1997年07月～12月	弥生：集落
23	水田山伏道跡(第1次調査)	* 水田字山伏	1992年10月	弥生：集落(掘立柱建物など)
23	水田山伏道跡(第2次調査)	* 水田字山伏	1994年02月～08月	弥生：墓地(豊橋墓)
24	水田上仁良道跡(第1次調査)	* 水田字上仁良	1998年09月～10月	中世：集落(井戸、溝など)
24	水田上仁良道跡(第2次調査)	* 水田字上仁良	1998年11月	中世～近世：集落(溝、土壌など)
25	水田上平堂石道跡(第1次調査)	* 水田字上平堂石	1998年07月	弥生：集落(土壌など)、中世(溝など)
25	水田上平堂石道跡(第2次調査)	* 水田字上平堂石	1998年10月～11月	弥生：集落(土壌群)、中世(水路)
25	水田上平堂石道跡(第3次調査)	* 水田字上平堂石	1998年12月	弥生：(豊橋)
26	水田下平堂石道跡	* 水田字下平堂石	1998年09月～10月	弥生：集落(小土壌群)
27	常用ニラバ道跡	* 常用字ニラバ	1997年05月～06月	弥生～中世：集落(土壌、掘列)
28	常用日田行道跡(第3次調査)	* 常用字日田行	1999年02月～03月	弥生・中世：集落(溝、土壌など)
28	常用日田行道跡(第1次調査)	* 常用字日田行	1996年09月～12月	弥生：集落(土壌群など)
28	常用日田行道跡(第2次調査)	* 常用字日田行	1996年12月～1997年02月	弥生：集落(土壌群など)
29	常用野々下道跡	* 常用字野々下	1997年10月	不明：(溝など)
30	常用相原道跡	* 常用字相原	1997年10月	不明：(溝など)
31	常用北長田道跡(第1次調査)	* 常用字北長田	1996年12月	弥生・中世：集落(溝、土壌など)
31	常用北長田道跡(第2次調査)	* 常用字北長田	1997年01月～05月	弥生・中世：集落(溝、土壌など)
32	輪島道跡(第1次調査)	* 常用字輪島	1990年12月～1991年01月	弥生：集落(土壌など)
32	輪島道跡(第2次調査)	* 常用字輪島	1991年12月～1992年04月	弥生・中世～近世：集落(土壌など)
33	常用ビンセ田道跡	* 常用字ビンセ田	1995年06月～11月	中世：(土壌など)
34	津島南養生道跡(第1次調査)	* 津島字南養生	1996年07月	中世：(溝)
34	津島南養生道跡(第2次調査)	* 津島字南養生	1997年10月	弥生～古墳：集落(土壌など)、中世：(溝)
35	津島南菅原道跡	* 津島字南菅原	1997年10月～11月	弥生～古墳：集落(土壌など)
36	津島北石伏道跡	* 津島字北石伏	1997年08月～09月	弥生：集落
37	津島狐ノ町道跡	* 津島字狐ノ町	1997年09月～10月	弥生：(溝など)

Tab.1 周辺遺跡概要一覽表



- | | | | |
|--|--------|--|-------|
| | 昭和62年度 | | 平成5年度 |
| | 昭和63年度 | | 平成6年度 |
| | 平成1年度 | | 平成7年度 |
| | 平成2年度 | | 平成8年度 |
| | 平成3年度 | | 平成9年度 |
| | 平成4年度 | | |

1 : 10,000

Fig.2 県営干拓地等農地整備事業筑後西部地区一般計画平面図 (1/10,000)

Ⅲ.調査の概要

1.常用ビンセ田遺跡の調査

(1) はじめに (Fig.3)

当遺跡は、筑後市大字常用字ビンセ田に所在し、標高6m位の低湿地上にある。平成7年度に実施された農地整備事業支線用排水路設置範囲において遺構を確認した183㎡を調査対象とし、調査区は東西方向の長方形に設定した。調査期間は平成7年8月28日から11月9日までであった。この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影などを行い、調査区からは溝1条、土壌4基を検出した。本調査は小林勇作が担当した。

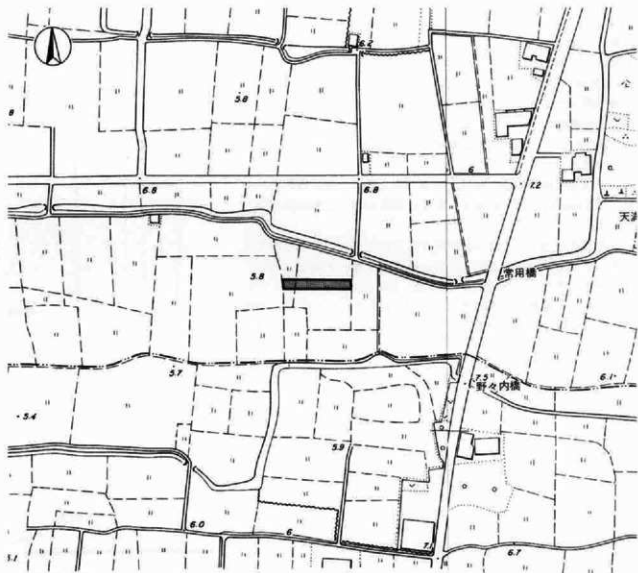


Fig.3 常用ビンセ田遺跡調査地点位置図 (1/2,500)

(2) 遺構

溝 (Fig.4)

SD5

調査区のほぼ中央から検出した溝で、南部はSK4に切られる。上幅0.23~0.43m、下幅0.13~0.22m、深さ約0.10mを測り、埋土は黒茶色粘土を基調とする。出土遺物は皆無であった。

土壌

SK1 (Fig.4, Pla.1)

調査区の東端で検出した隅丸方形形状の土壌である。長軸1.18 m、短軸1.03 m、深さ約0.35 mを測り、埋土は濃黒茶色粘土（黄茶色・灰茶色粘土ブロックを含む）であった。出土遺物は土師器片を僅かに認めたが図示できなかった。

SK2 (Fig.4, Pla.1)

楕円形状を呈し、長軸1.11 m、短軸0.81 m、深さ約0.39 mを測る。埋土は濃黒茶色粘土（灰茶色粘土を含む）で、出土遺物は土師器片を僅かに認めたが図示できるものではなかった。

SK3 (Fig.4, Pla.1)

隅丸方形形状を呈した土壌で、調査区の東端で検出した。長軸0.97 m、短軸0.87 m、深さ約0.32 mを測り、埋土は淡黒茶色粘土（灰茶色粘土を含む）を基調とする。遺物は土師器片を僅かに出土したが図示できなかった。

(3) 出土遺物

当調査区からは図示できる遺物は出土しなかった。

(4) 小結

当地は弥生時代中期～後期・中世の複合遺跡である梅島遺跡の南、約400 mのところであり、中世に画期となった水田庄の領内でもあった。

試掘調査においてこれらに関連する遺跡の存在に大きな期待感を膨らませていた。しかし、調査の結果、遺構の上層部はかなりの削平を受けていたためか、土壇4基、溝1条を僅かに確認したに過ぎず、出土遺物も皆無に等しい状況であった。このため、遺構の時期を断定することは難しく、周辺の調査に期待せざるを得ない結果となった。

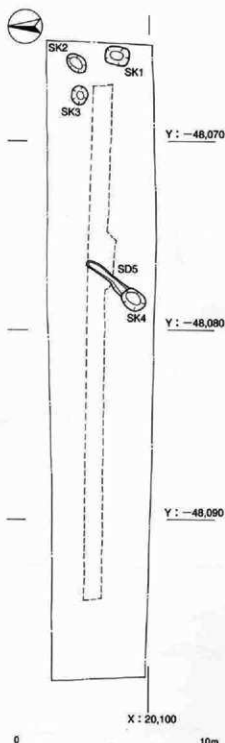


Fig.4 常用ビンセ田遺跡遺構全体
実測図 (1/200)

2.水田正吹遺跡の調査

(1) はじめに (Fig.5)

当遺跡は、筑後市大字水田字正吹、小塚、柳ノ内、鬼塚、汁浦に所在する。一帯は水田地帯で標高5.5～6.5m位の低湿地上にある。調査は平成7年度に施工された農地整備事業支線用排水路設置範囲において遺構を確認した4,340m²を実施した。調査期間は平成8年1月16日から3月31日までであった。この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影などを行い、遺構測量の一部をアジア航測株式会社へ委託した。

調査区からは掘立柱建物、溝、周溝状遺構、土城、ピットなどを検出した。

ところで、筑後市内に分布する遺跡の名称は、通常の場合「大字名」と「小字名」を兼ね合わせた名前を称している。今回調査した範囲は大字水田地区内の複数の小字にまたがったが、調査時点において「水田正吹遺跡」を代表名とし、小字単位で調査区「A～E」を設定して調査を実施した。本来、報告にあたっては各遺跡名で統一すべきであったが、今回は混乱を避けるため、あえて調査時点での遺跡名と調査区を生かすことにした。

本調査は小林勇作が担当し、柴田剛、永田佳子の協力を得た。



Fig.5 水田正吹遺跡調査地点位置図 (1/2,500)

(2) 遺構

調査区A

掘立柱建物

SB020 (Fig.6, Pla.2)

調査区北東部で検出した1×1間の建物で、各柱穴で径11～18cmの柱痕を認めた。南北軸の方位はN-48° 50' -Wを示し、P1-P2間2.71m、P2-P3間3.11m、P3-P4間3.05m、P4-P1間3.17mを測る。各柱穴の埋土においては、特に叩き締められた痕跡はなく、出土遺物は皆無であった。

SB030 (Fig.7, Pla.3)

調査区中央付近で柱穴P1～P5を検出し、柱穴はほとんどが隅丸形状を呈する。P1の底部はフラット、P2～P4においては底部から小穴を認め、P5は底部に窪みを呈する。P1～P2間3.94m、P2～P3間3.12m、P3～P4間3.53m、P4～P5間2.87mを測り、南北軸の方位はN-41° -Wを示す。SB030は検出時において2×1間の南北棟の建物と想定していたが、P1の底部から柱痕となる小穴が認められなかったこと、P1～P2間は他の柱間よりも距離が離れること、P1に対する柱穴が認められなかったことから、1×1間の建物になる可能性も考えられる。遺物はP1～P5の各柱穴において弥生土器(片)が出土している。

SB040 (Fig.8, Pla.3)

SB030の南西部で検出した1×1間の建物である。それぞれ楕円形状を呈し、P1・P2・P4の底部からは柱の痕跡と思われる小穴が検出された。南北軸の方位はN-27° -Wを示し、P1～P2間2.27m、P2～P3間2.68m、P3～P4間2.87m、P4～P1間2.84mを測る。出土遺物はP2から弥生土器(片)、P3からは弥生土器(甕)が検出面で出土した。

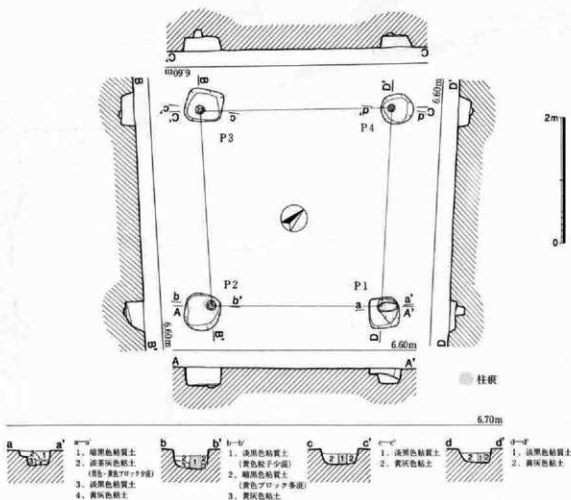


Fig.6 調査区A (SB020) 実測図 (1/60)

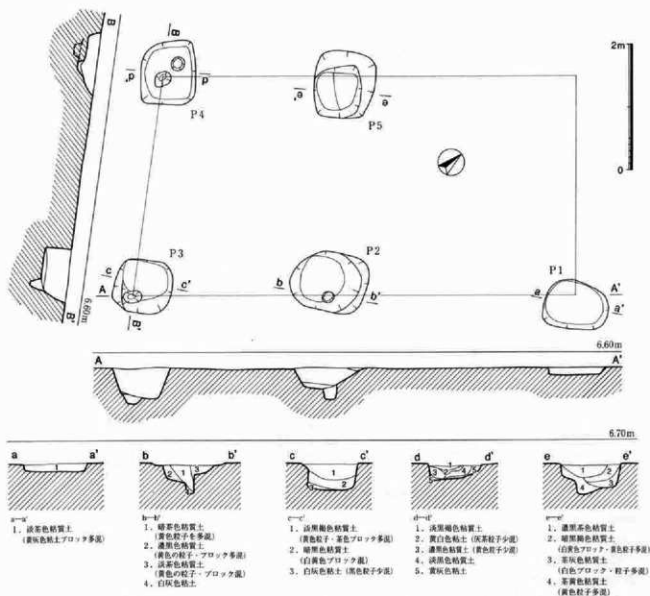


Fig.7 調査区A (SB030) 実測図 (1/60)

土壌

SK001 (Fig.9, Pla.4)

調査区北西部で検出した隅丸長方形の土壌である。長軸1.40m、短軸0.61m、深さ0.25mを測り、埋土は濃黒褐色粘質土と濃茶灰色粘質土であった。遺物は弥生土器(片)、土師器(小皿・片)、サヌカイト(片)が出土した。

SK002 (Fig.9, Pla.4)

調査区北西部で検出した隅丸長方形の土壌で、SK003・004を切る。長軸1.80m、短軸0.87m、深さ0.21mを測り、埋土は淡茶白色粘質土と淡茶灰色粘土であった。遺物は須恵器(片)、土師器(杯・片)が出土した。

SK003 (Fig.9, Pla.4)

SK002に切られ、SK004を切る。楕円形状の土壌で、幅約1.20m、深さ0.17mを測る。黒褐色粘質土の単一土層で、土師器(小皿)が出土した。

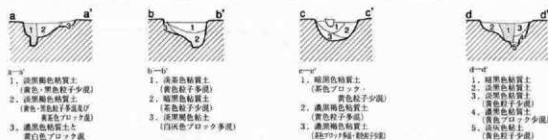
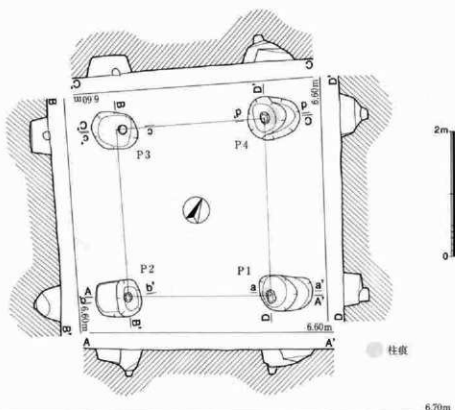


Fig.8 調査区A (SB040) 実測図 (1/60)

SK004 (Fig.9, Pla.4)

SK003に切られた楕円形状の土壌で、幅約0.77m、深さ0.20mを測る。淡黒褐色粘質土の単一土層で、土師器 (片) が出土した。

SK005 (Fig.10, Pla.4)

調査区北部で検出した楕円形状の土壌で、内部にテラスを呈する。長軸1.50m、短軸1.11m、深さ1.19mを測り、廃棄土壌として使用された可能性がある。遺物は弥生土器 (甕・高坏・片) が出土した。

SK006 (Fig.9, Pla.4)

SP016を切るように検出した隅丸方形形状の土壌で、底面の南部は段がついて下がる。長軸1.42m、短軸0.83m、深さ0.20~0.27mを測り、埋土は黒褐色粘質土であった。出土遺物は土師器 (甕・片)、青磁 (片) を認めた。

SK007 (Fig.9, Pla.4)

SK006に隣接した楕円形状の土壌で、長軸1.32m、短軸0.77m、深さ0.07mを測る。底面はフラットを呈し、埋土は黒褐色粘質土の単一土層であった。出土遺物は土師器 (片)、土師器 (片) を認めた。

SK008 (Fig.9, Pla.4)

SX009に切られた隅丸方形形状の土壌である。長軸1.10m、短軸0.95m、深さ0.24mを測り、黒褐色粘質土を基調とする埋土であった。出土遺物は皆無であった。

SK010 (Fig.10, Pla.5)

調査区北部で検出した隅丸方形形状の土壌である。径は9.10~9.70m、深さ1.00mを測り、黒褐色粘質

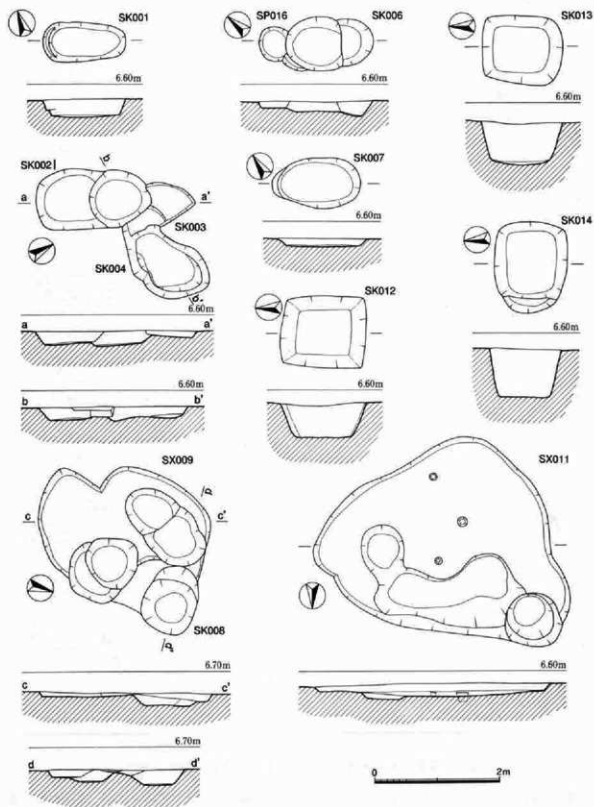


Fig.9 調査区A (SK001~004・006・007・012~014, SX009・011, SP016) 実測図 (1/60)
土を基調とする埋土であった。遺物は須恵器(甕)、土師器(皿・甕・片)が出土した。

SK012 (Fig.9)

調査区中央部で検出した。プランは長方形形状を呈し、長軸1.43m、短軸1.12m、深さ0.52mを測る。

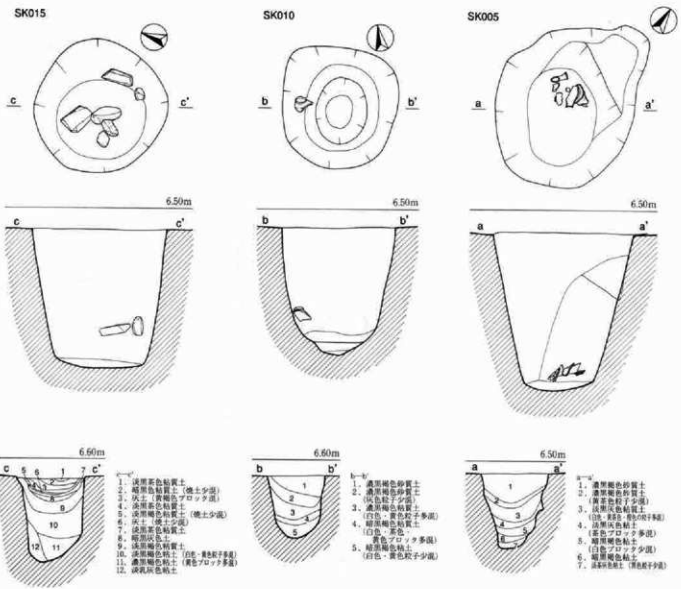


Fig.10 調査区 A (SK005・010・015) 実測図 (1/30・1/60)

埋土は濃灰色粘質土 (黄色・黒色粒子を多く含む) の単一土層で、一気に埋められたと思われる。遺物は土師器 (片)、白磁 (片) が出土している。

SK013 (Fig.9)

調査区中央部で検出した隅丸長方形形状の土壇である。長軸1.35m、短軸1.10m、深さ0.62mを測り、埋土は上層から淡黄灰色粘質土→濃灰色と黄白色粘質土であった。遺物は須恵器 (坏)、土師器 (片)、青磁 (片) が出土している。

SK014 (Fig.9)

SK013の南で検出した隅丸形状の土壇で、長軸1.41m、短軸1.11m、深さ0.70mを測る。埋土は上層から淡灰色砂質土→黄白色粘土→淡灰色粘質土で、須恵器(甕・片)、土師器(片)、青磁(片)、染付(片)が出土した。

SK015 (Fig.10, Pla.5)

調査区北東部で検出した円形状の土壇で、径は1.07m前後、深さ1.34mを測る。上層には灰と焼土が堆積しており、2・3度の焼き火が行われたものと思われる。更に下層からは複数の河原石や土器を散在的に認め、廃棄土壇として使用されていた可能性が考えられる。遺物は須恵器(甕)、土師器(甕)、瓦器(坏・椀)、黒色土器(椀)、黒曜石(片)、粘土塊が出土した。

不明遺構

SX009 (Fig.9, Pla.4)

SK008を切るように検出した溜まり状の遺構で、底面は凹凸が著しい。かなりの削平を受けているもので、黒褐色土を基調とした埋土であった。土師器(片)が僅かに出土した。

SX011 (Fig.9, Pla.4)

調査区北西部で検出した溜まり状の遺構である。規模は3.71m×3.06mで、深さ0.05~0.15mとかなりの削平を受けているものと思われる。濃黒褐色土の単一土層で、弥生土器(甕)、須恵器(甕)、土師器(皿・甕)、陶器(片)が出土した。

樹木跡(付図①)

調査区南部からは20個体程度の樹木跡を検出したが、掘削はしていない。地山によく似た埋土と黒色土で構成されるもので、平面プラン上で黒色土が「半月状」若しくは「三日月状」に確認される。

調査区B

溝

SD050 (Fig.11, Pla.6)

東西溝で11.1m分を検出した。溝の中央部は突出したように検出され、平面での切り合いは確認されなかったため一連の溝としたが、別遺構になる可能性も捨てきれない。溝は幅0.40~1.55m、深さ0.18~0.52mを測り、黒色粘質土を基調とした埋土であった。遺物は弥生土器(甕)、須恵器(坏・甕)、土師器(皿・坏・蓋)が出土し、溝底からは少数の河原石を認めた。

土壇

SK025 (Fig.12, Pla.6)

SD050の南側で検出した楕円形状の土壇で、長軸2.85m、短軸2.60m、深さ約0.97mを測る。土壇は壁

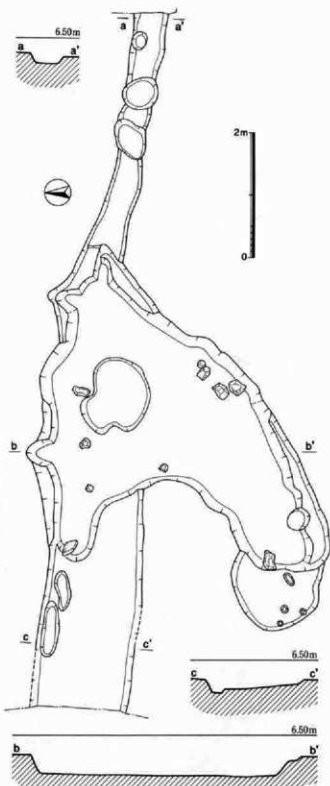


Fig.11 調査区B (SD050) 実測図 (1/60)

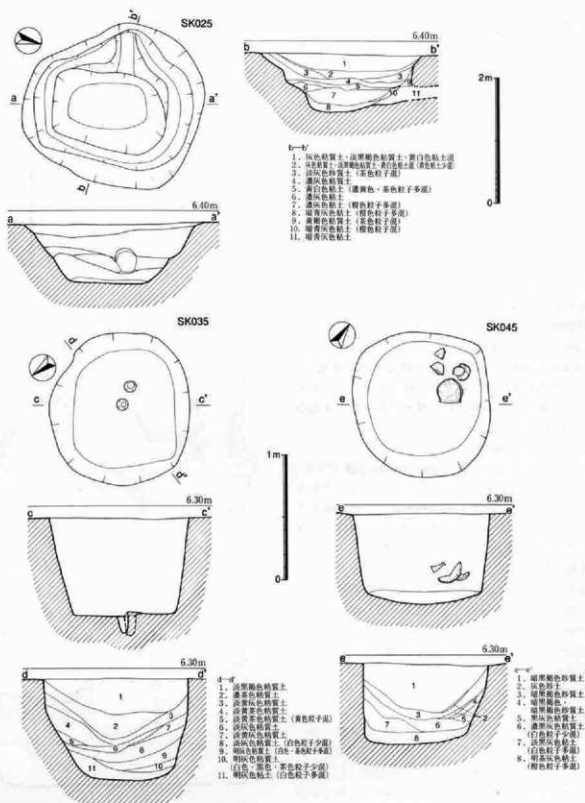


Fig.12 調査区B (SK025・035・045) 実測図 (1/30・1/60)

部の一部がトンネル状に抉られており、底部はほぼフラットを呈する。出土遺物は皆無であった。
 SK035 (Fig.12, Pla.7)

調査区の南部で確認した土壌で、底部に径9cm前後の2つの小穴を呈する。長軸1.21m、短軸1.11m、深さ0.80mを測る。自然堆積による埋土で出土遺物は皆無で、落とし穴になる可能性がある。

SK045 (Fig.12, Pla.7)

調査区南部で検出した隅丸形状の土壌で、黒褐色土を基調とした自然堆積による埋土であった。径は1.00 m、深さ0.64 mを測り、底部はほぼフラットな面を呈する。遺物は弥生土器(甕・高坏・片)が出土し、廃棄土壌として使用された可能性がある。

土壌群

SK018・019・021～024・026～029・031～034・036～039・041～044・046～049・052～054・066・067・074 (付図①)

調査区の北部からは近世から現代にかけての土壌(カクラン)が数十基検出された。プランは隅丸方形や不定形なものが多く、ほとんどが灰色土を基調とした埋土である。

不明遺構

SX064 (Fig.13)

調査区南部で5.80 m分を確認し、幅3.20 m、深さ0.29 mを測る。茶褐色土を基調とした埋土で、出土遺物は皆無であった。

調査区C

溝

SD060 (付図①)

SD070を切るように39.2 m分を検出した南北溝である。溝断面は逆台形状を呈し、埋土は灰色土を基調とした埋土であった。遺物は土師器(片)、白磁(碗)、染付(片)、陶器(甕)が出土した。時間の制約から完掘までには至っていない。

SD070 (付図①)

39.2 m分を検出した南北溝で、埋土は黒茶色土である。時間の制約から一部の掘削に止まり、土師器(片)が出土している。

SD080 (付図①, Pla.14)

調査区西側で検出した南北溝でSX100を切る。38.2 m分を確認し、時間の制約から一部の掘削に止まる。埋土は黒茶色土を基調とした埋土で、弥生土器(片)、土師器(片)が僅かに出土した。

SD090 (付図①, Pla.14)

SX100を切る南北溝で38.1 m分を検出した。時間の制約から完掘までには至っておらず、溝の断面は逆台形状を呈する。灰色土の埋土で、遺物は弥生土器(甕・高坏)、土師器(土鍋)が出土し、弥生土器はSX100から流れ込んだものと思われる。

周溝状遺構

SX100 (Fig.14, Pla.8・9)

調査区北西部で検出し、埋土は黒色土を基調とする単一土層であった。著しく削平を受けており、遺構の南西部はプランが不明確であった。周溝状遺構の規模は外径約6.6 m、内径約4.0 mに復原され、溝幅1.03～1.84 m、深さ0.11～0.18 mを測る。遺物は弥生土器(小鉢・甕・壺・高坏)が溝底に集積していた。

調査区D

溝

SD104 (Fig.15)

調査区東部で検出したやや蛇行した南北溝で、4.05 m分を確認した。幅約0.60 m、深さ約0.27 mを測り、

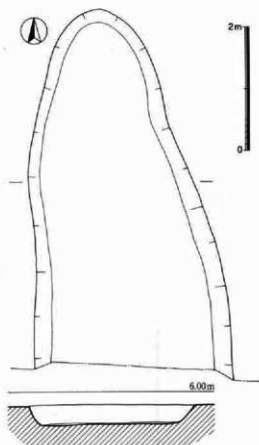


Fig.13 調査区B (SX064) 実測図 (1/60)

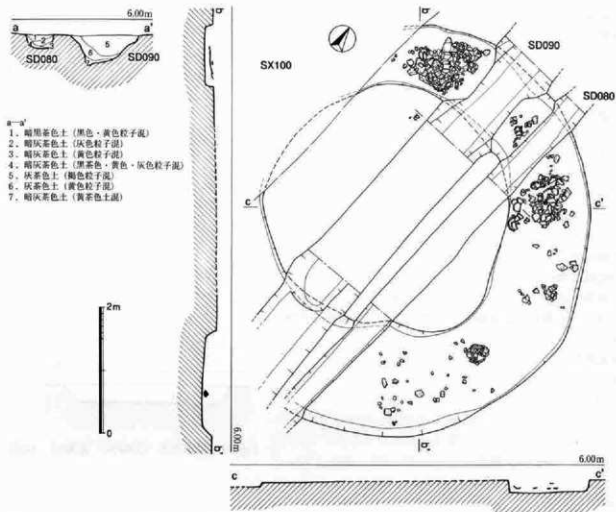


Fig.14 調査区C (SD080・090、SX100) 実測図 (1/60)

土師器 (片) が多量に出土した。

SD108 (Fig.15)

SD104の溝底から検出し、一連の溝の可能性がある。3.35m分を検出し、幅約1.10m、深さ約0.40mを測り、土師器 (皿・片)、鉄製品 (釘) が出土した。

SD120 (Fig.15)

調査区中央部で検出した南北溝で3.65m分を確認した。幅0.37~0.65m、深さ約0.20mを測り、遺物は須恵器 (甕)、土師器 (坏・片) が出土している。

土壌

SK102 (Fig.15)

土壌の南部は調査区にかかり、深さは0.61mを測る。埋土は黒茶色土を基調とし、埋土中からは土師器 (皿・甕) が出土した。

SK105 (Fig.15)

楕円形状の土壌で、径は0.95m、深さは0.40mを測る。埋土中からは土師器 (甕)、染付 (片)、陶器 (播鉢)、ガラス (片) が出土している。

SK111 (Fig.15)

不整円形状の土壌で底面の凹凸は著しい。黒茶色土の埋土で出土遺物は皆無であった。

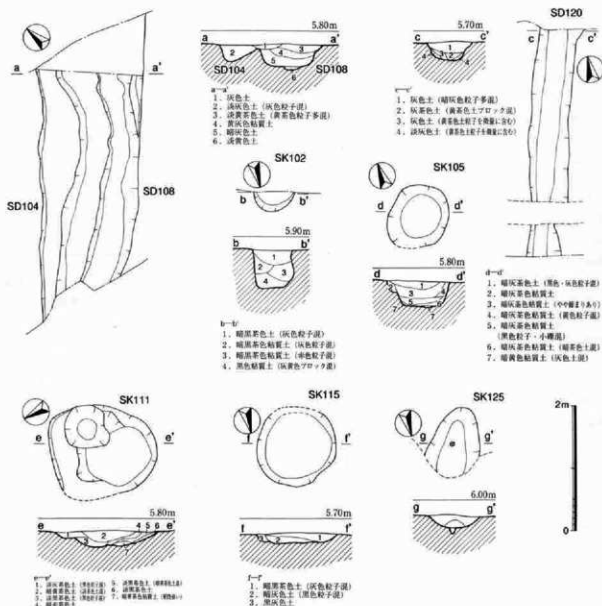


Fig.15 調査区D (SD104・108・120、SK102・105・111・115・125) 実測図 (1/60)

SK115 (Fig.15)

径は1.23mを測るほぼ円形状の土壌で深さは0.15mと浅い。出土物はない。

SK125 (Fig.15)

調査区東部で検出し、遺構の北部はカクランを受ける。深さ0.20mを測り、溝底から径7cmの小穴1つを認める。埋土は黒褐色土で出土遺物は皆無であった。

調査区E

溝

SD136 (付図①)

調査区東側で確認した南北溝で2.75m分を検出した。溝は途中、現代のカクランを受けており、幅0.55~1.05m、深さ約0.10mを測る。出土遺物は皆無であった。

SD137 (付図①、Pla.10)

調査区中央で確認した南北溝で2.35m分を検出した。幅0.55~1.12m、深さ約0.10mを測り、出土遺物は皆無であった。

SD138 (付図①)

調査区東部から2.37 m分を検出し、幅約0.73 m、深さ約0.12 mを測る。出土遺物は皆無であった。

(3) 出土遺物

調査区A

掘立柱建物

SB040—P3 (Fig.16, Pla.11)

弥生土器

甕 (1) 口径20.0 cmを測る「く」字形口縁甕で内外面の調整は著しく磨耗しているため不明である。

土壌

SK001 (Fig.27, Pla.13)

石製品

二次加工石器 (98) 石材はサヌカイト製で、一個縁の一部に二次加工を施して利器としたものである。

SK002 (Fig.17, Pla.11)

土師器

坏 (2) 口径12.4 cm、底径6.4 cm、器高3.3 cmを復原し、口縁部はやや外反する。内外面の調整はヨコナデで底部外面はヘラケズリである。内外面には漆が部分的に付着しており、特に内面は厚く残存する。

SK003 (Fig.17)

土師器

坏 (3) 口径11.4 cm、底径6.4 cm、器高3.3 cmを復原する。内外面の調整はヨコナデで底部外面はヘラケズリである。

碗 (4) 底部のみの細片で、高台径は9.5 cmを測る。外面はヨコナデで、底部内面はナデ調整である。底部外面の一部に小動物による爪痕を認める。

SK004 (Fig.17)

須恵器

鉢 (5) 底部が欠損した細片で、口径14.5 cmを復原する。内外面はヨコナデ調整である。

SK005 (Fig.17, Pla.11)

弥生土器

壺 (6) 口径18.0 cm、底径4.3 cm、器高29.4 cmを測る。頸部から口縁部にかけて大きく開く広口壺で、口縁部の器厚は厚くやや短めである。体部はやや長胴化し、底部はやや丸みを帯びている。外面の口縁部はヨコナデ、体部から底部にかけては刷毛目、内面の口縁部は刷毛目、体部から底部にかけてはヘラケズリで一部刷毛目調整を施す。

甕 (7~10) 7は底部を欠損した小型の「く」字形口縁甕で、口径12.5 cm、底径4.6 cm、器高12.7 cmを測る。口縁部内外面はヨコナデ、体部内面はナデ、外面は刷毛目調整を施す。8・9は口縁部が外反した小型の甕で、共に口縁部内外面はヨコナデ、体部の外面は刷毛目、内面はヘラケズリの調整である。8は口径15.5 cm、9は口径16.0 cmを復原する。10は「く」字形口縁甕で口径27.8 cmを復原する。

鉢 (11) 口縁部が緩やかに外反した鉢で、口径18.0 cmを復原する。口縁部内外面はヨコナデ、外面の体部上位は刷毛目、下位はヘラナデ、体部内面は指押しえ後刷毛目調整を施す。

高坏 (12) 杯部の細片で口径26.0 cmを復原する。口縁部はほぼ直立し、口縁部内外面はヨコナデ、体部内外面は刷毛目調整を施す。

器台 (13) 口縁部は欠損し、脚裾径は11.1 cmを測る。頸部内面はナデ、内外面は刷毛目、脚裾端部はヨコナデ調整を施す。

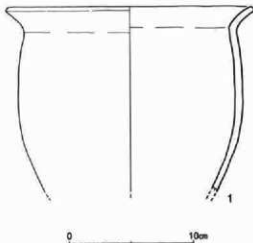


Fig.16 調査区A (SB040—P3) 出土土器
実測図 (1/3)

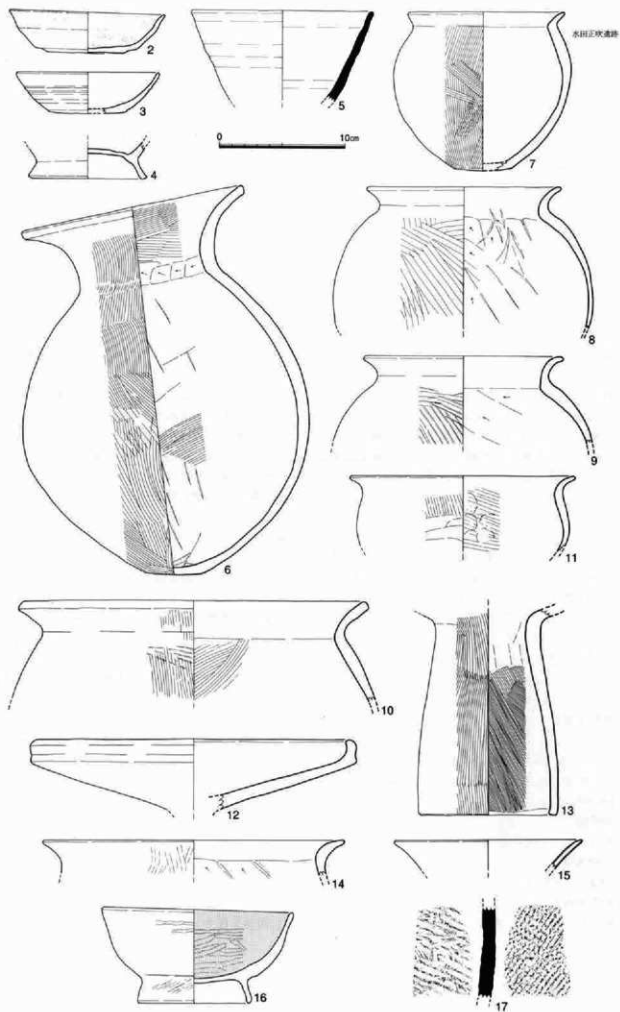


Fig.17 調査区A (SK002~006・010・069) 出土土器実測図 (1/3)

SK006 (Fig.17)

土師器

甕 (14) 口縁部の細片で口径24.0cmを復原し、口縁部は外反する。

青磁

碗 (15) 同安窯系青磁で口径15.0cmを復原する。内外面にはくすんだ緑色の釉を薄く施す。

SK010 (Fig.17)

黒色土器A

椀 (16) 口径15.3cm、高台径9.1cm、器高7.5cmを測る。内黒で内面と口縁部外面にヘラミガキを施し、高台部は接合によるナデを斜め方向に施す。

SK015 (Fig.18, Pla.11)

須恵器

甕 (18~20) 18は体部下位の細片と思われ、内面は平行叩き、外面は格子叩き後ナデ消しを施す。19・20は体部の細片で共に内面は平行叩き、外面は格子叩きを施す。

土師器

皿 (21) 口径11.0cm、底径7.8cm、器高1.8cmを復原する。体部外面はヨコナデで、内面は調整不明。ヘラ切りか。

椀 (22~30) 22は口径11.0cmを復原し、内外面は著しく磨耗しているため調整不明。口縁部はやや外反する。23は口径11.6cmを復原し、内外面はヨコナデ調整を施す。口縁部はやや外反する。24は口縁部の細片で、口径14.0cmを復原する。口縁部がやや外反し、口縁部外面及び内面はヨコナデ、体部外面はヘラケズリを施す。内面にはコテあて痕を認める。25は口径14.2cm、高台径8.1cm、器高5.8cmを復原する。口縁部外面はヨコナデ、体部外面はヘラケズリ、高台内外面は接合によるナデを施し、内面は調整不明。26は細片で口径14.4cmを復原する。27~30は底部の細片で、29は高台径7.8cm、30は高台径8.8cmを復原する。

甕 (31) 口縁部の細片で口径26.0cmを復原する。口縁部は外反し、口縁部内面上位及び口縁部外面はヨコナデ、口縁部内面下位はヘラケズリ調整である。

不明土製品 (32) 片側が欠損した不明土製品で、長さ2.2cmを測る。焼成前に穿孔されている。

黒色土器A

椀 (33~39) 33は口径11.5cmを復原し、内外面は磨耗のため調整不明である。底部は押し出し技法を用いる。34は口径12.2cmを復原し、内外面は磨耗のため調整不明であるが、内面の一部に僅かにヘラミガキ痕を認める。35は口径14.2cmを復原し、内面はヨコナデ後ヘラミガキ、外面は磨耗のため調整不明である。36は口径15.0cmを復原し、口縁部外面はヨコナデで内面及び体部外面は調整不明。37~39は底部の細片で、38は高台径7.5cm、39は高台径8.0cmを復原する。

黒色土器B

椀 (40・41) 40は口径13.6cmを復原し、表面剥離のため調整不明。41は口径14.2cm、高台径8.4cm、器高5.4cmを復原する。口縁部はヨコナデ、外面及び体部内面はヘラミガキ、底部内面はナデ、高台内外面は接合によるナデ後ヘラナデ、底部外面はヘラ切りである。

SK069 (Fig.17)

須恵器

甕 (17) 体部の細片と思われ、内面は平行と同心円の叩き、外面は格子叩きを施す。

不明遺構

SX011 (Fig.18)

黒色土器A

椀 (42) 底部を口径15.0cmを復原し、内外面はヨコナデ調整を施す。

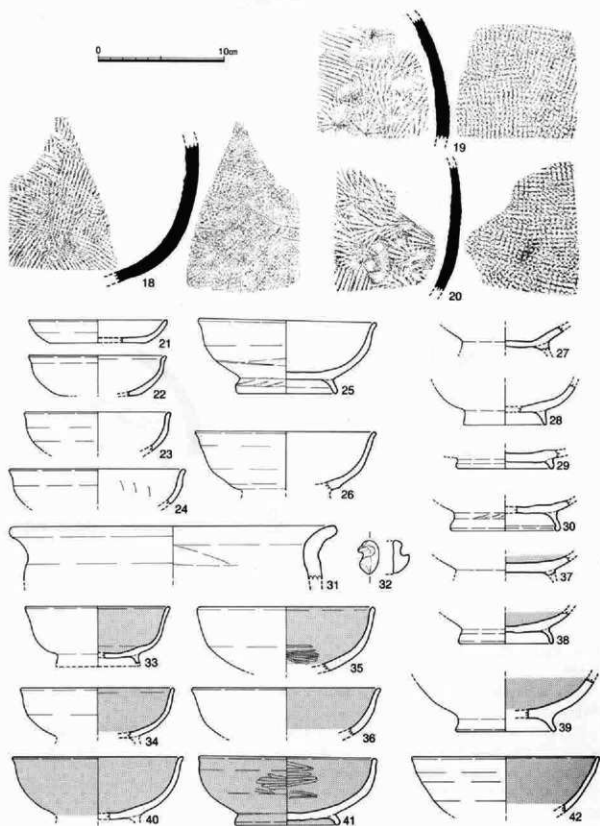


Fig.18 調査区A (SK015、SX011) 出土土器実測図 (1/3)

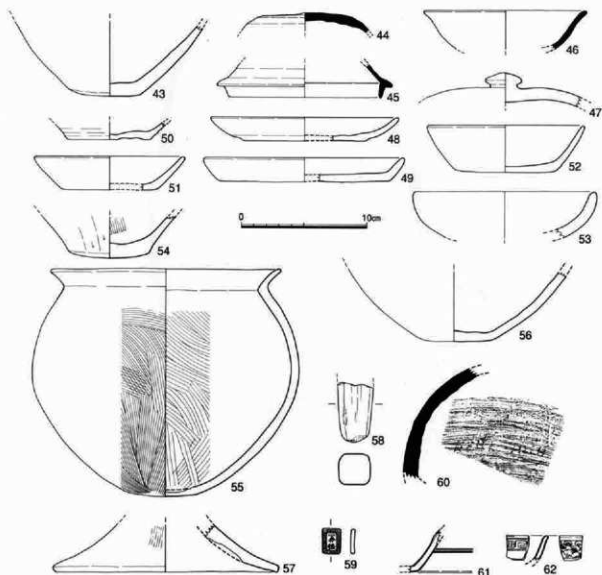


Fig.19 調査区B出土土器実測図 (1/3)

調査区B

溝

SD050 (Fig.19, Pla.11)

弥生土器

甕 (43) 底部の細片で底径5.0cmを測り、底部はやや丸みをもつ。内外面の調整は磨耗のため不明。

須恵器

蓋 (44・45) 44は天井部だけの細片である。天井部外面は回転ヘラケズリ、体部及び内面はヨコナデを呈する。45は口縁部の細片で最大径14.0cm、かえり径12.0cmを復原する。かえりは若干内傾し、内外面の調整はヨコナデである。44と45は同一個体の可能性がある。

坏 (46) 細片で内外面の調整は不明。口径13.0cmを復原する。

土師器

蓋 (47) 天井部に宝珠つまみを呈し、内外面の調整は磨耗のため不明である。

皿 (48・49) 48・49は著しく磨耗しているため調整不明である。48は口径15.0cm、底径9.8cm、器高1.9cm、49は口径16.0cm、底径13.6cm、器高2.0cmを復原する。

坏 (50～53) 50は底部だけの細片で底部外面はヘラ切りである。51は口径12.0cm、底径7.6cm、器高

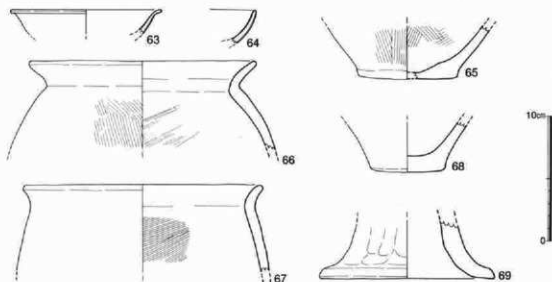


Fig.20 調査区C溝出土土器実測図 (1/3)

2.7cmを復原。52は口径12.6cm、底径8.0cm、器高3.8cmを復原し、底部外面はヘラ切りである。53は口径14.2cmを復原する丸底坏である。いずれも内外面の調整は磨耗のため不明である。

石製品 (Fig.27, Pla.13)

石鎌 (99) 石材は黒曜石製で、挟りが比較的浅い両面加工の石鎌である。表面には僅かに自然面を残し、裏面の中央部にはポジティブ面が看取される。

土壌

SK034 (Fig.27, Pla.13)

石製品

二次加工石器 (100) 石材はサヌカイト製で、縁には二次加工を施し、利器としている。表面の中央部にはネガティブ面、裏面にはポジティブ面が看取される。

SK045 (Fig.19, Pla.11)

弥生土器

甕 (54・55) 54は底部の細片で底径6.4cmを測る。底部はやや丸みもち、内外面は刷毛目調整を施す。55は「く」字形甕で、口径18.3cm、底径5.0cm、器高18.2cmを測る。口縁部内外面はヨコナデ、体部内外面は刷毛目、底部内外面はナデ調整で、体部外面には煤が付着している。

壺 (56) 底部の細片で底径6.0cmを測る。風化のため調整不明。

高坏 (57) 裾部が「ハ」字状に大きく開くタイプで、裾部径は18.0cmを復原する。外面は刷毛目、裾部外面及び内面はヨコナデである。

SK048 (Fig.19, Pla.11)

土師器

柱状土製品 (58) 断面は方形状を呈し、面取りを施す。厚さは2.6cmを測る。

SK067 (Fig.19, Pla.11)

土製品

玩具 (59) 「一分銀」の玩具で、長さ2.0cm、幅1.5cm、厚さ0.3cmを測る。

ビット

SP051 (Fig.19, Pla.11)

陶器

大甕 (60) 頸部の細片で、内面は横方向のナデ、外面はヨコナデと格子叩きを施す。

青磁

不明 (61) 内外面に青緑色の釉を施し、外面にはヘラ先による細線を2条施す。

染付

碗 (62) 口縁部の細片で内面には雷文、外面には花文を呉須で描く。

調査区C

溝

SD060 (Fig.20)

白磁

皿 (63) 口縁部は外反し、口径12.0cmを復原する。

染付

碗 (64) 口縁部の細片で、外面には呉須で文様を描くが、発色が悪く文様不明。

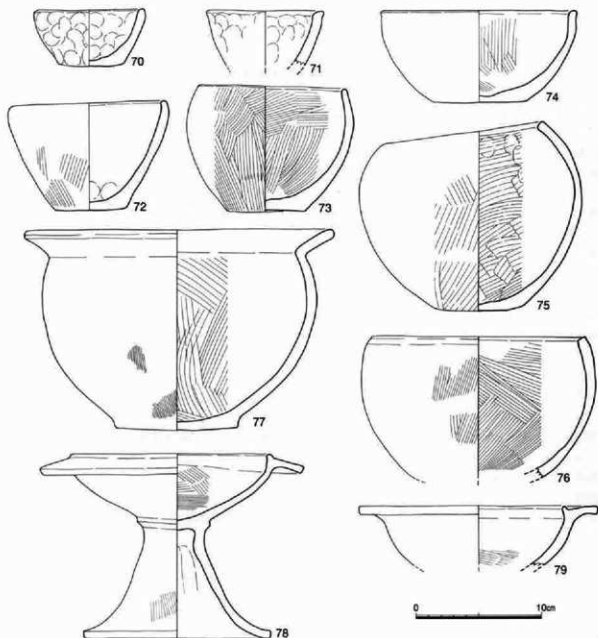


Fig.21 調査区C (SX100) 出土土器実測図① (1/3)

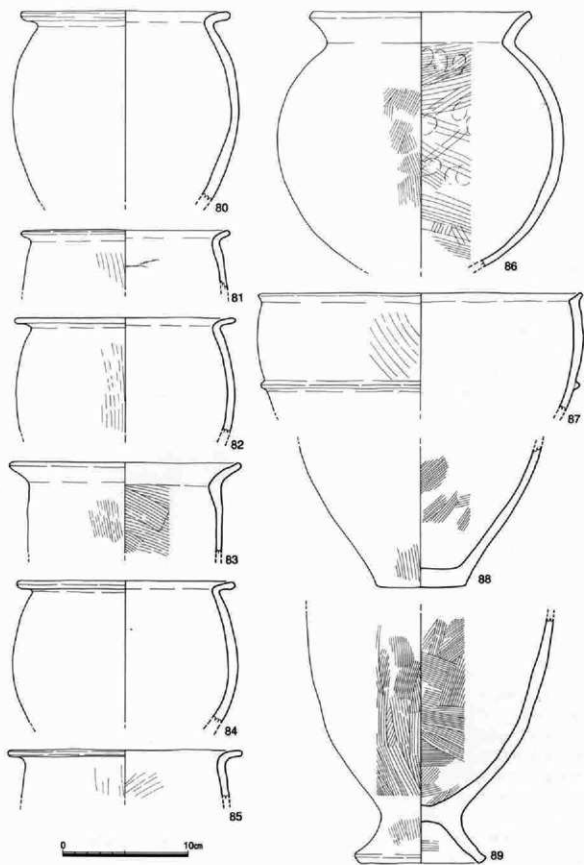


Fig.22 調査区C (SX100) 出土土器実測図② (1/3)

SD075 (Fig.20)

弥生土器

甕 (65) 底部の細片で底径7.8cmを測る。体部内外面は刷毛目、底部内面はナデ、底部外面は不定方向に刷毛目を施す。

SD090 (Fig.20)

弥生土器

甕 (66~68) 66は「く」字形口縁甕で、口径18.0cmを測る。口縁部内外面はヨコナデ、体部外面は刷毛目、体部内面は工具ナデを施す。67は口径19.0cmを復原する。口縁部はヨコナデ、体部内面は刷毛目、体部外面は磨耗のため調整不明である。68は底部の細片で底径5.8cmを復原し、底部内外面はナデ調整である。

器台 (69) 脚裾部の細片で脚裾径は14.0cmを測る。脚裾外部面はヨコナデ、体部外面はナデで、内面は調整不明である。

周溝状遺構

SX100 (Fig.21~25, Pta.12・13)

弥生土器

小鉢 (70・71) 70は完形品で口径8.8cm、底径5.1cm、器高4.5cmを測る。調整は内外面がオサエナデ、底部外面はナデを施し、胎土に細砂粒、赤色粒子、金雲母、角閃石を含む。71は口縁部の細片で口径9.4cmを復原する。内外面の調整はオサエナデである。

鉢 (72~77) 72は口径12.8cm、底径5.8cm、器高8.6cmを測る。口縁部はやや内湾し、口縁部内外面はヨコナデ、体部外面は刷毛目、体部内面及び底部内外面はナデの調整を施す。73は口縁部が内湾した細片で、口径11.8cm、底径6.3cm、器高10.0cmを測る。口縁部はヨコナデ、体部内外面及び底部外面は刷毛目、底部内面はナデの調整である。74は口径15.6cm、底径7.7cm、器高7.3cmを復原し、口縁部はやや外反する。口縁部内外面はヨコナデ、体部内面は刷毛目、体部外面及び底部外面はナデの調整を施す。75は口径12.6cm、底径

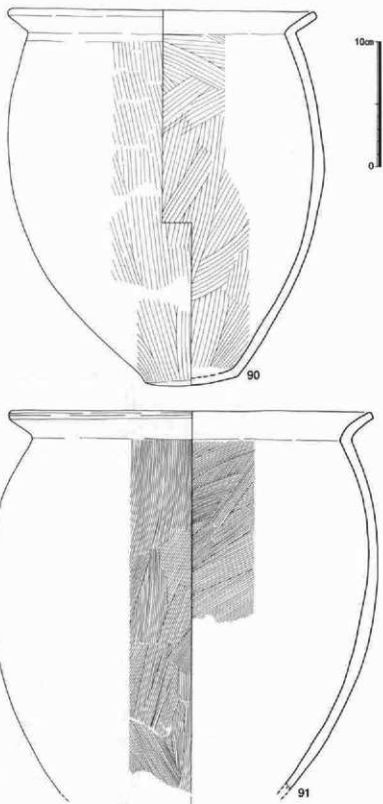


Fig.23 調査区C (SX100) 出土土器実測図③ (1/3)

調整を施す。74は口径15.6cm、底径7.7cm、器高7.3cmを復原し、口縁部はやや外反する。口縁部内外面はヨコナデ、体部内面は刷毛目、体部外面及び底部外面はナデの調整を施す。75は口径12.6cm、底径

6.9cm、器高13.5～15.2cmを測る。口縁部及び外面はヨコナデ、口縁部内面はオサエナデ後刷毛目、体部及び底部の内外面は刷毛目調整である。76は口径16.9cmを測る口縁部の細片で、口縁部及び外面はヨコナデ、口縁部内面及び体部内外面は刷毛目の調整を施す。77は口縁部が大きく開くタイプで、口縁部内外面はヨコナデ、体部内外面及び底部内面は刷毛目、底部外面はナデの調整を施す。口径24.6cm、底径9.7cm、器高16.0cmを測る。

高坏 (78・79) 78は杯部に鋤先口縁を呈し、脚部のくびれ部が中位にある。口径20.9cm、脚裾径は14.8cm、器高14.7cmを測る。79は同じく杯部に鋤先口縁を呈し、口径19.0cmを復原する。

甕 (80～92) 80～85は口縁部の細片で口縁部が大きく外反する甕で、80は口径16.6cmを復原し、表面磨耗のため調整不明。81は口径16.6cmを復原し、口縁部内外面はヨコナデ、体部外面は刷毛目、体部内面はナデの調整を施す。82は口径17.6cmを復原し、口縁部内外面はヨコナデ、体部外面は刷毛目、体部内面はナデの調整を施す。

83は体部が張らないタイプで、口径18.4cmを復原する。口縁部内外面はヨコナデ、体部内外面は刷毛目の調整を施す。84は口径17.6cmを復原し、口縁部内外面はヨコナデ、体部内外面はナデの調整である。85は口径18.6cmを復原し、口縁部内外面はヨコナデ、体部内外面は刷毛目調整。86は「く」字形口縁甕で、口径17.8cmを復原する。口縁部内外面はヨコナデ、体部外面は刷毛目、体部内面は指押さえ後刷毛目の調整を施す。87は口縁部が外側へ屈曲するタイプで、口径25.8cmを復原する。体部中位に断面が台形状の貼付突帯を1条施し、口縁部内外面はヨコナデ、体部外面上位は刷毛目、体部外面下位及び体部内面はナデの調整である。88～89は底部の細片である。88は底径7.2cmを復原し、外面及び体部内面は刷毛目、底部内面はナデの調整である。89は底部に高台を付す甕で、高台径10.5cmを測る。90～92は「く」字形口縁甕で、90はやや丸みを呈する底部で、口径24.8cm、底径7.5cm、器高30.0cmを測り、口縁部はヨコナデ、体部は刷毛目、底部はナデの調整である。91は口径29.15cmを測り、口縁部はヨコナデ、体部は刷毛目の調整を施す。92はやや丸みを呈する底部で、口径27.8cm、底径8.0cm、器高43.3cmを測る。調整は口縁部がヨコナデ、口縁部は刷毛目、くびれ部はヨコナデ、体部は刷毛目、底部はナデで、体部外面下位には細かい刷毛目の調整を施す。

壺 (93・94) 93は体部の細片で、外面には断面が三角形の貼付突帯を2条施す。内外面は刷毛目調整で、外面には丹塗りが施される。94は底部の細片で、底径12.0cmを復原する。

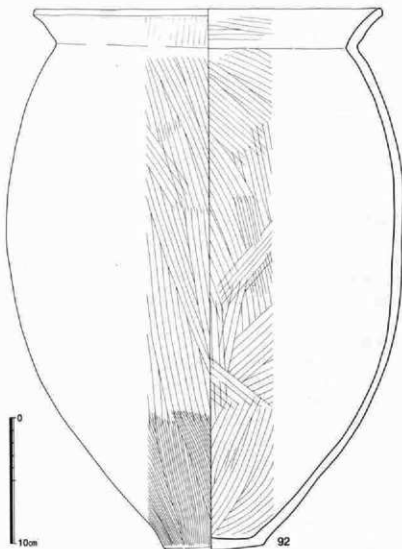


Fig.24 調査区C (SX100) 出土土器実測図④ (1/3)

調査区D

溝

SD108 (Fig.26)

土師器

小皿 (95) 糸切りで、口径10.2cm、底径7.0cm、器高1.6cmを復原する。内外面の調整は不明。

鉄製品 (Fig.27, Pla.13)

釘 (101) 釘の断面は丸形で、径は5mm前後を測る。上下部は欠損している。

SD120 (Fig.26)

土師器

坏 (96) 糸切りで、口径11.0cm、底径7.0cm、器高2.6cmを復原する。内外面の調整はヨコナデである。

土壙

SK102 (Fig.26)

土師器

坏 (97) 底部の細片で、底部外面はヘラ切りである。内外面はヨコナデで、底径8.0cmを復原する。

(4) 小結

今回の調査で最も古い遺構は調査区Bから検出したSK035の落とし穴状遺構である。

「落とし穴状遺構」については、これまで北部九州においてもしばしば報告の類をみるようになり、筑後市内でも「田佛遺跡」をはじめ、総計33基以上を数える。市内で確認された「落とし穴状遺構」の内、現段階で認識できた主要なものについてTab.2に示したので参照されたい。なお、記載した「落とし穴状遺構」は、何れも遺構底部に多穴や単穴の小穴を呈するもので、無穴のものは土壙と区別が戸惑い、明らかに判断ができるものを挙げた。また、本表に使用した分類は、「[安武地区遺跡群Ⅱ]久留米市文化財調査報告書第60集—久留米市教育委員会1989—」に記載されている分類を用いた。

さて、当遺跡から検出されたSK035についてみてみると、平面プランは楕円形状を呈し、底部に2つの小穴を認めるタイプであることから、分類による

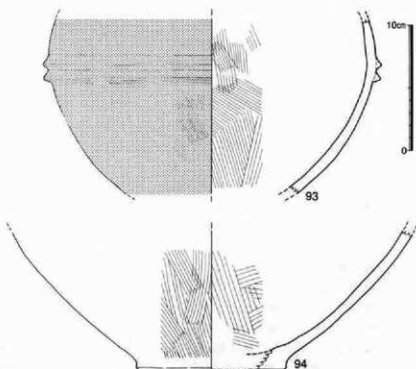


Fig.25 調査区C (SX100) 出土土器実測図⑤ (1/3)

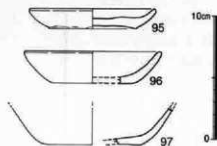


Fig.26 調査区D溝出土土器実測図 (1/3)

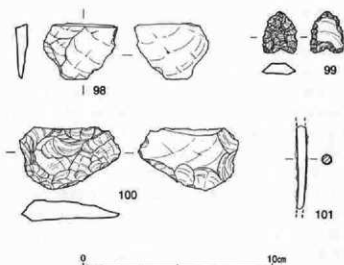


Fig.27 石製品・鉄製品実測図 (1/2)

(単位: cm)

遺跡名	遺構番号	遺構上端		遺構下端		深さ	底部の		備考
		長軸	短軸	長軸	短軸		ピット数	分類	
田 佛 遺 跡	4号	96	75	80	59	54	1	B-1	筑後市文化財調査報告書第5集
*	5号	77	72	62	55	50	1	B-2	*
*	12号	99	88	70	50	85	0	A-2	*
*	13号	125	104	76	51	88	1	B-2	*
*	14号	111	97	81	64	78	1	B-1	*
蔵敷森ノ木遺跡(1次)	1号	174	91	107	80	125	0	A-1	筑後市文化財調査報告書第6集
*	2号	115	48	90	30	84	3	C-1	*
*	3号	142	78	87	47	96	3	C-1	*
蔵敷森ノ木遺跡(2次)	2SX05	130	73	120	65	80	1	B-1	筑後市文化財調査報告書第20集
鶴田岸添遺跡(1次)	1SX015	110	76	94	64	45	4	C-1	筑後市文化財調査報告書第11集
鶴田岸添遺跡(2次)	2SX011	158	117	105	76	106	42	C-1	筑後市文化財調査報告書第12集
*	2SX012	140	135	92	50	101	5	C-2	*
*	2SX013	130	122	55	52	115	2	C-2	*
*	2SX014	132	107	81	45	79	1	B-2	*
*	2SX016	158	113	113	73	72	3	C-1	*
*	2SX018	162	150	133	74	110	1	B-2	*
*	2SX019	160	125	130	62	112	5	C-2	*
*	2SX021	125	116	75	62	74	11	C-1	*
*	2SX022	114	106	90	75	80	1	B-2	*
*	2SX023	165	155	100	88	129	13	C-2	*
*	2SX026	155以上	97	123	43	98	4	C-1	*
*	2SX027	175	160	110	90	90	33	C-2	*
*	2SX028	135	125	80	76	92	27	C-2	*
*	2SX029	106	95	56	46	100	2	C-2	*
*	2SX031	121	102	77	66	75	1	B-2	*
*	2SX032	151	104	70	59	103	9	C-1	*
*	2SX034	186	165	115	68	108	49	C-2	*
南津中ノ玉遺跡(2次)	8X050	85以上	95	80以上	80	55	11以上	C-1	筑後市文化財調査報告書第22集
志 西 田 遺 跡	S-10	130	126	78	60	80	6	C-2	現在整理中
*	S-05	135以上	99以上	116	60	67	1	B-1	*
長 浜 館 遺 跡 (3次)	S-3	107	77	90	55	67	1	B-1	*
水田上仁倉壱遺跡	S-5	130	78	84	36	72	5	C-1	*
志 野 添 遺 跡	S-5	146	62	121	36	80	6	C-1	*

Tab.2 市内出土の落とし穴状遺構一覧表

【註】

遺構の詳細については各報告書を参照されたい。

なお、上記の他に若葉森坊遺跡でも確認されているが、現段階において不明な点が多かったため今回は除外した。

とC群-2型にあたる。

ここでTab.2に注目してみると、「落とし穴状遺構」は市内の広い範囲で分布しており、また、構造については久留米市出土例の分類にほぼ同様のタイプが市内で検出されているのがわかる。「落とし穴状遺構」が広域にわたって確認されたほんの数例にすぎないが、その成果は大きい。

ところで、市内から出土した殆どの「落とし穴状遺構」は、直接年代を決定できる資料に恵まれておらず、遺構の時期の判定が困難であるといえる。このため、時期については今後の課題となるが、各遺跡の周辺からは縄文時代を示唆する何らかの資料が採集されていることや近隣における関連遺構の調査事例から、概ね縄文時代後期以降の遺構と考えられることができよう。

次に顕著な遺構がみられるのは弥生時代後期を中心とした時期で、遺構でいうと掘立柱建物 (SB040)、溝 (SD075)、土塋 (SK045)、周溝状遺構 (SX100) が該当する。

まず、SB040は1×2間若しくは1×1間に復原される建物で、惜しくも遺構の上部は削平を受けているものであった。規模からは特定できないが中心的な建物になっていた可能性は否定できない。時期は断定できないが、柱穴 (P3) から唯一弥生土器片を認めたため、この時期を比定したものである。

さて、周溝状遺構であるSX100は前述した如く、周溝に遺物が集中的廃棄されていたものである。調査時において一見単体で検出されたようにも思えたが、周辺遺跡である水田伊勢ノ脇遺跡の調査 (本稿の5.に記載) において2基の周溝状遺構を新たに確認することができた。このことから、一帯は祭祀的要素をもった土地利用が行われていた地区であったことが窺える。なお、筑後市内における周溝状遺構の検出状況は、「[筑後西部第二地区遺跡群 (I)] 第4節津島北石伏遺跡 4小結—筑後市文化財調査報告書第21集 筑後市教育委員会1998—」に記載されているとおりで、現時点においては新資料として追記するものはない。

次にあげられる時期としては、6世紀後半～8世紀代を中心とした遺物が出土している溝 (SD050) がある。SD050は先述したとおり、溝の中央部は溜まり状になっていて決して安定した遺構とは言えないもので、埋土も自然堆積であった。このことから、自然にできた流路若しくは溜まり状の遺構であった可能性が強く、遺物は周辺から流入したものと思われる。

次にピークを迎える遺構としては掘立柱建物 (SB020・030)、土塋 (SK002・003・004・010・015) があり、何れも10世紀代を中心とする時期であろう。検出された掘立柱建物や土塋から、当該期に活発な土地利用が行われていたことを示唆することができる。

まず注目されるのが掘立柱建物で、何れも建物の規模は大きくないが、方位を意識して建てられているようである。また、その周辺で検出された土塋 (SK010・015) は廃棄土塋として使用されていた可能性が強く、生活の匂いを感じさせるものである。特にSK015からは10世紀前半のまとまった資料が出土しており、土器研究上貴重な資料を提供するものである。

この他、当遺跡からはこの段階以降の遺構や遺物を確認することができたが、何れも集落本体を示唆するものではなく、今後の調査に委ねられる結果となった。

【単位はcm、○は復原値】

Fig-No.	調査区	遺構	名称	器種	口径	底径	器高	長さ	幅	厚さ	取組区分		備考
											ヘウ	糸	
16-001	A	SK040c	弥生土器	壺	○ 20.0						○	内外側に塗付者	
17-002	A	SK002	土師器	坏	○ 12.4	6.4	3.3				○		
17-003	A	SK003	土師器	坏	○ 11.4	6.4	3.3						
17-004	A	SK003	土師器	碗		9.5							
17-005	A	SK004	灰土器	鉢	○ 14.5								
17-006	A	SK005	弥生土器	壺	18.0	4.3	29.4						
17-007	A	SK005	弥生土器	壺	12.5	4.6	12.7						
17-008	A	SK005	弥生土器	壺	○ 15.5								
17-009	A	SK005	土師器	壺	○ 16.0								
17-010	A	SK005	弥生土器	壺	○ 27.8								
17-011	A	SK005	弥生土器	鉢	○ 18.0								
17-012	A	SK005	弥生土器	高坏	○ 26.0								
17-013	A	SK005	弥生土器	器台		○ 11.1							
17-014	A	SK006	土師器	壺	○ 24.0								
17-015	A	SK006	青磁	碗	○ 15.0								阿安南系、横田・森田：目—1
17-016	A	SK010	黒色土器A	碗	○ 15.3	9.1	7.5						
17-017	A	SK069	埴器	壺									
18-018	A	SK015	埴器	壺									
18-019	A	SK015	埴器	壺									
18-020	A	SK015	埴器	壺									
18-021	A	SK015	土師器	皿	○ 11.0	7.8	1.8				○		
18-022	A	SK015	土師器	碗	○ 11.0								
18-023	A	SK015	土師器	碗	○ 11.6								
18-024	A	SK015	土師器	碗	○ 14.0								
18-025	A	SK015	土師器	碗	○ 14.2	8.1	5.8						
18-026	A	SK015	土師器	碗	○ 14.4								
18-027	A	SK015	土師器	碗									
18-028	A	SK015	土師器	碗									
18-029	A	SK015	土師器	碗		7.8							
18-030	A	SK015	土師器	碗		8.8							
18-031	A	SK015	土師器	壺	○ 26.0								
18-032	A	SK015	土師器	不明土製品									
18-033	A	SK015	黒色土器A	碗	○ 11.5								
18-034	A	SK015	黒色土器A	碗	○ 12.2								
18-035	A	SK015	黒色土器A	碗	○ 14.2								
18-036	A	SK015	黒色土器A	碗	○ 15.0								
18-037	A	SK015	黒色土器A	碗									
18-038	A	SK015	黒色土器A	碗		7.5							
18-039	A	SK015	黒色土器A	碗		8.0							
18-040	A	SK015	黒色土器B	碗	○ 13.6	6.9	5.0						
18-041	A	SK015	黒色土器B	碗	○ 14.2	8.4	5.4						
18-042	A	SK011	黒色土器A	碗	○ 15.0								
19-043	B	SD050	弥生土器	壺		5.0							
19-044	B	SD050	埴器	蓋									
19-045	B	SD050	埴器	坏	○ 14.0								
19-046	B	SD050	土師器	蓋	○ 13.0								
19-047	B	SD050	土師器	蓋									
19-048	B	SD050	土師器	皿	○ 15.0	9.8	1.9						
19-049	B	SD050	土師器	皿	○ 16.0	13.6	2.0						
19-050	B	SD050	土師器	坏		6.6					○		
19-051	B	SD050	土師器	坏	○ 12.0	7.6	2.7						
19-052	B	SD050	土師器	坏	○ 12.6	8.0	3.8						
19-053	B	SD050	土師器	坏	○ 14.2								
19-054	B	SK045	弥生土器	壺		6.4							
19-055	B	SK045	弥生土器	壺	○ 18.3	5.0	18.2						
19-056	B	SK045	弥生土器	壺		6.0							
19-057	B	SK045	弥生土器	高坏		18.0							
19-058	B	SK048	土師器	柱状土製品						2.6			
19-059	B	SK067	土製品	ミニチュア									「一分皿」
19-060	B	SP051	陶器	大甕									骨付
19-061	B	SP051	青磁	不明									
19-062	B	SP051	骨付	碗									
20-063	C	SK066	白磁	皿	○ 12.0								森田：B野?
20-064	C	SK066	骨付	壺									
20-065	C	SK075	弥生土器	壺		7.8							

Tab.3 水田正吹遺跡出土遺物一覧表①

Fig.-No	調査区	遺種	名称	器種	口径	底径	器高	長さ	幅	厚さ	区別		備考
											ハ	ホ	
20-066	C	SD090	弥生土器	甕	○ 18.0								
20-067	C	SD090	弥生土器	甕	○ 19.0			2.0	1.5	0.3			
20-068	C	SD090	弥生土器	甕		5.8							
20-069	C	SD090	弥生土器	蹄台		○ 14.0							
21-070	C	SK100	弥生土器	小鉢	8.8	5.1	4.5						
21-071	C	SK100	弥生土器	小鉢	○ 9.4								
21-072	C	SK100	弥生土器	鉢	12.8	6.8	8.6						
21-073	C	SK100	弥生土器	鉢	11.8	6.3	10.0						
21-074	C	SK100	弥生土器	鉢	○ 15.6	○ 7.7	7.3						
21-075	C	SK100	弥生土器	鉢	12.6	6.9	13.5-15.3						
21-076	C	SK100	弥生土器	鉢	○ 16.9								
21-077	C	SK100	弥生土器	鉢	24.6	9.7	16.0						
21-078	C	SK100	弥生土器	高坏	○ 20.9	○ 14.8	14.7						
21-079	C	SK100	弥生土器	高坏	○ 19.0								
22-080	C	SK100	弥生土器	甕	○ 16.6								
22-081	C	SK100	弥生土器	甕	○ 16.6								
22-082	C	SK100	弥生土器	甕	○ 17.6								
22-083	C	SK100	弥生土器	甕	○ 18.4								
22-084	C	SK100	弥生土器	甕	○ 17.6								
22-085	C	SK100	弥生土器	甕	○ 18.6								
22-086	C	SK100	弥生土器	甕	○ 17.8		20.5						
22-087	C	SK100	弥生土器	甕	○ 25.8								
22-088	C	SK100	弥生土器	甕		○ 7.2							
22-089	C	SK100	弥生土器	甕		19.5	20.1						
23-090	C	SK100	弥生土器	甕	24.8	7.5	30.9						
23-091	C	SK100	弥生土器	甕	29.15								
24-092	C	SK100	弥生土器	甕	27.8	8.0	43.3						
25-093	C	SK100	弥生土器	甕									片断あり
25-094	C	SK100	弥生土器	甕		○ 14.0							
26-095	D	SD108	土師器	小皿	○ 10.2	○ 7.0	1.6					○	
26-096	D	SD120	土師器	坏	○ 11.0	○ 7.0	2.6	4.5		0.5		○	
26-097	D	SK102	土師器	坏		○ 8.0					○		
27-098	A	SK001	石製品	二次加工石器									石材：ヤヌカイト
27-099	B	SD090	石製品	石籠									石材：黒曜石
27-100	B	SK034	石製品	二次加工石器									石材：ヤヌカイト
27-101	D	SD108	鉄製品	釘									

Tab.4 水田正吹遺跡出土遺物一覧表②

【注】

本書に記載した分類は、下記の文献によっている。

《青銅》 横田賢次郎・森田勉 「大宰府出土の輸入中国陶磁器について—形式分類と編年を中心に—」 【九州歴史資料研究論集4】 1978

《白磁》 森田勉 「14～16世紀の白磁の分類と編年」 【貿易陶磁研究No.2】 1982

3. 島田外屋敷遺跡の調査

(1) はじめに (Fig.28)

当遺跡は、筑後市大字島田字外屋敷に所在する。一帯は縦横無尽にはしるクリークに囲まれた水田帯で、標高4m位の低湿地上にある。調査は平成7年度に実施された農地整備事業支線用排水路設置範囲で遺構を確認した845㎡について行い、調査区は北から「A～D」と設定した。調査期間は平成8年3月11日から3月31日までであった。この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影などを行い、遺構測量は大成ジオテック株式会社に委託した。調査区からは、溝10条、土塚7基、近世墓群、ピットを検出した。本調査は小林勇作が担当した。

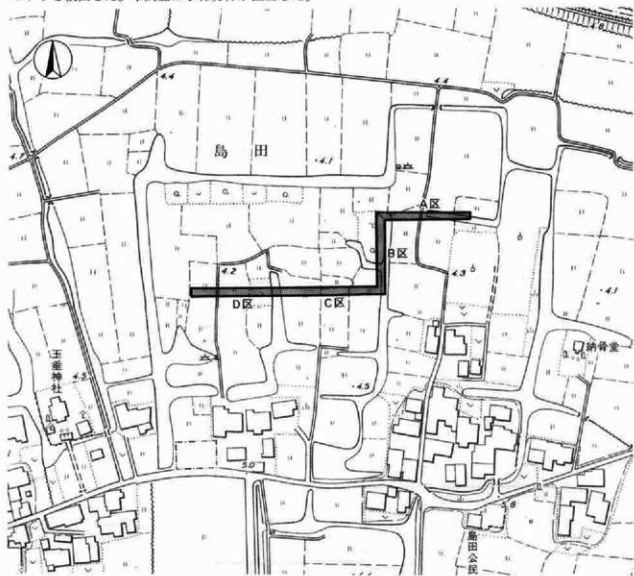


Fig.28 島田外屋敷遺跡調査地点位置図 (1/2,500)

(2) 遺構

調査区A

溝

SD05 (Fig.29)

調査区の東端で4.30m分を検出した南北溝である。溝の幅は調査区の制限により不明で、深さは約1.55mを測る。出土遺物は土師器（小皿・土鍋・片）、陶磁器（碗・片）を認めた。

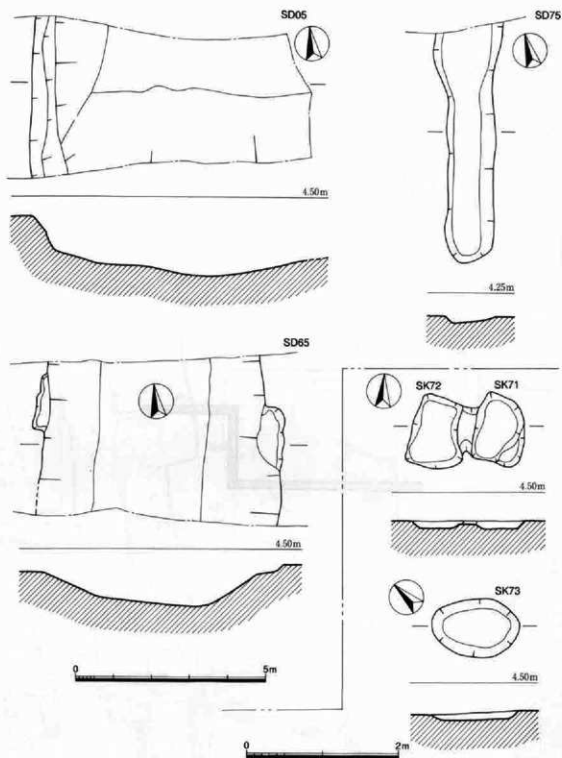


Fig.29 調査区A (SD05・65・75、SK71～73) 実測図 (1/50・1/100)

SD65 (Fig.29)

調査区の西側で検出した南北溝で4.00m分を認めた。幅約6.40m、深さ約1.00mを測り、断面はほぼ逆台形状を呈する。埋土は暗黒褐色粘質土を基調とし、出土遺物は皆無であった。

SD75 (Fig.29)

調査区の西側で検出した南北溝で北から3.10mのところまで終息する。幅0.60～0.90m、深さ0.08mで著しく削平を受けているものと思われる。埋土は暗黒褐色粘質土で、出土遺物は皆無である。

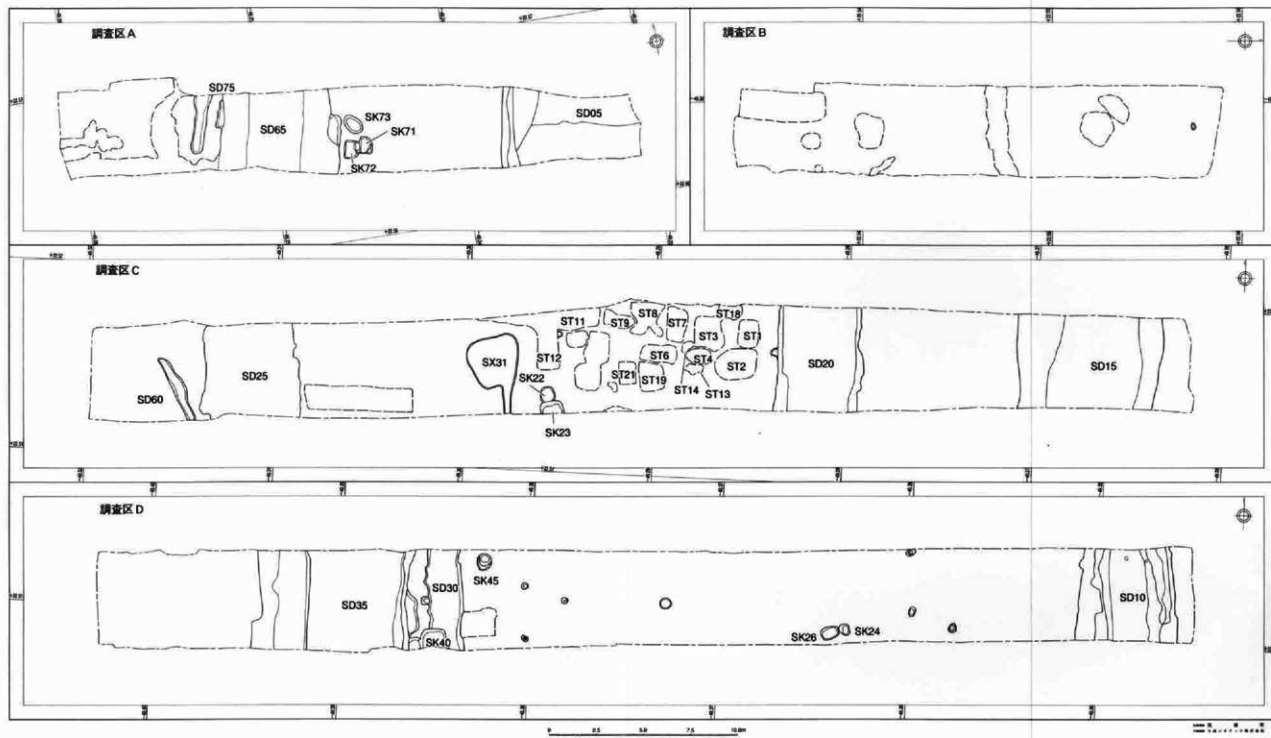


Fig.30 鳥田外屋敷遺跡遺構全体実測図 (1/200)

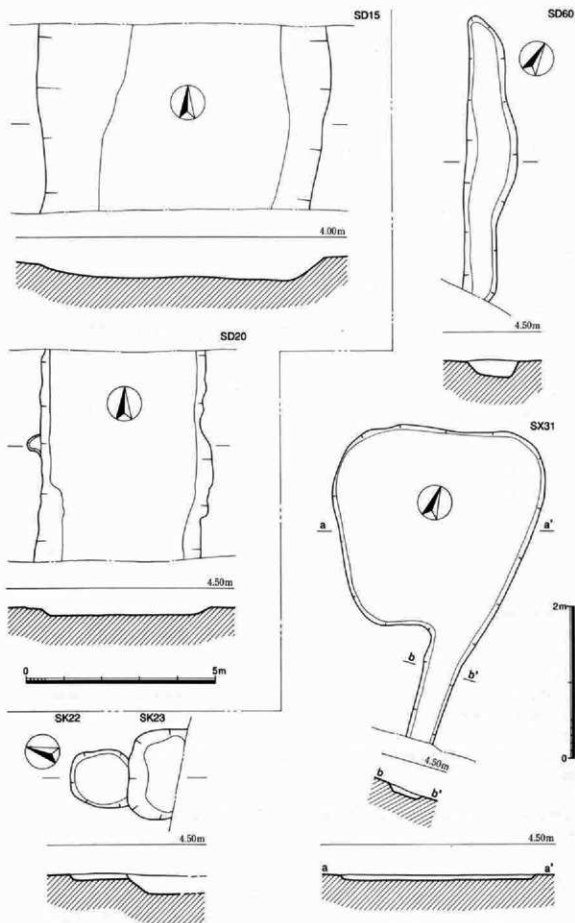


Fig.31 調査区C (SD15・20・60、SK22・23、SX31) 実測図 (1/50・1/100)

土壌

SK71 (Fig.29)

調査区の中央部に検出した楕円形状の土壌でSK072に隣接する。暗黒褐色粘質土の単一土層で、出土遺物は皆無であった。

SK72 (Fig.29)

楕円形状の土壌で暗黒褐色粘質土の単一土層であった。出土遺物はない。

SK73 (Fig.29)

調査区の中央部に検出した楕円形状の土壌である。暗黒褐色粘質土の単一土層で、出土遺物はない。

調査区B (Fig.30)

当調査区の調査前は竹林であったため竹根によるカクランが確認されたのみで、顕著な遺構は認められなかった。

調査区C

近世墓群

ST1~4・6~9・11~14・18・19・21 (Fig.30)

調査区のはは中央部付近に数十基の近世墓を確認したが、調査期間の制約から完掘までには至っていない。調査後、墓の改葬に立ち会った結果、主体部は甕棺（陶器甕）墓と木棺墓の2種類であることを確認した。

溝

SD15 (Fig.31)

調査区の東端で5.00m分を検出した南北溝である。幅7.20~7.70m、深さ約0.61mを測り、断面はははU字状を呈する。埋土は暗黒褐色粘質土を基調とし、遺物は出土していない。

SD20 (Fig.31)

近世墓群の東側から5.60m分を検出した南北溝で、幅4.30~4.55m、深さ約0.25mを測る。溝の中位から数基の近世墓を確認し、完掘までには至っていない。上位堆積土からは土師器（小皿・坏・片）、陶器（甕）などが出土している。

SD25 (Fig.30)

調査区の西側で確認した南北溝で4.80m分を検出し、幅4.70~5.40mを測る。調査期間の制約から完掘までには至っておらず、詳細は不明である。

SD60 (Fig.31)

SD25の西側で検出した南北溝で南から3.75mのところを終息する。幅0.45~0.70m、深さ約0.13mで著しく削平を受けているものと思われる。埋土は黒褐色粘質土で、出土遺物は皆無である。

土壌

SK22 (Fig.31)

南部はSK23を切り、径は約0.80m、深さ約0.08mと浅い。埋土は黒褐色粘質土で、土師器（片）、青磁（片）、白磁（片）、陶器（碗）を出土した。

SK23 (Fig.31)

径は約1.20mを測り、遺物は土師器（小皿・片）を僅かに出土したのみであった。

不明遺構

SX31 (Fig.31)

埋土は黒褐色粘質土を基調とする不定形な遺構である。出土遺物は皆無であった。

調査区D

溝

SD10 (Fig.32, Pla.17)

調査区の東端で検出した南北溝で4.70m分を確認した。上幅4.50~5.55m、下幅1.50~1.95m、深さ1.20mを測り、層位は大別して3つ（1・2と3~10と11・12）に分かれる。更に、溝の北端底部には径

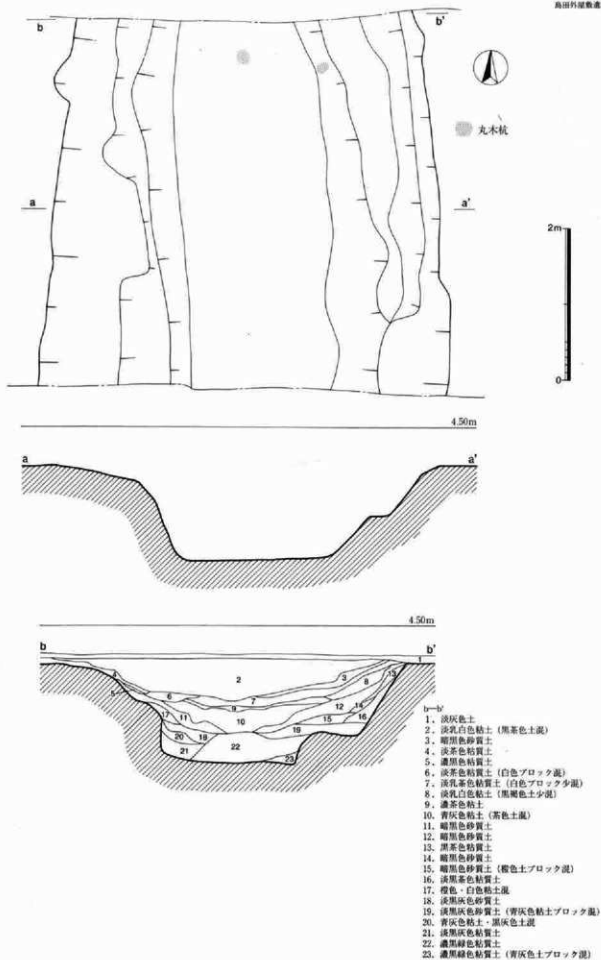


Fig.32 調査区D (SD10) 実測図 (1/50)

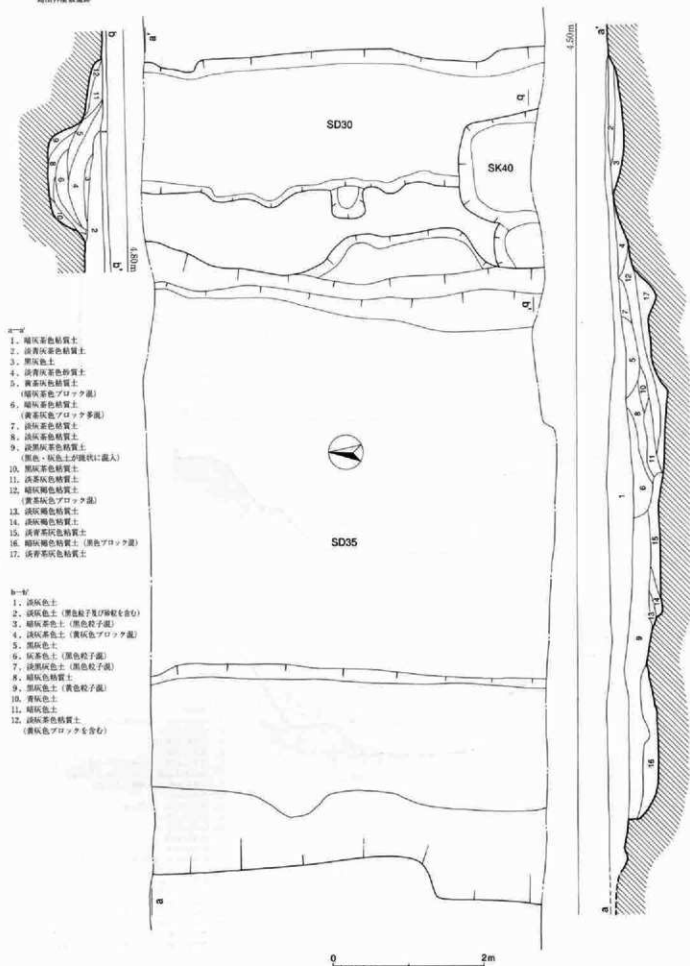


Fig.33 調査区D (SD30・35、SK40) 実測図 (1/50)

約0.15mを測る2本の丸太杭が垂直に打ち込まれていた。遺物は土師器（小皿・坏・土鍋・片）、瓦質土器（播鉢・火鉢）、青磁（碗、深皿）、白磁（片）、陶器（播鉢、片）、鉄製品（刀子）が出土した。

SD30 (Fig.33)

5.25m分を検出した南北溝で、南部はSK40に切られる。幅1.60～2.00m、深さ約0.27mを測り、断面はU字状を呈する。埋土は黒褐色粘質土で、遺物は土師器（小皿・片）を僅かに認めただけであった。

SD35 (Fig.33)

調査区の西部で検出した南北溝である。5.40m分を検出し、幅7.80～8.45m、深さ約0.29mを測る。埋土は淡灰茶色土を基調とし、断面は緩やかなU字状を呈する。出土遺物は皆無であった。

土壌

SK24 (Fig.34)

SK26に隣接した土壌で、径は約0.50m、深さ約0.13mと浅い。土師器（片）が出土した。

SK26 (Fig.34)

隅丸長方形を呈した土壌で、深さ0.07mとかなりの削平を受けているようである。埋土は黒色土で土師器（坏・片）が出土した。

SK40 (Fig.33, Pla.17)

SD30を切るように検出し、南部は調査区外にのびるものである。幅は約1.35m、深さ0.38mを測り、須恵器（甕）、土師器（土鍋・鉢・羽釜・片）、陶器（片）が出土した。

SK45 (Fig.34)

SD30の東隣から検出したほぼ円形を呈する土壌である。埋土は黒褐色土を基調とし、掘削時においてはかなりの湧水を認めたため、完掘をしていない。遺物は土師器（小皿・片）が出土した。

(3) 出土遺物

調査区A

溝

SD05 (Fig.35, Pla.18)

土師器

小皿 (1) 糸切りで、口径7.0cm、底径4.8cm、器高1.7cmを復原し、内外面のほぼ全域に煤が付着する。

坏 (2～6) すべて糸切りで、口径9.0～13.4cm、底径5.2～7.8cm、器高2.1～3.4cmを測る。

土鍋 (7) 口縁部は玉縁状を呈し、内面は横方向の刷毛目、外面はヨコナゲの調整を施す。

白磁

碗 (8) 口径12.0cmを復原し、口縁端部は口禿である。淡灰色の胎土に淡青緑色の釉を施す。

染付

碗 (9・10) 9は口径12.8cmを復原し、外面に呉須で草文を描く。10は口径16.0cmを復原し、口縁端部は釉を掻き取る。外面には呉須で文様を描く。

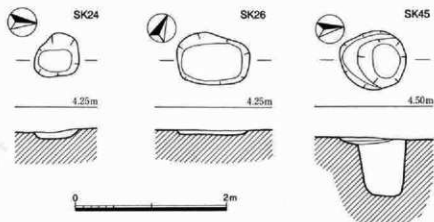


Fig.34 調査区D (SK24・26・45) 実測図 (1/50)

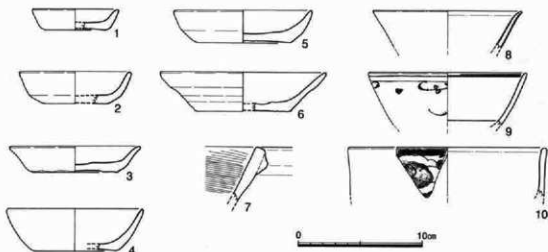


Fig.35 調査区A (SD05) 出土土器実測図 (1/3)

調査区C

溝

SD20 (Fig.36, Pla.18)

土師器

小皿 (11) 口径7.1cm、底径5.0cm、器高1.8cmを復元し、底部外面は糸切りである。

坏 (12) 口径13.0cm、底径9.0cm、器高3.1cmを復元する細片で、底部外面は糸切りである。

近世墓

ST02 (Fig.36)

染付

碗 (13) 底部の細片で、高台径は4.1cmを復元する。畳付けは露胎で、外面には呉須で文様を描く。

陶器

播鉢 (14) 口縁端部は鍵状に外反し、内面にはすり目を施す。

ST03 (Fig.36, Pla.18)

陶器

碗 (15) 口径10.4cm、高台径4.0cm、器高5.6cmを復元する。内面には透明釉、外面には緑褐色釉を施し、体部下位から高台にかけては露体である。

ST12 (Fig.36)

土師器

小皿 (16) 糸切りで、口径9.7cm、底径7.5cm、器高1.8cmを復元する。

ST23 (Fig.36)

土師器

小皿 (17) 口径9.6cm、底径8.0cm、器高1.1cmを復元し、磨耗のため調整不明。

調査区D

溝

SD10 (Fig.37~39, Pla.18~22)

土師器

小皿 (18~57) 18~57は

口径7.0~8.6cm、底径4.5~

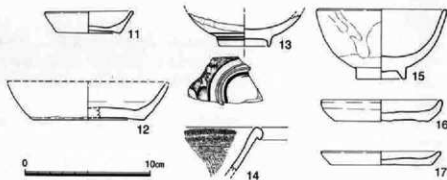


Fig.36 調査区C (SD20, ST02・03・12・23) 出土土器実測図 (1/3)

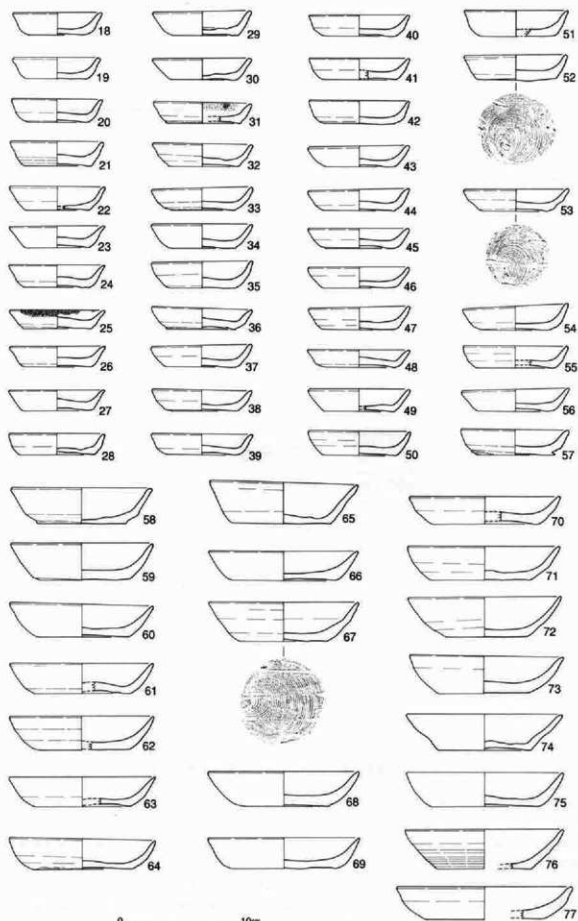


Fig.37 調査区D (SD10) 出土土器実測図① (1/3)

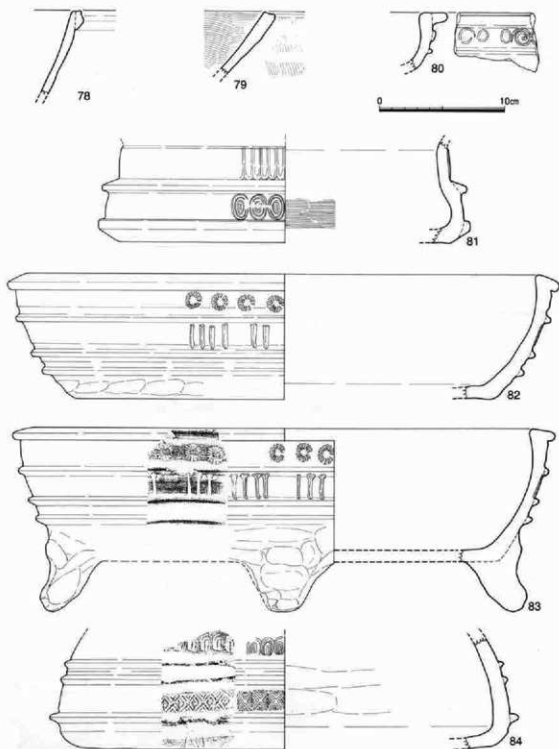


Fig.38 調査区D (SD10) 出土土器実測図② (1/3)

6.6cm、器高1.4～2.2cmを測り、底部外面はすべて糸切りである。25・31は口縁部付近に油煙痕が認められる。

坏 (58～77) 58～76は口径11.3～12.6cm、底径7.0～8.6cm、器高2.4～3.3cmを測り、底部外面はすべて糸切りである。77は糸切りで口径14.0cm、底径9.6cm、器高2.6cmを復原し、皿になる可能性がある。

土鍋 (78) 玉縁状の口縁部を呈し、内外面の調整は磨耗のため不明。

鉢 (79～80) 79は口縁部の細片で、端部は素口縁である。内面は横方向の刷毛目、外面は縦方向の刷毛目を施す。表面には煤が付着し、二次焼成を受けている。80は口縁端部外側に屈曲した貼り付け突帯

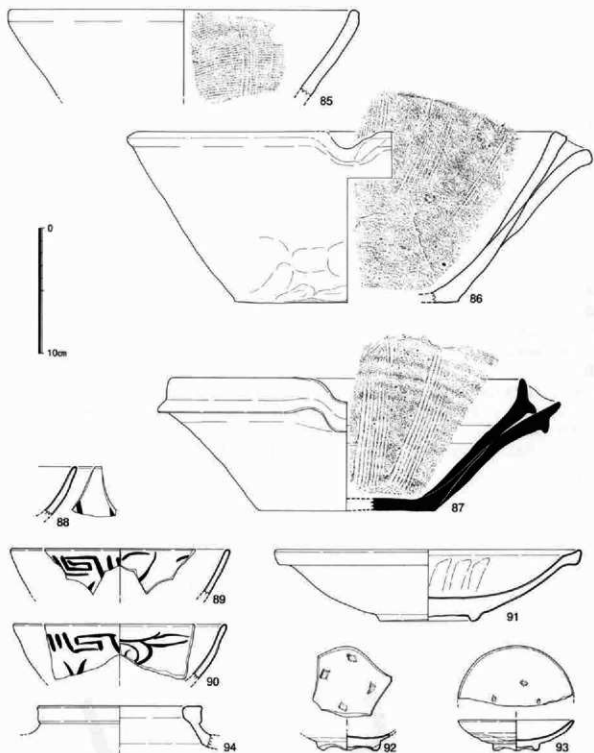


Fig.39 調査区D (SD10) 出土土器実測図③ (1/3)

を施し、更に体部外面上位にも貼り付け突帯が施される。突帯間にはボタン状の貼り付けと渦状の沈線を施す。

瓦質土器

火鉢 (81～84) 81は最大径29.5cm、底径26.2cmを復元し、体部下位から底部にかけては袋状を呈する。体部下位と底部の外面には貼り付け突帯が施され、体部下位には型文、突帯間にはスタンプによる押印が施される。82と83は同一個体と思われ、83は口径43.2cm、底径34.0cm、器高14.7cmを復元する。口縁端部は外側に外反し、ナデ調整による大型の脚が施される。体部外面には3条の貼り付け突帯が施され、

菊花文と刻み目文のスタンプが押印される。84は最大径36.0cm、底径32.8cmを復原し、体部下位から底部にかけては袋状を呈する。体部下位には3条の貼り付け突帯が施され、鐘文と区画文のスタンプを押印する。

播鉢 (85・86) 85は口縁部の細片で、口径27.6cmを復原する。すり目は4本単位か。86は口径35.0cm、底径17.8cm、器高13.7cmを測る片口の播鉢で、内面には7本単位のすり目を施す。

備前焼

播鉢 (87) 口径27.8cm、最大径30.0cm、底径14.0cm、器高10.6cmを測る片口の播鉢である。口縁部はほぼ直立し、内面には放射状に8本単位のすり目を施す。

青磁

碗 (88～90) 88～90は口縁部の細片で、89・90は外面口縁部付近に雷文帯を施す。89は口径17.0cm、90は口径17.4cmを復原する。

皿 (91) 口径24.4cm、高台径7.6cm、器高5.7cmを測る。内外面に緑褐色の釉を厚く施し、畳付から高台内にかけては施釉後、蛇の目状に掻き取られる。口縁部は「ての字」状に外反し、体部内面には幅広い蓮弁状の凹みをもつ。明代と思われる。

白磁

碗 (92) 底部のみの細片で、高台径は5.0cmを復原する。高台は4ヶ所を山形に削り出し、見込みには4ヶ所の砂目跡を認める。高台部は露胎である。

陶器

皿 (93) 口径9.2cm、高台径3.7cm、器高2.4cmを測る。高台は4ヶ所を山形に削り出しているものと思われ、見込みには4ヶ所の砂目跡があったものと考えられる。胎土は白色で乳白色の透明釉を施すが、高台は露胎である。

壺 (94) 口径13.0cmを測る壺の口縁と思われる。色調は暗灰色で、胎土に砂粒を多く含む。焼成はほぼ良好。

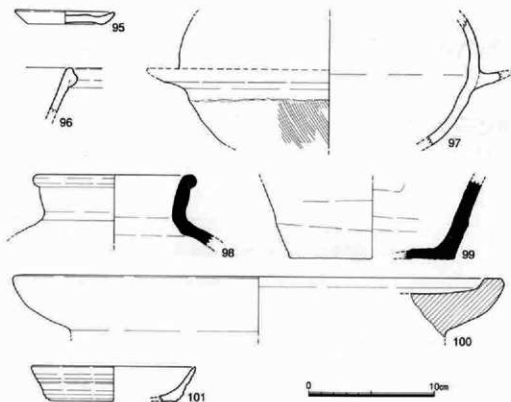


Fig.40 調査区D (SD30、SK40、SP26) 出土遺物実測図 (1/3)

SD30 (Fig.40)

土師器

小皿 (95) 糸切りで口径7.9cm、底径6.0cm、器高1.1cmを測る。

土壌

SK40 (Fig.40, Pla.22)

土師器

土鍋 (96) 玉縁状の口縁部を呈し、磨耗のため調整不明。

羽釜 (97) 最大径29.0cmを復原する。鈔はやや上方へ傾き、鈔から下位には煤が厚く付着する。煤は鈔が欠損した断面にも付着しており、欠損後も使用したものと考えられる。

備前焼

壺 (98・99) 98・99は同一個体と思われる。98は口縁部の細片で、口径13.0cmを復原する。口縁部はやや外反し、端部は外側に折り曲げて丸い帯状突起とした玉縁口縁を呈する。99は底部の細片で、底径13.0cmを復原する。

石製品

ひき臼 (100) 下白部分の細片と思われる。石材は安山岩製で、口径39.0cmを復原する。

ビット

SP26 (Fig.40)

土師器

坏 (101) 糸切りで、口径13.0cm、底径10.0cm、器高2.8cmを復原する。胎土は精選され、内外面はヨコナデ調整である。

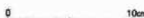
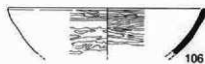


Fig.41 包含層出土土器実測図 (1/3)

包含層 (Fig.41)

土師器

小皿 (102・103) 共に糸切りである。102は口径8.9cm、底径6.9cm、器高1.2cm、103は口径10.0cm、底径8.0cm、器高2.0cmを復原する。

黒色土器

碗 (104) 口径14.0cmを復原する。著しく磨耗しているため調整は不明であるが、黒色土器B類と思われる。

瓦器

碗 (105~107) 105は口径15.0cmを復原し、口縁端部はややつまみ上げる。磨耗のため調整不明。106は口径16.0cm、107は口径16.6cmを復原し、共に内外面に横方向のミガキを施す。

(4) 小結

以上のように、今回の調査から確認された遺構は中世~近世に至るまでの遺構が主体である。この時期に該当する遺構は、溝 (SD05・15・20・25・10・30・35・65)、土壌 (SK40)、ビット (SP26) があり、ここでは、主体となる溝と近世墓について概観することでまとめた。

・溝について

当地を含む筑後市の西部一帯はかつて無数のクリーク地帯であった。これまで、過去の確認調査や発掘調査によって、旧クリークの存在が明らかにされている。このことから、当遺跡確認の一連の溝は、旧クリークであった可能性が考えられよう。

ところで、当遺跡が所在する島田地区は中世に画期となる水田荘の領内 (荘園関係における詳細は「筑後市史」一第一巻 第四編中世一、「長崎坊田遺跡」一筑後市文化財調査報告書第23集一) を参照されたい。) である。画期となる中世では、島田地区は水田荘内の村落として存在していたようで、当地は水田荘の北側境界付近に位置している。当地は、水田荘の北側境界ラインは現在の西流する花宗川に

沿うようで、北の広川荘と南の水田荘との間で歴史的背景や立地条件など、ある程度の制約を受けて存在していたことが考えられる。ここでいう「ある程度の制約」とは具体的には提示できないが、考えられることとしては荘園領内を防衛するために置かれた集落などが挙げられよう。

さて、当遺跡から検出した一連の溝は、旧クレークの可能性が考えられることは先述したが、当地における荘園関係を鑑みると館を巡る堀の可能性も否定できない。

更にこれを裏付けることとして、今回検出した一連の溝からは、在土器の他に国産の搬入土器や輸入陶磁器が出土している。国産の搬入土器や輸入陶磁器は、当時の時代背景から一般庶民が保有していた遺物とは考え難いところで、少なくとも中～小級クラスの有力者が保有していた可能性を示唆するものである。しかし、当調査区からは溝を主体とする遺構のみであったため、結果として、今後の調査に期待せざるを得ない状況である。

溝が使用されたピークは15世紀代比定し、埋没時期は出土遺物から少なくとも16世紀後半であったと考えている。

・近世墓について

当地は近世になって墓地として土地利用が行われていた。

調査区Cからは15基を数える近世墓が検出されたが、惜しくも調査期間などの理由から十分な調査をすることができなかった。周辺には現在も近世墓（殆どは改葬されているようである。）が点在している場所で、今後の調査が待たれる。

【単位はcm、○は複製品】

Fig-No.	調査区	遺構	名称	器種	口径	底径	器高	胴径	切跡区分		備考
									へろ	糸	
35-001	A	SD05	土師器	小皿	7.0	4.8	1.7			○	能付者
35-002	A	SD05	土師器	坏	9.0	5.2	2.6			○	
35-003	A	SD05	土師器	坏	10.6	7.0	2.1			○	
35-004	A	SD05	土師器	坏	11.0	6.8	3.4			○	
35-005	A	SD05	土師器	坏	11.1	7.7	2.7			○	
35-006	A	SD05	土師器	坏	13.4	7.8	3.2			○	
35-007	A	SD05	土師器	土鍋							山村：Ba
35-008	A	SD05	白磁	碗	12.0						森田：Ⅲ
35-009	A	SD05	能付	碗	12.8						
35-010	A	SD05	能付	碗?	16.0						
36-011	C	SD29	土師器	小皿	7.1	5.0	1.8			○	
36-012	C	SD29	土師器	坏	13.0	9.0	3.1			○	
36-013	C	ST02	能付	碗	4.1						小野：B-Ⅲ
36-014	C	ST02	陶器	椀鉢							
36-015	C	ST03	陶器	椀	10.4	4.0	5.6				
36-016	C	ST12	土師器	小皿	9.7	7.5	1.8			○	
36-017	C	ST23	土師器	小皿	9.6	8.0	1.1			○	
37-018	D	SD10	土師器	小皿	7.0	4.5	1.8			○	
37-019	D	SD10	土師器	小皿	7.0	5.0	1.8			○	
37-020	D	SD10	土師器	小皿	7.2	5.3	1.9			○	
37-021	D	SD10	土師器	小皿	7.4	5.3	2.0			○	
37-022	D	SD10	土師器	小皿	7.6	5.0	1.9			○	
37-023	D	SD10	土師器	小皿	7.6	5.1	1.7			○	
37-024	D	SD10	土師器	小皿	7.5	5.3	1.8			○	
37-025	D	SD10	土師器	小皿	7.6	5.4	1.5			○	油押痕あり
37-026	D	SD10	土師器	小皿	7.5	5.4	1.7			○	
37-027	D	SD10	土師器	小皿	7.6	5.6	1.7			○	
37-028	D	SD10	土師器	小皿	7.6	6.0	1.7			○	
37-029	D	SD10	土師器	小皿	7.8	5.0	2.0			○	
37-030	D	SD10	土師器	小皿	7.8	5.4	1.8			○	
37-031	D	SD10	土師器	小皿	7.8	6.0	1.7			○	油押痕あり
37-032	D	SD10	土師器	小皿	7.9	5.5	1.9			○	
37-033	D	SD10	土師器	小皿	8.0	5.0	1.8			○	
37-034	D	SD10	土師器	小皿	8.0	5.1	2.0			○	
37-035	D	SD10	土師器	小皿	8.0	5.3	2.2			○	
37-036	D	SD10	土師器	小皿	8.0	5.5	1.7			○	
37-037	D	SD10	土師器	小皿	8.0	5.8	1.7			○	
37-038	D	SD10	土師器	小皿	8.0	5.8	1.7			○	
37-039	D	SD10	土師器	小皿	8.0	5.8	1.7			○	
37-040	D	SD10	土師器	小皿	8.0	6.0	1.7			○	
37-041	D	SD10	土師器	小皿	8.0	6.0	1.8			○	
37-042	D	SD10	土師器	小皿	8.0	6.4	1.9			○	
37-043	D	SD10	土師器	小皿	8.1	5.4	1.7			○	
37-044	D	SD10	土師器	小皿	8.1	5.6	1.7			○	
37-045	D	SD10	土師器	小皿	8.1	5.9	1.6			○	
37-046	D	SD10	土師器	小皿	8.1	6.0	1.7			○	
37-047	D	SD10	土師器	小皿	8.1	6.0	1.8			○	
37-048	D	SD10	土師器	小皿	8.2	5.6	1.4			○	
37-049	D	SD10	土師器	小皿	8.2	5.8	1.8			○	
37-050	D	SD10	土師器	小皿	8.2	6.0	2.0			○	
37-051	D	SD10	土師器	小皿	8.2	6.2	2.1			○	
37-052	D	SD10	土師器	小皿	8.2	6.4	2.0			○	
37-053	D	SD10	土師器	小皿	8.4	6.0	1.8			○	
37-054	D	SD10	土師器	小皿	8.4	6.0	1.9			○	
37-055	D	SD10	土師器	小皿	8.4	6.2	1.8			○	
37-056	D	SD10	土師器	小皿	8.5	6.3	1.8			○	
37-057	D	SD10	土師器	小皿	8.5	6.6	2.0			○	
37-058	D	SD10	土師器	坏	11.2	7.0	2.9			○	
37-059	D	SD10	土師器	坏	11.3	7.5	3.0			○	
37-060	D	SD10	土師器	坏	11.4	7.2	2.6			○	
37-061	D	SD10	土師器	坏	11.4	7.6	2.4			○	
37-062	D	SD10	土師器	坏	11.4	7.7	2.7			○	
37-063	D	SD10	土師器	坏	11.6	7.8	2.4			○	
37-064	D	SD10	土師器	坏	11.6	8.2	2.4			○	
37-065	D	SD10	土師器	坏	11.7	7.8	3.3			○	

Tab.5 島田外屋敷遺跡出土遺物一覽表①

Fig-No.	調査区	遺構	名称	器種	口径	底径	器高	胴径	割径	切断区分		備考
										ヘラ	糸	
37-066		SD10	土師器	坏	○ 11.8	○ 8.4	2.4				○	
37-067	D	SD10	土師器	坏	11.9	7.0	3.1				○	
37-068	D	SD10	土師器	坏	○ 12.0	7.8	2.8				○	
37-069	D	SD10	土師器	坏	○ 12.0	○ 8.3	2.5				○	
37-070	D	SD10	土師器	坏	○ 12.0	○ 8.4	2.2				○	
37-071	D	SD10	土師器	坏	12.1	8.0	2.7				○	
37-072	D	SD10	土師器	坏	12.2	8.6	3.2				○	
37-073	D	SD10	土師器	坏	○ 12.2	7.3	3.0				○	
37-074	D	SD10	土師器	坏	○ 12.4	○ 7.5	2.9				○	
37-075	D	SD10	土師器	坏	○ 12.5	○ 8.6	2.7				○	
37-076	D	SD10	土師器	坏	○ 12.6	○ 7.5	3.1				○	
37-077	D	SD10	土師器	皿中坏	○ 14.0	○ 9.6	2.6				○	
38-078	D	SD10	土師器	土鍋								山村：Ea
38-079	D	SD10	土師器	鉢								山村：A 葺
38-080	D	SD10	土師器	鉢								
38-081	D	SD10	瓦質土器	火鉢		○ 26.2						
38-082	D	SD10	瓦質土器	火鉢	○ 44.0	○ 32.4	10.0					K3と同一個体
38-083	D	SD10	瓦質土器	火鉢	○ 43.2	○ 34.0	14.7					K2と同一個体
38-084	D	SD10	瓦質土器	火鉢		○ 32.8						
39-085	D	SD10	瓦質土器	椀鉢	○ 27.6							山村：A
39-086	D	SD10	瓦質土器	椀鉢	○ 35.0	○ 17.8	13.7					すり目7本単位、山村：A
39-087	D	SD10	備前焼	椀鉢	○ 27.8	○ 14.0	10.6					すり目8本単位、備前・同慶：IV期
39-088	D	SD10	青磁	碗								
39-089	D	SD10	青磁	碗	○ 17.4							上田：C-II
39-090	D	SD10	青磁	碗	○ 17.0							上田：C-II
39-091	D	SD10	青磁	皿	○ 24.4	7.5	5.7					明代?
39-092	D	SD10	白磁	碗		○ 5.0						
39-093	D	SD10	陶器	皿	○ 9.2	○ 3.7	2.4					
39-094	D	SD10	陶器	壺	○ 13.0							
40-095	D	SD30	土師器	小皿	7.9	6.0	1.1				○	
40-096	D	SK40	土師器	土鍋								山村：Ea
40-097	D	SK40	土師器	羽釜								
40-098	D	SK40	備前焼	壺	○ 13.0							同慶：葺期
40-099	D	SK40	備前焼	壺		○ 13.0	21.0					同慶：葺期
40-100	D	SK40	石製品	ひき臼	○ 39.0							
40-101	D	SP25	土師器	坏	○ 13.0	○ 10.0	2.8				○	
41-102	—	包含層	土師器	小皿	8.9	6.9	1.2				○	
41-103	—	包含層	土師器	小皿	○ 10.0	○ 8.0	2.0				○	
41-104	—	包含層	黒色土器B	碗	○ 14.0							
41-105	—	包含層	瓦器	碗	○ 15.0							
41-106	—	包含層	瓦器	碗	○ 16.0							
41-107	—	包含層	瓦器	碗	○ 16.6							

Tab.6 島田外屋敷遺跡出土遺物一覧表②

【注】

本表に記載した分類は、下記の文献によっている。

- 〔中世雑器〕 山村信康 『太宰府出土の瓦質土器』 【中世土器の基礎研究①】 1990
 〔青磁〕 上田秀夫 『14～16世紀の青磁碗の分類について』 『貿易陶磁研究』2』 1982
 〔白磁〕 森田勉 『14～16世紀の白磁の分類と編年』 『貿易陶磁研究』2』 1982
 〔杂件〕 小野正敏 『15～16世紀の染付碗・皿の分類と年代』 『貿易陶磁研究』2』 1982
 〔備前焼〕 同慶忠彦 『備前焼』 『考古学ライブラリー-60』 平成3年

4. 井田栗ノ内遺跡の調査

(1) はじめに (Fig.42)

当遺跡は、筑後市大字井田栗ノ内に所在し、標高4.2m位の低湿地上にある。平成8年度に施工された支線用排水路の設置範囲において、遺構が確認された283㎡を調査範囲とし、調査区はL字状に設定した。調査期間は平成8年10月2日から10月15日までで、この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影などを行った。調査区からは溝1条を検出した。本調査は田中剛が担当し、野田洋子の協力を得た。



Fig.42 井田栗ノ内遺跡調査地点位置図 (1/2,500)

(2) 遺構

溝

SD1 (Fig.43, Pla.23)

やや蛇行しながら東西方向にはる溝で、6.40m分を検出した。幅2.00～2.90m、深さ0.28～0.42mを測り、溝底は西方が低下している。土層からは大きく2つに大別（土層番号3～5と6・7）され、堀直しが看取される。遺物は各層から土師器（小皿・鍋・片）、瓦質土器（播鉢）を認めているが図示できなかった。

(3) 出土遺物

当調査区からは図示できる遺物は出土しなかった。

(4) 小結

当遺跡は、かつて縦横無尽にはしっていたクリーク地帯に位置していることで、今回検出した溝SD1は、旧クリークの可能性が考えられる。出土遺物が極めて少ないことから時期決定は難しいが、SD1は遺物から概ね中世の遺構と思われ、少なくとも江戸時代初頭には埋没していた可能性が考えられる。

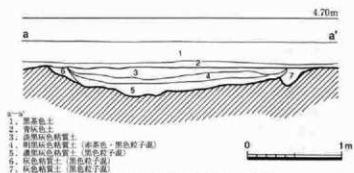


Fig.43 SD1土層断面実測図 (1/40)

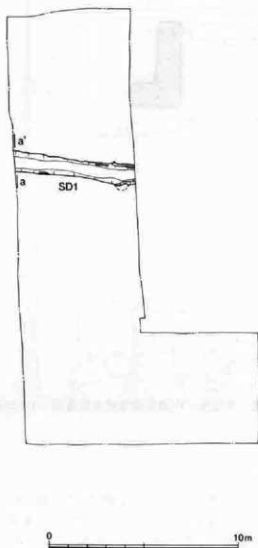


Fig.44 井田栗ノ内遺跡遺構全体実測図 (1/200)

5. 水田伊勢ノ脇遺跡の調査

(1) はじめに (Fig.45)

当遺跡は筑後市大字水田伊勢ノ脇に所在し、標高5m位の低地上にある。調査は、平成9年度に実施された農地整備事業支線用排水路設置範囲で、遺構を確認した696㎡を実施した。調査期間は平成9年10月14日から11月6日までで、この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影などを行った。調査区からは主に溝15条、周溝状遺構2基、土壇5基、ピットを検出した。本調査は小林勇作が担当し、末吉隆弥の協力を得た。

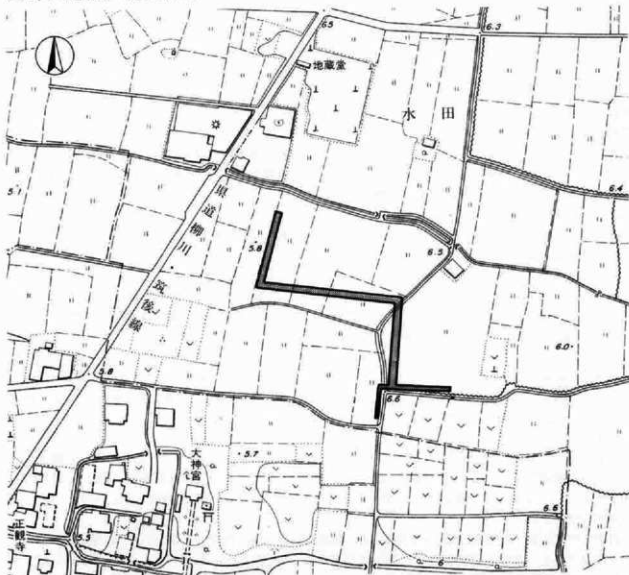


Fig.45 水田伊勢ノ脇遺跡調査地点位置図 (1/2,500)

(2) 遺構

溝

SD010 (付図②, Fig.46, Pla.27)

調査区北側から検出した東西溝で、SD020・030を切る。7.6m分を検出し、幅約0.80m、深さ0.12～0.44mを測る。溝の断面は逆台形状を呈し、溝底は凹凸が著しく不安定である。埋土は黒茶色土がレンズ状に3層堆積しており流水あったものと思われる。遺物は弥生土器(甕)、須恵器(甕)、土師器(皿・甕・片)、石製品(砥石)などが出土した。

SD020 (付図②、Fig.46、Pla.27)

SD010に切られた幅約0.60m、深さ約0.36mを測る東西溝で約6.00m分を検出した。溝の東端部は南方へ屈曲しており、SD030へ続くものと考えられる。溝の断面はほぼU字状を呈し、溝底は不安定であった。埋土は黒茶色土がおおよそ4層堆積しており、流水があったものと考えられる。遺物は弥生土器(甕)、土師器(片)などが出土した。

SD025 (付図②)

調査区中央部で検出した南北溝で、埋土は茶褐色土の単一土層であった。検出長3.45m、幅0.35～0.55m、深さ0.16～0.19mを測る。出土遺物は皆無であった。

SD030 (付図②、Fig.46)

調査区西側で南北にはしる溝を51.40m分検出し、溝の幅は0.70～1.00mを測る。SD010に続く溝と考えられ、溝断面は逆台形状を呈する。土層観察から緩やかな流水があったものと考えられるが、溝の高低差はあまり感じられず、溝底は凹凸が著しく不安定である。地形的にみて北→南方向への流れがあったものと考えられる。遺物は弥生土器(甕)、須恵器(甕)、土師器(皿・坏・土鍋・鍋・片)、瓦器(椀)、陶器(甕)などが出土した。

SD045 (付図②、Fig.46)

調査区の中央部で検出した南北溝で、3.20m分を検出した。断面はほぼV字状を呈し、黒茶色土がレンズ状に堆積していた。幅1.25～1.30m、深さ0.43～0.54mを測り、溝底は比較的安定していた。遺物は土師器(土鍋・火鉢・播鉢・茶釜)、染付(碗)が出土した。

SD055 (付図②)

調査区中央部で6.25m分を検出し、SD090に切られる。幅0.51～0.86m、深さ0.05～0.13mを測る浅い溝で、土師器(皿・片)が出土している。

SD060 (付図②、Fig.46、Pla.27)

調査区の中央部で検出した南北溝で、SD070に切られる。3.35m分を検出し、幅約4.00m、深さ1.15mを測り、断面はほぼU字状を呈する。溝底は凹凸が著しく不安定である。遺物は須恵器(甕)、土師器(土鍋・土鍋)、白磁(碗)、陶器(播鉢)を出土した。

SD070 (付図②、Fig.46、Pla.27)

SD060に隣接した南北溝で、長さ3.35m、幅約2.55m、深さ約0.60mを測る。灰色土を基調とする埋土で、断面は緩やかなU字状を呈する。出土遺物は土師器(坏・茶釜・片)、瓦質土器(播鉢)、青磁(碗)、染付(碗)、櫛前焼(甕)を認めた。

SD080 (付図②、Fig.46、Pla.28)

調査区の中央部東よりで検出した溝で、検出長約9.00m、幅約2.20m、深さ0.45mを測る。埋土は灰茶褐色土を基調とするレンズ状堆積で、溝底はほぼフラットである。遺物は須恵器(甕)、土師器(土鍋・茶釜・片)、瓦質土器(播鉢・片)、青磁(碗)、白磁(片)、染付(碗)、陶器(甕)が出土した。

SD090 (付図②)

調査区の中央東よりで約2.00m分を検出した。幅約2.90m、深さ0.43～0.50mを測り、埋土は灰茶褐色土を基調とする。遺物は土師器(片)、瓦質土器(茶釜)、白磁(碗)、染付(片)、陶器(播鉢)が出土した。SD080と同一の溝か。

SD100 (付図②、Pla.46)

SD030に接する溝で、検出時ではSD030に切られたように確認された。土層観察からSD100埋没後にSD030が掘り直されたと考えられる。遺物は僅かに土師器(片)、瓦質土器(播鉢)が出土した。

SD110 (付図②)

調査区の南部で検出した。検出長3.50m、幅0.35～0.63m、深さ約0.19mを測り、埋土は灰色土の単一土層。出土遺物は弥生土器(片)、土師器(片)を僅かに認めた。

SD115 (付図②)

SD110に切られた溝で、現況を留めていない。2.50m分を検出し、深さ0.03～0.11と浅い。出土遺物は

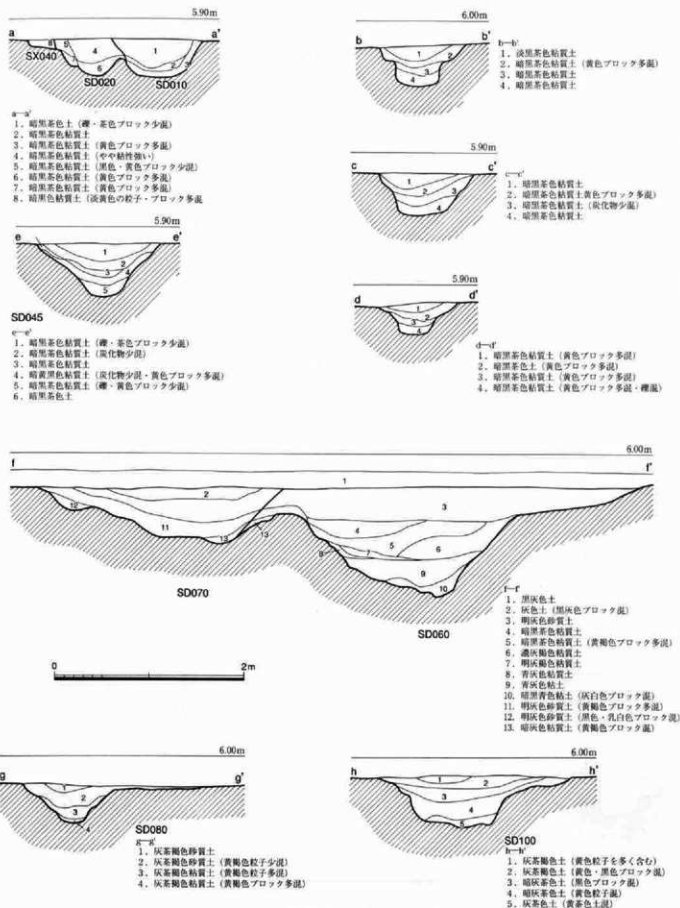


Fig.46 溝土層断面実測図 (1/40)

皆無であった。

SD120 (付図②)

1.33m分を検出し、幅0.60m、深さ0.07mと浅い。出土遺物は僅かに土師器(片)を認めた。

SD130 (付図②)

SK135に切られた南北溝で、現況水路とほぼ一致する。約12.20m分を確認し、幅約1.70m、深さ約0.56mを測る。土師器(土鍋・片)、瓦などが出土した。

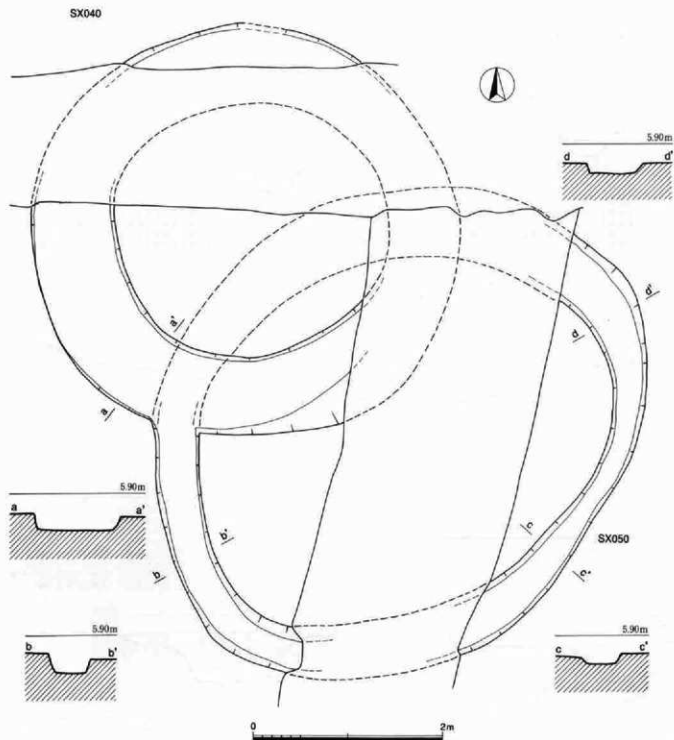


Fig.47 SX040・050実測図(1/40)

SD140 (付図②)

1.75m分を検出し、幅約0.25m、深さ0.18mを測る。出土遺物は皆無で、方向的にSD110・115何れかの延長部分と考えられる。

周溝状遺構

SX040 (Fig.47, Pla.28)

調査区の北側で検出し、著しく削平を受けていた。周溝状遺構の規模は外径4.35m、内径3.00m(推定)、溝幅9.30m、深さ約0.13mである。埋土は黒色土を基調とする単一土層であった。遺物は弥生土器(甕・壺・器台)が出土した。

SX050 (Fig.47, Pla.28)

調査区の北側で検出し、周溝状遺構の規模は外径5.70m(推定)、内径4.65m(推定)、溝幅2.80～6.40m、深さ約0.10mで著しく削平を受けていた。遺物は弥生土器(甕・器台)が出土した。

土壌

SK001 (付図②)

SX40溝底から検出された楕円形状の土壌で、幅約0.50m、深さ0.33mを測る。埋土は黒色土を基調とし、遺物は弥生土器(甕)を認めた。

SK005 (Fig.48, Pla.29)

調査区の北側で検出した隅丸方形形状の土壌で、幅1.30～1.35m、深さ1.15mを測る。出土遺物は各層から散在的に弥生土器(鉢・甕・壺・片)、石包丁が出土した。

SK015 (付図②)

SK005に隣接した楕円形状の土壌で、幅約0.60m、深さ0.17mを測る。黒茶褐色土を基調とした埋土で、出土遺物は僅かに弥生土器(甕)を認めた。

SK035 (Fig.48, Pla.29・30)

SD020に切られた楕円形状の土壌で、若干袋状を呈する。長軸1.45m、短軸1.06m、深さ0.57mを測り、黒茶色土を基調とする埋土であった。土壌内からは二次焼成を受けた安山岩、片岩が各1個ずつ出土し、片岩の直下には土師器(坏)が上向き状態で確認された。遺物は他に土師器(甕・片)が出土している。

SK135 (付図②, Pla.30)

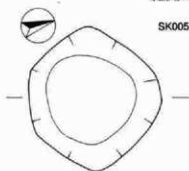
調査区南側でSD130を切るように検出した。土壌の3/4は調査区外で規模は不明。黒茶色土を基調とした埋土で、深さは0.43mを測る。遺物は須恵器(甕)、土師器(片)を認めたが、周辺からの流入と考えられる。

(3) 出土遺物

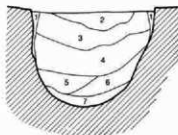
SD010 (Fig.51, Pla.31)

石製品

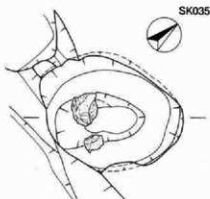
砥石(29) 石材は安山岩製で、2面を砥面とする。砥面には線状痕が認められ、鉄製品用に利用されたものと推定される。周縁の一部に敲打痕を認め、敲石としても利用された可能性が考えられる。



6.00m



1. 茶褐色土
2. 淡黒褐色土(茶褐色ブロック多量)
3. 淡黒色土(白色・黄褐色ブロック及び粒子多量)
4. 濃黒色土(白色・黄色ブロック少量)
5. 暗黒色砂質土(白色ブロック少量)
6. 暗褐色砂質土
7. 茶褐色粘質土



6.00m



0 2m

Fig.48 土壌実測図(1/40)

SD030 (Fig.49)

須恵器

壺 (1) 底部の細片で、底径10.0cmを復原する。内面はヨコナデ、体部中位は平行叩き、下位はヘラナデの調整を施し、胎土は良好である。内面と断面には煤が付着している。

土師器

坏 (2・3) 共に糸切りであるが、磨耗のため調整は不明である。2は口径12.6cm、底径7.5cm、器高2.9cm、3は口径12.8cm、底径9.8cm、器高2.4cmを復原する。

土鍋 (4) 玉縁状の口縁部を呈し、内面は横方向の刷毛目、口縁部外面はヨコナデ、体部上位はナデ調整を施す。外面には煤が厚く付着している。

青磁

皿 (5) 口縁端部は外反し、口径12.0cmを復原する。青緑色の釉を内外面に施し、貫入がみられる。

SD045 (Fig.49)

土師器

土鍋 (6) 口縁部の細片で、口縁部は玉縁状を呈する。

SD060 (Fig.49)

土師器

土鍋 (7) 口縁部の細片で、口径32.0cmを復原する。口縁部は素口縁を呈し、内面は横方向の刷毛目調

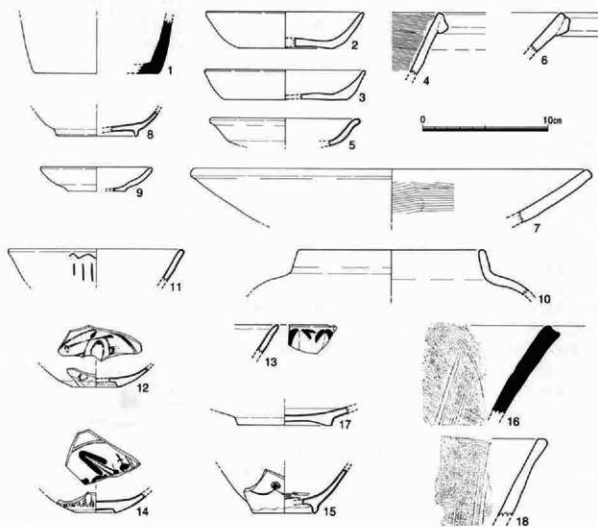


Fig.49 清出土土器実測図 (1/3)

整を施す。外面は磨耗のため調整不明で、胎土に赤色粒子や砂粒を少量含む。

白磁

碗 (8) 底部の細片で、底径6.6cmを復原する。白灰色の胎土に乳白色の透明釉を全面に施すが、畳付けは露胎である。

SD070 (Fig.49, Pla.31)

土師器

坏 (9) 糸切りで、内外面はヨコナデである。口径9.0cm、底径4.6cm、器高1.9cmを復原する。

茶釜 (10) 口縁部の細片で、口径15.0cmを復原し、口縁部はやや内側へ立ち上がる。調整は口縁部の内面が刷毛目、外面はヨコナデ、体部の内面はナデ、外面は磨耗のため調整不明である。

青磁

碗 (11) 口縁部の細片で、口径14.0cmを復原する。青緑色の釉を内外面にかけ、ヘラ先による細線の線描連弁文を外面に施すが、剣頭が連弁としての単位をなしていない。

染付

碗 (12) 底部が萁筒底を呈した底部のみの細片で、見込みには呉須で文様を描く。底径3.8cmを復原する。

SD080 (Fig.49, Pla.31)

青磁

碗 (13) 口径15.0cm前後を復原し、外面には鑄連弁が施される。

染付

碗 (14・15) 14は底部は萁筒底を呈し、見込みと外面には呉須で文様を描く。底径3.0cmを復原する。15は底部の細片で、見込みと外面には呉須で文様を描かれている。底径5.0cmを復原し、畳付け付近は露胎である。

SD090 (Fig.49)

須恵器

擂鉢 (16) 口縁部の細片で、口縁端部に沈線を施す。砂粒を少量含む胎土で、焼成はほぼ良好。8本単位のすり目を施すものと思われる。

白磁

皿 (17) 底部のみの細片で、底径7.6cmを復原する。白色の胎土に透明釉を施すが、高台内は露胎である。見込みには僅かに段を認める。

SD100 (Fig.49)

瓦質土器

擂鉢 (18) 口縁部は素口縁で、外面はナデ、口縁端部と内面は横方向の刷毛目調整を施す。内面には6本単位のすり目が施されている。

SX040 (Fig.50, Pla.31)

弥生土器

壺 (19・20) 19は外面に暗赤色顔料を施した丹塗り壺である。底径5.0cmを測り、胎土に砂粒、角閃石を多く含む。20は底部の細片で、底径7.9cmを測る。砂粒、角閃石を多く含む胎土で、底部外面に煤が付着する。

甕 (21) 底部の細片で、底径12.0cmを復原する。胎土は細砂粒を多く含み、焼成はやや不良である。磨耗のため調整は不明。

器台 (22) 下端部のみの細片で、底径19.0cmを復原する。外面は縦方向の刷毛目、内面はヨコナデ調整を施し、下端部は未調整である。胎土は砂粒を多く含む。

SX050 (Fig.50)

弥生土器

器台 (23) 上端部のみの細片で、口径16.7cmを復原する。上端部は面を呈し、胎土は少量の砂粒を含

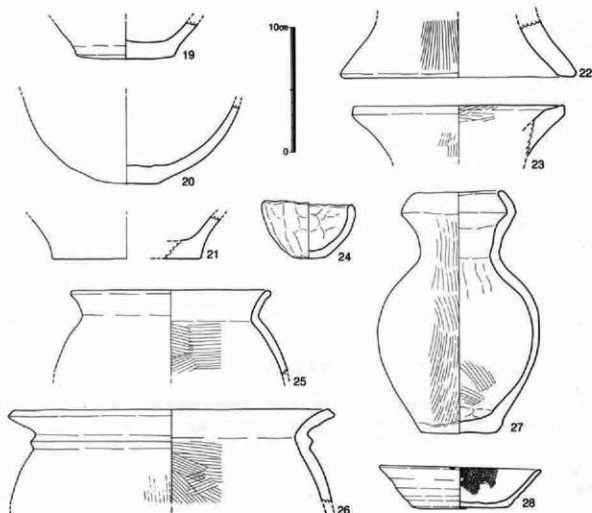


Fig.50 周溝状遺構・土壌出土土器実測図 (1/3)

む。内面は刷毛目後ナデ、外面上位はヨコナデ、下位は刷毛目調整を施す。

SK005 (Fig.50, Pla.31)

弥生土器

小鉢 (24) 完形で、手づくねによるミニチュアである。口径7.2cm、底径2.8cm、器高4.3~4.8cmを測る。胎土は多量の砂粒を含む。

甕 (25・26) 25は口径16.0cmを復原する口縁部の細片である。口縁部は「く」の字状を呈し、外面には煤が薄く付着する。26は口径26.0cmを復原し、口縁部は外反する。口縁部と体部の境には断面が三角形の突帯が施される。

壺 (27) ほは完形で、口径6.8cm、底径6.1cm、器高19.4cmを測る。袋状の口縁部を呈し、口縁部内外面はヨコナデ、内面はナデで一部に刷毛目調整を施す。頸部内面にはシボリ痕が認められ、外面は刷毛目調整である。底部外面は未調整。

石製品 (Fig.51, Pla.31)

石包丁 (30) 2/3程度を欠損した石包丁片で、風化による器表剥落を認める。石材は片岩製で、刃部は両面から研磨された両刃タイプである。両面から穿孔された穴の部分から割れている。

SK035 (Fig.50)

土師器

坏 (28) 口径12.9cm、底径7.8cm、器高3.1~3.5cmを測る完形で、底部外面は糸切りである。口縁部付近には油煙と思われる煤が付着する。

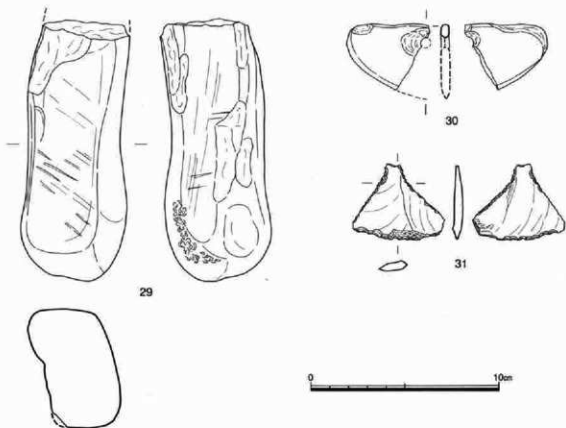


Fig.51 石製品実測図 (1/2)

表土採集

石製品 (Fig.51, Pla.31)

石匙 (31) 石材はサヌカイト製で、剥片の末端に自然面を残し、端部は僅かに欠損する。概ね全周縁に刃部を作り出し、つまみにも刃縁を呈する。

(4) 小結

当遺跡は水田正吹遺跡 (調査区C・D) に隣接した場所に位置する。このため、調査前では水田正吹遺跡 (調査区C・D) に関連した遺構が存在することが想定された。

調査は、ほ場整備によって掘削される水路部分のみの区域に限定されたため、遺跡の一部を確認したにすぎなかった。調査の結果、当遺跡から検出された遺構は大半が溝であることがわかった。ここでは、確認された主要な遺構や遺物について概略する。

・SX040・050について

調査区の北端から検出されたSX040・050は、遺構の大半が著しく削平を受けていたため遺構の残存は極めて悪い状況であったが、出土遺物から弥生後期～終末にかけての遺構と考えられる。周溝状遺構については、本書の「2.水田正吹遺跡 (4) 小結」においても触れているが、当遺跡の北側付近には祭祀的要素をもった土地利用が当該期において行われていたものと考えられる。残念ながら、祭祀的な土地利用の在り方について語る資料は少なく、今回明らかにすることはできない。今後の検討課題である。

・溝について

調査区から検出された溝の内、SD020・030・100は同一時期の区画溝であったと思われる。出土遺物から概ね16世紀以降に埋没した時期が考えられる。更に、SD060・070・080についても遺構の切り合いから新旧関係はあったものの、遺物の出土傾向から概ね16世紀代の溝として比定されよう。

・土壌について

調査区内から検出された土壌で注目されるのは、SK005とSK035である。

SK005は弥生時代後期に比定されるもので、出土した土器は高三瀬式土器の後期2式（福年は「柳田康雄 2. 高三瀬式と西新町式土器『弥生文化の研究』4 弥生土器「一雄山閣一」による。）に該当せよう。遺構は廃棄土壌として使用された可能性が考えられる。

次にSK035であるが、先述したとおり土壌内からは上向きに廃棄された土師器（坏）の直上に、二次焼成を受けた安山岩が重なるように確認された。更に、出土した土師器（坏）は口縁部付近に油煙と思われる煤が多量に付着していた。出土状況からは祭祀の要素を含む遺構の可能性は考えられるが、このことについては再度検討する必要がある。

【単位はcm、○は復原品】

Fig.-No.	遺構	名称	器種	口径	底径	器高	切離し区分		備考
							ヘラ	糸	
49-01	SD030	遺埋土器	壺?		○ 10.0				
49-02	SD030	土師器	坏	○ 12.6	○ 7.5	2.9		○	
49-03	SD030	土師器	坏	○ 12.8	○ 9.8	2.4		○	
49-04	SD030	土師器	土鍋						山村: Ea
49-05	SD030	青磁	皿	○ 12.0					
49-06	SD045	土師器	土鍋						山村: Ea
49-07	SD060	土師器	土鍋	○ 32.0					
49-08	SD060	白磁	碗			5.6			
49-09	SD070	土師器	坏	○ 9.0	○ 4.6	1.9		○	
49-10	SD070	土師器	蓋差	○ 15.0					山村: A II
49-11	SD070	青磁	碗	○ 14.0					上田: B-IV
49-12	SD070	染付	碗		○ 3.8				上田: C群
49-13	SD080	青磁	碗						森田: E-1a
49-14	SD080	染付	碗		○ 3.0				上田: C群
49-15	SD080	染付	碗		○ 5.0				
49-16	SD090	須恵器	須鉢						すり目8本単位
49-17	SD090	白磁	皿		○ 7.6				
49-18	SD100	瓦質土器	須鉢						すり目6本単位
50-19	SX040	弥生土器	壺			7.9			
50-20	SX040	弥生土器	壺			5.0			
50-21	SX040	弥生土器	壺		○ 12.0				
50-22	SX040	弥生土器	蹄台		○ 19.0				
50-23	SX050	弥生土器	蹄台	○ 16.7					
50-24	SK005	弥生土器	小鉢	7.2	2.8	4.3~4.8			手づくね
50-25	SK005	弥生土器	羹	○ 16.0					
50-26	SK005	弥生土器	羹	○ 26.0					
50-27	SK005	弥生土器	壺	6.8	6.1	19.4			
50-28	SK035	土師器	坏	12.9	7.8	3.1~3.5			油煙あり
51-29	SD010	石製品	砥石						石材: 砂岩
51-30	SK005	石製品	石瓶丁						石材: 片岩
51-31	表採	石製品	石匙						石材: サメカイト

Tab.7 水田伊勢ノ陶遺跡出土遺物一覧表

【出】

本表に記載した分類は、下記の文献による。

- 《中世須恵器》 山村信泰 「大宰府出土の瓦質土器」 【中世土器の基礎研究Ⅴ】 1990
 《青磁》 横田賢次郎・森田勉 「大宰府出土の輸入中国陶磁器について—形式分類と編年を中心にして—」 【九州歴史資料館研究論集4】 1978
 上田寿夫 「14～15世紀の青磁碗の分類について」 【貿易陶磁研究No.2】 1982
 《白磁》 森田勉 「14～16世紀の白磁の分類と編年」 【貿易陶磁研究12】 1982
 小野正敏 「15～16世紀の染付碗・皿の分類と年代」 【貿易陶磁研究No.2】 1982
 《備前焼》 岡野忠彦 「備前焼」 【考古学ライブラリー60】 平成3年
 《常滑焼》 赤羽一郎・中野晴久 「生産地における編年について」 【中世常滑焼をめぐって】 シンポジウム資料集 1994
 《石製品》 水戸雅寿 「石製品の生産と流通について」 【中世土器の基礎研究Ⅵ】 1990

6. 折地長間寺遺跡の調査

(1) はじめに (Fig.52)

当遺跡は筑後市大字折地字長間寺に所在する。標高5m位の低地上にあり、一帯はクレークに囲まれている。調査は、平成9年度に施工された農地整備事業支線用排水路設置範囲で、遺跡を確認した560㎡を実施した。調査期間は平成9年11月11日から12月16日までで、この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影などを行った。調査区からは主に溝11条、土壌15基、ピット群を検出した。本調査は小林勇作が担当し、末吉隆弥の協力を得た。

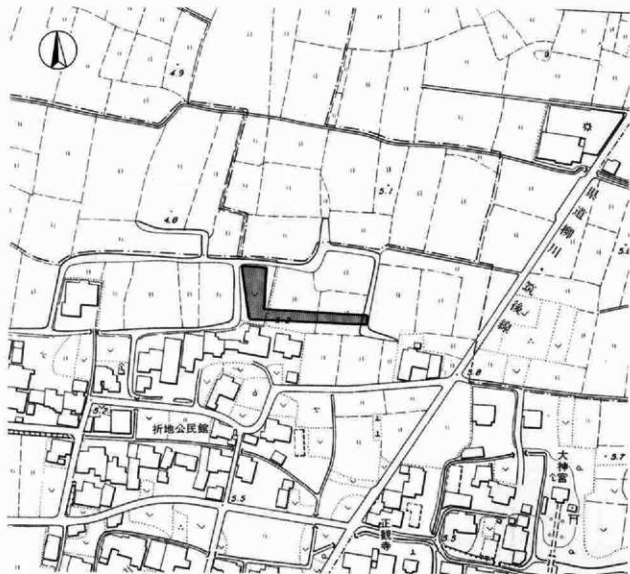


Fig.52 折地長間寺遺跡調査地点位置図 (1/2,500)

(2) 遺構
溝

SD03 (Fig.54)

調査区の西側中央で検出した東西溝で、約4.00分を確認した。SK04・SD40に切れ、幅は約0.75m、深さは0.27～0.46mを測る。遺物は土師器(小皿・火鉢・片)、染付(碗・片)、石製品(砥石)が出土した。

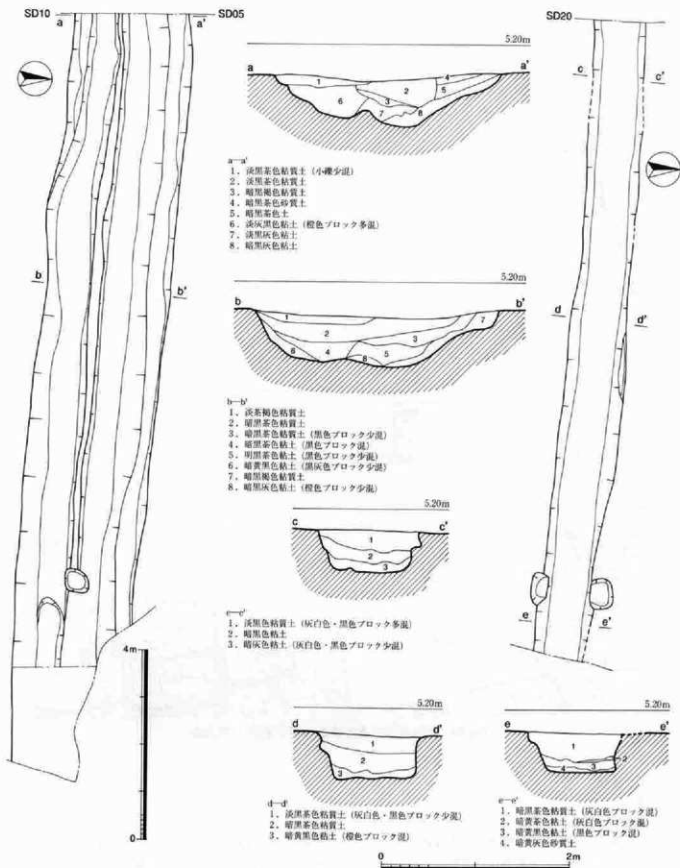


Fig.53 SD05・10・20実測図 (1/40・1/80)

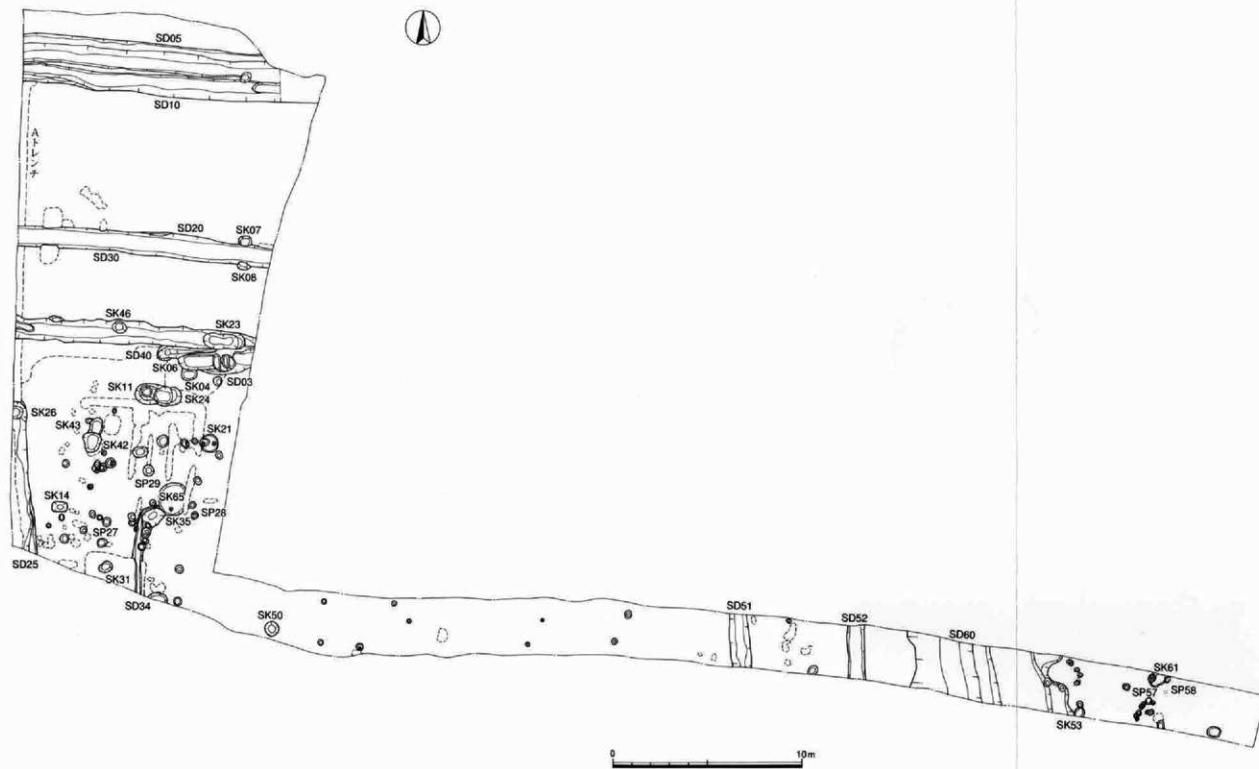


Fig.54 折地長間寺遺跡遺構全体実測図 (1/200)

SD05 (Fig.53, Pla.33)

調査区の西側北部で検出した東西溝で、約13.00m分を確認した。溝はSD10に切られ、幅1.43～1.53m、深さ0.54～0.63mを測る。埋土は茶褐色土を基調とし、埋土中からは土師器（土鍋・茶釜・片）、瓦質土器（播鉢・茶釜）、磁器（皿・碗・瓶・片）、陶器（播鉢）が出土している。

SD10 (Fig.53, Pla.33)

SD05を切るように検出した東西溝で、約15.60m分を確認した。黄褐色土を基調とする埋土で、幅0.92～1.13m、深さ0.53～0.67mを測る。遺物は土師器（大甕）、磁器（皿・碗・瓶）、陶器（播鉢）、鉄製品（釘）が出土した。

SD20 (Fig.53, Pla.33)

約13.15m分を検出した東西溝で、途中、SK07・SK08に切られる。黒色土を基調とした埋土で、幅1.07～1.27m、深さ0.43～0.55mを測る。溝の断面は逆台形状を呈する。遺物は須恵器（甕）、土師器（小皿・片）を認めた。

SD25 (Fig.54)

調査区の南西端で検出した南北溝で、埋土は上層から黒色土、灰色土であった。約7.90m分を検出し、深さは0.27mを測る。遺物は黒色土から須恵器（甕）、磁器（皿・碗）、陶器（皿・播鉢）を認め、灰色土からは土師器（片）、磁器（片）が出土した。

SD30 (Fig.55, Pla.33)

SD20とほぼ並行にはしる東西溝で、約12.10m分を検出した。埋土は黒色土を基調とし、幅0.92～1.24m、深さ0.41～0.59mを測る。溝の断面はU字状を呈する。遺物は土師器（土鍋・火鉢・甕）、磁器（皿・碗）、陶器（播鉢）が出土した。

SD34 (Fig.54)

南北溝で、約3.90m分を検出した。埋土は茶色土を基調とし、幅0.30～0.56m、深さ0.10～0.26mと浅く、溝の断面はU字状を呈する。遺物は土師器（土鍋）が僅かに出土した。

SD40 (Fig.54)

SD03とSD30を切るように確認した東西溝で、約5.20m分を検出した。埋土は黒色土を基調とする。遺物は土師器（土鍋・こね鉢・片）、瓦質土器（火鉢）、染付（片）、陶器（鉢）が出土した。

SD51 (Fig.54, Pla.34)

東西方向にのびる調査区のほぼ中央から検出した南北溝で、約2.80m分を確認した。幅0.95～1.06m、深さ0.16～0.21mを測り、溝の断面はU字状を呈する。埋土は黒色土であった。遺物は土師器（小皿・羽釜・片）、瓦質土器（播鉢）、青磁（碗）、陶器（甕）が出土した。

SD52 (Fig.54, Pla.34)

SD51の東側で検出した南北溝で、約2.80m分を確認した。幅0.76～0.83m、深さ約0.10mと浅く、溝の断面はU字状を呈する。埋土は黒色土であった。遺物は土師器（火鉢・片）、磁器（皿）、陶器（播鉢・瓶・甕）、木製品（漆器片）が出土した。

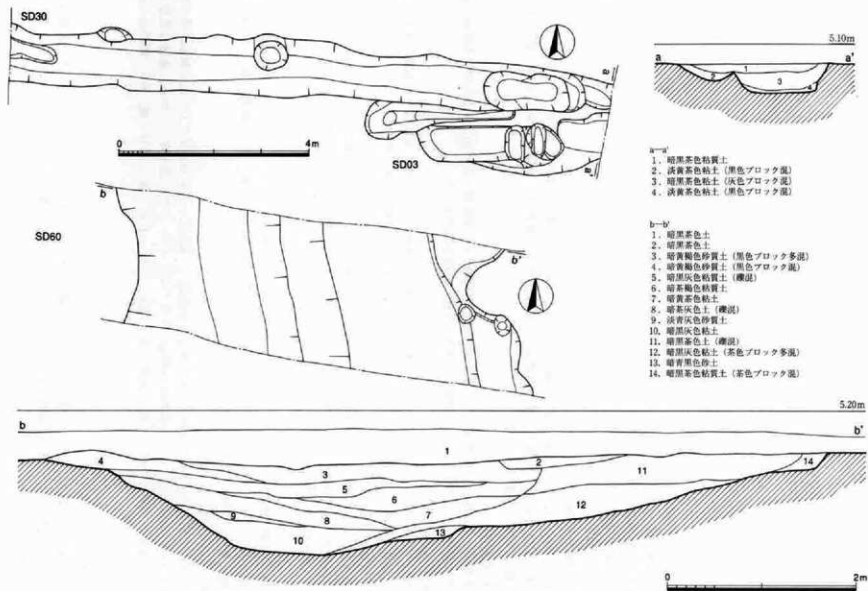
SD60 (Fig.55, Pla.35)

調査区の東側で検出した南北溝で、約2.80m分を確認し、幅3.92～4.60m、深さ1.33mを測る。溝の断面はほぼ逆台形状を呈する。当調査区の周辺に存在する旧クリークの一部と考えられる。遺物は須恵器（甕）、土師器（土鍋・播鉢・火鉢）、瓦質土器（火鉢・羽釜）、青磁（碗）、染付（碗・片）、銅製品（把手）が出土した。

土壌

SK04 (Fig.54)

調査区西側の中央部で検出した楕円形状の浅い土壌で、SD03・30・40とSK06・23を切る。遺物は土師器（片）、瓦質土器（播鉢）、磁器（皿・碗）、白磁（皿）、陶器（播鉢）を出土したが、埋土は灰色土で現代のカクランと考えられる。



- a-a'
1. 暗黒茶色粘質土
 2. 淡黄茶色粘土 (黒色ブロック混)
 3. 暗黒茶色粘土 (灰色ブロック混)
 4. 淡黄茶色粘土 (黒色ブロック混)

- b-b'
1. 暗黒茶色土
 2. 暗黒茶色土
 3. 暗黄褐色砂質土 (黒色ブロック多混)
 4. 暗黄褐色砂質土 (灰色ブロック混)
 5. 暗黒灰色粘質土 (礫混)
 6. 暗茶褐色粘質土
 7. 暗黄茶色粘土
 8. 暗茶灰色土 (礫混)
 9. 淡青灰色砂質土
 10. 暗黒灰色粘土
 11. 暗黒茶色土 (礫混)
 12. 暗黒灰色粘土 (茶色ブロック多混)
 13. 暗青黑色砂土
 14. 暗黒茶色粘質土 (茶色ブロック混)

Fig.55 SD30・60実測図 (1/40・1/80)

SK06 (Fig.56)

SD03、SK04に切られた楕円形状の土壌で黒色土の埋土であった。土師器(甕・片)が出土した。

SK07 (Fig.56)

SD20の東側を切るように検出した円形状の土壌で、幅約0.65m、深さ0.09mを測る。遺物は土師器(片)が出土したが、埋土は灰色土で現代のカクランと考えられる。

SK08 (Fig.54)

SK07に隣接した円形状の土壌で、幅約0.67m、深さ0.21mを測る。遺物は土師器(片)が出土したが、埋土は灰色土で現代のカクランと考えられる。

SK11 (Fig.56, Pla.35)

調査区西側の中央部で検出した隅丸方形形状を呈した土壌で、SK24を切る。長軸1.12m、短軸0.24m、深さ0.75~0.80mを測る。埋土は灰色土で、土師器(片)、磁器(碗・片)、陶器(播鉢)、鉄製品(釘)が出土している。

SK14 (Fig.56)

調査区西側の南西隅で検出した土壌で、幅0.55~0.77m、深さ0.41mを測る。埋土は茶色土で、土師器(粘土塊・甕)、陶器(播鉢)、焼石が出土した。

SK21 (Fig.56)

調査区西側の南部で検出した楕円形状の土壌で、底面からは2つの小ビットを認めた。幅約0.88m、深さ0.12mを測り、土師器(坏・片)が出土した。

SK23 (Fig.56, Pla.36)

SD30の東側溝底から検出した隅丸方形形状を呈した土壌である。長軸2.16m、短軸0.74m、深さ0.63mを測り、埋土は上層から黒色土→青灰色土へと移行する。陶器(播鉢)が出土した。

SK24 (Fig.56)

SK11に切られた土壌で全体プランは不明である。埋土は黒色土で、土師器(片)が出土した。

SK26 (Fig.56)

SD25の溝底から検出した楕円形状を呈した土壌で、深さ0.74mを測る。埋土は上層から黒色土→黄褐色土へと移行し、陶器(片)が出土した。

SK31 (Fig.54)

調査区西側の南部から検出した楕円形状の土壌で、幅約0.75mを測る。土師器(片)、磁器(碗・片)、陶器(片)が出土した。

SK35 (Fig.56)

SD34とビットに切られた楕円形状を呈した土壌で、埋土は黒色土であった。幅約0.86m、深さ0.29mを測り、土師器(片)、陶器(片)が出土した。

SK42 (Fig.56, Pla.36)

調査区西側の南部から検出した楕円形状の土壌で、幅約0.90m、深さ0.52mを測る。埋土は茶色土で、土師器(皿)、磁器(片)が出土した。

SK43 (Fig.56, Pla.36)

SK42に切られた土壌で、埋土は茶色土である。幅約0.72m、深さ0.21mを測り、遺物は土師器(片)、磁器(片)が出土している。

SK46 (Fig.54)

SD30の溝底から検出した楕円形状の土壌で、幅約0.71m、深さ0.89mを測る。土師器(片)が僅かに出土している。

SK50 (Fig.56, Pla.37)

調査区の西側南端で検出され、大窰内に遺物が散乱した状態で確認された。遺構は大窰ぎりぎりに掘り込まれた土壌で、径約0.82m、深さ0.33mを測る。土壌は、大窰内に土師器(小皿・土管)、陶器(甕)、瓦(平瓦)、石製品(砥石・硯)、鉄製品(鎌状鉄製品)が一括廃棄されたような状態で出土された。

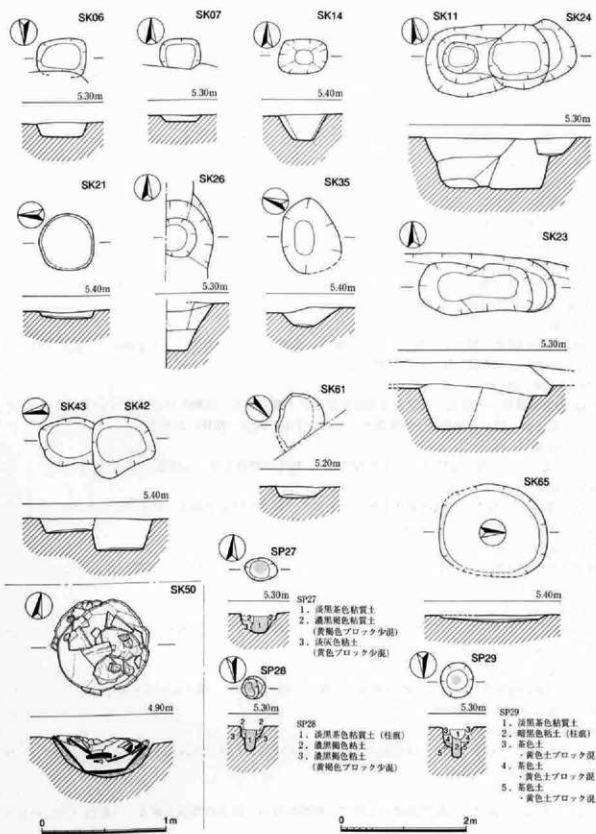


Fig.56 土壌・ピット実測図 (1/30・1/60)

SK53 (Fig.54)

調査区東端から検出した楕円形状の土壌でSD60を切る。埋土は黒色土を呈し土師器(坏)が出土した。

SK61 (Fig.56)

調査区西端から検出した楕円形状の土城で、幅約0.80m、深さ0.16mを測る。底部には2つの小ピットを認め、遺物は土師器(片)が僅かに出土した。

SK65 (Fig.56)

SK35に切られた土城で、幅1.73m、深さ0.10mを測る。埋土は茶色土で、出土遺物は皆無であった。ピット群(Pla.37)

調査区の南西からは多数のピットが検出された。ピット群は複数の小規模な掘立柱建物の一部を構成していると思われるが、確実に確認できたものはなかった。このため、ここでは柱痕が確認されたSP27・28・29と遺物が出土したSP57・58について報告する。

SP27 (Fig.56)

楕円形状を呈したピットで、径25cmを測る柱痕が確認された。遺物は土師器(片)が僅かに出土した。

SP28 (Fig.56)

ほぼ円形状を呈したピットで、柱痕は径15cmを測る。遺物は土師器(片)が僅かに出土した。

SP29 (Fig.56)

ほぼ円形状を呈したピットで、柱痕は径13cmを測る。遺物は皆無であった。

SP57 (Fig.54)

調査区の東端で検出した楕円形状のピットで、土師器(杯・片)が出土した。

SP58 (Fig.54)

SK61を切るように検出した円形状のピットで、土師器(片)が出土した。

(3) 出土遺物

SD03 (Fig.62, Pla.41)

石製品

砥石(53) 泥岩を石材とし、4面を使用し砥面とする。

SD05・10(淡茶褐色粘質土層出土)(Fig.57, Pla.38)

青磁

皿(1) 底部の細片で、高台径は5.0cmを測る。内面に濃緑色、外面は淡青茶色の釉を施し、見込みは蛇ノ目状に釉を掻き取る。

小壺(2) 高台径6.2cm、体部径7.8cmを測り、淡青緑色の釉を厚めに施す。

SD05(黒茶色粘土層出土)(Fig.57, Pla.38)

染付

水滴(3) 上面隅に径6の水注孔を施し、中心部にも穿孔を認める。器高3.3cmを測り、中心部の穿孔を中心として6×11cmを復原する。型押成形で、上面に草花文を描く。

SD10(黄黒色粘土層出土)(Fig.57, Pla.38)

瓦質土器

火鉢(4) 口径30.0cm、底径22.8cm、器高9.0cmを復原する。口縁部は内面に突出しており、調整は内面と口縁部外面がヨコナデ、体部外面上位がナデ、下位は刷毛目、底面はナデを施す。

磁器

碗(5) 高台径5.1cmを測り、茶褐色の釉を施す。見込みは蛇ノ目状に掻き取り、高台部は露胎である。

大皿(6) 底部の細片で、高台径は9.0cmを測る。明黄褐色の釉を施し、見込みは蛇ノ目状に釉を掻き取る。畳付けから高台内は露胎である。

染付

皿(7) 口径13.0cm、高台径5.0cm、器高4.0cmを復原し、内面には区画した文様を呉須で描く。見込みは蛇ノ目状に釉を掻き取り、畳付けは露胎である。

碗(8) 破片で、高台径は4.4cmを測り、外面には呉須で草花文を施している。畳付けには重ね焼の目跡を認める。

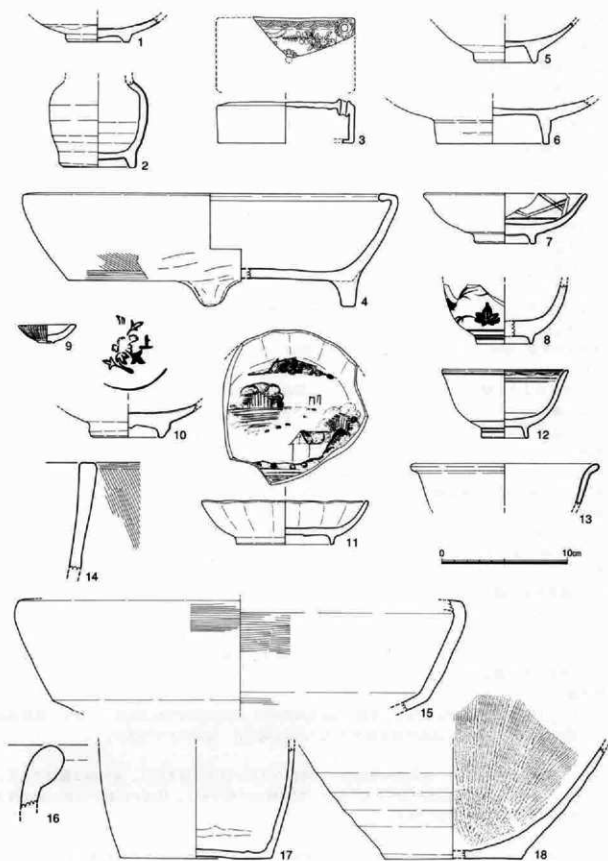


Fig.57 SD05·10·30·51·52出土土器实测图 (1/3)

SD30 (Fig.57, Pla.38)

磁器

紅皿 (9) 口径4.6cm、底径1.2cm、器高1.4cmを測る。白色の胎土に淡青灰色の釉を内面及び口縁部外面に施す。

青磁

碗 (10) 高台径6.3cmを測り、見込みにスタンプを施す。釉は青緑色の透明釉を全体に厚く施し、高台内は釉を掻き取る。

染付

皿 (11) 輪花で口径13.2cm、高台径7.8cm、器高3.5cmを復原する。全面に乳白色の釉を施し、高台内は蛇ノ目状に釉を掻き取る。見込みに家屋、樹木、山、土坡などの文様を呉須で描く。

湯呑み (12) 口径10.0cm、高台径3.8cm、器高5.5cmを復原する。内面の雷文と外面の帯線は呉須による手描きで、外面体部には型紙刷りによると思われる菊花文 (図示省略) が施される。

SD51 (Fig.57)

青磁

碗 (13) 口径15.0cmを測る口縁部の細片である。口縁部はやや外反し、青緑色の透明釉を施す。

SD52 (Fig.57, Pla.39)

瓦質土器

鉢 (14・15) 14は素口縁で、外面は斜め方向の刷毛目で、その他は磨耗のため不明である。15は最大径36.0cmを復原し、口縁部は内面突出のタイプと考えられる。

備前焼

甕 (16・17) 16は口縁部の細片で、口縁端部を外に折り曲げて丸い帯状突帯とした玉縁口縁である。17は底部の破片で、底径12.0cmを測る。

陶器

摺鉢 (18) 底径11.0cmを復原し、8本単位のすり目を施す。底部は糸切り。

SD60 (第8・9層出土) (Fig.58, Pla.39)

須恵器

壺 (19) 肩部の細片で、肩部外面には平行叩き文を施す。常滑焼か。

土師器

土鍋 (20・21) 20は玉縁口縁、21は素口縁を呈する。21の外面には煤が付着する。

瓦質土器

茶釜 (22) 口径15.0cm、鈎径30.4cmを復原し、体部内面は箱形を呈する。鈎下面から体部下位にかけては煤が厚く付着する。

青磁

碗 (23) 口径14.0cmを復原し、外面にはヘラ先による細線連弁文を施す。連弁文は剣頭が連弁としての単位を意識しないで施されている。釉は青緑色で細かい貫入がみられる。

染付

碗 (24) 底部の細片で、高台径4.5cmを復原する。見込みに人物などの文様を呉須で描き、外底部には銘が施されている。

SD60 (第10層出土) (Fig.58, Pla.39)

瓦質土器

茶釜 (25・26) 25は肩部の細片で、外面には菊花文などの印刻文を押印する。26は口径15.6cmを復原し、肩部には6の穿孔を施す。肩部外面には渦文の印刻文を施す。

青磁

碗 (27) 高台径5.5cmを測り、見込みに「福」の印刻を施す。青緑色の釉を全面に施し、高台内は蛇ノ目状に釉を掻き取る。

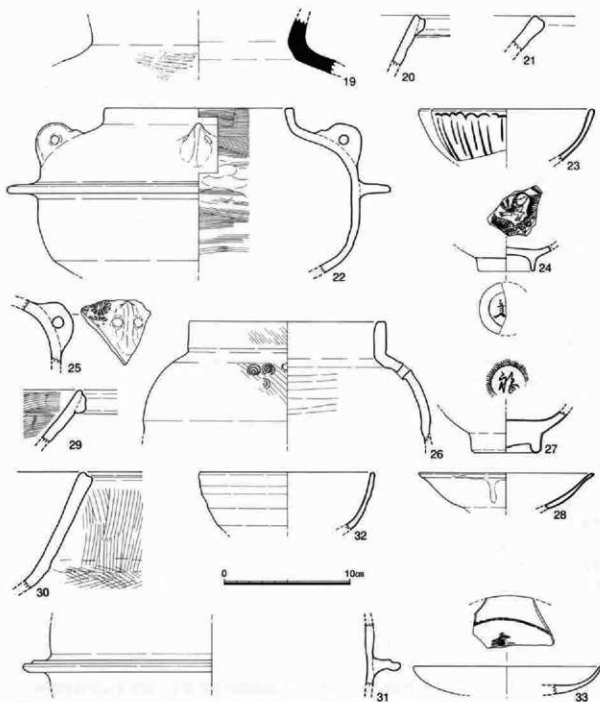


Fig.58 SD60出土土器実測図 (1/3)

磁器

皿 (28) 口径14.0cmを復原する。淡緑色の透明釉を施し、外面の一部に軸ダレを認める。

SD60 (第11～14層出土) (Fig.58, Pla.39)

土師器

土鍋 (29・30) 29は玉縁口縁、30は素口縁を呈し、共に外面には煤が付着する。

瓦質土器

茶釜 (31) 鈎は「S」字状に屈曲し、鈎径30.0cmを復原する。

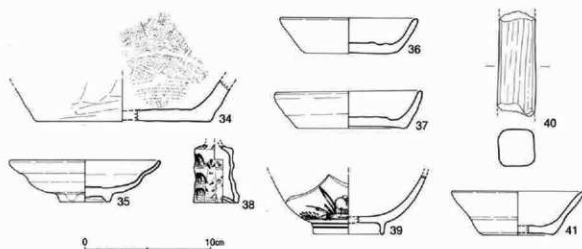


Fig.59 SK04・21・31・46・53出土土器実測図(1/3)

青磁

碗(32) 口径14.0cmを復元し、青緑色の透明釉を施す。朝鮮系か。

染付

皿(33) 口径15.0cmを復元する。見込みには呉須で文様を描く。

銅製品 (Fig.62, Pla.41)

把手(58) 完形で、径は5 前後を測る。茶釜などの把手か。

SK04 (Fig.59, Pla.40)

瓦質土器

播鉢(34) 底径14.0cmを復元し、6本単位のすり目を内面の体部、底部に施す。

青磁

皿(35) 口径12.0cm、高台径4.0cm、器高3.4cmを復元し、体部から口縁部にかけては「S」字状に湾曲する。灰緑色の釉を内面、口縁部外面、体部外面に施軸する。高台の一部に釉ダレが認められ、見込みは蛇ノ目状に掻き取る。

SK21 (Fig.59, Pla.40)

土師器

坏(36・37) 共に糸切りでほぼ完形である。36は口径11.0cm、底径7.3cm、器高2.85cmを測り、37は口径11.8cm、底径8.7cm、器高3.0cmを測る。

SK31 (Fig.59, Pla.40)

磁器

花瓶(38) 花瓶のミニチュアと思われ、底径3.6cmを測る。型押し成形で、白地に赤・緑・黒色の彩色で竹文を描く。

染付

碗(39) 底部の細片で、高台径は5.6cmを測る。外面には草花文を呉須で描き、見込みには4ヶ所の針支えを認める。

SK46 (Fig.59)

土師器

柱状土製品(40) 断面は隅丸方形を呈し、表面はすべて刷毛目調整が施される。この内の1面には二次焼成痕が看取される。厚さは3.0cmを復元する。

SK50 (Fig.60, Pla.40・41)

土師器

小皿(42) 糸切りで、口径7.6cm、底径3.9cm、器高1.6cmを復元する。

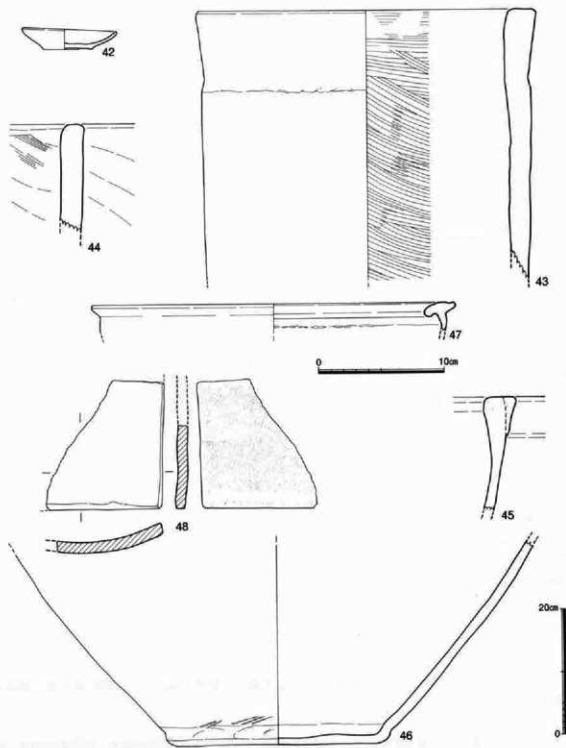


Fig.60 SK50出土土器実測図 (1/3・1/6)

土管 (43) 口径37.0cmを測る。内面は刷毛目、口縁端部はヨコナデ、外面はナデ調整を施し、体部上位の一部は僅かに凹面を認める。

大甕 (44~46) 44は口縁部の細片で、口径80cm前後、器厚は1.8cm前後を測る。口縁部はほぼ直立し、外面には煤が付着する。45は口縁部外面に厚い貼付突帯を施し、口縁端部に面を呈する。口径は100cm前後を復原するものと思われる。46は45と同一個体と考えられ、底径35.2cmを測る。

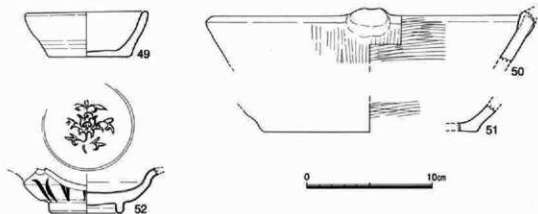


Fig.61 その他の出土土器実測図 (1/3)

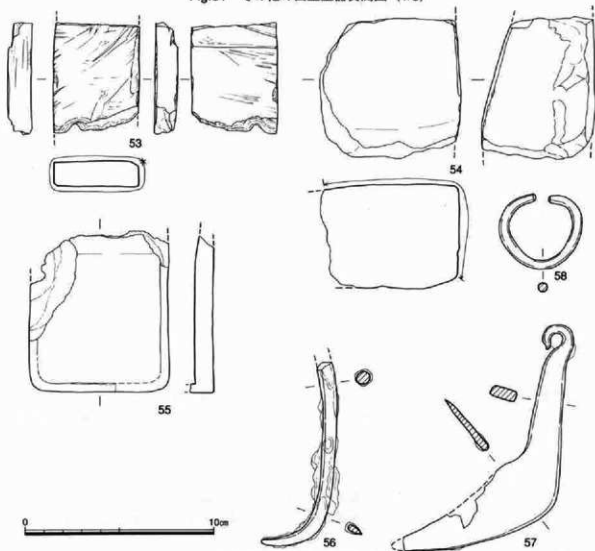


Fig.62 石製品・鉄製品・銅製品実測図 (1/2)

陶器

甕 (47) 口縁部は「T」字状を呈し、口径29.0cmを復原する。

瓦

平瓦 (48) 側面は削りによる面取りを施し、表面はナデ、裏面は刷毛目調整を施す。色調は淡赤褐色

で、胎土は細砂粒、角閃石を多く含む。

石製品 (Fig.62, Pla.41)

砥石 (54) 石材は砂岩製で、2面を砥面とする。

硯 (55) を石材とする隅丸方形を呈する方形硯である。硯頭部は欠損し、砥面部は僅かに使用痕を認める。墨書の痕跡はない。

鉄製品 (Fig.62, Pla.41)

鎌状鉄製品 (56・57) 56は緩やかにカーブした内側に刃部を造る。57は鎌に類似した形状をなし、端部に鈎状のフックを造り出している。何れも製品であるが使用の用途が不明であったため、ここでは鎌状鉄製品とした。

SK53 (Fig.59)

土師器

坏 (41) 糸切りで、口径10.6cm、底径5.7cm、器高3.5cmを復原する。

SP57 (Fig.61, Pla.41)

土師器

坏 (49) 糸切りで、口径9.8cm、底径6.5cm、器高3.6cmを測る。

SP58 (Fig.61)

瓦質土器

鉢 (50・51) 50・51は同一個体と考えられる。50は口縁部に粘土貼付による把手らしき部分を認め、口径26.0cmを復原する。51は底径17.0cmを復原する。

Aトレンチ (Fig.61, Pla.41)

青磁

皿 (52) 高台径5.9cmを復原し、口縁部は「S」字状に外反するものと思われる。見込みには花文の印刷、外面には蓮弁を施す。内外面に明青緑色の釉を施すが、高台内は露胎である。

(4) 小結

出土した遺物から中世～近世にかけての複合遺跡であることがわかった。主要な遺構や遺物について概観する。

・溝について

調査区から検出された遺構で主体となる溝は、SD05・10・20・25・30・51・52・60が挙げられる。SD05・10・20・25・30・51・52は遺物の出土傾向から概ね近世に比定される。更に、SD60は中世～近世にかけての埋没課程があったものと考えられよう。

ここで、注目されるのは一連の溝の性格である。当遺跡は本稿に記載した「水田正吹遺跡 (調査区E)」と「水田伊勢ノ脇遺跡」の付近にあたり、各遺跡からは多くの区画溝が確認されている。更に、当地一帯は中世に画期となる水田荘の領内でもあった。よって、今回検出した溝のすべてが区画溝に該当するとは言いがたいが、可能性は捨てきれない。

・SK50について

次に大甕内にあたかも一括廃棄されたように確認されたSK50からは、土師器 (小皿・土管)、陶器 (甕)、瓦 (平瓦)、石製品 (砥石・硯)、鉄製品 (鎌状鉄製品) など様々な遺物が出土した。先に述べたように、検出状況からは一括廃棄された可能性は高く、そうであれば出土した遺物は一括資料として捉えることができる。

・柱状土製品について

柱状土製品は当遺跡 (SK46出土Fig.59—40) の他に、「水田正吹遺跡 (調査区B SK048出土Fig.19—58)」からも出土している。柱状土製品については徳永貞昭氏が「中近世土器の基礎研究」佐賀平野の瓦器碗にみる中世土器生産の一様相—日本中世土器研究会1996—の中で触れており、多くの出土類例が報告されている。この中で徳永氏は、柱状土製品について厚さ5cm前後、断面が方形ないし多角形を示し、僅かに反って両端がすぼまり、長さは30cm前後を推定するとある。更に、具体的な用途について

は横に据えた上に製品を積み重ねる焼き台のような窯道具ではないかと指摘している。当遺跡及び水田正吹遺跡から出土した柱状土製品を文献資料と比較してみると、何れも断面が方形状を呈するが厚さが2.6～3.0cmとやや小ぶりである。柱状土製品が出土した各遺跡付近において、当該期における窯跡の存在については明らかにされておらず、現段階においては窯道具であるのか、他の用途として用いた道具であったのかは特定できないが、今後注目される資料として挙げられよう。

Fig-No.	遺構	名称	器種	口径	底径	器高	胴径	厚さ	切取L区画		備考
									へろ	赤	
57-01	SD05・10(淡茶褐色粘質土層)	青磁	皿		5.0						
57-02	SD05・10(淡茶褐色粘質土層)	青磁	小壺		6.2						
57-03	SD05(黒茶色粘土層)	染付	水筒			3.3					
57-04	SD10(黄黒色粘土層)	瓦質土器	火鉢	○	30.0	○	22.8	9.0			
57-05	SD10(黄黒色粘土層)	磁器	碗		5.1						
57-06	SD10(黄黒色粘土層)	磁器	大皿		9.0						
57-07	SD10(黄黒色粘土層)	染付	皿	○	13.0	○	5.0	4.0			
57-08	SD10(黄黒色粘土層)	染付	碗		○	4.4					
57-09	SD30	磁器	紅皿	4.6	1.2	1.4					
57-10	SD30	青磁	碗		6.3						
57-11	SD30	染付	皿	○	13.2	7.8	3.5				輪花
57-12	SD30	染付	湯呑み	○	10.0	○	3.8	5.5			
57-13	SD51	青磁	碗	○	15.0						上田:B小D
57-14	SD52	瓦質土器	鉢								山村:D?
57-15	SD52	瓦質土器	鉢					○	36.0		
57-16	SD52	備前焼	壺								岡壁:、期
57-17	SD52	備前焼	鉢		12.0						岡壁:、期
57-18	SD52	備前焼	掻鉢		○	11.0					すり目8本単位
58-19	SD60(8・9層)	須恵器	壺								
58-20	SD60(8・9層)	土師器	土鍋								山村: Ea
58-21	SD60(8・9層)	土師器	土鍋								山村: Eb
58-22	SD60(8・9層)	瓦質土器	茶碗	○	15.0			○	30.4		山村: A
58-23	SD60(8・9層)	青磁	碗	○	14.0						上田: B-、
58-24	SD60(8・9層)	染付	碗		○	4.5					外底面に溝あり
58-25	SD60(10層)	瓦質土器	茶碗								
58-26	SD60(10層)	瓦質土器	茶碗	○	15.6						山村: B?
58-27	SD60(10層)	青磁	碗		5.5						上田: E、見込み「楕」
58-28	SD60(10層)	磁器	皿	○	14.0						
58-29	SD60(11~14層)	土師器	土鍋								山村: Ea
58-30	SD60(11~14層)	瓦質土器	土鍋								山村: Eb
58-31	SD60(11~14層)	瓦質土器	茶碗					○	30.0		
58-32	SD60(11~14層)	青磁	碗	○	14.0						
58-33	SD60(11~14層)	染付	皿	○	15.0						
59-34	SK04	瓦質土器	掻鉢		○	14.0					すり目6本単位
59-35	SK04	青磁	高台付皿	○	12.0	○	4.0	3.4			
59-36	SK21	土師器	坏	11.0	7.3	2.85					
59-37	SK21	土師器	坏	11.8	8.7	3.0					
59-38	SK31	磁器	花瓶		3.6						ミニチュア
59-39	SK31	染付	碗		○	5.6					
59-40	SK46	土師器	柱状土製品						○	3.0	二次焼成あり
59-41	SK53	土師器	坏	○	10.6	○	5.7	3.5			○
60-42	SK50	土師器	小皿	○	7.6	3.9	1.6				○
60-43	SK50	土師器	土管	○	37.0						
60-44	SK50	土師器	大甕								外面保存着
60-45	SK50	土師器	大甕								
60-46	SK50	土師器	大甕			35.2					
60-47	SK50	陶器	壺	○	29.0						
60-48	SK50	瓦	平瓦?								
61-49	SP57	土師器	坏	9.8	6.5	3.6					○
61-50	SP58	瓦質土器	鉢	○	26.0						
61-51	SP58	瓦質土器	鉢		○	17.0					
61-52	Aトレンチ	青磁	皿		5.9						
62-53	SK03	石製品	砥石								硯石
62-54	SK50	石製品	砥石								砂岩
62-55	SK50	石製品	硯								
62-56	SK50	鉄製品	不明								
62-57	SK50	鉄製品	不明								
62-58	SD60(7層)	銅製品	把手								

Tab.8 折地長閑寺遺跡出土遺物一覧表

【注】

本表に記載した分類は、下記の文献によっている。

- 《青磁類群》 山村信孝 「太宰府出土の瓦質土器」 『中近世土器の基礎研究』 1990
 《青磁》 上田秀夫 「14～16世紀の青磁碗の分類について」 『奈良陶磁研究』2 1982
 《備前焼》 岡壁忠彦 「備前焼」 『考古学ライブラリー60』 平成3年

7.井田堀越遺跡の調査

(1) はじめに (Fig.63)

当遺跡は、筑後市大字井田字堀越に所在する。一帯は縦横無尽にはしるクリークに囲まれた水田地帯で、標高3.8m位の低湿地上にある。調査は、平成9年度に施工された農地整備事業支線用排水路設置範囲において遺跡を確認した1,930㎡を実施した。調査期間は平成9年11月13日から平成10年1月27日までで、この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影などを行った。調査区からは主に溝5条を検出した。本調査は小林勇作・柴田剛が担当し、末吉隆弥の協力を得た。



Fig.63 井田堀越遺跡調査地点位置図 (1/2,500)

(2) 遺構

SD01 (Fig.64)

調査区の西端で西-南方向の溝を32.30m分を検出し、平面プランはL字状を呈する。途中、屈曲した部分はSD10と接し、SD10がSD01に切られる。幅0.90～2.25m、深さ0.10～0.16mと削平を受けているらしく、埋土中からは弥生土器(片)、土師器(片)を多く出土した。

SD05 (Fig.65)

調査区の西側で検出した南北溝で、7.90m分を確認した。幅0.75～1.40m、深さ0.05～0.08mとかなり

の削平を受けている。遺物は土師器（小皿・片）が僅かに出土した。

SD10 (Fig.67, Pla.45)

東一北方向の溝で102.5m分を検出し、溝の幅は1.30～3.30mを測る。溝の深さはSD15に対面した部分（SD10—スクリントン）が1.0～1.2mと深く、断面は逆台形状を呈する。更に、これより東方面にかけては0.3～0.4mと浅く、断面はU字状を呈する。出土遺物は土師器（小皿・坏・粘土塊・片）、青磁（碗・片）、白磁（片）、木製品（木鎌・柄）を認めた。

SD15 (Fig.68, Pla.44)

SD10と接する東一北方向の溝で24.0m分を検出した。検出時においてSD10との切り合いは不明確であったが、調査では便宜上SD15とした。幅1.00～2.30m、深さ0.27～0.35mを測り、断面はほぼU字状を呈する。埋土中からは僅かに土師器（小皿・片）を出土した。

(3) 出土遺物

SD10 (Fig.69, Pla.46)

弥生土器

甕 (1) 底部のみの細片で、底径7.4cmを復原する。内面はナデで指頭圧痕を認め、外面の調整は不明。

土師器

小皿 (2・3) 2・3は糸切りと思われる。2は口径8.8cm、底径6.6cm、器高2.0cmを復原し、3は口径9.0cm、底径7.0cm、器高1.7cmを復原する。

杯 (4) 底部は糸切りで、口径14.3cm、底径11.0cm、器高2.7cmを復原する。

青磁

碗 (5・6) 共に龍泉窯系青磁である。5は口縁部の細片で、外面に鎊蓮弁が施される。6は底部の細片で、底径5.0cmを復元する。外面には鎊蓮弁が施されているものと思われ、外底は露胎である。

木製品 (Fig.70, Pla.46)

木鎌 (7) 芯持ち丸木材の両端部を切断し、軸部は低い円錐形に削り込む。全長15.4cm、両端の円柱部径5.3～5.5cm、軸部径3.9cmを測る。加工は粗く工具痕をダイナミックに残し、一部の欠損を認めるが保存状態は良好である。

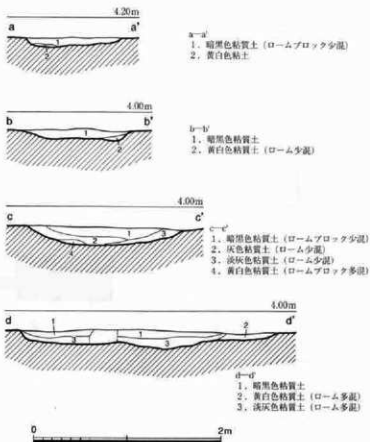


Fig. 64 SD01土層断面実測図 (1/40)

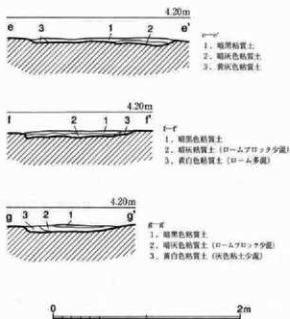


Fig. 65 SD05土層断面実測図 (1/40)

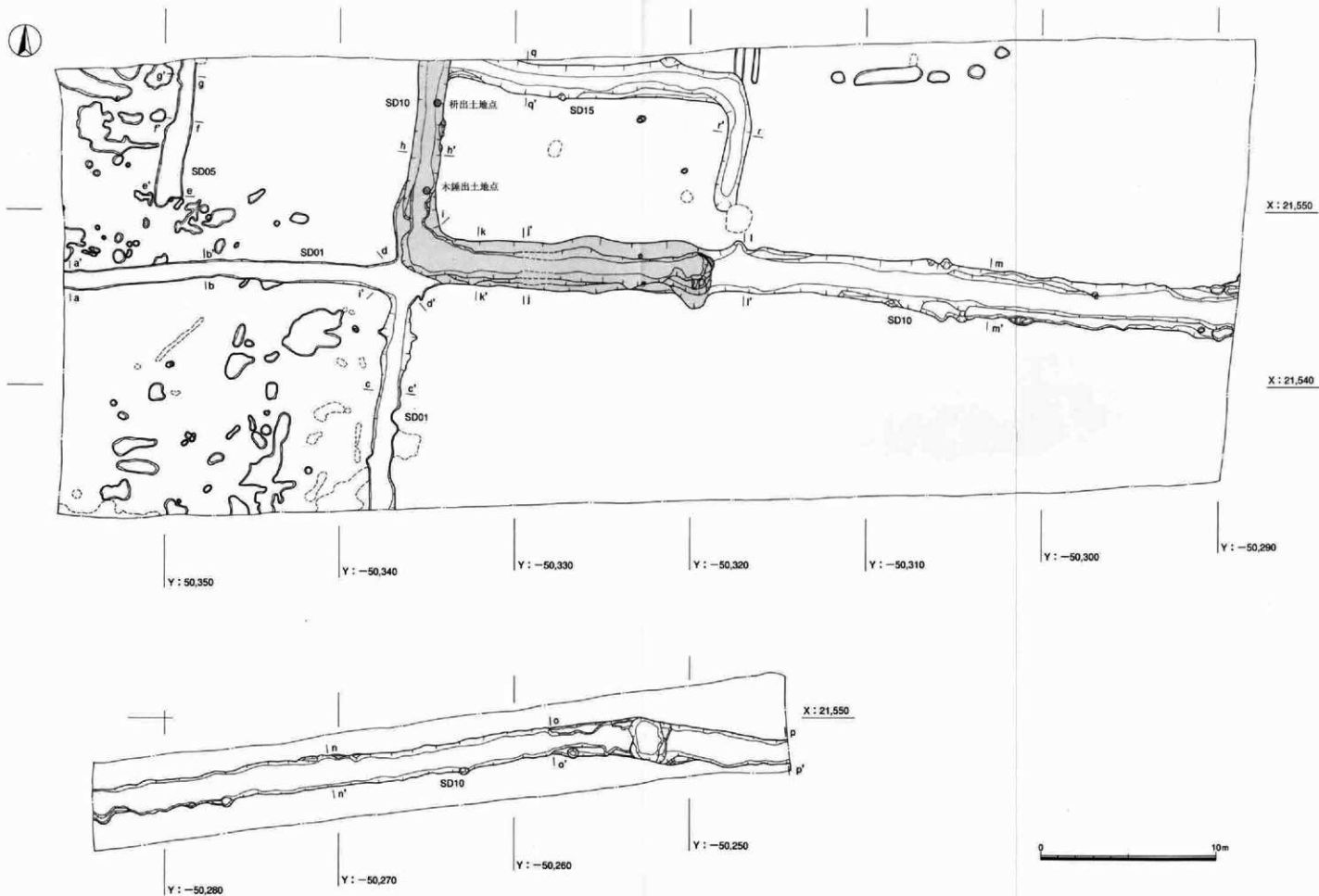
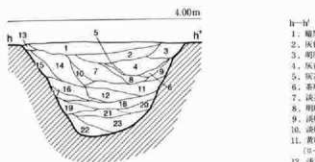
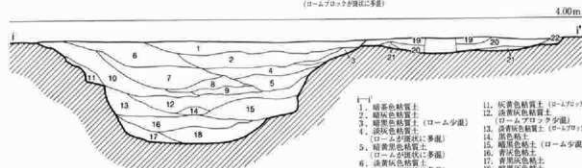


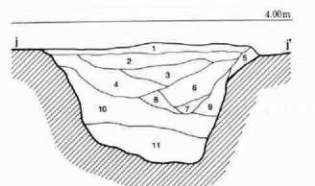
Fig. 66 井田堀遺跡跡遺構全体実測図 (1/200)



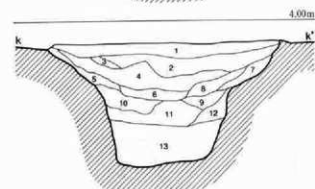
- h-h'
1. 暗黑色粘質土
 2. 灰色粘質土
 3. 明灰色粘質土
 4. 灰黄色粘質土
 5. 灰白色粘質土
 6. 赤茶色粘質土
 7. 淡茶灰色粘質土 (ローム多)
 8. 暗灰色粘質土
 9. 淡灰茶色粘質土
 10. 黄灰色粘質土
 11. 黄褐色粘質土 (ロームブロックが散在に多量)
 12. 黄褐色粘質土 (ロームブロックが散在に多量)
 13. 淡灰黄色粘質土
 14. 黄褐色粘質土 (ローム多)
 15. 黄灰色粘質土 (ローム少)
 16. 灰色粘質土
 17. 灰黄色粘質土
 18. 灰白色粘質土 (ロームが散在に多量)
 19. 黄灰色粘質土
 20. 淡灰色粘質土
 21. 明灰色粘質土
 22. 青灰色粘質土
 23. 灰色粘質土



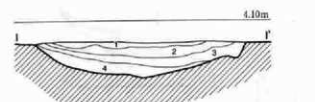
- i-i'
1. 暗茶色粘質土
 2. 暗灰色粘質土
 3. 暗茶色粘質土 (ローム少)
 4. 淡灰色粘質土
 5. 暗茶色粘質土 (ローム少散在に多量)
 6. 淡黄灰色粘質土 (ロームが散在に多量)
 7. 灰色粘質土 (ロームの散在に少)
 8. 暗灰色粘質土 (ローム少)
 9. 明灰色粘質土 (ローム少)
 10. 黄灰色粘質土 (ロームブロックが散在に多量)
 11. 灰黄色粘質土 (ローム70%多)
 12. 赤褐色粘質土 (ロームブロック少)
 13. 赤褐色粘質土 (ローム70%多)
 14. 赤褐色粘質土 (ローム少)
 15. 暗茶色粘質土 (ローム少)
 16. 黄灰色粘質土
 17. 青灰色粘質土
 18. 暗茶色粘質土 (ロームブロック少)
 19. 暗茶色粘質土 (ロームブロック少)
 20. 赤褐色粘質土 (ローム70%多)
 21. 淡黄灰色粘質土 (ローム70%多)
 22. 黄褐色粘質土



- j-j'
1. 暗茶灰色粘質土
 2. 淡灰色粘質土 (ロームブロックが散在に多量)
 3. 暗茶色粘質土 (ロームブロック少)
 4. 灰色粘質土 (ロームブロック少)
 5. 灰黄色粘質土
 6. 灰色粘質土 (ロームブロックが散在に多量)
 7. 黄灰色粘質土 (ロームブロック少)
 8. 暗灰色粘質土
 9. 淡白灰色粘質土
 10. 濃茶色粘質土
 11. 淡灰黄色粘質土 (青灰色粘質土少)



- k-k'
1. 暗茶灰色粘質土
 2. 淡茶灰色粘質土 (ロームブロックが散在に少)
 3. 淡灰色粘質土
 4. 赤色粘質土 (ロームブロックが散在に多量)
 5. 明灰色粘質土
 6. 暗灰色粘質土 (ロームブロックが散在に少)
 7. 淡灰茶色粘質土 (ロームブロック少)
 8. 灰茶色粘質土
 9. 灰白色粘質土 (白色粘土多)
 10. 灰色粘質土
 11. 濃茶色粘質土 (ロームブロック少)
 12. 淡黄色粘質土 (青灰色粘質土少)
 13. 淡灰黄色粘質土 (青灰色粘質土少)



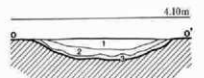
- l-l'
1. 暗茶褐色粘質土
 2. 暗茶褐色粘質土 (乳白色ブロック多)
 3. 淡茶褐色粘質土 (乳白色・黒色粘土多)
 4. 暗灰白色粘土 (乳白色・黒色粘土多)



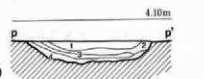
- m-m'
1. 多褐色粘質土
 2. 多褐色・乳白色粘質土
 3. 淡茶褐色粘質土 (乳白色・黒色粘土多)
 4. 多褐色粘土
 5. 灰白色粘土 (乳白色・黒色粘土多)



- n-n'
1. 暗茶褐色粘質土 (赤色ブロック多)
 2. 暗茶褐色粘質土 (黒色粘土多)
 3. 淡灰色粘土



- o-o'
1. 暗茶褐色粘質土 (乳白色ブロック多)
 2. 暗茶褐色粘質土 (乳白色ブロック多)
 3. 淡灰白色粘土



- p-p'
1. 暗茶褐色粘質土 (赤色ブロック多)
 2. 暗茶褐色粘質土 (赤色ブロック・乳白色ブロック多)
 3. 暗茶褐色粘質土 (乳白色粘土多)
 4. 淡灰色粘土

Fig.67 SD10土層断面 実測図 (1/40)

拵 (8) 1枚の側板で、一部の欠損を認めるが保存状態は良好である。拵は側板の形状から、1ヶ所の切り込みのある相欠き継ぎの側板を組み、木釘で固定しているものと考えられる。側板及び木釘の材質は不明で、側板の法量は一辺が16.5cmで、内々が14.8cm、高さは5.5cmを測る。これにより拵の容量は1,095.2cm³と予測される。これを一般的に標準化されている京拵(1,803.9cm³)に換算すると0.607升の数値が与えられる計算となる。

SD15 (Fig.71)

土師器

杯 (9・10) 共に磨耗のため調整不明。9は底径8.0cm、10は底径10.0cmを复原する。

(4) 小結

今回の調査で確認された主な遺構は、大半が溝であった。ここでは、検出された溝と出土遺物について概観することで小結としたい。

・溝について

検出された溝で主要なものは、SD01・10・15があげられる。

SD01は調査区の南西部から検出した鉤状に屈曲した溝(屈曲した部分はSD10に切られるように検出さ

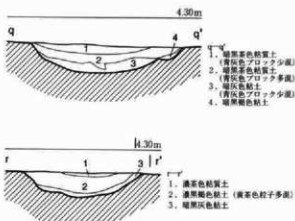


Fig. 68 SD15土層断面実測図 (1/40)

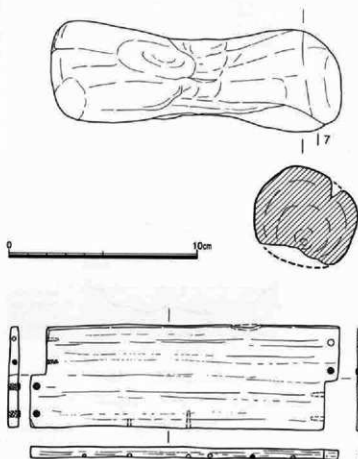


Fig. 70 SD10出土木製品実測図 (1/2)

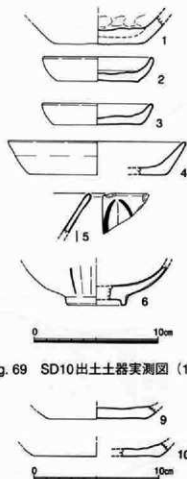


Fig. 69 SD10出土土器実測図 (1/3)

Fig. 71 SD15出土土器実測図 (1/3)

れたと先述したが、検出時においてはSD10との埋土が類似しており、現段階では切り合いは不明である。)で比較的浅いものであった。出土遺物からは概ね中世に比定され、近世までは下らないものと思われる。

SD10は調査区の中央部を東西方向に延びる溝で、溝の西部は北方向へ屈曲する。溝の北端はSD15と接し、切り合いは不明であった。

さて、SD10は極端に深くなっている西側部分(深さ1.0~1.2m)と浅くなっている東側部分(0.3~0.4m)で深さが明らかに異なっていた。先述したとおり、西側の深い溝はSD15の対面にあたる部分で、意図的に深く掘られた可能性を示すものである。これにより、SD10西側部とSD15によって区画されたエリアには何らかの土地利用があった可能性が考えられるが、残念ながら調査ではこれを示す手がかりは得ることができなかった。

・木製品について

次にSD10から出土した木製品について概観する前に、注目される点について挙げる。

各地の発掘調査において木製品を出土することは希で、報告事例からはたいていの場合、低湿地化した土壌中において出土するケースが多いようである。これは、低湿地化した土壌によって資料がバククされた状態になり、これが直接外気とふれない環境をつくり出していることにより、資料の保存状態を良好に保っていると考えられる。勿論、これだけの理由だけとは限らないが、筑後市内から出土した木製品の出土状況をもみても、上記の環境下において確認されることがほとんどである。

今回調査した場所は標高3.8m位の低湿地地上で、検出したSD10西側部分からは木鎌・柵の2点の木製品を出土することができた。何れも保存状態が良好で、加工痕などを顕著に看取できる資料であった。

さて、木鎌については福岡県内及び近隣においても多くの出土事例が報告されているが、柵については出土事例が少ないようである。

そこで、今回出土した柵について、宮本佐知子氏(財団法人 大阪市文化財協会)にご教示を賜ったので紹介する。

()内は数量

遺跡名	所在地	年代	材質	容量 (㎥)	京柵換算値 (柵)	備 考
平城宮跡-4	奈良県奈良市	7世紀後半	須恵器			遺書「一井一合」
平城宮跡-5	奈良県奈良市	8世紀	木質			
平城宮跡-6	奈良県奈良市	8世紀	須恵器			遺書「九合三勺」
平城宮跡-2	奈良県奈良市	8世紀中頃	須恵器	252	0.45	遺書「三合一夕」
秋田城跡	秋田県秋田市	8世紀中頃	木質	約700	0.388	
上荒屋遺跡	石川県金沢市	8世紀後半	須恵器			遺書「四合九勺」
平城宮跡-7	奈良県奈良市	8世紀後半	須恵器			遺書「五合」
平城宮跡-3	奈良県奈良市	8世紀後半	須恵器	212	0.47	遺書「二合半」
平城宮跡-2	奈良県奈良市	9世紀後半	木質(杉小櫓)	691.2	0.383	
平城宮跡-4	奈良県奈良市	11~12世紀	木質	1015.85	0.563	
唐古・藤遺跡	奈良県田原町	12世紀後半	木質	2178.66	1.21	
高見の第六丁目遺跡	大阪府松原市	12世紀後半	木質	2178.3	1.2075	
平城宮跡-3	京都府京都市	13世紀	木質	(3136)	0.5796	
御成町遺跡	神奈川県鎌倉市	14世紀	木質(杉)	2719.8	1.508	
北古瀬遺跡	福島県利根郡長沼町	15~16世紀	木質	4512.5	2.5	
初田遺跡	兵庫県多紀郡丹南町	15末~16世紀	木質(杉)	(1729)	0.961	
井田原緒通跡	福岡県筑後市	中世	木質	1095.2	0.607	

Tab.9 柵出土の遺跡地名一覧表

[註]

本表は「宮本佐知子 さし・ます・はかり考古学による日本歴史9交易と交通 藤山園一」に記載されている表3を抜粋し、一部改編した。

宮本氏によると、「枘については出土例が少なく、また、十分に調べられていないため何合になるのは困難である。枘の種類も、京枘の単位に合わせてみると近いのは六合であるが、明治の資料からは六合枘の存在は明らかではなく、七合枘であれば少量であるとのことである。また、枘は穀物を計量するときに使用されたことは充分考えられ、使用者（耕作者か、耕作させていた側）によっても大きさが異なる」と指摘されている。

これにより、今回出土した枘について簡単にまとめると以下のとおりである。

- ・枘が出土したSD10が概ね中世に比定されることで、枘に与えられる時期は、現段階において当該期を想定している。
- ・枘の計量値は時代によって単位が変化していることや出土例が少ないことから、現段階においての換算は難しい。
- ・枘の大きさは使用者によっても異なるようである。

最後に、末文ではありますが、ご多忙のところご教示して頂いた宮本氏に感謝の意を表したい。

【単位はcm、○は復原値】

Fig.-No.	遺構	名称	器種	口径	底径	器高	長さ	円柱部径	輪部径	切縁区分		備考
										ヘラ	糸	
69-1	SD10	養生土器	壺		○ 7.4							
69-2	SD10	土師器	小皿	○ 8.8	○ 6.6	2.0						
69-3	SD10	土師器	小皿	○ 9.0	○ 7.0	1.7					○*	
69-4	SD10	土師器	坏	○ 14.3	○ 11.0	2.7					○	
69-5	SD10	青磁	碗									森田：1-5b
69-6	SD10	青磁	碗		○ 5.0							
70-7	SD10	木製品	木鐺				15.4	5.3-5.5	3.9			
70-8	SD10	木製品	枘			5.5	16.5					
71-9	SD15	土師器	坏		○ 8.0							
71-10	SD15	土師器	黒小坏		○ 10.0							

Tab.10 井田堀越遺跡出土遺物一覧表

【注】

本表に記載した分物は、下記の文献による。

《青銅》 横田賢次郎・森田勉 「大宰府出土の輸入中国陶磁器について一形式分類と編年を中心にして一」 『九州歴史資料館研究集4』 1978

8.井田下堀越遺跡の調査

(1) はじめに (Fig.72)

当遺跡は筑後市の最西端に位置し、クレークを挟んだ西側は大木町となる。標高4.2 m位の低湿地上で筑後市大字井田字下堀越に所在する。調査は、平成9年度に施工された農地整備事業支線用排水路設置範囲で、遺跡を確認した411 m²を実施した。調査期間は平成10年1月28日から2月18日までで、この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影などを行った。調査区からは主に溝3条、土壇6基を検出した。本調査については小林勇作が担当し、末吉隆弥の協力を得た。

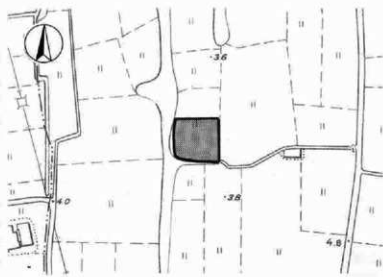


Fig.72 井田下堀越遺跡調査地点位置図 (1/2,500)

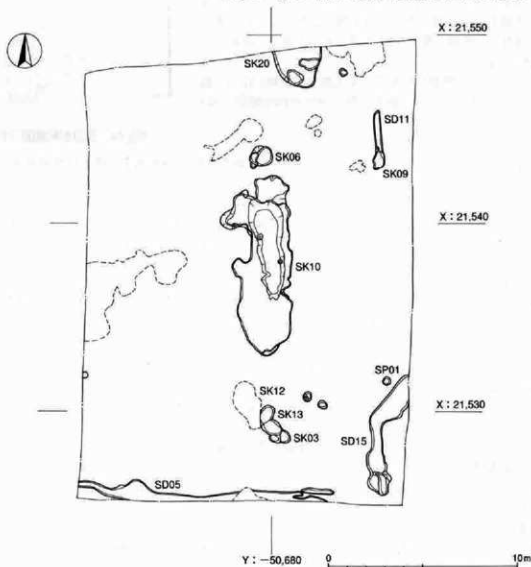


Fig.73 井田下堀越遺跡遺構全体実測図 (1/200)

(2) 遺構

溝

SD05 (Fig.73)

調査区の南端で13.00m分を検出した東西溝である。溝は蛇行しており、深さ0.06mと浅い。埋土は黒褐色土を基調とし、埋土中からは土師器(片)が多く出土した。

SD11 (Fig.73)

調査区の東側で検出した南北溝で、SP9を切る。長さ2.20m、幅約0.35m、深さ0.05mと浅く、埋土は黒褐色土であった。出土遺物は皆無であった。

SD15 (Fig.74, Pla.47)

調査区の南東隅で検出した。5.50m分を確認し、幅0.60~1.25m、深さ0.11~0.23mを測る。埋土は黒褐色粘質土で、埋土中からは土師器(甕・鉢・高坏・片)が出土した。土壌

SK03 (Fig.75)

調査区の南側で検出した隅丸長方形の土壌でSK13を切る。長軸1.07m、深さ約0.10mを測り、底面は凹凸が著しい。遺物は土師器(甕・片)、磁器(片)を僅かに認めた。

SK06 (Fig.75)

SK10の北部に隣接した不定形な土壌で、長軸1.17m、短軸0.98m、深さ0.17mを測る。埋土中からは土師器(片)が出土したのみである。

SK09 (Fig.75)

SD11に切られた楕円形の土壌で、径は約84cm、深さは約20cmを測る。埋土は黒色粘土で、弥生土器(甕)が僅かに出土した。

SK10 (Fig.75, Pla.48)

調査区のはほぼ中央部から検出した不定形な土壌である。遺物は各層から散在的に土師器(甕・鉢・高坏・土鍋・片)、石製品(石鏃・砥石)が出土し、他の遺構よりも遺物量が多く、廃棄土壌として活用されていた可能性が考えられる。

SK12 (Fig.75)

SK13を切るように検出した土壌で、埋土は黒褐色土であった。深さ0.09mと浅いため削平を受けているものと思われる。出土遺物は皆無であった。

SK13 (Fig.75)

SK03、SK12に切られた土壌で、埋土は黒褐色土。深さ0.14mと浅く、出土遺物は皆無であった。

SK20 (Fig.75)

調査区の北部で検出した。土壌の底面は凹凸が著しく、深さ約0.10mと浅い。出土遺物はない。

SP01 (Fig.73)

SD15の北部から検出したピットで、土師器(甕)が僅かに出土した。

(3) 出土遺物

溝

SD11 (Fig.78, Pla.50)

石製品

石鏃 (33) 完形品で、石材はサヌカイト製。抉りのある長二等辺三角形を呈する。

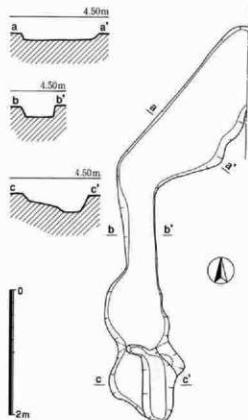


Fig.74 SD15実測図 (1/60)

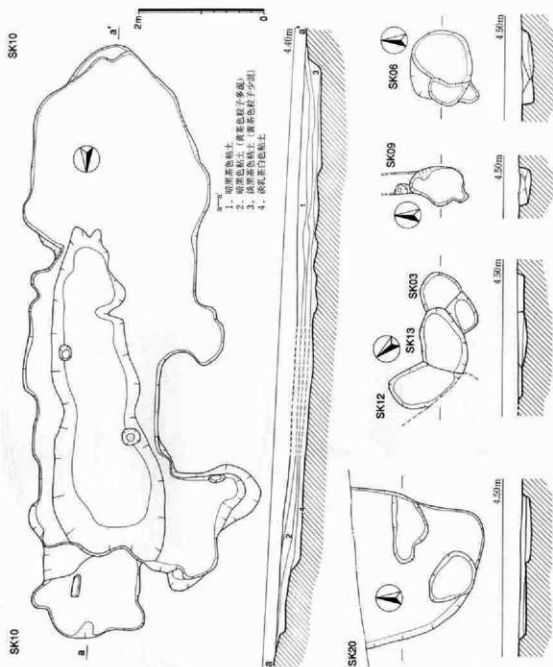


Fig.75 土壌実測図 (1/60)

SD15 (Fig.76)

土師器

小型丸底壺 (1・2) 共に底部のみの細片で、胎土は砂粒を少量含む。

高坏 (3~5) 3~5は脚部の細片で、5は裾部に穿孔が等間隔に3ヶ所施されている。

石製品 (Fig.78, Pla.50)

磨製石鏃 (34) 石材は片岩製で完形品である。表裏に研磨が施され、決りのある長二等辺三角形状を呈する。

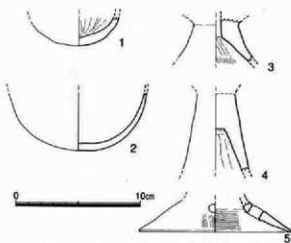


Fig.76 SD15出土土器実測図 (1/3)

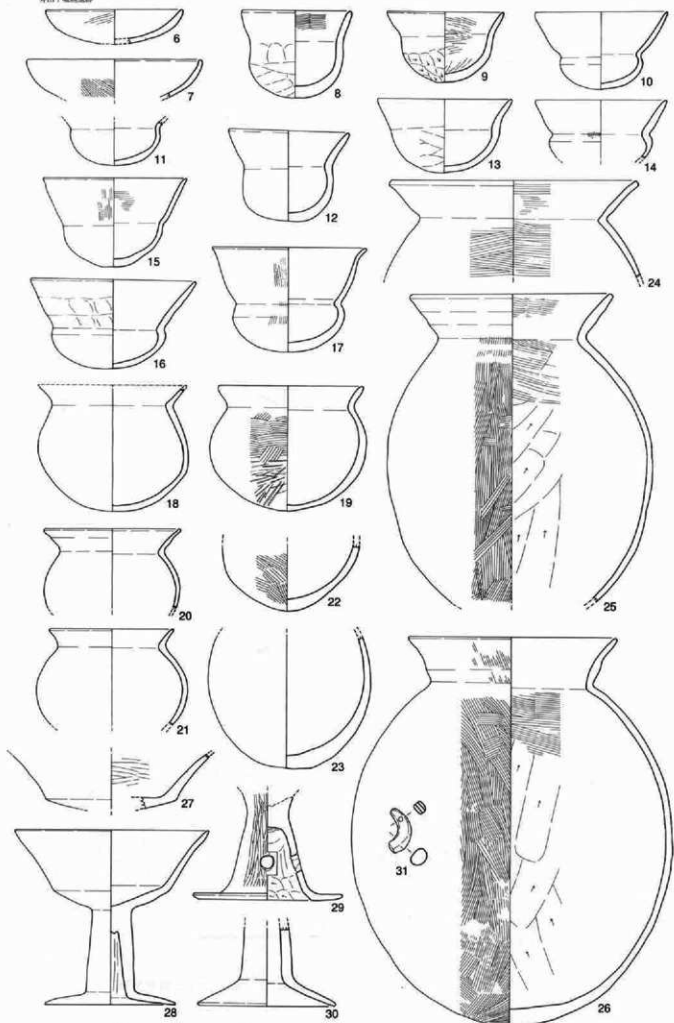


Fig.77 SK10出土土器実測図 (1/3)

土壌

SK10 (Fig.77, Pla.49・50)

土師器

坏 (6・7) 6は1層出土土器で、口径11.0cm、器高2.8cmを復原する。やや磨耗しており、口縁部外面に刷毛目調整が若干残る。7は2層出土土器で、口径14.0cmを復原する。外面下位は刷毛目、口縁部内外面はヨコナデ、底部内面はナデ調整を施す。外面に薄く煤が付着している。

小型丸底壺 (8~22) 8~22の内、18・21は1層、14・20は2層、8・9・12・15・19は3層からの出土土器である。口径は8.8~13.2cm、器高は5.9~10.1cmを測る。

壺 (23) 下半部だけの破片である。最大径13.0cmを復原し、磨耗のため調整不明。

甕 (24~26) 24は口縁部の破片で、口径20.0cmを復原する。口縁部は「く字状」を呈し、口縁部外面は薄く煤が付着し、調整はヨコナデ。この他は横方向の刷毛目調整を施す。25は1層出土土器で底部

は欠損する。口縁部は「く字状」を呈し、体部から底部にかけては煤が付着している。調整は外面において、体部は縦方向の刷毛目、口縁部はヨコナデを施し、内面においては口縁部上位は横方向の刷毛目、下位はヨコナデ、体部上位はヘラケズリ後刷毛目、下位はヘラケズリを施す。26は3層出土土器で、口縁部は「く字状」を呈する。調整は外面の体部は縦方向の刷毛目、口縁部は刷毛目後ヨコナデを施し、内面の口縁部は強いヨコナデ、体部上位はヘラケズリ後刷毛目、下位はヘラケズリを施す。

高坏 (27~30) 27~30の内、28・30は2層、27は3層出土土器である。27は杯部の細片で体部は屈曲しながら外反する。磨耗のため調整不明であるが、体部内面に若干刷毛目調整が残る。28は破片で磨耗のため、調整は不明。口径15.5cm、脚径10.5cm、器高13.9cmを復原する。29は脚径11.9cmを測り、脚部にほぼ等間隔で穿孔を3ヶ所施す。30は脚径11.0cmを測り、磨耗のため調整不明。

土製品

勾玉 (31) 勾玉の土製品で先端に3mm程度の穿孔を施す。

石製品 (Fig.78, Pla.50・51)

石鏃 (32) 完形品で石材は黒曜石製である。表面の一部に自然面を残し、裏面にはポジティブ面が看取される。両面とも丁寧に整形加工が施されている。

砥石 (35) 石材を砂岩製とする大型砥石で、剥離面以外はほぼ砥面として使用している。

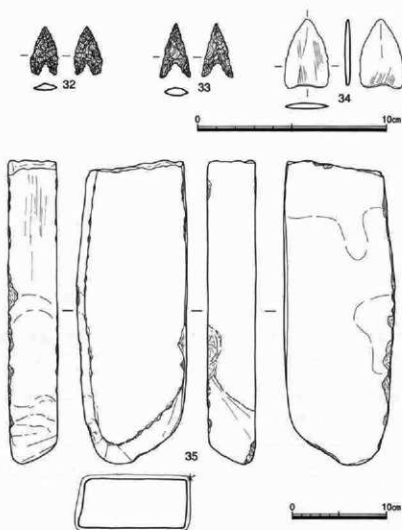


Fig.78 石製品実測図 (1/2・1/4)

SP01 (Fig.79)

土師器

小型丸底壺 (36) 口径12.0cm、体部径11.6cm、器高9.3cmを測り、外面に煤が付着している。調整は内面においては不明で、外面は口縁部がヨコナデ、体部は刷毛目、底部は手持ちのヘラケズリである。

(4) 小結

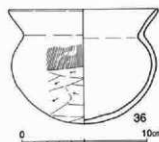
今回の調査において確認された遺構や遺物について振り返ることにより小結としたい。

先述したとおりSK10からは、縄文時代晩期頃に属する石炭が出土 Fig.79 SP01出土土器実測図 (1/3) した。当調査区内からは該期における顕著な遺構は検出されておらず、周辺からも遺物は採集されていない。このため、集落本体はどの辺りであるかは予測がつかず、現段階では不明である。

ところで、SK10からは古墳時代前期に比定される遺物も多く出土した。SK10は低湿地化した灰色粘土上から検出された溜まり状の土壌で、非常に不安定なものであった。ここから出土した該期の土器は坏・小型丸底壺・高坏・甕などで、分層して土器の抽出をした結果、一括廃棄された傾向があるものと思われる。更に、土器中には脚部に穿孔された高坏や土製勾玉が出土していることで、祭祀的要素を含んだ遺構と考えることができる。

当遺跡に限られた範囲において実施されたためか、顕著な遺構や遺物は少なかったといえる。しかし、今回報告した該期の遺跡は周辺では確認されておらず、この地区の新たな発見になったことは大きな成果といえよう。

最後に、今回の調査からは残念ながら集落本体を明らかにすることができなかったが、今後の調査で確認されることを期待する。



【単位はcm、○は復原図】

Fig-No.	遺構	名称	器種	口径	底径	器高	胴径	調整	穴開し区分	備考
76-01	SD15	土師器	小型丸底壺							
76-02	SD15	土師器	小型丸底壺							
76-03	SD15	土師器	高坏							
76-04	SD15	土師器	高坏							
76-05	SD15	土師器	高坏		12.2					脚部に穿孔3ヶ所
77-06	SK10(1層)	土師器	坏	○ 11.0		2.8			○	
77-07	SK10(2層)	土師器	坏	○ 14.0					○	
77-08	SK10(3層)	土師器	小型丸底壺	○ 8.8		7.0				
77-09	SK10(3層)	土師器	小型丸底壺	9.4		5.6				
77-10	SK10	土師器	小型丸底壺	○ 10.6		6.2				
77-11	SK10	土師器	小型丸底壺							
77-12	SK10(3層)	土師器	小型丸底壺	9.7		7.2				
77-13	SK10	土師器	小型丸底壺	10.8		5.0				
77-14	SK10(2層)	土師器	小型丸底壺	○ 10.4						
77-15	SK10(3層)	土師器	小型丸底壺	11.5		7.1				
77-16	SK10	土師器	小型丸底壺	13.2		7.1				
77-17	SK10	土師器	小型丸底壺	12.3		8.3				
77-18	SK10(1層)	土師器	小型丸底壺	○ 12.0		10.1	12.0			
77-19	SK10(3層)	土師器	小型丸底壺	○ 11.5		10.0				
77-20	SK10(2層)	土師器	小型丸底壺	○ 11.0						
77-21	SK10(1層)	土師器	小型丸底壺	○ 10.0			12.0			
77-22	SK10	土師器	小型丸底壺							
77-23	SK10	土師器	甕?				○ 13.0			
77-24	SK10	土師器	甕	○ 20.0						
77-25	SK10(1層)	土師器	甕	○ 16.3				21.3		
77-26	SK10(3層)	土師器	甕	○ 16.8		30.9				
77-27	SK10(3層)	土師器	高坏							
77-28	SK10(2層)	土師器	高坏	15.5	10.5	13.9				煤付着
77-29	SK10	土師器	高坏		11.9					穿孔3ヶ所
77-30	SK10(2層)	土師器	高坏	○ 11.0						
77-31	SP01	土師器	小型丸底壺	○ 12.0		9.3	○ 11.6			外面煤付着
79-32	SP01	石製品	石鏝							石材：黒曜石
78-33	SK10(1層)	石製品	石鏝							石材：キヌカイト
78-34	SD15	石製品	磨製石鏝							石材：片岩
78-35	SK15	石製品	磨製石鏝							
78-36	SK10	石製品	砥石							

Tab.11 井田下掘越遺跡出土遺物一覧表

9.梅島遺跡 (第2次調査) の調査

(1) はじめに

本章は平成3年度に発掘調査を行った、梅島遺跡第2次調査の成果を集録している。今回の調査は、平成3年度県営干拓地等農地整備事業筑後西部地区に伴い、工事によって消滅する部分について記録保存の措置をとったものである。

平成3年度に入ってから、工事主体である福岡県筑後川水系農地開発事務所(工事3課)から、当該工事地区内の埋蔵文化財の有無について照会があった。その後協議を重ね、試掘調査を経て埋蔵文化財の包蔵範囲を確認した。その結果、水路掘削部分と土盛り調整によっても遺構の破壊を防ぎえない面工事部分について発掘調査を実施することとなった。調査は永見と小林が担当し、塚本映子(現、三瀬町教育委員会)の協力を得た。調査面積は約3,500㎡で、平成3年12月から平成4年5月にかけて調査を行った。

なお、整理作業は平成11年度に、筑後市教育委員会文化財整理室で行った。

(2) 遺構

今回の調査では、水路部分を中心とした調査となったことから、当然の制約として非常に細長い調査区を設定せざるを得なかった。また、調査区の一部は面的な調査となり、面的な調査と線状の調査を組



Fig.80 梅島遺跡 (第2次調査) 調査地点位置図 (1/2,500)

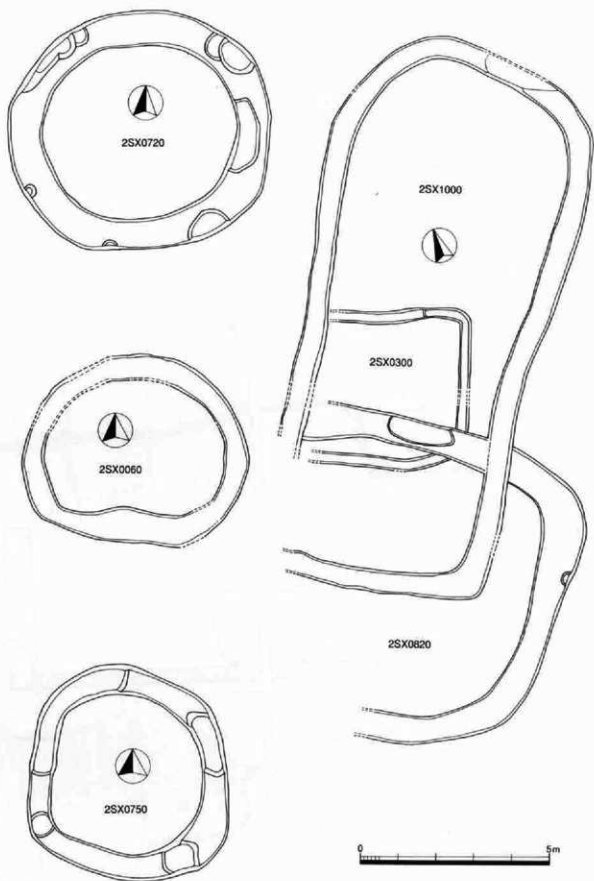


Fig.81 周溝状遺構平面図① (1/100)

み合わせた調査区形状となった。さらに、面的な調査区の中央を前年度に導水路を敷設した道路が縦断している。もちろん、その部分は記録保存の措置をとっている(第1次調査)が、調査時点で面的な広がりがつかみにくかったことは否定できない。

今回の調査では、周溝状遺構・溝状遺構・廃棄土壌などを確認した。以下、主要遺構について遺構種類別に報告したい。

周溝状遺構

周溝状遺構は、調査区全体からみると西に片寄った部分に集中して検出した。周溝の平面プランは、おおまかにいって方形と円形がある。以下、遺構ごとに報告する。なお、本文中の規模はすべて周溝の外側の遺構上端で計測している

2SX0720

中央調査区の西端に位置する、円形周溝状遺構である。直径は6.9mである。

2SX0060

東西の調査区の中央に位置する、円形周溝状遺構である。直径は5.4mである。

2SX0750

面的に調査を行った部分の西側調査区南端に位置する、方形周溝状遺構である。東西5.4m、南北5.7mの規模である。

2SX1000

面的に調査を行った部分の西側調査区北西隅に位置する、長方形の平面形を呈する周溝状遺構である。東西6.5m、南北14.6mの規模である。

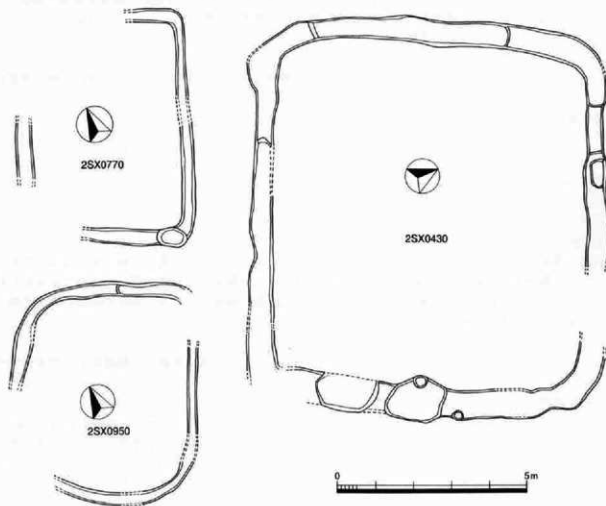


Fig.82 周溝状遺構平面図① (1/100)

2SX0830

面的に調査を行った部分の西側調査区北西隅に位置する、方形周溝状遺構である。南北4.2mの規模である。2SX1000に切られている。

2SX0820

面的に調査を行った部分の西側調査区北西隅に位置する、方形周溝状遺構である。南北8.4mの規模である。2SX1000に切られている。

2SX0770

面的に調査を行った部分の西側調査区西隅に位置する、長方形の平面形を呈する周溝状遺構である。東西4.7m、南北6.3mの規模である。

2SX0950

面的に調査を行った部分の西側調査区北西隅に位置する、方形周溝状遺構である。東西5.0m、南北6.0mの規模である。

2SX0430

面的に調査を行った部分の東側の調査区東端に位置する、方形周溝状遺構である。東西10.4m、南北9.4mの規模である。

2SX0468

面的に調査を行った部分の西側調査区南西隅に位置する、長方形の平面形を呈する周溝状遺構である。東西3.7m、南北6.9mの規模である。

溝状遺構

溝状遺構は、大きくわけて弥生時代のものの中近世のものがある。前者は先に報告した周溝状遺構を別にすれば小規模なものが多い。後者のうち、多くの土器を出土した遺構について報告する。

2SD0260

面的に調査を行った部分の東端を南北に走る。断面形状は崩れた逆台形を呈する。染付の碗を多量に出土した。

廃棄土壌

今回の調査では、廃棄土壌とみられる遺構も数多く検出したが、そのなかで弥生時代の遺物を出土したもののうち主要なものを以下に報告する。

2SK0210

面的に調査を行った部分の西端にある。上層からは土師器等も出土しているが、下層からは弥生土器のみが出土している。上層部分は後世の掘込みがあったと考えられる。

2SK0299

東西の調査区の西寄りにある。多量の土器片を出土したが、そのなかで高坏と鉢の出土状況が特異であったので報告する。高坏は坏部と脚部が切り離されていて、脚部の上に甕が伏せた状態がかぶせられていた。さらに、その上に切り離した坏部をのせていた。別の表現をすれば、高坏の坏部と脚部の間に鉢が挟まれていた状況であった。

2SK0840

面的に調査を行った部分の東寄りにある。2SD0680に切られている。多量の土器を出土したが、すべて上層からの出土である。

(3) 出土遺物

出土遺物には、弥生土器・土師器・須恵器などがあり、総量ではバンコンテナー200箱近くにのぼる。なお、遺物の個々についての詳細は、文章を省略しているため、遺物観察表を参照されたい。剥片等で図示しないものも、一部を一覧表で報告した。また、自然石利用の利器は相当数を採集している。敵石や石皿等の可能性を認めるが、今回の報告からは除外している。以下、遺構順に報告する。なお、第1次調査の遺物写真も今回報告した。

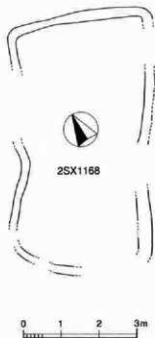
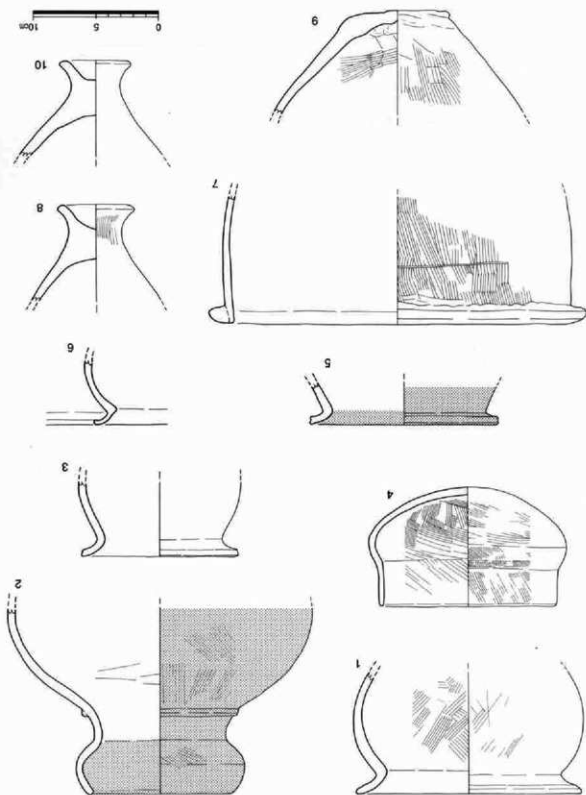


Fig83 周溝状遺構平面図③
(1/100)

Fig.84 梅島遺跡(第2次調査)出土遺物実測図①(1/3)



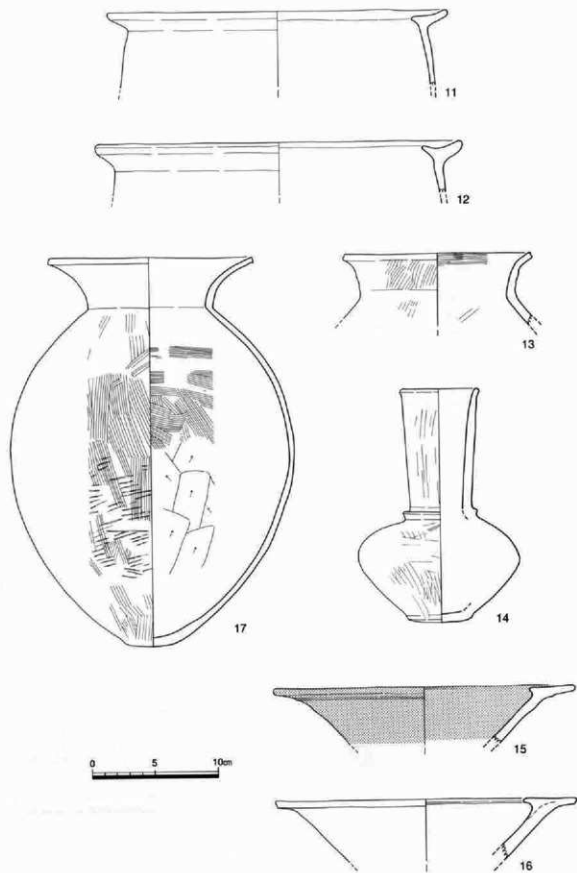


Fig.85 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図② (1/3)

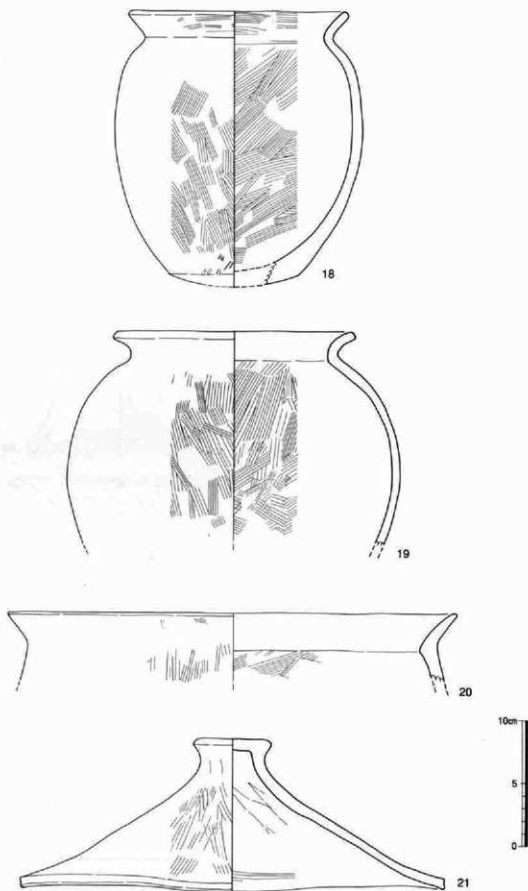


Fig.86 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図③ (1/3)

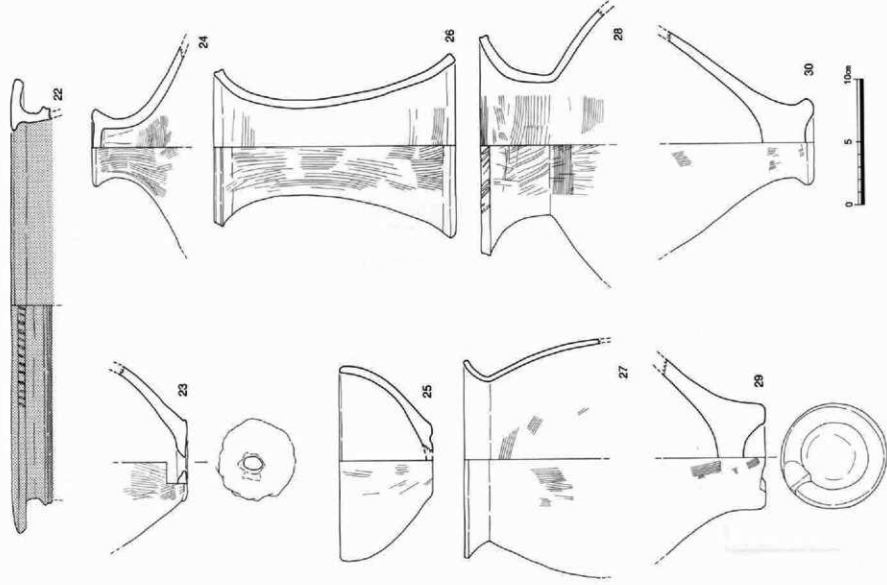


Fig.87 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図④ (1/3)

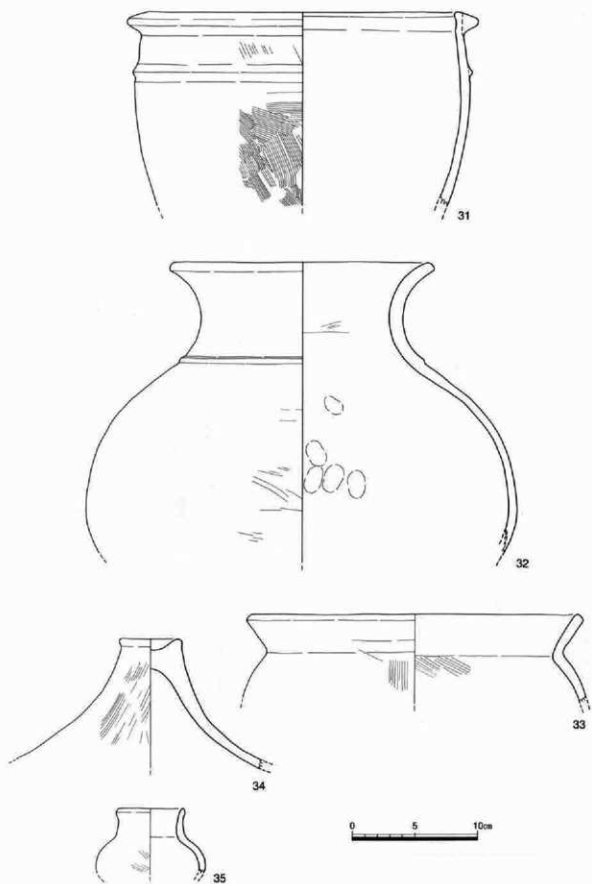


Fig.88 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑤ (1/3)

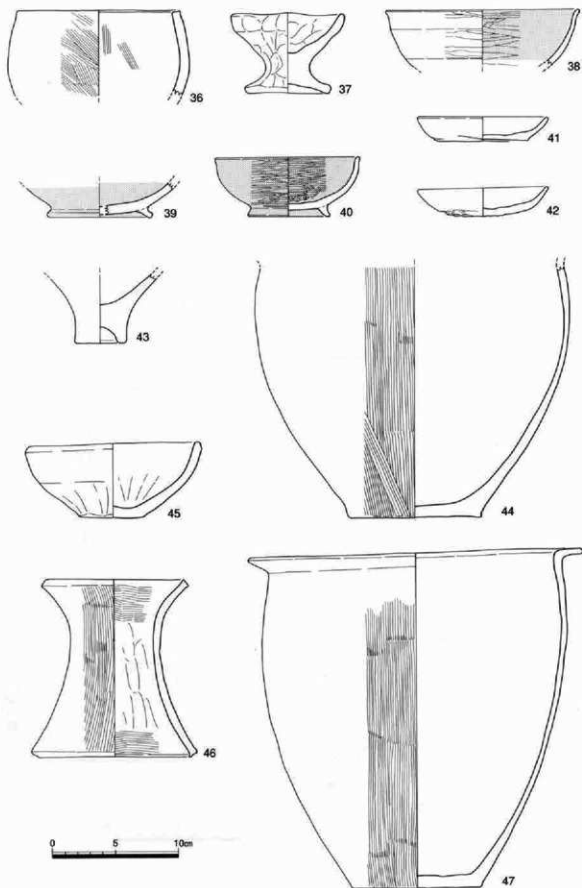


Fig.89 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑥ (1/3)

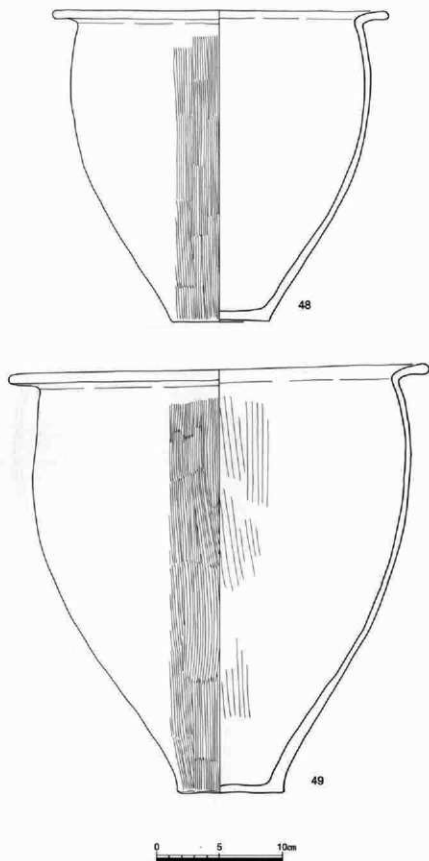


Fig.90 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑦（1/3）

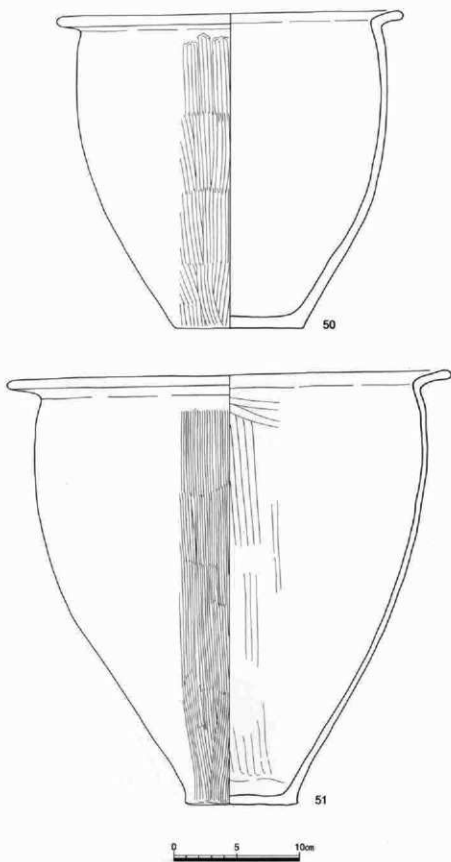


Fig.91 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図③（1/3）

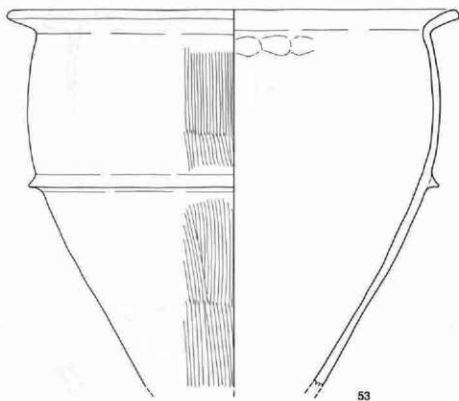
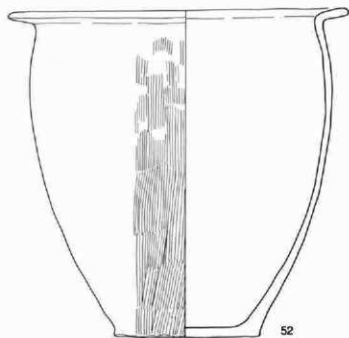


Fig.92 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑨ (1/3)

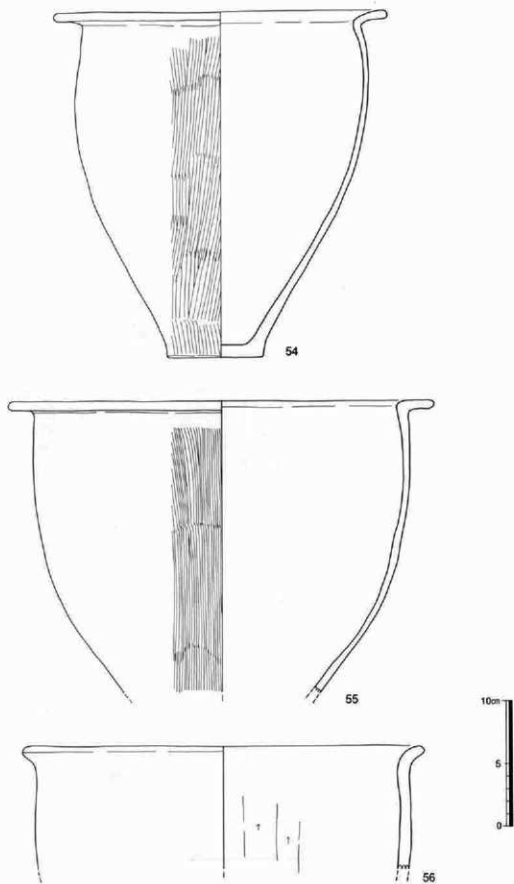


Fig.93 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑩（1/3）

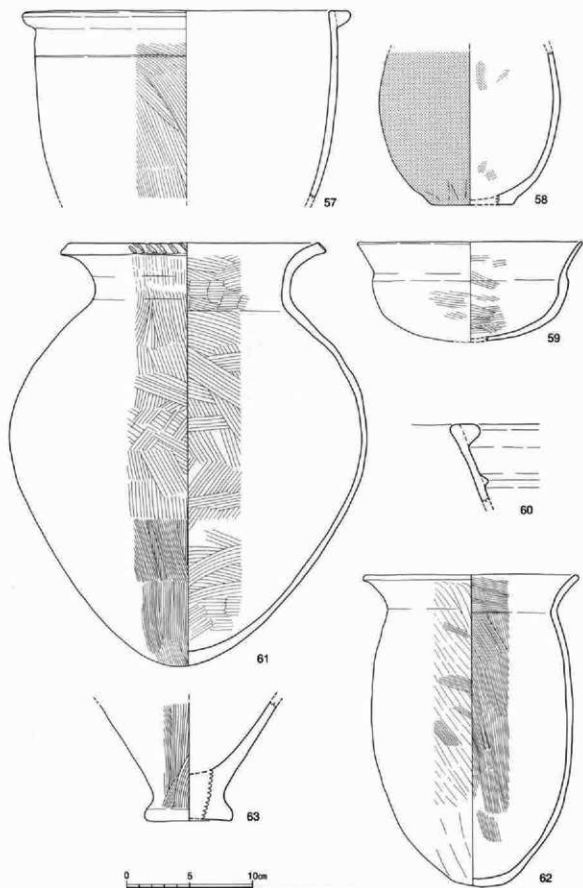


Fig.94 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図① (1/3)

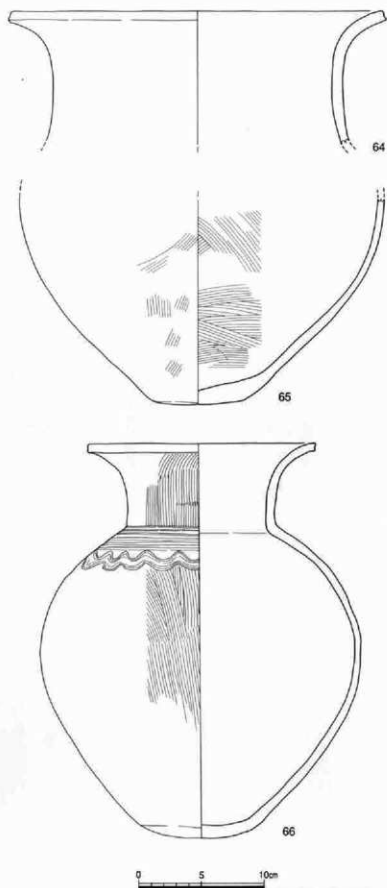


Fig.95 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑫（1/3）

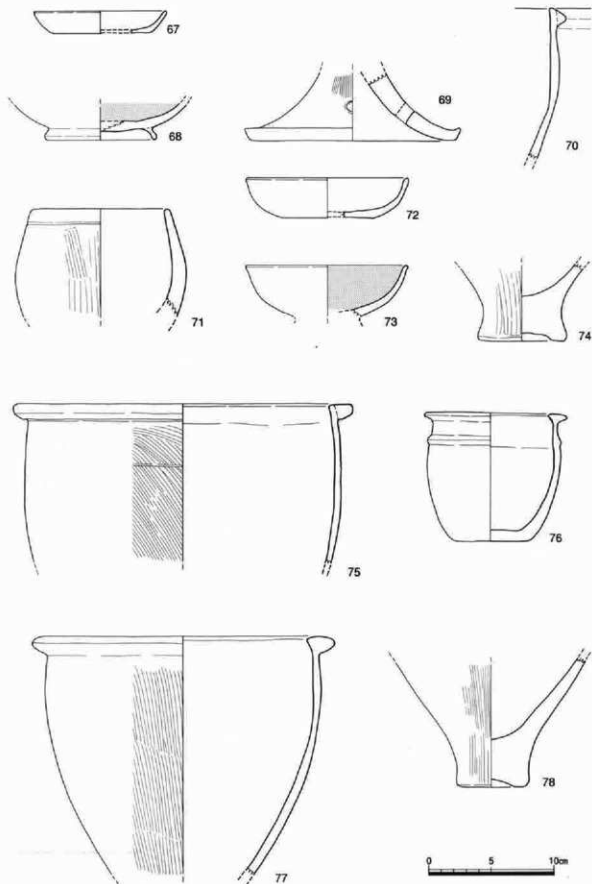


Fig.96 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑬ (1/3)

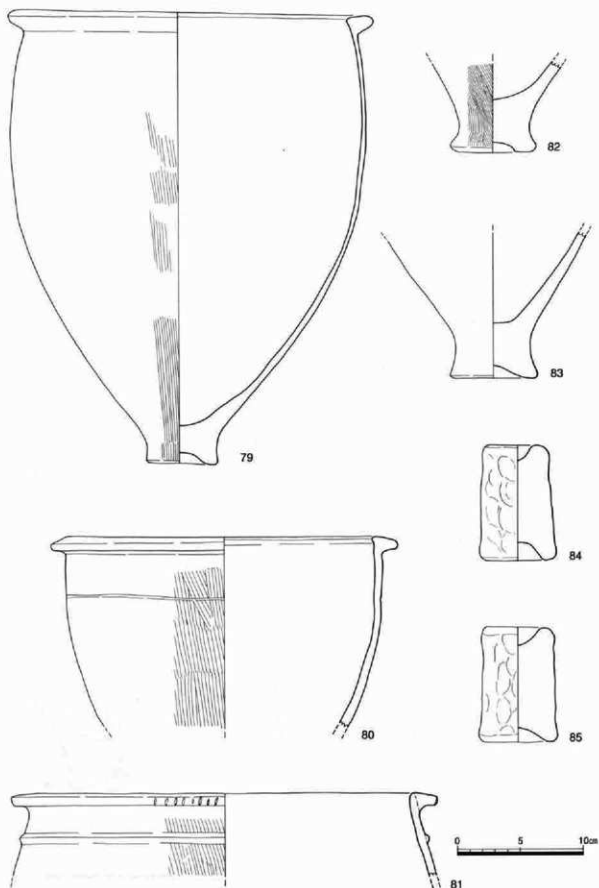


Fig.97 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑭ (1/3)

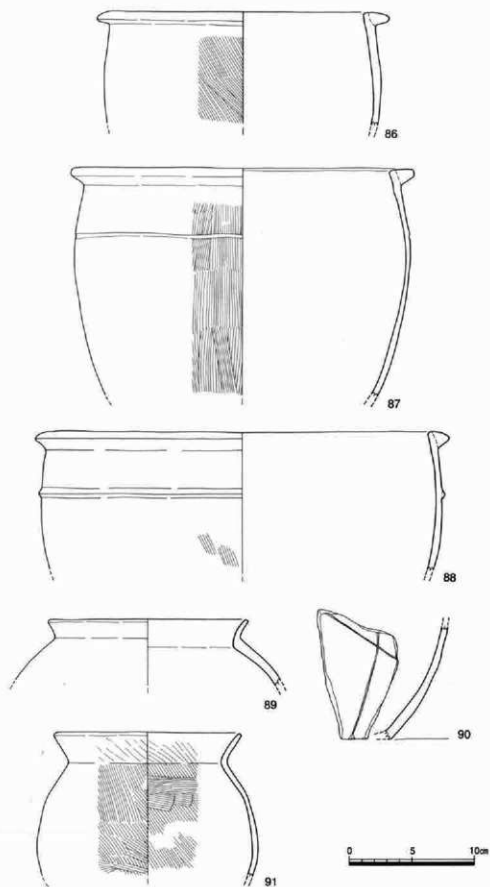


Fig.98 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑤ (1/3)

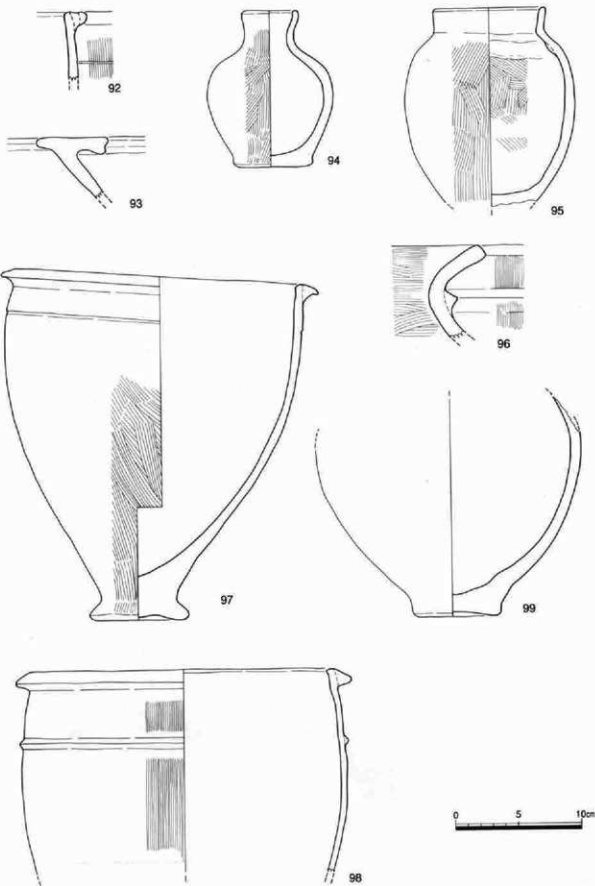


Fig.99 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑬ (1/3)

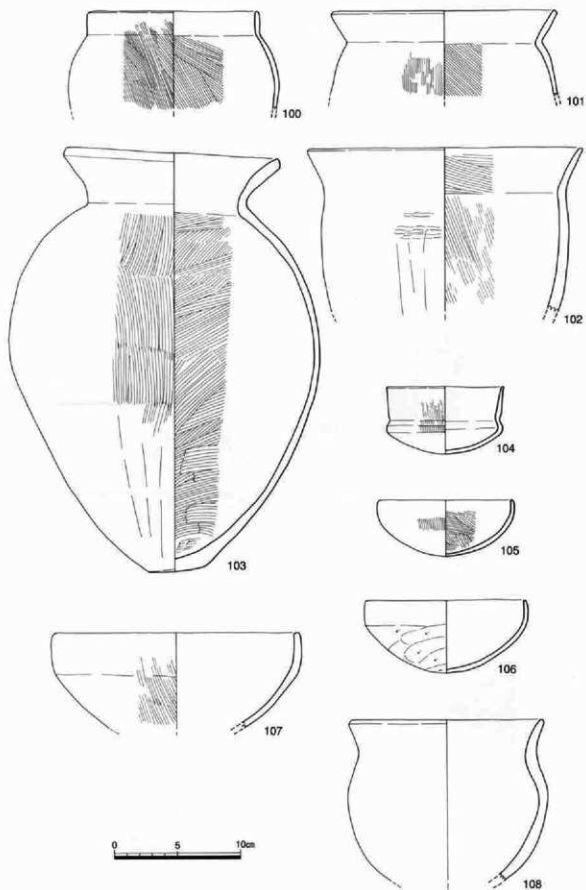


Fig.100 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑩ (1/3)

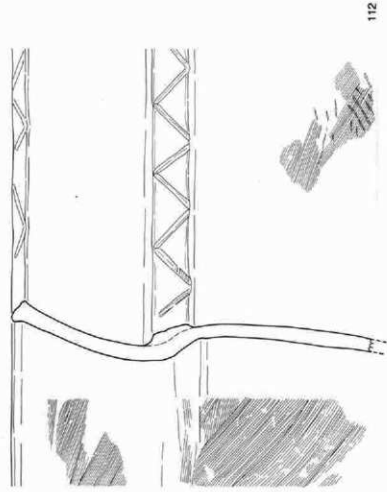
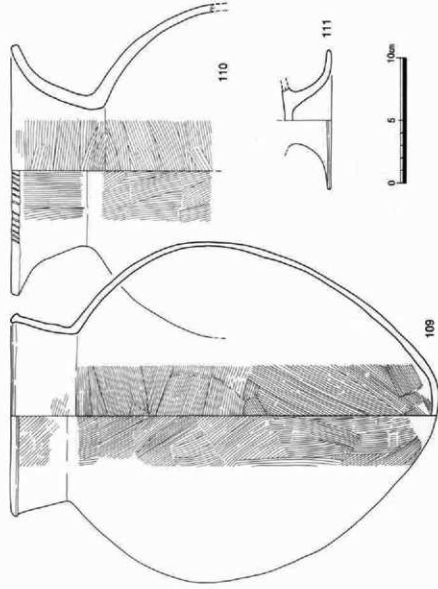


Fig.101 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑧ (1/3)

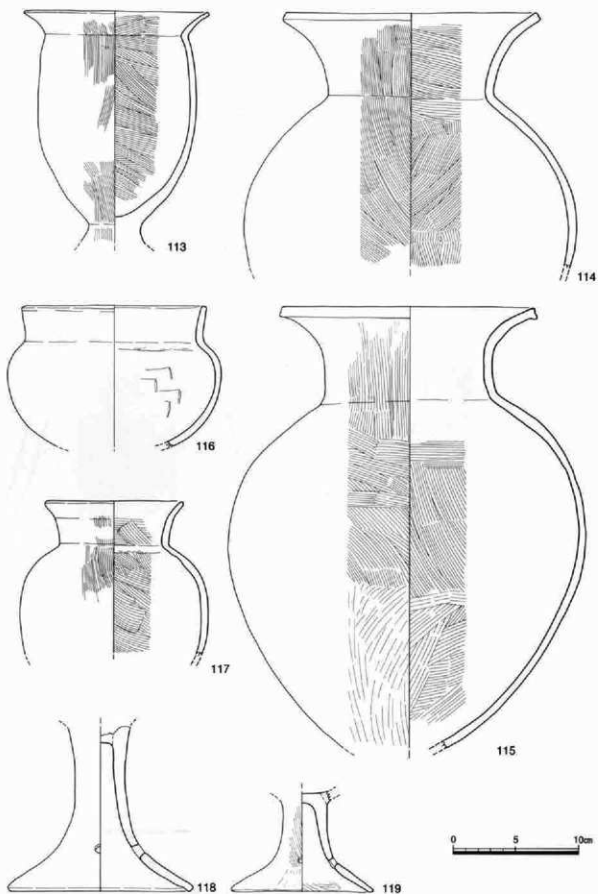


Fig.102 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑨ (1/3)

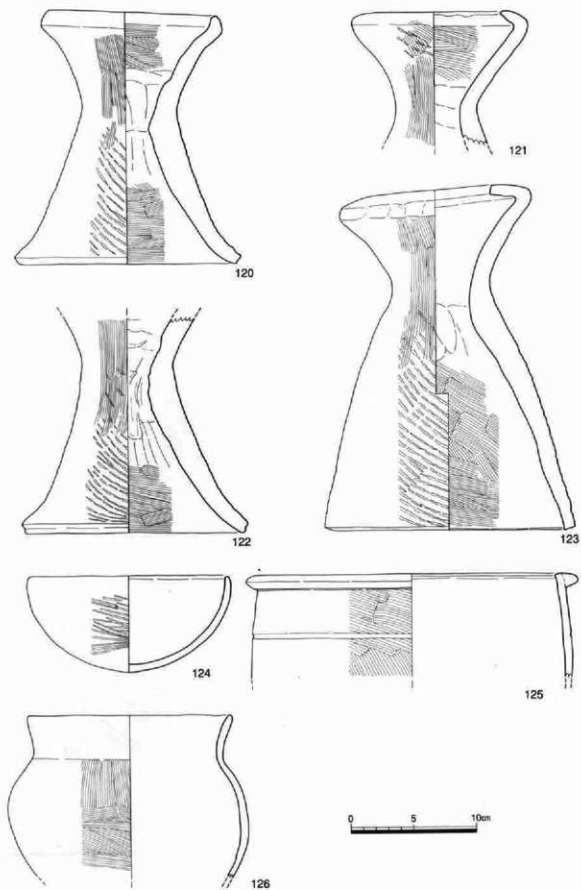


Fig.103 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図②（1/3）

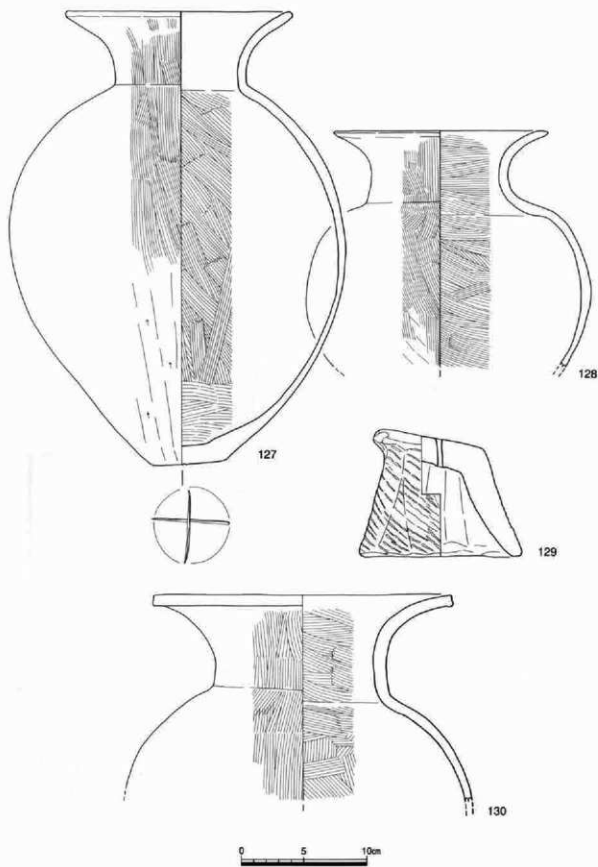


Fig.104 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図②（1/3）

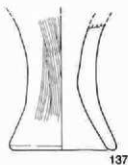
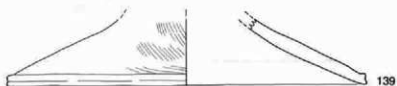
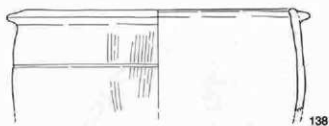
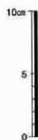
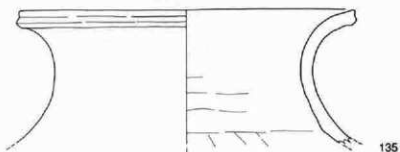
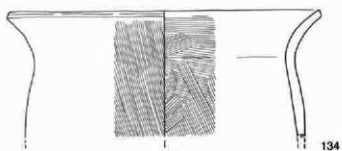
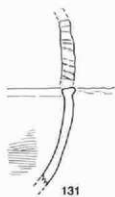
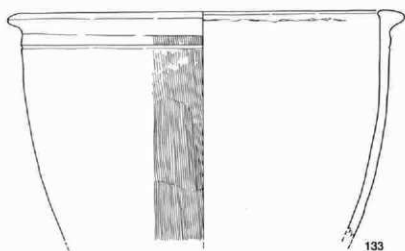


Fig.105 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図② (1/3)

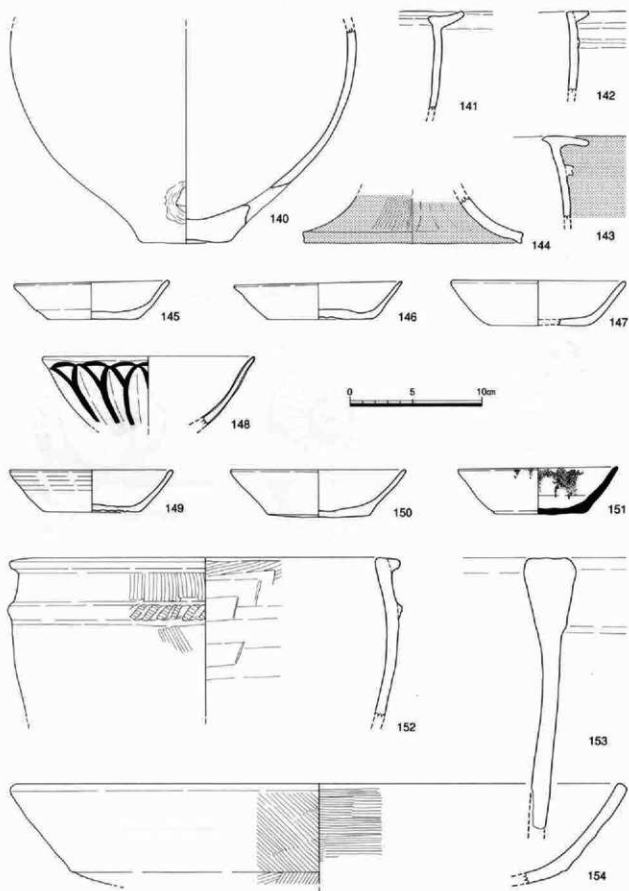


Fig.106 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図② (1/3)

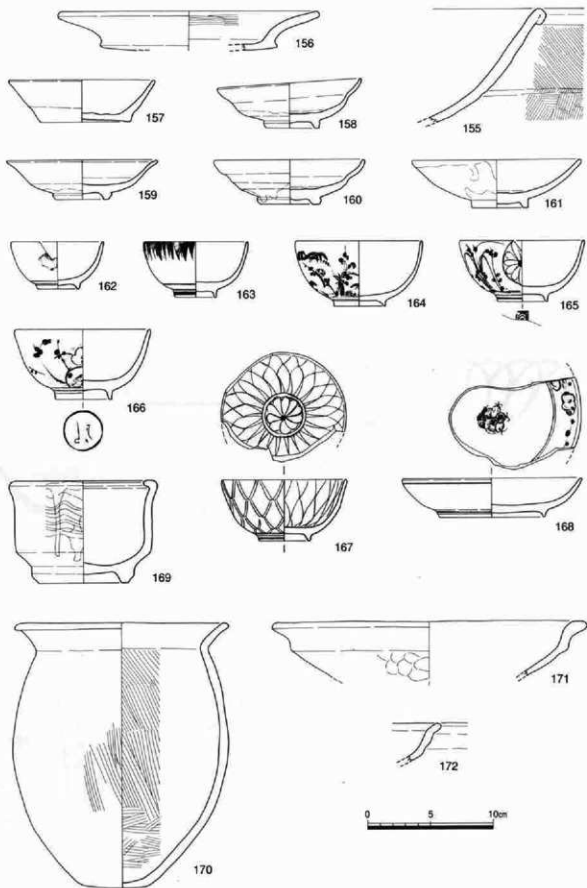


Fig.107 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図④ (1/3)

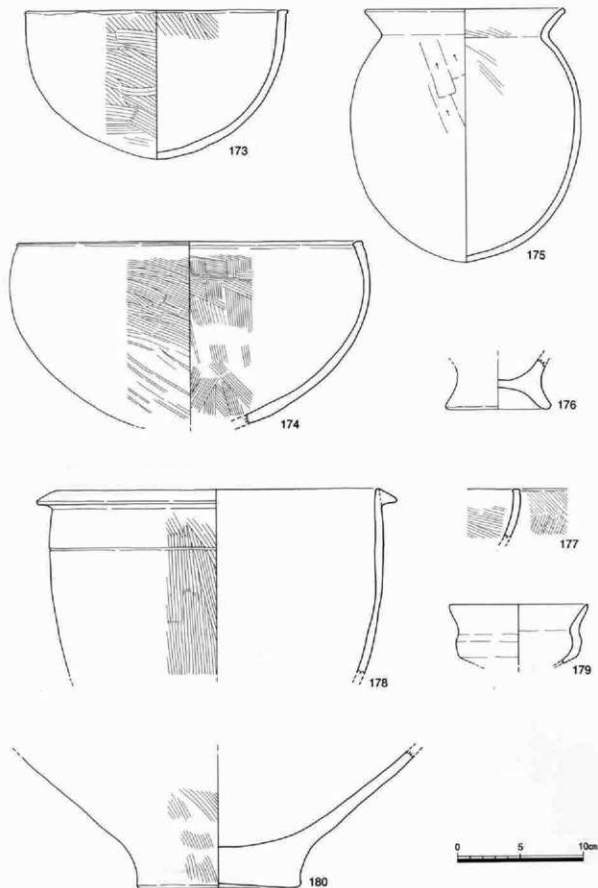


Fig.108 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図② (1/3)

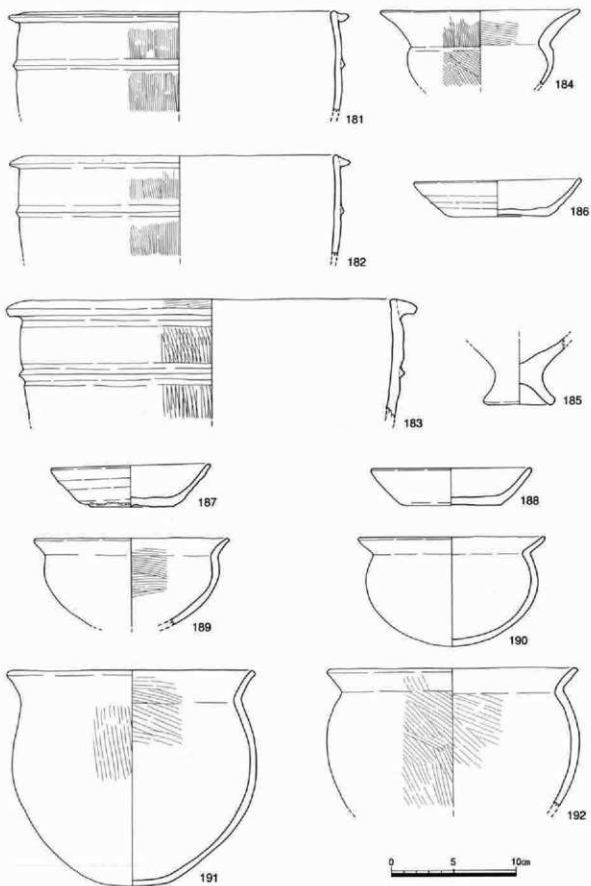


Fig.109 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図② (1/3)

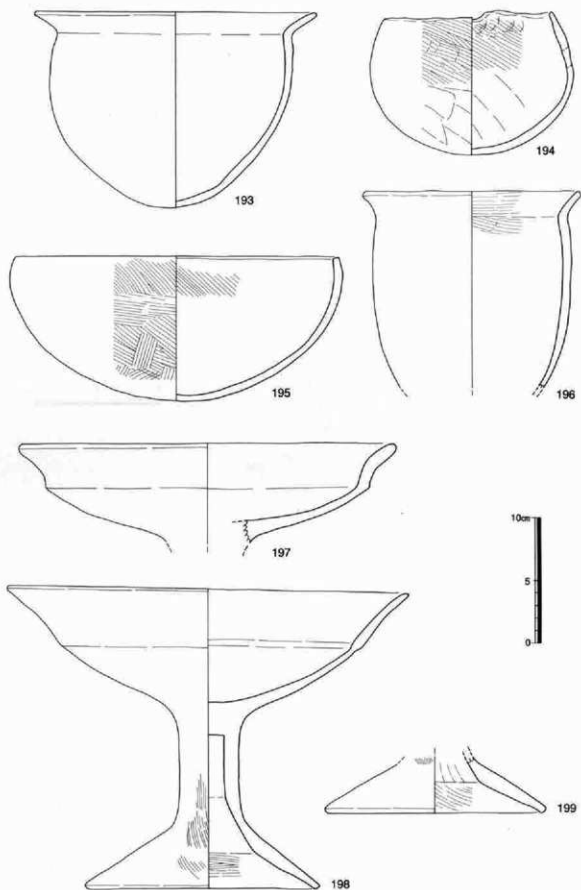


Fig.110 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図② (1/3)

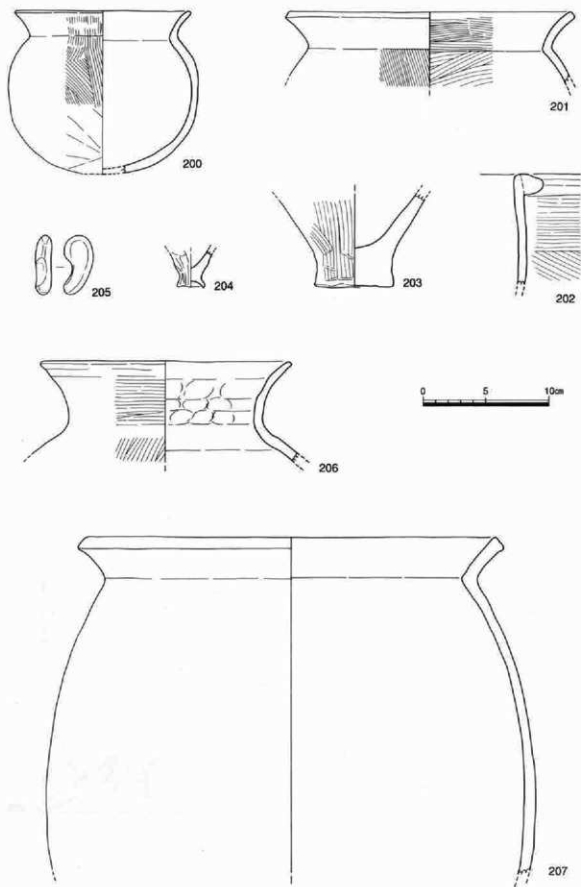


Fig.111 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図② (1/3)

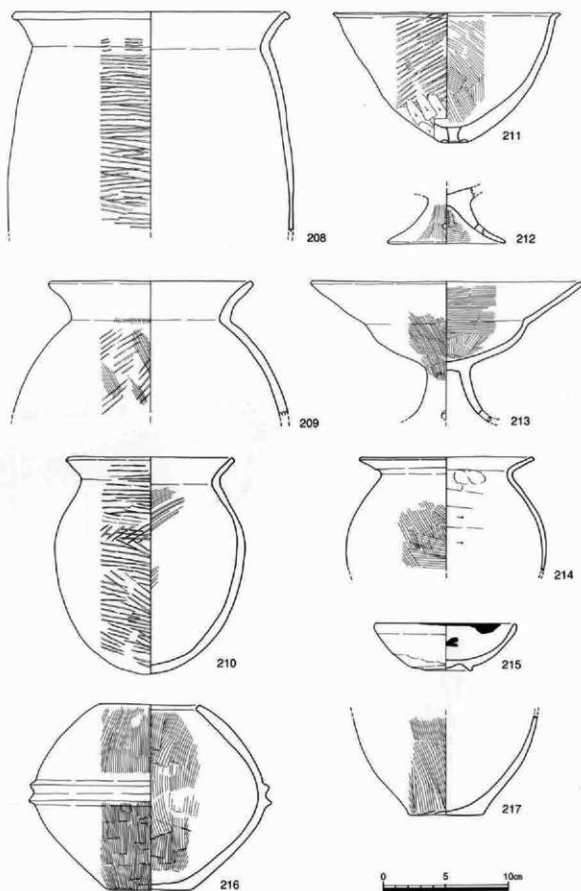


Fig.112 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑨（1/3）

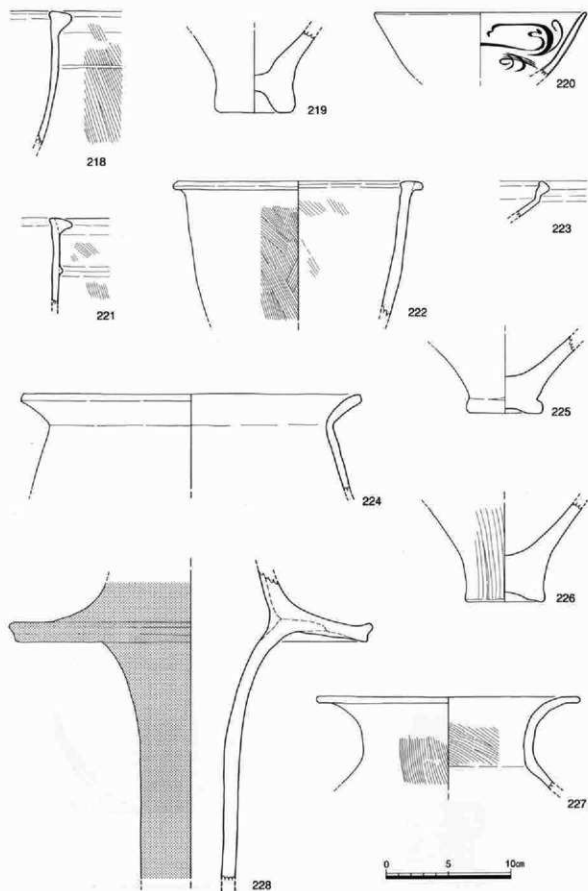


Fig.113 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑩（1/3）

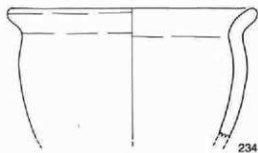
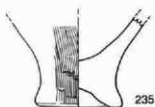
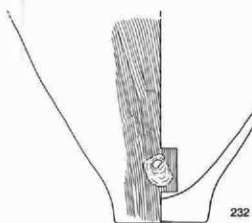
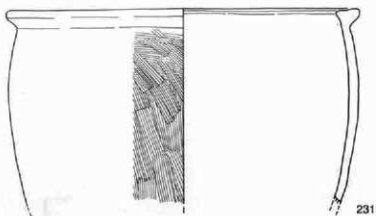
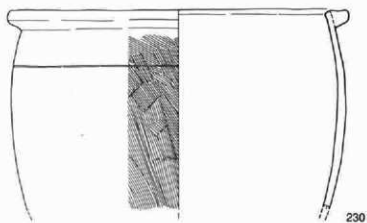


Fig.114 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図③ (1/3)

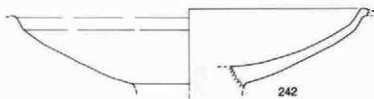
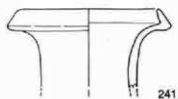
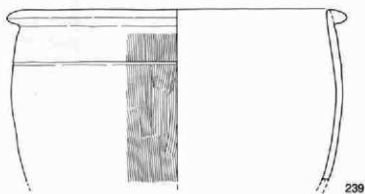
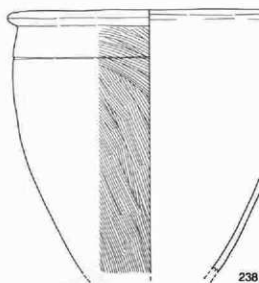
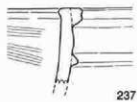
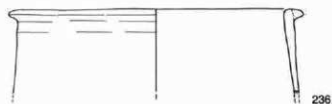
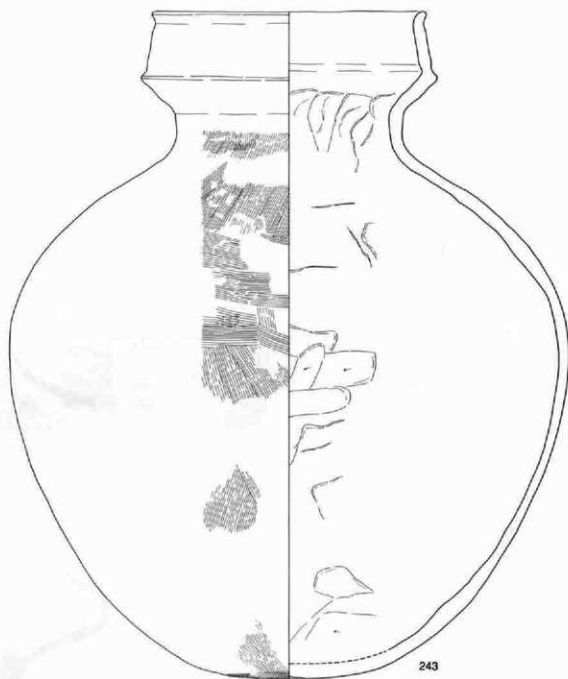


Fig.115 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㊸ (1/3)



0 5 10cm

Fig.116 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図③ (1/3)

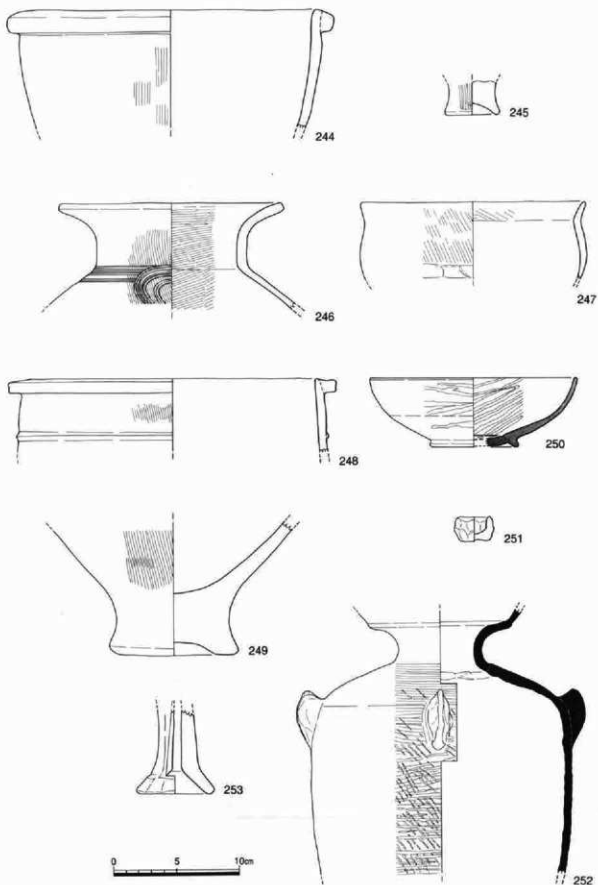


Fig.117 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図③ (1/3)

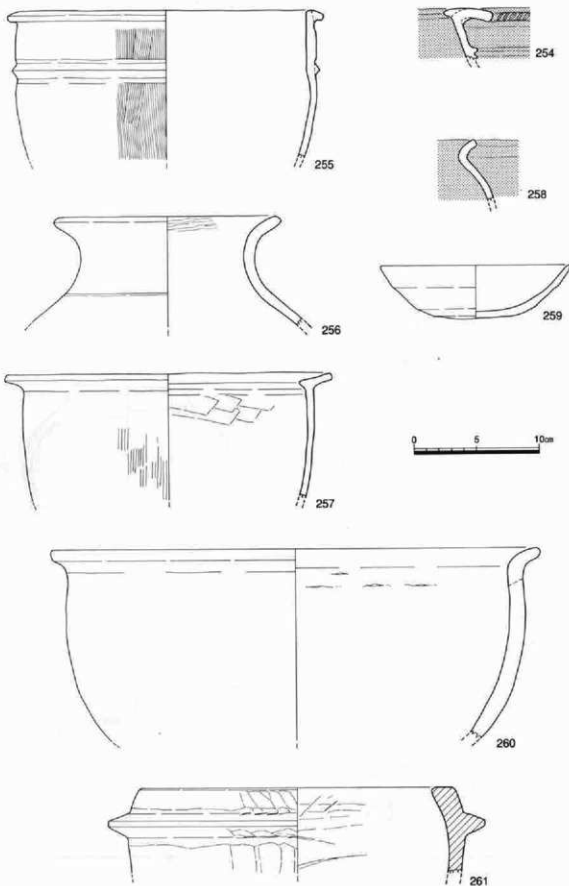


Fig.118 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㊦ (1/3)

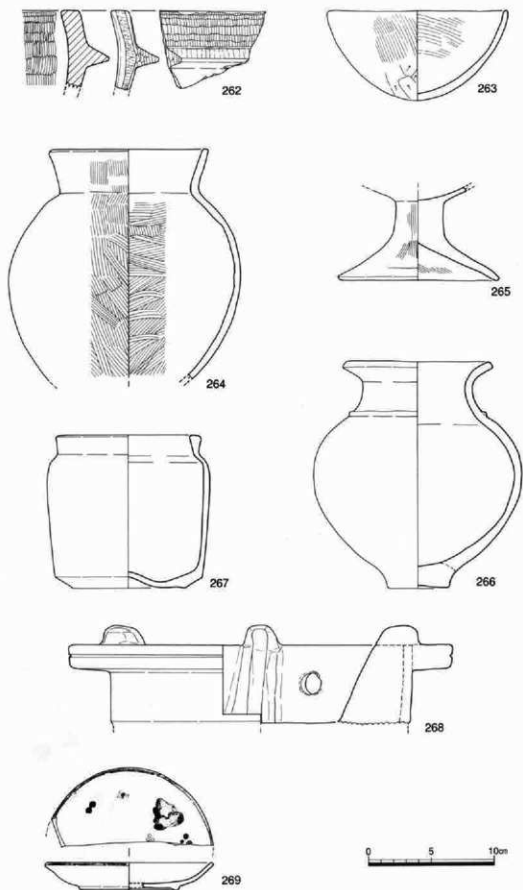
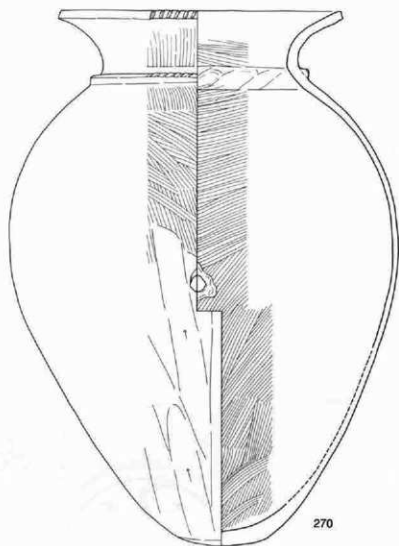
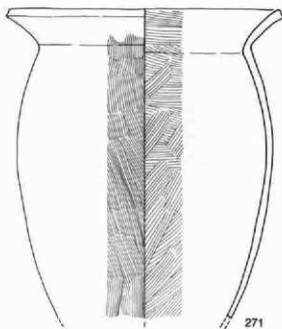


Fig.119 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑧ (1/3)



270



271

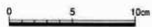


Fig.120 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㉞ (1/3)

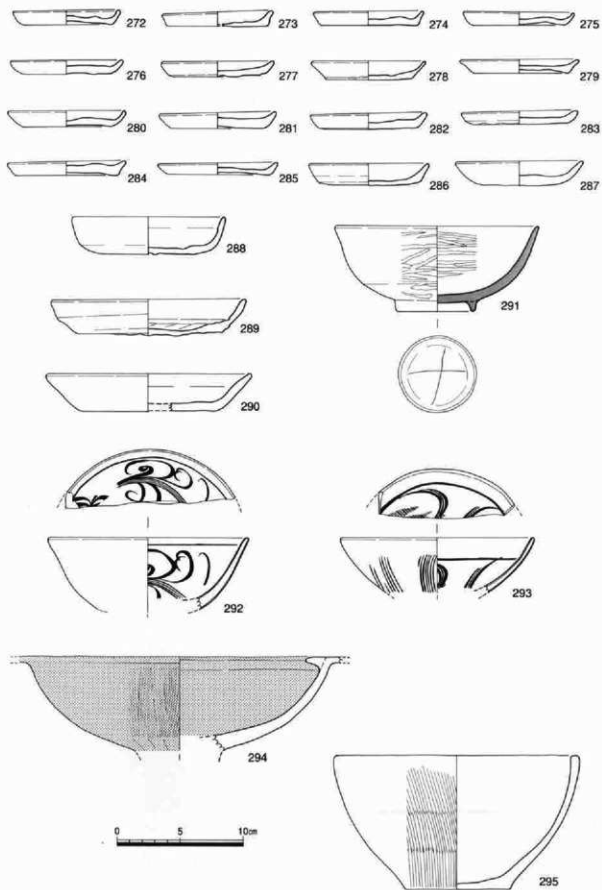


Fig.121 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑧ (1/3)

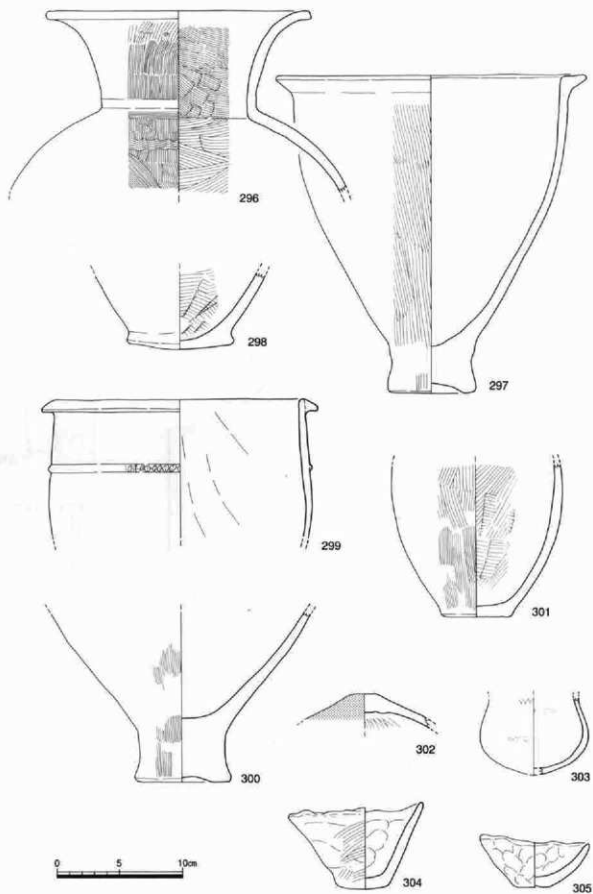


Fig.122 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図 (1/3)

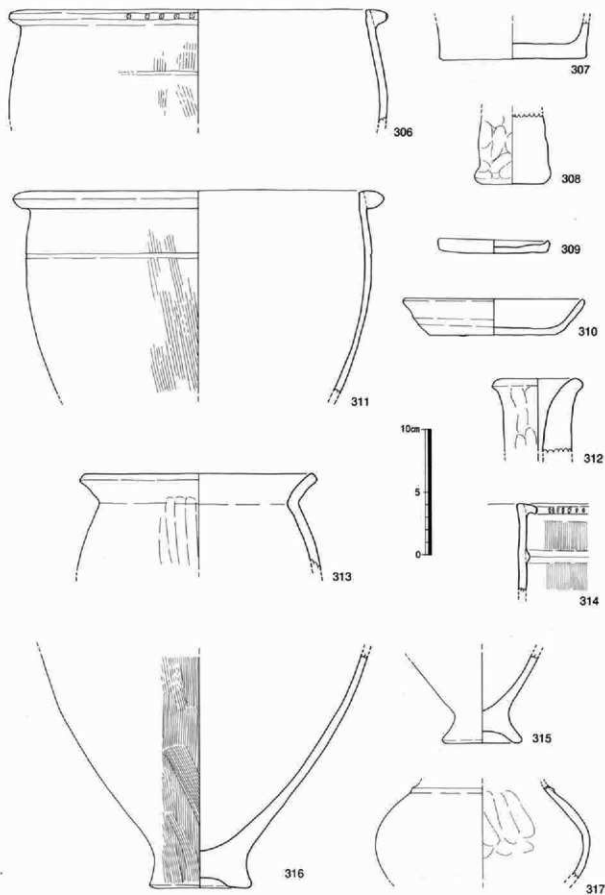


Fig.123 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図40 (1/3)

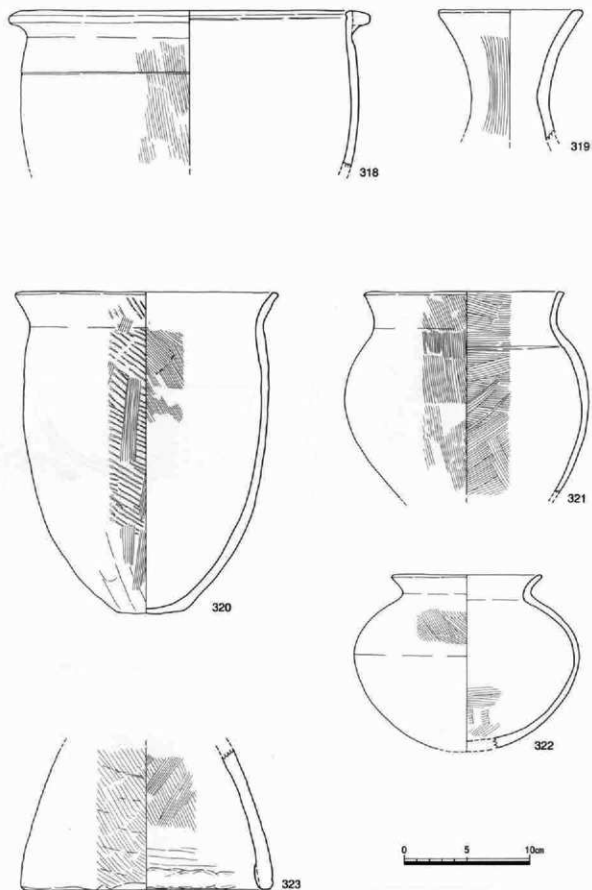


Fig.124 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図④ (1/3)

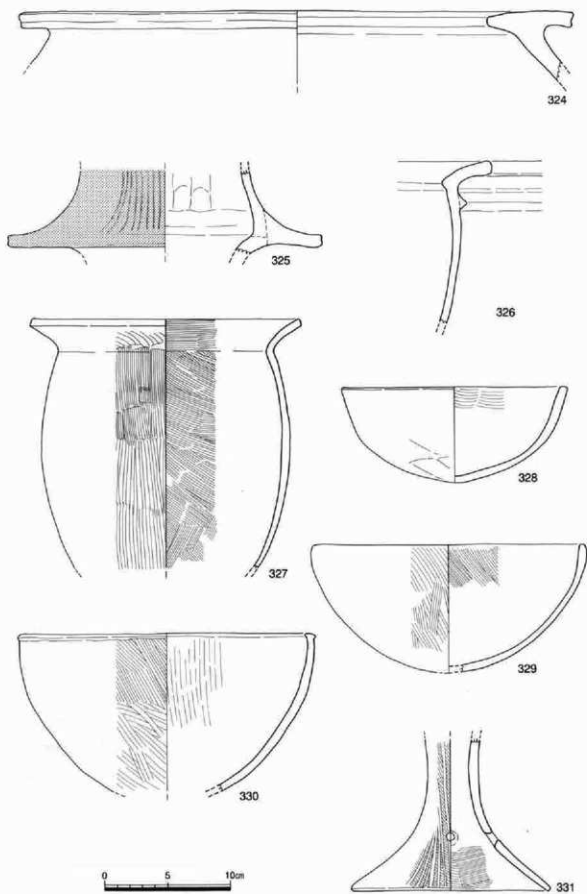


Fig.125 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図② (1/3)

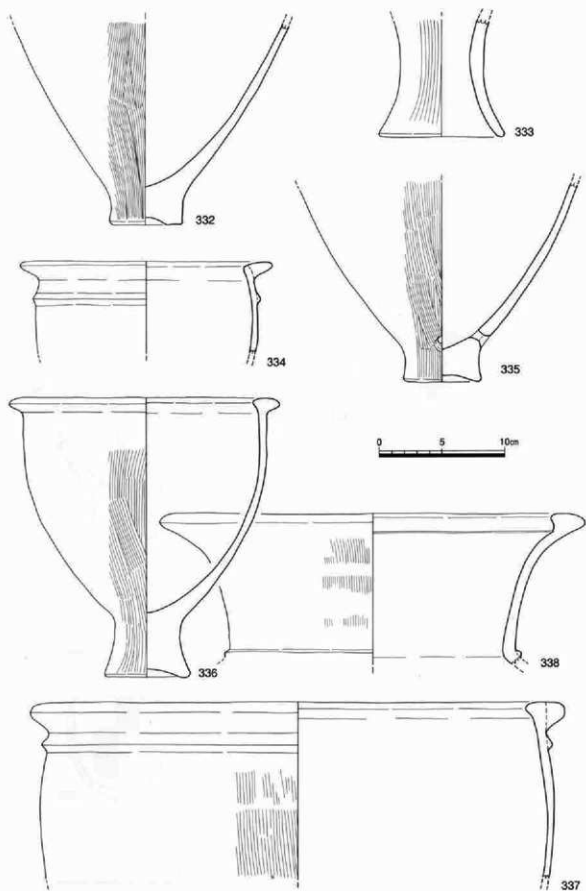


Fig.126 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図④ (1/3)

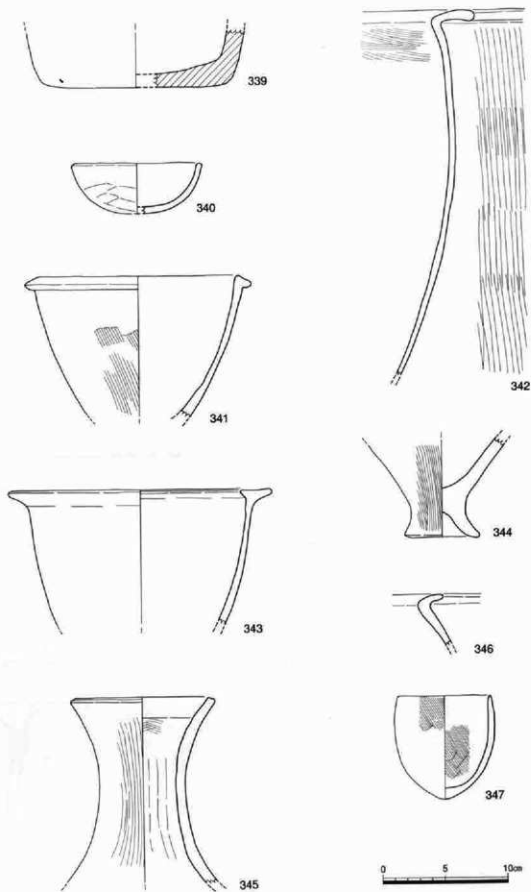
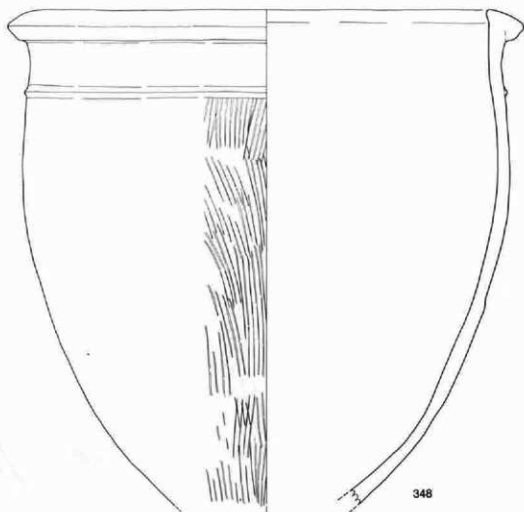
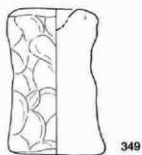


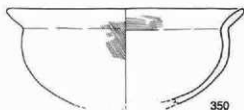
Fig.127 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図④ (1/3)



348



349



350



351



Fig.128 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図④ (1/3)

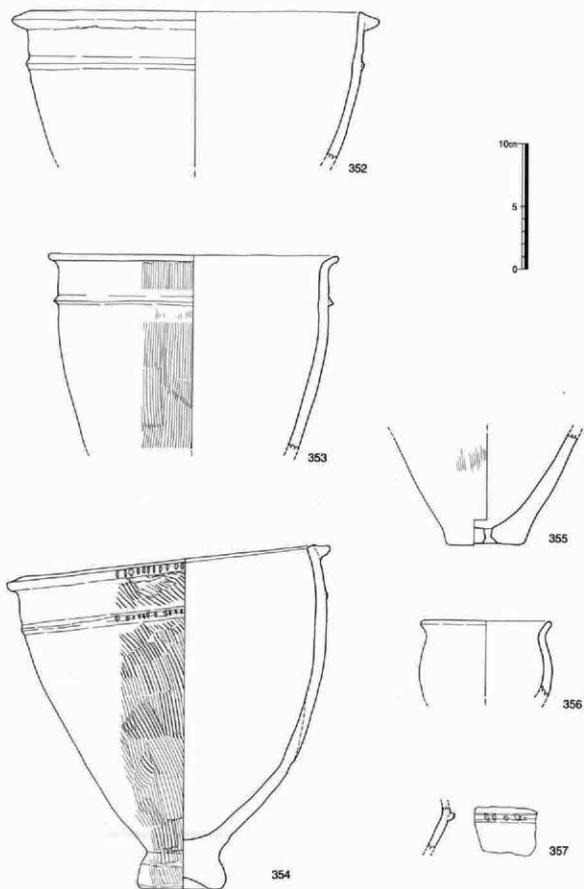


Fig.129 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図④ (1/3)

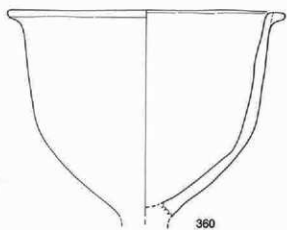
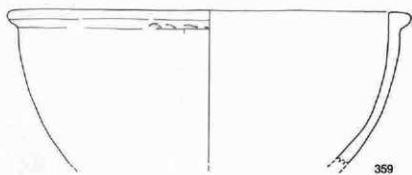
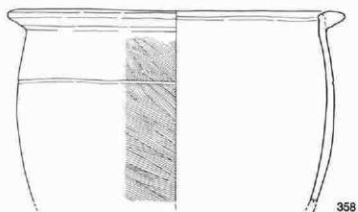


Fig.130 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図㉞ (1/3)

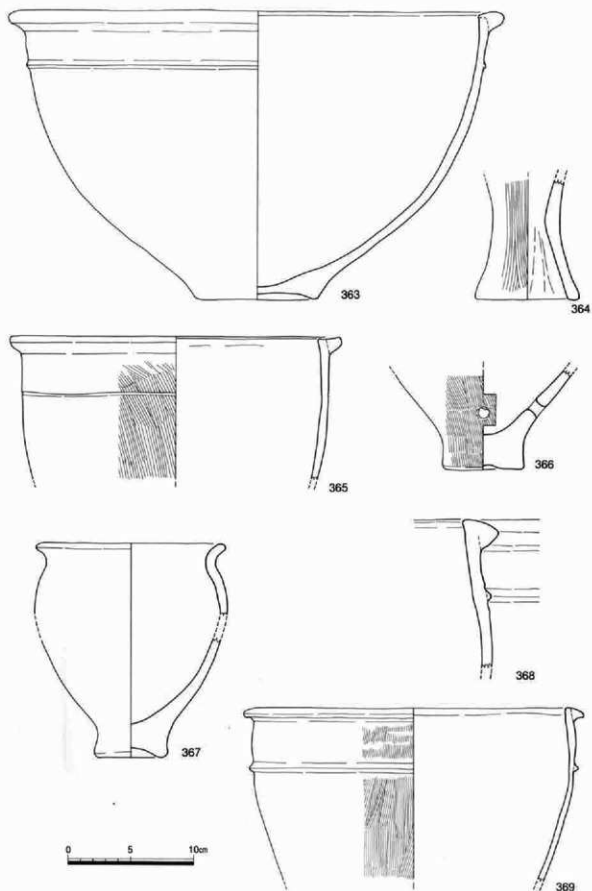


Fig.131 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊸（1/3）

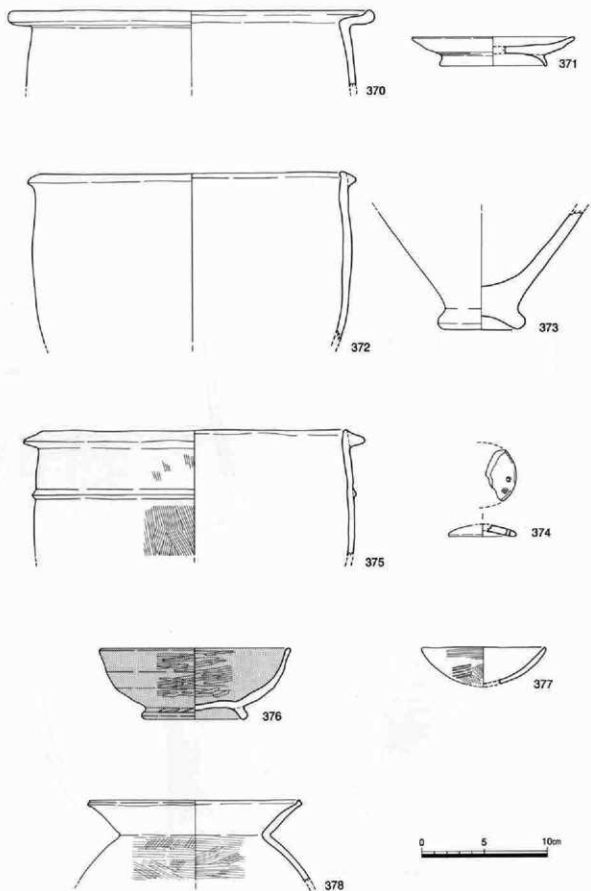


Fig.132 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑨ (1/3)

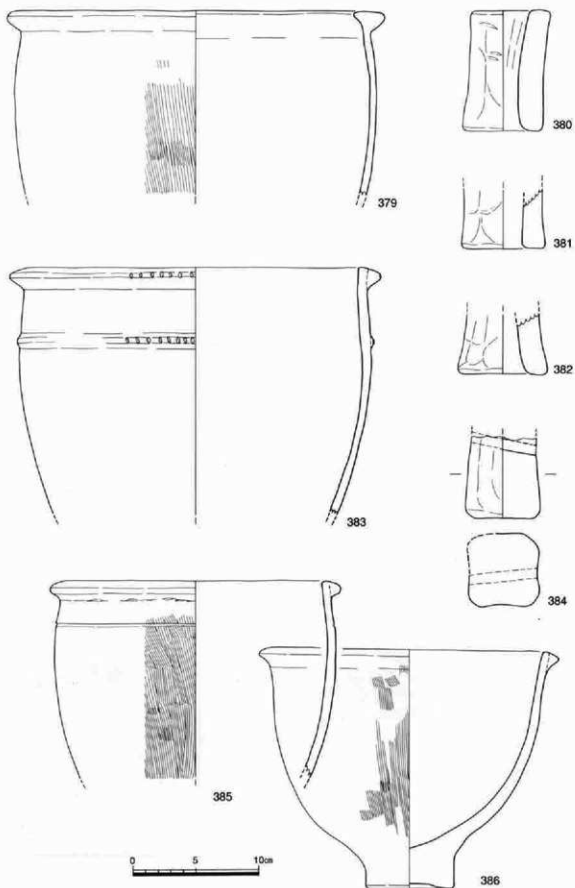


Fig.133 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑨ (1/3)

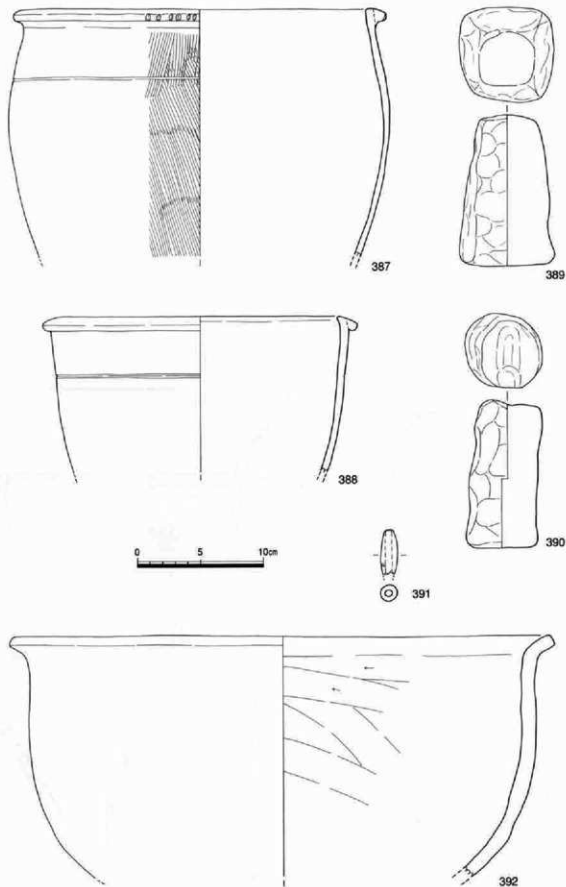


Fig.134 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑤（1/3）

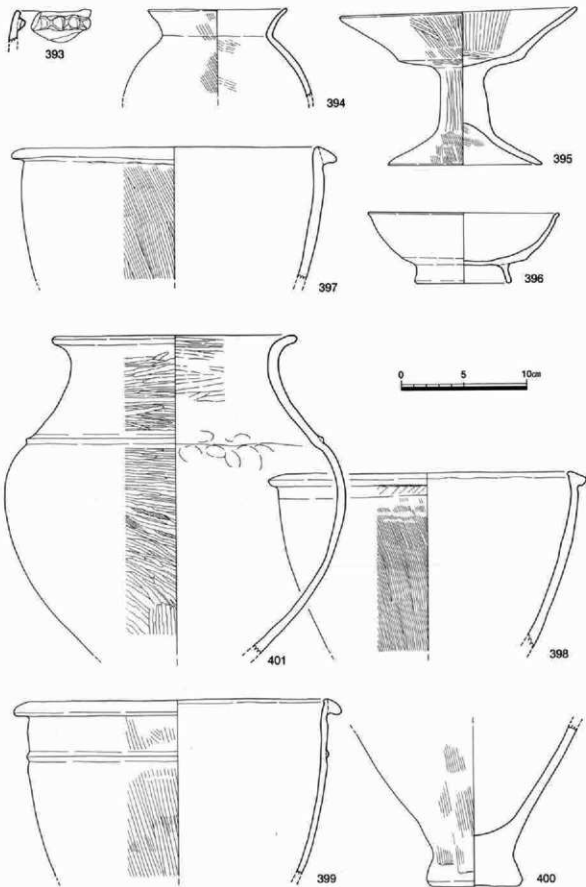


Fig.135 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図② (1/3)

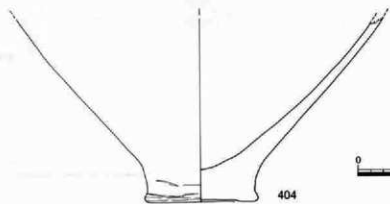
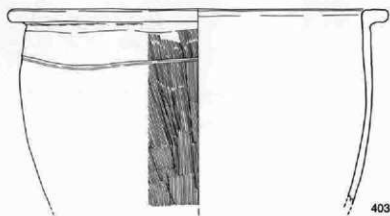
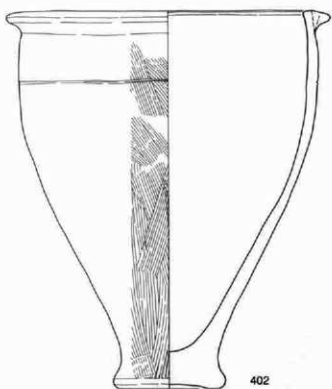


Fig.136 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑤ (1/3)

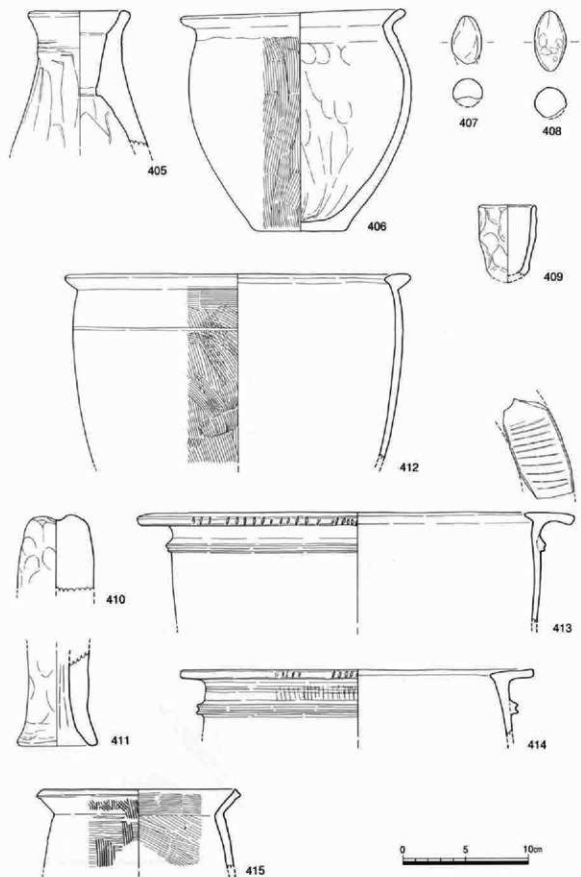


Fig.137 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図④ (1/3)

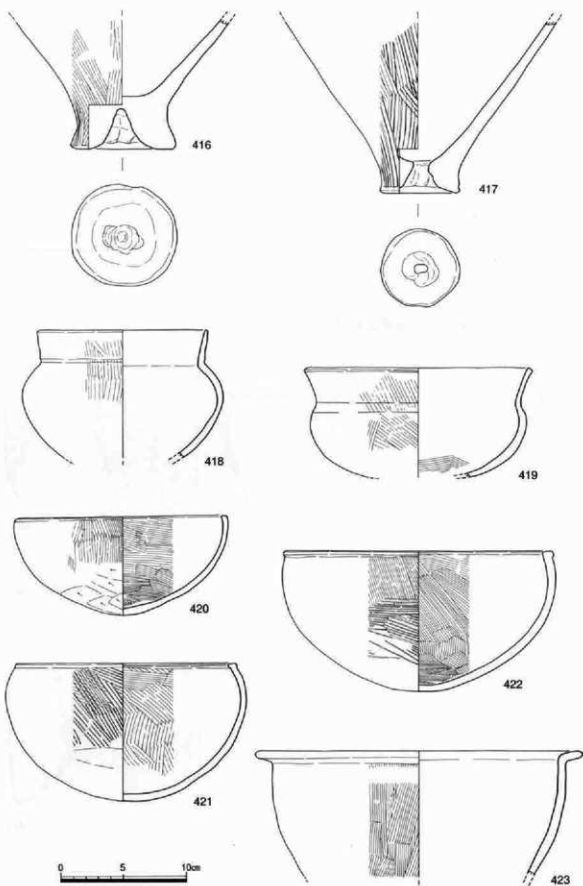


Fig.138 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑤ (1/3)

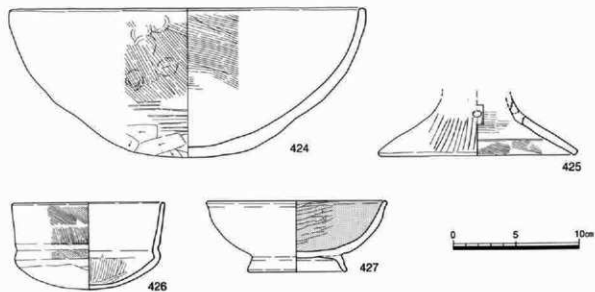


Fig.139 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑤ (1/3)

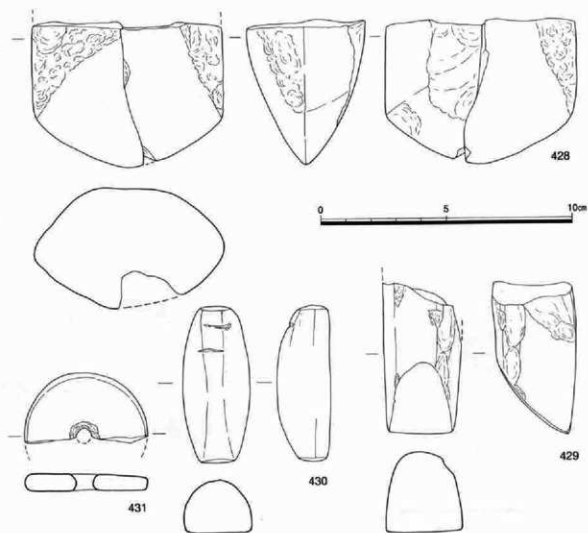


Fig.140 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物実測図⑤ (2/3)

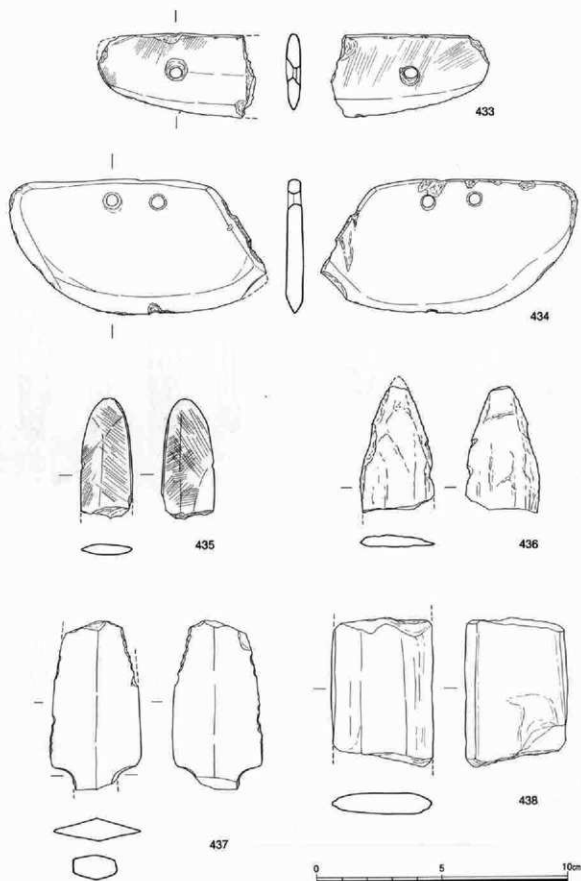


Fig.141 梅島遺跡 (第2次調査) 出土物実測図⑨ (2/3)

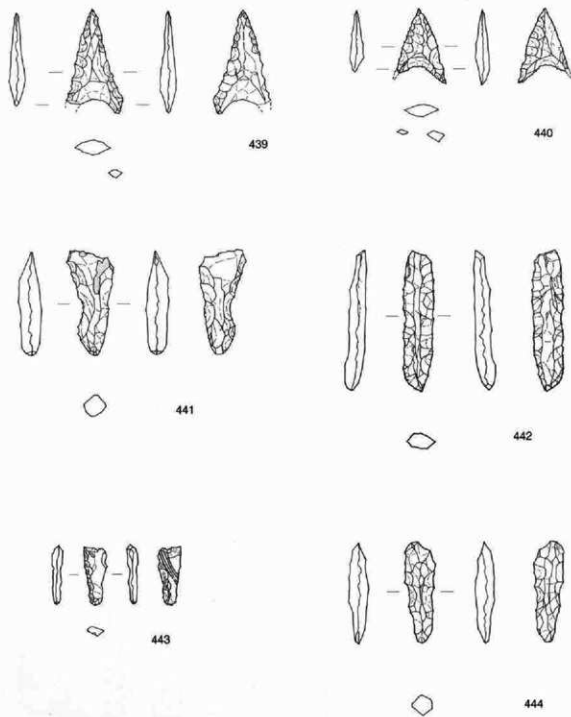


Fig.142 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑨（2/3）

No.	遺構番号	層位	種類	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外表面	色調	胎土	焼成	口縁部 形状	備考	R-No	
1	28K0008		衛生 甕		18.0				口縁部 1/6	横ナテ	刷毛			明茶褐色	砂粒多	ほぼ良	「く」の字 状		1	
2	28K0008		衛生 甕		11.2				口縁部 1/6	横ナテ	刷毛	ケズリ		明茶色	砂粒少	やや不良	袋状	底部に突帯1 条有	2	
3	28K0013		衛生 甕		12.6				上半部	横ナテ	刷毛	不明				良			3	
4	28K0052		土師 坏		14.1		9.5		ほぼ完成	横ナテ	刷毛	刷毛	刷毛			良好			4	
5	28K0060		衛生 甕		15.0				口縁部 1/8	横ナテ	ケズリ?	?		明茶色	砂粒少	やや良	「く」の字 状	口縁部に面 有	5	
6	28K0060		衛生 甕						口縁部 断片	横ナテ	?	ナテ		明茶色	砂粒多	やや良	「く」の字 状	口縁部に外 反する	6	
7	28K0060		衛生 甕		20.0				口縁部 1/3	横ナテ	刷毛	ナテ		黒茶色	砂粒多	良好	横ノ縁 タイプ		7	
8	28K0065		衛生 甕		6.2				底部のみ		刷毛	ナテ	ナテ	赤茶色	砂粒多	やや良		底部は上げ瓶 状	9	
9	28K0065		衛生 甕		8.2				底部のみ		刷毛	刷毛	ナテ	未調整	白茶色	砂粒多	不良		8	
10	28K0065		衛生 甕		5.7				底部のみ		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	灰黄色	砂粒多	不良	底部は上げ瓶 状	10	
11	28K0065		衛生 甕		27.0				口縁部 1/10	横ナテ				黄茶色	砂粒少	やや良	逆し字状 基部に面 有	基部の内面に 内側につまみだす 逆し字状	13	
12	28K0065		衛生 甕		29.2				口縁部 1/10	横ナテ				外周灰色 内周明茶色	砂粒少	良	逆し字状 基部に面 有	基部の内面に 内側につまみだす 逆し字状	14	
13	28K0065		衛生 甕		15.1				口縁部 1/3	横ナテ	刷毛	ナテ		白灰色	砂粒少	良	「く」の字 状	底部丹塗り	15	
14	28K0065		衛生 甕		6.3	5.0	18.6		ほぼ完成	横ナテ	刷毛	?	?	ナテ	白灰色	砂粒少	良	直立	底部に突帯1 条有	16
15	28K0065		衛生 高坏		24.0				口縁部 1/4	横ナテ				赤茶色	砂粒少	良	T字状	全面丹塗り	12	
16	28K0065		衛生 高坏		24.0				口縁部 1/6	横ナテ				明茶色	砂粒少	良	T字状	底部に面有	11	
17	28K0075		衛生 甕		16.4	4.0	30.9		ほぼ完成	横ナテ	刷毛 ケズリ	ケズリ	未調整	薄茶色	砂粒少	良	「く」の字 状		19	
18	28K0081		衛生 甕		17.6	10.2	22.0		1/2	横ナテ	刷毛	刷毛	未調整	白茶色	砂粒少	やや不良	「く」の字 状		21	
19	28K0081		衛生 甕		19.2				上半部 1/3	横ナテ	刷毛	刷毛		白茶色	砂粒多	やや不良	「く」の字 状		20	
20	28K0081		衛生 甕		37.9				口縁部 1/6	横ナテ	刷毛	刷毛		灰茶色	砂粒多	やや不良	「く」の字 状		22	
21	28K0087		衛生 甕		33.8		12.0		1/3	横ナテ	刷毛	絞り痕		茶色	砂粒少	良好	基部に面有		23	
22	28D0089		衛生 甕		36.2				口縁部 1/6	横ナテ		ナテ		赤褐色	砂粒少	良	逆し字状		28	
23	28D0089		衛生 甕		6.5				底部のみ		刷毛	ナテ	ナテ	未調整	薄茶色	砂粒多	良	逆し字状	26	
24	28D0089		衛生 甕						つまみだ すのみ		刷毛 シボリ			外周赤茶色 内周茶色	砂粒少	良		つまみだす上 面の調整はナテ	27	
25	28D0089		衛生 鉢		15.3	5.8	7.4		1/3	横ナテ	刷毛	ナテ	ナテ	?	明茶色一 部灰色	砂粒多	良	底面に面があ るが投でない	25	
26	28D0089		衛生 器台		13.0	14.6	19.5		ほぼ完成	横ナテ	刷毛 ナテ	ナテ	横ナテ	横ナテ	明茶色一 部灰色	砂粒少	良	外反 基部に面有	24	
27	28K0099		衛生 甕		15.8				口縁部 1/3	横ナテ	刷毛	刷毛		灰色	砂粒多	不良	「く」の字 状	底部の面に粗 み目有	30	
28	28K0099		衛生 甕		17.6				口縁部 1/3	横ナテ	刷毛	刷毛		淡茶色	砂粒多	良	外反	底部は上げ瓶 状	29	
29	28D0100		衛生 甕		8.5				底部のみ		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	外周茶色 内周白茶色	砂粒多	やや良	底部は上げ瓶 状	31	
30	28K0108		衛生 甕		6.9				底部のみ		刷毛	不明	不明	不明	外周茶色 内周灰色	砂粒多	やや不良	底部外面に貼 付突帯1条有	32	
31	28K0108		衛生 甕		27.8				口縁部 1/3	横ナテ	刷毛	ナテ		薄明茶色	砂粒少	良	横ノ縁 タイプ	底部外面に貼 付突帯1条有	33	
32	28K0109		衛生 甕		21.1				約1/4	横ナテ	ナテ	ナテ		明茶色	砂粒多	やや良	外反		34	
33	28K0123		衛生 甕		25.8				口縁部 1/8	横ナテ	刷毛	刷毛		淡赤褐色	砂粒多	良	「く」の字 状	2次焼成を受 ける	36	
34	28K0123		衛生 甕						上半部		刷毛	ナテ		暗茶色	砂粒多	ほぼ良		底部径は8.6cm	35	
35	28K0125		衛生 小甕		5.2				口縁部 1/3	横ナテ	刷毛	ナテ		淡赤褐色	砂粒多	良	わずかに 外反	口縁部に面 有	37	
36	28K0131		衛生 鉢		13.0				口縁部 1/8					暗褐色	砂粒多	ほぼ良	わずかに 内湾		38	
37	28K0131		土師 高坏		9.0	6.8	6.4		1/3	手づく ね成形	手づく ね成形	手づく ね成形	手づく ね成形	手づく ね成形	暗褐色	精良	ほぼ良	わずかに 内湾		39
38	28K0147		黒II 瓶		15.0				口縁部 1/6	横方向 脱脂き	横方向 脱脂き	横方向 脱脂き	横方向 脱脂き	同転直 切り	外周灰色 外反茶褐色	精良	良好	外反		46
39	28K0147		黒II 瓶		8.4				底部 1/3	横方向 脱脂き	横方向 脱脂き	横方向 脱脂き	横方向 脱脂き	同転直 切り	黒褐色	精良	良好	外反		48
40	28K0147		黒II 瓶		11.4	6.8	4.8		ほぼ完成	横方向 脱脂き	横方向 脱脂き	横方向 脱脂き	横方向 脱脂き	同転直 切り	黒色	精良	良好	外反		47

Tab.12 梅島遺跡(第2次調査)出土遺物観察表①

No.	遺跡番号	層位	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	口縁部	外面	体内部	内面	外面	色調	胎土	焼成	口縁部 形状	備考	R-No.	
41	28K0147	土層	皿	皿	10.4	7.3	2.0	ほぼ定形	横ナテ	横ナテ	横ナテ	ナテ	回転跳切	明赤褐色	精良	良好	わずかに内湾		40	
42	28K0147	土層	皿	皿	10.5	7.0	2.2	完全	横ナテ	横ナテ	ナテ	ナテ	回転跳切	淡茶褐色	はば精良	良好	わずかに外反	外面に粘土が 内付している	41	
43	28K0149	弥生 Ⅱ	甕	甕	4.2			底部のみ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	淡灰褐色	精良	良好			49		
44	28K0150	弥生 Ⅱ	甕	甕	10.6			下部	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	砂粒多	良			50		
45	28K0160	上層	弥生 Ⅲ	鉢	14.0	5.0	6.0	完全	横ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	砂粒多	良	内湾		52		
46	28K0160	上層	弥生 Ⅲ	鉢	11.7	13.2	14.1	ほぼ定形	横ナテ	刷毛	刷毛	横ナテ	横ナテ	淡灰褐色	砂粒少	ほぼ良	外反 口縁部に歪み	底面は面は 接触しない	53	
47	28K0160	上層	弥生 Ⅲ	甕	26.8	10.4	27.0	ほぼ定形	横ナテ	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	茶褐色	砂粒多	やや不良	深い「く」 の字状		54	
48	28K0160	上層	弥生 Ⅲ	甕	26.8	7.8	24.8	ほぼ定形	横ナテ	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	細砂粒含	良	深い「く」 の字状		58	
49	28K0160	上層	弥生 Ⅲ	甕	33.6	8.6	34.1	ほぼ定形	横ナテ	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	砂粒少	ほぼ良	深い「く」 の字状		63	
50	28K0160	上層	弥生 Ⅲ	甕	27.6	10.3	25.4	ほぼ定形	横ナテ	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	茶褐色	砂粒含	やや不良	深い「く」 の字状		59	
51	28K0160	上層	弥生 Ⅲ	甕	35.4	9.0	34.6	ほぼ定形	横ナテ	刷毛	粗い 刷毛	ナテ	ナテ	淡茶褐色	砂粒少	やや不良	深い「く」 の字状		61	
52	28K0160	上層	弥生 Ⅲ	甕	27.0	11.5	26.0	2/3	横ナテ	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	細砂粒多	良	深い「く」 の字状		60	
53	28K0160	上層	弥生 Ⅲ	甕	36.0			上半部 1/3	横ナテ	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	明茶褐色	砂粒少	ほぼ良	「く」の字状 に歪み1条有		62	
54	28K0160	上層	弥生 Ⅲ	甕	26.5	7.5	27.5	3/4	横ナテ	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	茶褐色	砂粒多	良	深い「く」 の字状		57	
55	28K0160	上層	弥生 Ⅲ	甕	34.0			口縁部 1/3	横ナテ	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	茶褐色	砂粒 やや多	やや不良	深い「く」 の字状		35	
56	28K0160	上層	土師?	甕	32.0			口縁部 2/3	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	淡乳褐色	砂粒 やや多	良	横くびらく		64		
57	28K0160	上層	弥生 Ⅲ	甕	26.0			口縁部 1/4	横ナテ	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	茶褐色	砂粒多	ほぼ良	城ノ越 タイプ	体部外面上位 に沈線1条有	56	
58	28K0160	下層	弥生 Ⅲ	甕	6.5			下部	粗く 研磨	ナテ	ナテ	ナテ	乳褐色	精良	良		外面内湾	51		
59	28K0170	弥生?	坏	坏	18.0		8.0	1/6	不明	刷毛	刷毛	刷毛	不明	明赤褐色	砂粒多	良	横く外反		65	
60	28K0170	弥生 Ⅲ	甕	甕				口縁部 細片	横ナテ	横ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	淡赤褐色	砂粒多	やや不良	城ノ越 タイプ	体部外面上位 に歪み1条有	68	
61	28K0170	弥生 Ⅲ	甕	甕	21.2		33.9	ほぼ定形	横ナテ	刷毛	刷毛	刷毛	刷毛	赤褐色	砂粒多	良好	外反 口縁部に歪み 1条有		70	
62	28K0170	弥生 Ⅲ	甕	甕	17.6	4.0	24.7	ほぼ定形	横ナテ	刷毛	刷毛	ナテ	ナテ	茶褐色	砂粒少	良	「く」の 字状		69	
63	28K0170	弥生 Ⅲ	甕	甕	6.6			底部 1/2	横ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	砂粒少	ほぼ良			66	
64	28K0170	弥生 Ⅲ	甕	甕	30.0			口縁部 1/6	横ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	淡赤褐色	砂粒多	良	外反		67	
65	28K0170	弥生 Ⅲ	甕	甕	7.2			底部のみ	刷毛 ナテ	刷毛	刷毛	刷毛	乳褐色	砂粒少	ほぼ良				71	
66	28K0180	弥生 Ⅲ	甕	甕	18.0	9.0	25.5	ほぼ定形	横ナテ	刷毛	不明	不明	不明	暗茶褐色	砂粒多	良	外反 口縁部に歪み 1条有	底部に沈線又 横線有	76	
67	28K0171	土師 Ⅲ	皿	皿	10.6	7.6	1.8	口縁部 1/8	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	明赤褐色	精良	良	わずかに 内湾		72	
68	28X0171	黒 Ⅲ	甕	甕	9.0			底部	底割き 跳割り	底割き 跳割り	底割き 跳割り	底割き 跳割り	底割き 跳割り	底割き 跳割り	底割き 跳割り	底割き 跳割り	底割き 跳割り	底割き 跳割り	底割き 跳割り	73
69	28K0179	A7 高坪	甕	甕			17.2	新底部 1/8	刷毛 ナテ	刷毛	横ナテ	横ナテ	横ナテ	暗茶褐色	砂粒少	ほぼ良		底部の面は 接触しない	75	
70	28K0179	弥生 Ⅲ	甕	甕				口縁部 細片	横ナテ	不明	ナテ	ナテ	ナテ	暗茶褐色	砂粒多	やや不良	城ノ越 タイプ		74	
71	28X0181	弥生 Ⅲ	鉢	鉢	11.0			口縁部 1/8	横ナテ	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	刷毛	砂粒少	良	内湾	口縁下外面に 沈線1条有	77	
72	28K0184	弥生 Ⅲ	坏	坏	13.0	7.6	3.2	1/6	横ナテ	不明	横ナテ	横ナテ	横ナテ	淡茶褐色	精良	やや不良	わずかに 外反		78	
73	28K0184	土師 Ⅲ	鉢	鉢	13.0			1/6	横ナテ	跳割り	不明	不明	不明	内面赤褐色 外反跳割り	砂粒少	やや不良	わずかに 外反		79	
74	28K0185	黒A Ⅲ	甕	甕	7.1			底部のみ	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	赤褐色	砂粒多	ほぼ良			81	
75	28K0185	弥生 Ⅲ	甕	甕	27.0			口縁部 1/6	横ナテ	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	明赤褐色	砂粒多	良	城ノ越 タイプ	体部上位外面 に沈線1条有	80	
76	28K0190	弥生 Ⅲ	甕	甕	11.4	6.3	10.3	2/3	横ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	茶褐色	砂粒少	良	丁字状	体部上位 に沈線1条有	82	
77	28K0190	弥生 Ⅲ	甕	甕	24.0			上半部 1/4	横ナテ	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	暗褐色	砂粒少	良	城ノ越 タイプ		84	
78	28X0190	弥生 Ⅲ	甕	甕	5.8			底部のみ	横毛	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	細砂粒含	良			83	
79	28X0190	弥生 Ⅲ	甕	甕	29.0	5.7	36.0	ほぼ定形	不明	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	茶褐色	砂粒多	不良	城ノ越 タイプ		85	
80	28X0191	弥生 Ⅲ	甕	甕	27.6			2/3	横ナテ	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	茶褐色	砂粒多	ほぼ良	城ノ越 タイプ	体部上位外面 に沈線1条有	86	

Tab.13 梅島遺跡 (第2次調査) 出土土物観察表②

No.	遺構番号	層位	種別	形状	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部 形状	備考	R-Nb
81	28K0192		弥生 甕		34.0				口縁部 1/8	横ナテ	刷毛	ナテ		乳褐色	砂粒含	不良	城ノ越 タイプ	胴部断面に45度 削り出しあり	89
82	28K0191		弥生 甕		6.8				底部のみ	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	茶褐色	砂粒含む	良		底部は上げ残 状	91
83	28K0192		弥生 甕		7.0				底部のみ	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	茶褐色	砂粒含む	はば良		上面と下面は くぼむ	93
84	28K0192		弥生 支脚		5.0	6.1	9.2	定形	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	砂粒少	良		上面と下面は くぼむ	94
85	28K0192		弥生 支脚		5.5	6.3	9.2	定形	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	砂粒少	良		上面と下面は くぼむ	94
86	28K0192		弥生 甕		23.0				口縁部 1/8	横ナテ	刷毛	ナテ		茶褐色	砂粒多	良	城ノ越 タイプ		88
87	28K0192		弥生 甕		27.2				上半部 1/4	横ナテ	刷毛	ナテ		茶褐色	細砂粒多	良	城ノ越 タイプ	体底上位外面 に沈積土あり	87
88	28K0192		弥生 甕		33.0				口縁部 1/6	横ナテ	刷毛	ナテ		暗茶褐色	砂粒多	良	城ノ越 タイプ	体部外面に突 出土あり	90
89	28K0193		弥生 甕		16.0				上半部 1/5	不明	不明	不明		淡灰褐色	細砂粒含	良	「く」の 字状		95
90	28K0194		弥生 甕						断片		刷毛	ナテ		暗茶褐色	細砂粒含	良		体部内面に線 彫有	96
91	28K0198		弥生 甕		15.0				上半部 1/4	横ナテ	刷毛	刷毛		淡茶褐色	砂粒少	良	「く」の 字状		97
92	28K0201		弥生 甕						断片	横ナテ	刷毛	ナテ		淡茶褐色	砂粒少	良	城ノ越 タイプ	体底上位外面 に沈積土あり	98
93	28K0205		弥生 甕						断片	横ナテ	横ナテ	ナテ		淡茶褐色	砂粒少	はば良	T字状 基部に突出		99
94	28K0206		弥生 甕		4.5	6.2	12.5	ほぼ定形	横ナテ	刷毛	不明	不明	ナテ	淡灰褐色	砂粒少	はば良	わずかに 内湾		100
95	28K0206		弥生 甕		9.0				1/2	横ナテ	刷毛	刷毛	ナテ	茶褐色	砂粒少	はば良	直立		101
96	28K0206		弥生 甕						口縁部 断片	横ナテ	刷毛	刷毛		淡黄褐色	砂粒少	良	「く」の 字状	胴部に突起1 あり	102
97	28K0207		弥生 甕		25.2	8.0	28.1	ほぼ定形	横ナテ	ナテ 刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	暗褐色	砂粒多	はば良	城ノ越 タイプ	体底上位外面 に沈積土あり	104
98	28K0207		弥生 甕		26.6				上半部 1/2	横ナテ	刷毛	ナテ		茶褐色	砂粒多	はば良	城ノ越 タイプ	体底上位外面に 凹凸あり	105
99	28K0207		弥生 甕		7.0				1/5	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	赤褐色	砂粒多	良			103
100	28K0210		弥生 甕		13.6				口縁部 1/4	横ナテ	刷毛	刷毛		淡茶褐色	砂粒少	やや不良	直立	口縁部断面に 面有	116
101	28K0210		弥生 甕		18.0				口縁部 1/4	横ナテ	刷毛	刷毛		赤褐色	砂粒少	良	横「く」の 字状	口縁部断面に 面有	114
102	28K0210		弥生 甕		22.0				口縁部 1/4	横ナテ	筒形ナテ	刷毛		淡灰褐色	砂粒多	不良	「く」の 字状	口縁部断面に 面有	115
103	28K0210		弥生 甕		17.2	4.5	33.5	ほぼ定形	横ナテ	刷毛 ナテ	刷毛	刷毛	ナテ	茶褐色	細砂粒含	良	ほぼ直立	口縁部断面に 面有	113
104	28K0210		土層 土師 環		9.4	5.3		定形	横ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	茶褐色	砂粒少	はば良	わずかに 内湾	口縁部断面に 面有	108
105	28K0210		土層 土師 環		10.7	4.5		定形	横ナテ	刷毛	刷毛	刷毛	不明	淡赤褐色	砂粒少	やや不良	わずかに 内湾	口縁部断面に 面有	106
106	28K0210		土層 土師 環		12.8	5.8		ほぼ定形	横ナテ	筒形ナテ	ナテ	ナテ	筒形ナテ	淡茶褐色	砂粒少	やや不良	わずかに 内湾	口縁部断面に 面有	107
107	28K0210		土層 弥生 鉢		19.5				口縁部 のみ	横ナテ	刷毛	横ナテ		暗褐色	砂粒少	良	「く」の 字状		111
108	28K0210		土層 土師 鉢		15.6				1/3	横ナテ	不明	ナテ		淡茶褐色	精良	良	ほぼ直立		112
109	28K0210		土層 弥生 甕?		16.1		34.1	ほぼ定形	横ナテ	刷毛	刷毛	刷毛	ナテ	暗褐色	砂粒含	良好	筒形 基部に面有	口縁部断面に 面有	438
110	28K0210		土層 弥生 甕		20.0				上半部	横ナテ	刷毛	刷毛		淡茶褐色	砂粒少	良		口縁部断面に 面有	110
111	28K0210		土層 土師 高坏		11.2				胴部のみ		不明	不明	不明	淡茶褐色	砂粒少	良	ゆるやかに 外反		109
112	28K0210		土層 弥生 甕						口縁部 断片	横ナテ	不明 刷毛			淡灰褐色	細砂粒含	良好	「く」の 字状	胴部に凸形突 出あり	437
113	28K0210		下層 弥生 甕		14.3				底部欠損	横ナテ	刷毛	刷毛	刷毛	淡茶褐色	砂粒多	はば良	外反 基部に面有	口縁部断面に 面有	130
114	28K0210		下層 弥生 甕		20.5				上半部	横ナテ	刷毛	刷毛		赤褐色	砂粒少	良	外反 基部に面有	胴部は直立する	126
115	28K0210		下層 弥生 甕		20.5			2/3	横ナテ	刷毛	刷毛			茶褐色	砂粒少	はば良	ほぼ直立	胴部は直立する	125
116	28K0210		下層 弥生 鉢		14.8			1/2	横ナテ	不明	ナテ			淡褐色	砂粒含	良好	横ノ外反		439
117	28K0210		下層 弥生 鉢		11.0				上半部	横ナテ	刷毛	刷毛		茶褐色	砂粒少	良			117
118	28K0210		下層 弥生 高坏		14.8				胴部のみ	不明	不明	不明	不明	淡赤褐色	精良	良		3ヶ所深凹 胴部 断面に面有	119
119	28K0210		下層 弥生 高坏		11.4				胴部のみ	刷毛	刷毛	横ナテ	横ナテ	明赤褐色	精良	良		3ヶ所に等孔 化粒土を施す	118
120	28K0210		下層 弥生 器台		14.4	18.0	20.0	1/2	横ナテ	刷毛 叩き	刷毛 ナテ	刷毛	叩き	明茶褐色	砂粒少	良	内側に施 地しない		121

Tab.14 梅島遺跡(第2次調査)出土遺物観察表③

No.	遺構番号	層位	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存	口縁部	体外面	体内部	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部 形状	備考	頁No	
121	28K0210	下層	弥生	器台	14.0				口縁部のみ 横ナテ	刷毛 叩き	刷毛 ナテ			褐色褐色	砂粒少	ほぼ良	口縁部に 強く 屈曲		123	
122	28K0210	下層	弥生	器台		18.0		1/2		刷毛 叩き	刷毛 ナテ	刷毛	叩き	褐色褐色	砂粒少	ほぼ良		底面部分は 脱地しない	122	
123	28K0210	下層	弥生	器台	14.4	30.0	17.6	1/2	横ナテ	刷毛 叩き	刷毛 ナテ	刷毛	叩き	褐色褐色	砂粒少	ほぼ良	内側に強く 屈曲	内面部分は ほぼ脱地する	124	
124	28K0217		弥生	鉢	16.2		7.7	1/2	横ナテ	施磨	ナテ			褐色褐色	砂粒多	良	内湾		127	
125	28K0217		弥生	壺	26.4				口縁部 1/4	横ナテ	刷毛	ナテ		茶褐色	砂粒 やや多	ほぼ良	縦ノ筋 タイプ	体部上位外面 に沈埋1条有	128	
126	28K0220		弥生	甕				2/3	横ナテ	刷毛	ナテ			褐色褐色	砂粒少	やや不良	「く」の 字状		130	
127	28K0220		弥生	甕	18.0	6.0	36.1		ほぼ定形	横ナテ	刷毛	刷毛	刷毛	ナテ	褐色褐色	砂粒多	良	外反	底部は直立する 底部は直立する	133
128	28K0220		弥生	甕	17.0			2/3	横ナテ	刷毛	刷毛			褐色褐色	砂粒多	良	外反		131	
129	28K0220		弥生	支脚					(上面) ナテ	叩き	ナテ	ナテ	ナテ	褐色褐色	砂粒少	ほぼ良		上面中央に上方 から1.5cm厚	129	
130	28K0220		弥生	甕	23.8			上半部	横ナテ	刷毛	刷毛			茶褐色	砂粒少	良	外反	底部は直立す る	132	
131	28K0242		弥生	鉢					細片	横ナテ	刷毛	刷毛		褐色褐色	砂粒多	良	内外面つ まみ出し	口縁部は上面 に刷毛目有	134	
132	28K0245		弥生	甕	9.4				口縁部 1/6	横ナテ	刷毛	不明		赤褐色	砂粒多	ほぼ良	「く」の 字状		135	
133	28K0246		弥生	甕	31.5			上半部	横ナテ	刷毛	ナテ			暗褐色	砂粒多	ほぼ良	縦ノ筋 タイプ	体部上位外面 に沈埋1条有	136	
134	28K0249		弥生	甕	25.0				口縁部 1/4	横ナテ	刷毛	刷毛		褐色褐色	砂粒含	良	縦ノ外反		137	
135	28K0250		弥生	甕	27.0				口縁部 のみ	横ナテ	ナテ	ナテ		暗褐色	砂粒少	ほぼ良	外反	口縁部には 屈曲は直立反	138	
136	28K0251		土師	皿	9.0	7.0	1.3		ほぼ定形	横ナテ	横ナテ	横ナテ	赤切り	褐色褐色	砂粒少	良	外方に開く		139	
137	28K0251		弥生	器台	8.5			2/3			ナテ	ナテ	横ナテ	褐色褐色	砂粒含	良			140	
138	28K0251		弥生	甕	24.0				口縁部 1/4	横ナテ	刷毛	ナテ		暗褐色	砂粒多	良	縦ノ筋 タイプ	体部上位外面 に沈埋1条有	141	
139	28K0251		弥生	蓋子 高坏	28.6				口縁部 1/4	横ナテ	刷毛	ナテ		茶褐色	砂粒含	ほぼ良		底面部分は 脱地しない	142	
140	28K0251		弥生	甕	7.2				下半部 1/2		施磨	施磨	施磨	ナテ	茶褐色	砂粒多	良		体部脱了位に 穿孔有	143
141	28D0260		弥生	甕					細片	横ナテ	刷毛	ナテ		赤褐色	砂粒含	不良	T字状		148	
142	28D0260		弥生	甕					細片	横ナテ	不明	ナテ		褐色褐色	砂粒多	良	縦ノ筋 タイプ	体部上位外面に 脱了1条有	149	
143	28D0260		弥生	甕					細片	横ナテ	不明	不明		暗赤褐色	積良	ほぼ良	T字状	口縁部には 屈曲は直立反	150	
144	28D0260		弥生	高坏	17.6				脚底部 4/5		磨き	ナテ	横ナテ	明赤褐色	砂粒少	良		わずかに 外反	154	
145	28D0260		土師	坏	12.4	7.3	3.0		ほぼ定形	横ナテ	不明	不明	施切り	褐色褐色	良	やや不良		外方に開く	144	
146	28D0260		土師	坏	13.4	8.6	2.9		ほぼ定形	横ナテ	ナテ	施切り	施切り	褐色褐色	良	やや不良		外方に開く	145	
147	28D0260		土師	坏	14.0	7.6	3.6	1/3	横ナテ		不明	不明	施切り	褐色褐色	良	良		外方に開く	146	
148	28D0260		青磁	碗	17.0				口縁部 1/4					茶色茶色 施磨透明	積良	良	外反	体部内面に 施磨有	147	
149	28K0262		土師	坏	13.0	7.5	3.4	1/2	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	施切り	褐色褐色	ほぼ積良	良		外方に開く	152	
150	28K0262		土師	坏	14.0	8.3	3.8	1/3	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	施切り	褐色褐色	砂粒少	良		外方に開く	153	
151	28K0262		土師	坏	12.8	7.3	3.7		定形	不明	不明	不明	不明	淡青灰色	砂粒少	不良		外方に開く	154	
152	28K0270		土師	甕	31.0				口縁部 1/6	横ナテ	刷毛 ナテ	ナテ		淡青灰色	積良	ほぼ良	縦ノ筋 タイプ	体部上位外面に 屈曲1条有	159	
153	28K0270		土師	甕					口縁部 細片	横ナテ	横ナテ	ナテ		淡灰色	砂粒多	良	底部肥厚		160	
154	28K0270		土師	土鍋	49.0				口縁部 1/4	横ナテ	刷毛	刷毛		暗茶褐色	砂粒含	良		わずかに 外反	157	
155	28K0270		土師	土鍋					細片	横ナテ	刷毛	横ナテ		暗褐色	ほぼ積良	良	玉縁状		156	
156	28K0270		瓦葺	坏	20.0	14.0		1/4	横ナテ	ナテ	刷毛	ナテ		淡黒灰色	砂粒多	やや不良	大く外反		158	
157	28K0270		土師	坏	11.6	7.0	3.4		ほぼ定形	横ナテ	横ナテ	横ナテ	赤切り	淡茶褐色	積良	良	外方に開く		155	
158	28K0270		青磁	皿	11.6	4.5	4.0		ほぼ定形	施磨	施磨	施磨	施磨	施磨	施磨	施磨	施磨		内湾見込みの 輪状に磨き取	161
159	28K0270		磁器	皿	12.0	4.2	3.2	1/3	施磨	施磨	施磨	施磨	施磨	施磨	施磨	施磨	施磨		内湾見込み に磨き	163
160	28K0270		磁器	皿	12.1	5.1	3.6	1/2	施磨	施磨	施磨	施磨	施磨	施磨	施磨	施磨	施磨		内湾見込みの 輪状に磨き取	162

Tab.15 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物観察表④

No.	遺跡番号	層位	種類	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	口縁部	体外面	体内部	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部 形状	備考	R-№	
161	2SD0270		磁器	皿	13.6	4.5	3.9	1/6	施釉	施釉	施釉	施釉	露胎	灰土灰白色 釉薬黄緑色	山打根良	良好	内湾	内底見込みの輪を 縁に注目する	164	
162	2SD0270		陶器	鉢64	7.4	3.3	3.5	1/3	施釉	施釉	施釉	施釉	施釉	灰土白色 釉薬透明	精良	良好	ほぼ直立	内面にコンキョウ 内面による施文有	166	
163	2SD0270		陶器	鉢64	8.4	3.3	4.5	1/2	施釉	施釉	施釉	施釉	施釉	灰土白色 釉薬透明	精良	良好	ほぼ直立	内面に山打根 文有	167	
164	2SD0270		陶器	碗	10.2	4.1	5.2	2/3	施釉	施釉	施釉	施釉	施釉	灰土白色 釉薬透明	精良	良好	ほぼ直立		171	
165	2SD0270		陶器	碗	10.0	4.0	4.9	1/2	施釉	施釉	施釉	施釉	施釉	灰土白色 釉薬透明	精良	良好	ほぼ直立		170	
166	2SD0270		陶器	碗	10.9	4.5	5.6	2/3	施釉	施釉	施釉	施釉	施釉	灰土白色 釉薬透明	精良	良好	ほぼ直立		169	
167	2SD0270		陶器	碗	10.0	4.0	4.9	1/2	施釉	施釉	施釉	施釉	施釉	灰土白色 釉薬透明	精良	良好	ほぼ直立	高台見込みの手端 の「く」文有	168	
168	2SD0270		陶器	皿	14.4	8.4	3.1	1/4	施釉	施釉	施釉	施釉	施釉	灰土白色 釉薬透明	精良	良好	ゆるい内湾		172	
169	2SD0270		陶器	磁器 蓋	11.8	8.2	8.2	1/4	施釉	施釉	施釉	施釉	施釉	灰土不純色 釉薬緑褐色	精良	良好	内面に折 りかき		165	
170	2SK0277		衛生	羹	17.0	5.5	21.1	ほぼ完成	横ナテ	刷毛 ナテ	刷毛 ナテ	刷毛 ナテ	ナテ	茶褐色	砂粒少	ほぼ良	「く」の 字状	口縁部部に面 有	188	
171	2SK0277		衛生	高坏	25.0				口縁部 1/6	横ナテ	横ナテ	横ナテ		黒灰色	細砂含	ほぼ良	外反		175	
172	2SK0277		衛生	高坏					口縁部 断片	横ナテ	横ナテ	横ナテ		淡赤褐色	精良	良	外反		176	
173	2SK0277		衛生	鉢	20.8		11.9	ほぼ完成	横ナテ	刷毛 ナテ	刷毛 ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	砂粒含	良	わずかに 内湾	口縁部部上面 に面有	174	
174	2SK0277		衛生	鉢	27.4			1/3	横ナテ	刷毛 ナテ	刷毛 ナテ			淡灰茶色	砂粒含	良	内湾 断面に面有		195	
175	2SK0277		衛生	羹	16.0	18.4	20.1	ほぼ完成	横ナテ	ナテ	刷毛 ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	砂粒含	良	「く」の 字状	口縁部部に不 整形な面有	173	
176	2SK0278		衛生	羹		8.4		底部のみ		横ナテ	横ナテ			淡茶褐色	細砂粒多	良			177	
177	2SK0299		衛生	鉢					口縁部 断片	横ナテ	刷毛 ナテ	刷毛 ナテ		淡茶褐色	砂粒多	良	わずかに 内湾	口縁部部上面 に面有	178	
178	2SK0280		衛生	羹	28.6				上半部 1/2	横ナテ	刷毛 ナテ	ナテ		茶褐色	砂粒多	良	横ノ縁 タイプ	体部上位外面 に注線1条有	179	
179	2SK0282		土師	鉢	11.0				上半部 1/8	横ナテ	横ナテ	横ナテ		明茶褐色	砂粒含	やや不良	外方に ひろく		180	
180	2SK0284		衛生	羹		13.0		底部のみ		刷毛 ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	茶褐色	砂粒多	良			184	
181	2SK0284		衛生	羹	29.0				口縁部 1/8	横ナテ	刷毛 ナテ	ナテ		淡褐色	砂粒多	やや不良	横ノ縁 タイプ	体部上位外面に貼 付け発帯1条有	182	
182	2SK0284		衛生	羹	27.0				口縁部 1/4	横ナテ	刷毛 ナテ	ナテ		茶褐色	砂粒多	良	横ノ縁 タイプ	体部上位外面に貼 付け発帯1条有	183	
183	2SK0284		衛生	羹	32.6				口縁部 1/8	横ナテ	刷毛 ナテ	ナテ		茶褐色	砂粒多	良	横ノ縁 タイプ	体部上位外面に貼 付け発帯1条有	181	
184	2SK0286		衛生	鉢	16.0				口縁部 1/4	横ナテ	刷毛 ナテ	刷毛 ナテ		赤褐色	砂粒含	良好	外反		185	
185	2SK0290		衛生	羹	5.7			底部のみ		不明	ナテ	ナテ	ナテ	茶褐色	砂粒多	良			186	
186	2SK0295		土師	坏	13.4	8.2	2.9	ほぼ完成	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	淡茶褐色	精良	ほぼ良	外方へ ひろく		202	
187	2SK0295		土師	坏	12.8	7.2	3.3	ほぼ完成	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	淡茶褐色	精良	ほぼ良	外方へ ひろく		201	
188	2SK0295		土師	坏	12.8	7.8	3.0	1/2	横ナテ	横ナテ	横ナテ	ナテ	横ナテ	淡茶褐色	精良	良	わずかに 内湾		187	
189	2SK0299		衛生	鉢	15.6			1/3	横ナテ	不明	刷毛 ナテ	ナテ		淡茶褐色	砂粒含	やや不良	「く」の 字状	口縁部部に面 有	197	
190	2SK0299		衛生	鉢	15.0		8.7	1/3	横ナテ	ナテ	ナテ			淡灰茶色	砂粒少	やや良	「く」の 字状	口縁部部に面 有	196	
191	2SK0299		衛生	鉢	20.0	6.0	17.1	ほぼ完成	横ナテ	刷毛 ナテ	刷毛 ナテ	ナテ	ナテ	茶褐色	細砂粒多	良	「く」の 字状	口縁部部に面 有	191	
192	2SK0299		衛生	羹	10.0				上半部 1/3	横ナテ	刷毛 ナテ	刷毛 ナテ		黒灰色	砂粒多	ほぼ良	「く」の 字状	口縁部部に面 有	190	
193	2SK0299		衛生	鉢	22.4		15.7	ほぼ完成	横ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	砂粒多	良	「く」の 字状	口縁部部に面 有	192	
194	2SK0299		衛生	鉢	13.3		11.0	ほぼ完成	横ナテ	刷毛 ナテ	刷毛 ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	砂粒少	ほぼ良	内湾	口縁部部上面は 不整形	193	
195	2SK0299		衛生	鉢	25.6		11.5	4/5	横ナテ	刷毛 ナテ	刷毛 ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	砂粒含	ほぼ良	内湾 断面に面有		194	
196	2SK0299		衛生	羹	17.4				上半部 1/3	横ナテ	ナテ	ナテ		淡茶褐色	砂粒少	良	「く」の 字状	口縁部部に面 有	189	
197	2SK0299		衛生	高坏	30.0				坏部 1/3	不明	不明	不明		淡赤褐色	砂粒多	良	外反		209	
198	2SK0299		衛生	高坏	32.0	18.6	24.0	ほぼ完成	不明	不明	不明	不明	不明	刷毛 ナテ	刷毛 ナテ	砂粒多	やや不良	横ノ外反	断面部は 施地しない	199
199	2SK0299		衛生	高坏		17.8		断面のみ		刷毛 横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	淡茶褐色	砂粒少	ほぼ良		断面部は 施地しない	198	
200	2SD0300		衛生	羹	14.0		13.0	1/3	横ナテ	刷毛 ナテ	刷毛 ナテ	ナテ	ナテ	茶褐色	砂粒多	ほぼ良	「く」の 字状		203	

Tab.16 梅島遺跡(第2次調査)出土遺物観察表⑤

No.	遺跡番号	種別	部材	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部 形状	備考	R-No
201	28D0300	弥生 甕		23.0			口縁部 1/3	横ナテ	刷毛	刷毛			淡茶褐色	砂粒多	良	「く」の 字状	口縁部に面 有	205
202	28D0300	弥生 甕					口縁部 断片	横ナテ	刷毛	ナテ			茶褐色	砂粒多	良	横ノ縁 タイプ		206
203	28D0300	弥生 甕		6.2			底部のみ		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	茶褐色	砂粒少	ほぼ良			207
204	28D0300	シロフ ナ	壺	2.2			底部のみ		手づね	手づね	手づね	手づね	暗褐色	精良	ほぼ良			208
205	28D0300	ナ	勾玉 (未)					定形										209
206	28D0300	弥生 甕		20.0			口縁部 1/3	横ナテ	刷毛	横ナテ			明茶褐色	砂粒少	良	縦ノ外反		204
207	28D0302	弥生 甕		34.0			上半 1/2	横ナテ	ナテ	ナテ			暗褐色	砂粒多	良	「く」の 字状	口縁部に面 有	210
208	28D0307	弥生 甕		22.0			上半部 1/2	横ナテ	明き	ナテ			暗褐色	砂粒含	良	「く」の 字状	口縁部に面 有	214
209	28D0307	弥生 甕		13.2			口縁部 1/2	横ナテ	叩き 刷毛	ナテ			淡茶褐色	砂粒少	ほぼ良	「く」の 字状	口縁部に面 有	213
210	28D0307	土師 甕	甕	13.4	17.2		1/3	横ナテ	叩き	ナテ	ナテ	叩き	暗褐色	砂粒含	良	「く」の 字状	口縁部に面 有	212
211	28D0307	弥生 鉢		18.0	10.4		ほぼ定形	横ナテ	叩き 底削り	刷毛	刷毛	彫削り	淡茶褐色	砂粒多	ほぼ良	「く」の 字状 つまみだ して外反	口縁部中央 裏面に 窪みと3ヶ所 穿孔有	215
212	28D0307	弥生 高坏		9.4			胴部のみ		刷毛	刷毛	横ナテ	横ナテ	暗茶褐色	精良	良		胴部に中央有	217
213	28D0307	弥生 高坏		21.6			底部欠損	不明	刷毛	刷毛			淡茶褐色	精良	良	大きく外反 へつらく	口縁部の一部 に施物を施す	216
214	28D0307	土師 甕		14.0			口縁部 1/6	横ナテ	刷毛	彫削り			茶褐色	砂粒含	やや不良	「く」の 字状	口縁部をつま み上げ有	211
215	28D0310	灰輪 胎土器	坏	11.4	3.8	3.8	ほぼ定形	施釉	施釉	施釉	施釉	施釉	灰褐色	精良	良	縦ノ内溝	口縁部の一部 に施物を施す	218
216	28D0312	弥生 甕		8.0	7.0	14.8	ほぼ定形	横ナテ	刷毛	刷毛	ナテ	ナテ	暗茶褐色	精良	ほぼ良	内溝	口縁部に面 有	219
217	28D0312	弥生 甕		5.9			底部のみ		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	暗褐色	砂粒多	良			220
218	28D0320	弥生 甕					口縁部 断片	横ナテ	刷毛	ナテ			茶褐色	砂粒多	不良	横ノ縁 タイプ		221
219	28D0320	弥生 甕		6.3			底部のみ		不明	ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	砂粒多	不良		底部は上げ底 状	222
220	28D0330	青磁 輪	輪	17.0			口縁部 1/4	施釉	施釉	施釉			黄褐色 輪縁部施 釉	精良	良好	わずかに 外反	体内面に施 文有	223
221	28D0341	弥生 甕					口縁部 断片	横ナテ	刷毛	ナテ			茶褐色	砂粒含	ほぼ良	横ノ縁 タイプ	体部上部外面に 凹凸型1条有	225
222	28D0341	弥生 甕		20.0			口縁部 1/6	横ナテ	刷毛	刷毛			暗褐色	砂粒含	ほぼ良	横ノ縁 タイプ	口縁部内面に 窪みつまみ有	224
223	28D0350	弥生 高坏					口縁部 断片	不明	不明	不明			黄褐色	砂粒含	不良	二重口縁 状		230
224	28D0350	弥生 甕		27.0			口縁部 1/8	不明	不明	不明			淡茶褐色	砂粒含	不良	「く」の 字状	口縁部は肥 厚し面を持つ	227
225	28D0350	弥生 甕		6.1			底部のみ		ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	砂粒含	ほぼ良			229
226	28D0350	弥生 甕		6.4			底部のみ		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	砂粒含	良			228
227	28D0350	弥生 甕		21.0			口縁部 1/4	横ナテ	刷毛	刷毛			淡茶褐色	砂粒含	やや不良	外反	頸部は直立す る	226
228	28D0350	弥生 筒形 土甕		29.0			胴部のみ	横ナテ	彫削き	紋り痕			丹塗り	砂粒含	良好	筒腹部 に面有		231
229	28D0355	縄文 甕					口縁部 断片	横ナテ	ナテ	ナテ			灰赤褐色 外底面施 釉	精良	良好	わずかに角 目変形有	口縁部に柄 目変形有	440
230	28D0369	弥生 甕		37.0			1/4	横ナテ	刷毛	ナテ			濃茶褐色	砂粒含	ほぼ良	横ノ縁 タイプ	体部上位外面 に沈線1条有	232
231	28D0369	弥生 甕		38.0			口縁部 1/6	横ナテ	刷毛	ナテ			濃茶褐色	砂粒含	ほぼ良	横ノ縁 タイプ		233
232	28D0369	弥生 甕		7.2			底部のみ		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	暗褐色	砂粒含	良		体部下部外面に 外面から穿孔有	234
233	28D0378	弥生 甕		14.6	9.6	4.3	1/3	施釉	施釉	施釉	施釉	施釉	白色	砂粒少	良	縦ノ内溝		226
234	28D0378	弥生 甕		20.0			口縁部 1/6	不明	不明	不明			淡茶褐色	精良	不良	「く」の 字状	器壁が厚い	235
235	28D0380	弥生 甕		7.0			底部のみ		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	茶褐色	砂粒含	良			227
236	28D0381	弥生 甕		23.4			口縁部 1/3	横ナテ	不明	ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	砂粒多	やや不良	横ノ縁 タイプ		230
237	28D0381	弥生 甕					口縁部 断片	横ナテ	横ナテ	刷毛			淡茶褐色	砂粒含	ほぼ良	横ノ縁 タイプ	体部上位外面に 凹凸型1条有	229
238	28D0381	弥生 甕		22.6			口縁部 1/2	横ナテ	刷毛	ナテ			暗褐色	砂粒含	ほぼ良	横ノ縁 タイプ	体部上位外面 に沈線1条有	242
239	28D0381	弥生 甕		27.0			口縁部 1/3	横ナテ	刷毛	ナテ			淡茶褐色	砂粒多	ほぼ良	横ノ縁 タイプ	体部上位外面 に沈線1条有	241
240	28D0381	弥生 甕		7.4			底部のみ		不明	ナテ	ナテ	不明	淡茶褐色	砂粒多	良			238

Tab.17 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物観察表⑥

No.	遺構番号	層位	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部 形状	備考	R-No	
241	2SK0293		弥生	甕	13.0				口縁部 1/6	横ナテ	不明	不明		淡赤褐色	砂粒多	やや不良	二重口縁 (深凹口縁)		243	
242	2SK0294		弥生	洗鉢				1/3	施軸	施軸	施軸	施軸	施軸	白色	精良	良好		外方へ 折曲げ	244	
343	2SK0430		弥生	甕	21.8		53.1	1/2	横ナテ	刷毛	施削り			刷毛	暗褐色	砂粒多	良好	二重口縁	252	
244	2SK0406		弥生	甕	26.0				口縁部 1/6	横ナテ	刷毛	ナテ		赤褐色	砂粒多	良	城ノ城 タイプ	体面上段外面 に注ぎ1条有	245	
245	2SK0406		弥生	甕	4.4				底部 1/2		刷毛	横ナテ	横ナテ	赤褐色	砂粒含	良		体面上段外面 に注ぎ1条有 底部は上げ残 状	246	
246	2SK0415		弥生	甕	18.0				口縁部 1/6	横ナテ	刷毛 施削り	刷毛		赤褐色	砂粒多	ほぼ良		外反 底部に注ぎ 1条有	底部は直立 底部は平行状	247
247	2SK0415		弥生	甕	18.0				口縁部 1/8	横ナテ	刷毛 施削り	刷毛 ナテ		乳茶色	砂粒少	良	「く」の 字状		248	
248	2SK0422		弥生	甕	26.0				口縁部 1/10	横ナテ	横ナテ	ナテ		茶褐色	砂粒含	ほぼ良	城ノ城 タイプ	体面上段外面に 注ぎ1条有	249	
249	2SK0423		弥生	甕	10.2				底部のみ		刷毛 ナテ	ナテ	ナテ	茶褐色	砂粒含	ほぼ良		底部は上げ残 状	250	
250	2SK0430		瓦葺	椀	16.6	7.0	5.5	1/3	尻磨き	尻磨き	尻磨き	尻磨き	横ナテ	灰色	精良	良	わずかに 内湾		251	
251	2SK0443		三つ	椀					手づ くね	手づ くね	手づ くね	手づ くね	手づ くね	暗茶褐色	精良	良			253	
252	2SK0460		弥生	甕					体部 1/6	鳴き ナテ	ナテ			紫褐色	砂粒少	良	二重口縁	把手2ヶ所?	254	
253	2SK0464		弥生	高坏		6.2			胴部のみ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	精良	良			255	
254	2SK0484		弥生	甕					口縁部 断片	丹塗り	丹塗り	ナテ		淡褐色	精良	良		下字状 底部に注ぎ 1条有	口縁部断面に 認め目文有	256
255	2SK0493		弥生	甕	25.0				口縁部 1/6	横ナテ	刷毛	ナテ		淡褐色	砂粒含	ほぼ良	城ノ城 タイプ	体面上段外面に 注ぎ1条有	257	
256	2SK0497		弥生	甕	18.0				口縁部 1/3	横ナテ 施削り	ナテ	ナテ		淡茶褐色	砂粒含	ほぼ良	外反	底部に注ぎ 1条有	258	
257	2SK0551		弥生	甕	26.0				口縁部 1/6	横ナテ	刷毛	ナテ		淡赤褐色	砂粒含	やや不良	城ノ城 タイプ		259	
258	2SK0553		弥生	甕?					口縁部 断片	横ナテ	横ナテ	ナテ		丹塗り	精良	良	「く」の 字状		260	
259	2SK0556		土師	坏	13.2	6.5	4.2	定形	不明	不明	不明	不明	不明	茶褐色	精良	不良		外方へ強く 肥厚させる	261	
260	2SK0586		土師	鉢	29.0				口縁部 1/6	横ナテ	ナテ	ナテ		淡灰褐色	砂粒含	良	「く」の 字状		262	
261	2SK0600		滑石	石鏡	25.0				口縁部 1/8		ノミ肌							内湾	磨有	263
262	2SD0640		滑石	石鏡					口縁部 断片	ノミ肌	ノミ肌	ノミ肌						内湾	磨有 (C類) 切痕面有	265
263	2SK0645		弥生	鉢	14.4		7.1	1/2	横ナテ	刷毛	刷毛	不明	施削り	淡赤褐色	砂粒多	やや不良		わずかに 内湾		266
264	2SK0678		弥生	甕	12.7				上半部	横ナテ	刷毛	刷毛		淡赤褐色	砂粒少	ほぼ良	「く」の 字状		口縁部断面に 面有	267
265	2SK0678		弥生	高坏		12.9			胴部のみ	刷毛	刷毛	横ナテ	横ナテ	淡茶褐色	砂粒多	やや不良			底面部分の前は 被地しない	268
266	2SD0680		弥生	甕	12.0	5.0	18.0	1/2	尻磨き	尻磨き	不明	不明	磨削り	赤褐色	砂粒多	ほぼ良		外反 底部に注ぎ 1条有	270	
267	2SD0680		陶器	陶香 立て	11.6	9.0	12.2	1/3	施軸	施軸	施軸	施軸	露筋	乳茶色	精良	良		直立 肥厚		272
268	2SD0680		土師	甕 ?急須!	30.6				口縁部 1/3	保付着	保付着	不明		暗灰色	砂粒含	やや不良			内湾・中央は 各1ヶ所現在	271
269	2SD0680		塗付	甕	13.4	8.0	2.2	1/2	施軸	施軸	施軸	施軸	施軸	白色	施良	良		外反		272
270	2SK0700		弥生	甕	22.5	7.2	42.7	ほぼ定形	横ナテ	刷毛	刷毛	刷毛 ナテ	刷毛	淡茶褐色	細砂粒多	やや不良		外反 底部 面に認め目 文帯1条有	断面に認め目 文帯1条有	302
271	2SK0700		弥生	甕	22.0			1/5	横ナテ	刷毛	刷毛			茶褐色	細砂粒含	良	「く」の 字状		口縁部断面に 面有	301
272	2SK0710		土師	甕	8.6	7.0	1.2	ほぼ定形	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	赤褐色	淡茶褐色	砂粒含	良		外方に ひらく	277
273	2SK0710		土師	甕	8.8	8.0	1.3	5/6	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	赤褐色	淡茶褐色	砂粒含	良		外反	278
274	2SK0710		土師	甕	8.8	7.7	1.1	ほぼ定形	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	赤褐色	茶褐色	砂粒含	良		外方に ひらく	278
275	2SK0710		土師	甕	8.9	7.5	1.1	5/6	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	赤褐色	茶褐色	精良	良		外方に ひらく	276
276	2SK0710		土師	甕	9.0	7.0	1.1	定形	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	赤褐色	淡黒灰色	ほぼ精良	ほぼ良		外方に ひらく	284
277	2SK0710		土師	甕	9.0	7.7	1.3	定形	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	赤褐色	淡茶褐色	精良	良		外方に ひらく	281
278	2SK0710		土師	甕	9.2	6.8	1.5	3/4	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	赤褐色	濃茶褐色	砂粒多	ほぼ良		外方に ひらく	280
279	2SK0710		土師	甕	9.6	7.7	1.1	ほぼ定形	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	赤褐色	淡茶褐色	ほぼ精良	ほぼ良		わずかに 外反	287
280	2SK0710		土師	甕	9.4	7.1	1.3	ほぼ定形	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	赤褐色	明赤褐色	砂粒含	良		内湾	282

Tab.18 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物観察表⑦

No.	遺構番号	層位	種類	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部 形状	備考	R-No			
281	28K0710		土師	皿	9.4	7.4	1.3	完形	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	赤切り	淡赤褐色	砂粒含	ほぼ良	わずかに 内湾	286				
282	28K0710		土師	皿	9.4	7.7	1.3	完形	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	赤切り	暗褐色	砂粒含	ほぼ良	わずかに 内湾	285				
283	28K0710		土師	皿	9.3	7.7	1.0	ほぼ完形	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	赤切り	茶褐色	ほぼ良	良	外方に ひらく	279				
284	28K0710		土師	皿	9.5	8.0	1.1	1/2	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	赤切り	茶褐色	山崎精良	良	わずかに 外反	288				
285	28K0710		土師	皿	9.6	8.0	1.0	完形	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	赤切り	淡茶褐色	山崎精良	ほぼ良	外方に ひらく	283				
286	28K0710		土師	皿	9.7	8.2	1.8	ほぼ完形	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	赤切り	淡灰色	砂粒含 やや多	良	外方に ひらく	280				
287	28K0709		土師	皿	10.2	6.8	2.0	2/3	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	施切り	茶褐色	砂粒含	良	外方に ひらく	273				
288	28K0709		土師	杯	12.2	8.0	3.0	1/2	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	施切り	明赤褐色	精良	やや不良	ほぼ直立	274				
289	28K0710		土師	皿?	15.6	11.6	3.0	1/2	横ナテ	横ナテ	横ナテ	ナテ	赤きり 板正	淡茶褐色	山崎精良	ほぼ良	縁部厚	282				
290	28K0710		土師	杯	16.4	10.6	3.0	1/3	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	赤切り	暗褐色	山崎精良	良	わずかに 外反	289				
291	28K0710		瓦葺	椀	16.2	6.3	6.8	3/4 口縁部	施磨き	施磨き	施磨き	施磨き	ナテ	淡灰色	砂粒少	やや不良	高台足元に 縦筋 長手(遺品?)有	300				
292	28K0710	I層	青磁	椀	16.0			1/3 口縁部	施磨	施磨	施磨	施磨		淡緑青色	精良	ほぼ良	わずかに 外反	成層系 内面に施文有	292			
293	28K0710	I層	青磁	椀	15.5			1/4 杯部	施磨	施磨	施磨	施磨		淡緑青色	ほぼ精良	ほぼ良	わずかに 外反	内面系 内面に施文有	291			
294	28K0711		弥生	高杯				1/4	横ナテ	刷毛	ナテ	ナテ		明赤褐色	精良	良	丁字状	全面に 行書有	285			
295	28K0711		弥生	鉢	19.6	8.4	10.6	1/3	刷毛	刷毛	刷毛	刷毛	強い ナテ	淡赤褐色	砂粒含	良	内湾 縁部に 行書有	294				
296	28K0720		弥生	皿	21.0			口縁部 1/3	横ナテ	刷毛	刷毛	刷毛		赤褐色	砂粒多	ほぼ良	縁部は 直立	縁部に 行書有	286			
297	28K0720		弥生	壺	24.8	7.0	25.3	1/4	横ナテ	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	暗褐色	砂粒含	良	縁ノ縁 タイプ	縁部は 直立	縁部は 直立	297		
298	28K0736		弥生	壺	8.4			底部のみ	不明	刷毛	刷毛	刷毛		淡茶褐色	砂粒多	やや不良			304			
299	28K0728		弥生	壺	22.0			上半部	横ナテ	不明	ナテ	ナテ		淡赤褐色	砂粒多	やや不良	縁ノ縁 タイプ	縁部は 直立	縁部は 直立	288		
300	28K0730		弥生	壺	7.6			底部のみ	刷毛	不明	不明	ナテ		淡茶褐色	砂粒含	良		底部は わずかに 上げ底状	299			
301	28K0736		弥生	壺	5.7			下半部 3/4	刷毛	刷毛	刷毛	刷毛		茶褐色	精良	ほぼ良			303			
302	28K0736		弥生	高				頂部のみ	施磨き	刷毛	ナテ	ナテ		外底面 内湾状	砂粒少	良		外縁丹塗有	305			
303	28K0736		弥生	皿				下半部 1/4	刷毛 ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		淡茶褐色	精良	ほぼ良			306			
304	28K0736		弥生	鉢	10.7	4.0	6.8	4/5	ナテ	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	砂粒多	良	外方に 開	口縁部は 不整	308			
305	28K0736		弥生	鉢	8.6	2.8	4.2	4/5	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	暗茶褐色	砂粒多	ほぼ良	わずかに 内湾	口縁部は 不整	307			
306	28K0737		弥生	壺	30.0			口縁部 1/8	横ナテ	刷毛	ナテ	ナテ		茶褐色	砂粒少	ほぼ良			縁ノ縁 タイプ	口縁部は 直立	縁部は 直立	309
307	28K0737		弥生	フタ 4層?	11.6			底部のみ	施磨き	施磨き	施磨き	施磨き		黒褐色	砂粒多	良			黒色磨研	310		
308	28K0742		弥生	支脚	6.0			底部のみ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		淡茶褐色	砂粒少	ほぼ良				311		
309	28K0760		土師	皿	8.9	8.6	1.1	1/2	横ナテ	横ナテ	横ナテ	ナテ	赤切り	淡茶褐色	ほぼ精良	やや不良	つまみ上げ		312			
310	28K0760		土師	杯	14.4	10.0	2.9	完形	横ナテ	横ナテ	横ナテ	不明	赤切り	淡茶褐色	精良	やや不良	外方に 開	外底面に 施文有	313			
311	28K0766		弥生	壺	29.4			口縁部 1/3	横ナテ	刷毛	ナテ	ナテ		淡茶褐色	砂粒多	良	縁ノ縁 タイプ	縁部は 直立	縁部は 直立	314		
312	28K0785		弥生	器台	7.2			口縁部 1/3	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		淡茶褐色	砂粒少	ほぼ良	外反		318			
313	28K0766		弥生	壺	19.0			口縁部 1/4	横ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		茶褐色	砂粒多	良	「く」の 字状	口縁部は 面有	315			
314	28K0785		弥生	壺				口縁部 短片	横ナテ	刷毛	ナテ	ナテ		淡褐色	砂粒少	良	縁ノ縁 タイプ	口縁部は 面有	縁部は 直立	316		
315	28K0785		弥生	壺	6.4			底部のみ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ		外底面 淡赤褐色	砂粒含	ほぼ良		縁部は 上げ底 状	317			
316	28K0785		弥生	壺	8.0			下半部	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ		淡茶褐色	砂粒多	やや不良		縁部は 上げ底 状	320			
317	28K0785		弥生	壺				体部 1/6	施磨き	ナテ	ナテ	ナテ		暗茶褐色	ほぼ精良	ほぼ良	縁ノ縁 タイプ	縁部に 行書有	縁部は 直立	319		
318	28K0790		弥生	壺	28.6			上半部	横ナテ	刷毛	ナテ	ナテ		暗茶褐色	砂粒多	やや不良	外方に 開	縁部は 直立	縁部は 直立	322		
319	28K0787		弥生	器台	11.6			上半部 1/3	横ナテ	刷毛	ナテ	ナテ		淡茶褐色	砂粒少	良		縁部に 面有	口縁部は 面有	321		
320	28K0800		弥生	壺	21.6	5.0	25.6	3/4	横ナテ	刷毛	不明	ナテ		淡赤褐色	砂粒多	やや不良	「く」の 字状	口縁部は 面有	326			

Tab.19 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物観察表⑧

No.	遺構番号	層位	種類	形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存 形状欠損	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部 形状	備考	R-No
321	28K0800	弥生	壺	16.0				横ナテ	刷毛	刷毛				淡茶褐色	砂粒含	やや不具	「く」の 字状	口縁部に土面 に張り付け変形	325
322	28K0800	弥生	壺	12.0	18.0		1/4	横ナテ	刷毛 ナテ	刷毛 ナテ				淡茶褐色	砂粒含	やや不具	「く」の 字状	底面に土面を 張り付け変形	324
323	28K0800	弥生	器台	20.0			底部 1/4		叩き	刷毛	横ナテ	横ナテ	横ナテ	淡茶褐色	砂粒少	やや不具			333
324	28K0810	弥生	壺	44.0				口縁部 1/6						淡茶褐色	砂粒少	ほぼ良	T字状 胎土に土面 に張り付け	外面丹塗り	327
325	28K0810	弥生	筒形土器	25.0				底部のみ	横ナテ	ナテ				淡茶褐色	ほぼ精良	良	胎土に土面 に張り付け	口縁部には土面 に張り付け変形	328
326	28K0820	弥生	壺					口縁部 細片	横ナテ	ナテ	不明			淡褐色	砂粒含	やや不具	「く」の 字状	口縁部に土面 に張り付け	332
327	28K0820	弥生	壺	21.6				底部欠損	横ナテ	刷毛	刷毛			茶褐色	砂粒多	良	「く」の 字状	口縁部に土面 に張り付け	335
328	28K0820	弥生	鉢	18.0	7.5		1/2	横ナテ	ナテ 磨り	刷毛 ナテ	ナテ	ナテ	黒色	淡赤褐色	砂粒多	やや不具	外方にひら き気味	口縁部に土面 に張り付け	331
329	28K0820	弥生	鉢	21.7	10.2		1/4	横ナテ	刷毛	刷毛	不明	不明	不明	淡灰褐色	砂粒多	不具	内湾し 胎土	口縁部はつま みして変形	330
330	28K0820	弥生	鉢	23.6			1/4	横ナテ	刷毛	刷毛				暗茶褐色	精良	良	わずかに 内湾	現在で1ヶ所 穿孔有	329
331	28K0820	弥生	高杯	16.0				底部 1/2	刷毛 磨り	ナテ 刷毛	刷毛	ナテ 刷毛	ナテ 刷毛	明赤褐色	精良	やや不具		胎土は上げ底 状	333
332	28K0829	弥生	壺	5.8			下部		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	砂粒含	良			337
333	28K0829	弥生	器台	10.0			底部 1/3		刷毛	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	明赤褐色	ほぼ精良	やや不具		胎土は土面に 張り付け変形	336
334	28K0840	上層	弥生	壺	20.0			横ナテ	横ナテ	ナテ				淡赤褐色	細砂多	良	刷毛/織 タイプ	胎土は土面に 張り付け変形	340
335	28K0840	上層	弥生	壺	6.2			下部		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	淡赤褐色	細砂多	良		胎土は土面に 張り付け変形	341
336	28K0840	上層	弥生	壺	21.4	5.8	22.2	1/4	横ナテ	刷毛	ナテ	ナテ	横ナテ	茶褐色	砂粒少	ほぼ良	刷毛/織 タイプ	胎土は土面に 張り付け変形	342
337	28K0840	上層	弥生	壺	42.6			口縁部 1/6	横ナテ	刷毛 横ナテ	ナテ			淡灰褐色	ほぼ精良	良		胎土は土面に 張り付け変形	339
338	28K0840	上層	弥生	壺	34.0			口縁部 1/3	横ナテ	刷毛 横ナテ	磨り			淡茶褐色	ほぼ精良	良		胎土は土面に 張り付け変形	338
339	28K0855	湧石	石網	14.6			底部 1/4												343
340	28K0862	弥生	鉢	10.4	4.0		1/3	横ナテ	手持ち 磨り	横ナテ	横ナテ	手持ち 磨り	手持ち 磨り	淡灰褐色	細砂多	良	わずかに 外反		344
341	28K0866	弥生	壺	18.0			上半部 1/3	横ナテ	刷毛	ナテ				暗茶褐色	砂粒多	やや不具	刷毛/織 タイプ	口縁部は肥 厚	345
342	28K0868	弥生	壺					口縁部 細片	横ナテ	刷毛	ナテ			暗茶褐色	細砂多	良	深い「く」 の字状		346
343	28K0880	弥生	壺	21.0				口縁部 1/6	横ナテ	ナテ	ナテ			淡茶褐色	細砂含	良	T字状	胎土は上げ底 状	350
344	28K0880	弥生	壺	6.0			底部のみ		刷毛	ナテ	ナテ	横ナテ	横ナテ	褐色	細砂多	良		口縁部に土面 に張り付け	351
345	28K0880	弥生	器台	11.5			1/2	横ナテ	刷毛 ナテ	刷毛 ナテ				淡茶褐色	ほぼ精良	やや不具	外方にひら か		352
346	28K0887	弥生	壺					口縁部 細片	横ナテ	横ナテ	横ナテ			明茶褐色	精良	良	深い「く」 の字状	胎土は土面に 張り付け	353
347	28K0897	弥生	鉢	7.5	8.2		1/4	横ナテ	刷毛 ナテ	刷毛 ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	淡灰褐色	砂粒多	やや不具	わずかに 内湾	胎土は土面に 張り付け変形	354
348	28K0900	弥生	壺	41.0	39.5		1/2	横ナテ	刷毛	ナテ				淡茶褐色	細砂多	やや不具	刷毛/織 タイプ		363
349	28K0900	弥生	支脚	7.0	7.7	11.6		ほぼ完全	指押入	指押入				指押入	淡茶褐色	精良	やや不具		362
350	28K0915	弥生	鉢	19.0			1/8	横ナテ	刷毛 不明	刷毛 不明				淡茶褐色	細砂多	やや不具	「く」の 字状		356
351	28K0915	弥生	器台	8.0	10.0	8.0	1/5		叩き	ナテ	ナテ	叩き	叩き	淡茶褐色	砂粒少	やや不具		胎土は土面に 張り付け変形	355
352	28K0916	弥生	壺	29.2				口縁部 1/5	横ナテ	ナテ	ナテ			淡赤褐色	砂粒含	ほぼ良	刷毛/織 タイプ	胎土は土面に 張り付け変形	359
353	28K0918	弥生	壺	23.0			1/4	横ナテ	刷毛	ナテ				暗茶褐色	砂粒多	やや不具	如意形	胎土は土面に 張り付け変形	358
354	28K0918	弥生	壺	26.0	7.0	27.3	1/2	横ナテ	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	茶褐色	砂粒含	やや不具	刷毛/織 タイプ	胎土は土面に 張り付け	357
355	28K0918	弥生	壺	6.2			底部のみ		刷毛 ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	赤茶褐色	砂粒多	やや不具			360
356	28K0922	弥生	壺	10.4				口縁部 1/4	不明	不明	不明			淡茶褐色	砂粒少	不具	「く」の 字状	胎土は土面に 張り付け	361
357	28K0925	縄文	壺					胎土細片	ナテ?	ナテ?				明乳茶色	精良 砂粒混	やや不具		胎土は土面に 張り付け	441
358	28K0940	弥生	壺	26.6				上半部 1/3	横ナテ	刷毛	ナテ			淡赤褐色	砂粒含	やや不具	刷毛/織 タイプ		365
359	28K0940	弥生	鉢	32.0				上半部 1/5	横ナテ	ナテ	ナテ			淡乳茶褐色	砂粒含	やや不具	刷毛/織 タイプ		364
360	28K0960	弥生	壺	22.0			1/2	横ナテ	ナテ	ナテ				淡褐色	砂粒少	やや不具			366

Tab.20 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物観察表⑨

No.	遺構番号	層位	種類	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部 形状	備考	R-No.
361	28K0960		土師?	土師	29.6			完形						淡赤褐色	精良	やや不良			367
362	28K0970		滑石	石鍋	19.5			底部1/2成		裏面	肥野さ	裏面	裏面						368
363	28K0980		弥生	鉢	28.4	23.0	9.7	1/4	横ナテ	刷毛 肥野さ	ナテ	ナテ	ナテ	淡褐色	砂粒少	ほぼ良	横ノ縁 タイプ	体部上位外面に 土澱1含有	373
364	28K0980		弥生	器台	8.3			口縁部 は欠損	刷毛	ナテ	横ナテ	横ナテ	淡茶褐色	砂粒少	やや良				372
365	28K0980		弥生	壺	15.0			横ナテ	刷毛	不明				淡赤褐色	細砂多	やや良	横ノ縁 タイプ	体部上位外面に 土澱1含有	371
366	28K0980		弥生	壺	6.5			底部のみ		刷毛	横ナテ	不明	ナテ	暗褐色	細砂多	やや不良			370
367	28K0980		弥生	壺	27.0	3.8	17.0	1/4	横ナテ	ナテ 肥野さ	ナテ	ナテ	ナテ	黒褐色	砂粒多	不良	「く」の 字状	底部は上げ流 状	369
368	28K1010		弥生	壺	29.0			口縁部 破片	不明	不明	不明	不明	不明	暗褐色	砂粒多	不良	横ノ縁 タイプ	体部上位外面に 土澱1含有	374
369	28K1057		弥生	壺	13.0			上半部 1/8	横ナテ	刷毛	ナテ			淡灰褐色	砂粒少	良	横ノ縁 タイプ	体部上位外面に 土澱1含有	377
370	28K1035		弥生	壺	26.0			口縁部 1/4	横ナテ	不明	ナテ			淡褐色	砂粒少	やや良			375
371	28K1039		土師	皿	8.6	2.3		1/3	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	淡灰褐色	精良	ほぼ良	「く」の 字状	体部上位外面に 土澱1含有	376
372	28K1060		弥生	壺	5.4			口縁部 1/2	横ナテ	刷毛 ナテ	ナテ			暗茶褐色	砂粒多	やや良	横ノ縁 タイプ		379
373	28K1060		弥生	壺	27.0	7.0		底部 1/2	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	淡灰褐色	砂粒少	やや不良			378
374	28K1074		弥生	蓋	15.2			1/3	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	細砂多	やや不良			380
375	28K1076		弥生	壺	10.0			口縁部 1/6	横ナテ	刷毛	ナテ			暗褐色	砂粒多	やや不良	横ノ縁 タイプ	体部上位外面に 土澱1含有	381
376	28K1091	下層	黒土	陶	17.0	8.4	5.7	1/2	横ナテ	肥野さ	肥野さ	肥野さ	ナテ	黒褐色	精良	良	外反		384
377	28K1091	下層	弥生	鉢	30.0		3.0	1/4	横ナテ	刷毛	ナテ			茶褐色	精良	ほぼ良			382
378	28K1091	下層	弥生	壺	6.3			口縁部 1/2	横ナテ	刷毛	刷毛			茶褐色	精良	ほぼ良	「く」の 字状	口縁部はつまみ 出し蓋をつくる	383
379	28K1129		弥生	壺				上半部 1/2	横ナテ	刷毛	ナテ			淡茶褐色	砂粒少	やや良	横ノ縁 タイプ		390
380	28K1130		弥生	支脚	6.4	9.6	3/4		ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	明茶褐色	精良	ほぼ良		わずかに ひらく	387
381	28K1130		弥生	支脚	29.4	6.7		底部 3/4		ナテ		ナテ	ナテ	明茶褐色	精良	ほぼ良			388
382	28K1130		弥生	支脚	7.2			底部 1/2		ナテ		ナテ	ナテ	明茶褐色	精良	ほぼ良			389
383	28K1133		弥生	壺	29.4			上半部 1/2	横ナテ	横ナテ	ナテ			暗褐色	砂粒多	不良	横ノ縁 タイプ	口縁部と器底間に 粘土目土 土澱1含有	391
384	28K1135		弥生	支脚	23.8	5.8		底部 3/4		ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	明茶褐色	精良	ほぼ良			392
385	28K1153		弥生	壺	29.0			上半部 1/3	横ナテ	刷毛	ナテ			暗褐色	砂粒多	やや不良	横ノ縁 タイプ	体部下方外面 に土澱1含有	393
386	28K1154		弥生	壺?	25.6	7.1	19.2	1/4	横ナテ	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	暗茶褐色	細砂多	やや不良	横ノ縁 タイプ	底部はわずかに 上げ流状	394
387	28K1154		弥生	壺	4.5			口縁部 1/6	横ナテ	刷毛	ナテ			暗褐色	砂粒多	やや不良	横ノ縁 タイプ	体部上位外面 に土澱1含有	395
388	28K1157		弥生	壺	5.4			口縁部 1/4	横ナテ	ナテ	ナテ			淡灰褐色	砂粒多	やや不良	横ノ縁 タイプ	体部上位外面 に土澱1含有	396
389	28K1157		弥生	支脚	7.5	12.0		完形	ナテ	ナテ			ナテ	明茶褐色	精良	ほぼ良			397
390	28K1157		弥生	支脚	43.6	5.8	11.8	完形	ナテ	ナテ			未調整	茶褐色	精良	ほぼ良			398
391	28K1158		土師?	土師				一部欠損						茶褐色	精良	ほぼ良			400
392	28K1158		弥生	鉢	11.2			口縁部 1/3	横ナテ	ナテ	肥野さ			暗茶褐色	砂粒多	やや不良	「く」の 字状	底部に面有	399
393	28K1159		縄文	壺	19.0			口縁部 破片	横ナテ					黒茶褐色	ほぼ精良	ほぼ良	復旧式	断面は大きい	401
394	28K1160		弥生	壺	15.2			口縁部 1/4	不明	刷毛	不明			灰褐色	砂粒多	不良	「く」の 字状		402
395	28K1160		土師	高坏	25.8	12.3	12.5	1/2	肥野さ	肥野さ	肥野さ	肥野さ	肥野さ	暗茶褐色	砂粒少	良		外方に ひらく	403
396	28K1161		土師	陶	25.2	7.3	5.6	3/4	横ナテ	横ナテ	不明	不明	横ナテ	淡茶褐色	精良	不良	外反		404
397	28K1185		弥生	壺	26.0			上半部	横ナテ	刷毛	ナテ			暗褐色	砂粒多	やや不良	横ノ縁 タイプ		408
398	28K1185		弥生	壺				上半部	横ナテ	刷毛	ナテ			茶褐色	砂粒少	やや良	横ノ縁 タイプ		406
399	28K1185		弥生	壺				上半部 3/4	横ナテ	刷毛	ナテ			暗茶褐色	砂粒多	やや良	横ノ縁 タイプ	体部上位外面に 土澱1含有	407
400	28K1185		弥生	壺	7.6			底部のみ		刷毛	不明	不明	ナテ	暗茶褐色	砂粒多	やや不良			405

Tab.21 梅島遺跡(第2次調査)出土遺物観察表⑩

No.	遺構番号	層位	種別	形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外面部	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R.No.			
401	28KI185	弥生	甕	15.6			1/6	横ナテ	荒磨き	荒磨き不明				淡赤褐色	砂粒含	やや不良	外反	胎土に赤い点状のものは、胎土に内面	409			
402	28KI186	弥生	甕	25.8	8.8	30.0	1/4	横ナテ	刷毛	ナテ				暗褐色	細砂粒多	良好	城ノ麓タイプ	胎土上位外面に沈殿土含有	412			
403	28KI186	弥生	甕	30.2			上半部	横ナテ	刷毛	ナテ				暗褐色	細砂粒多	良好	城ノ麓タイプ	胎土上位外面に沈殿土含有	411			
404	28KI186	弥生	甕?	9.0			底部のみ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	淡褐色	細砂粒多	良好				410			
405	28KI192	弥生	器台	8.1				口縁部1/4	横ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	明茶褐色	細砂粒含	良好		外方にひらく		413		
406	28KI200	弥生	甕	17.9	7.6	17.4	ほぼ定形	横ナテ	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	明茶褐色	細砂粒含	良好		「く」の字状		414		
407	表土	弥生	土師	2.4		3.8	1/2							淡褐色	精良	良好				427		
408	表土	弥生	土師	2.5		4.8	ほぼ定形							灰色	精良	良好				426		
409	表土	弥生	土師	4.6			1/2	手づく	手づく	ナテ	ナテ	手づく	手づく	灰色	精良	良好		ほぼ直立		431		
410	表土	弥生	土師	4.5			1/2	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	淡褐色	精良	良好				425		
411	表土	弥生	土師	6.3			1/2	ナテ	ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	淡褐色	砂粒含	良好				424		
412	表土	弥生	甕	27.4				口縁部1/2	横ナテ	刷毛	ナテ			暗褐色	砂粒多	良好	城ノ麓タイプ	胎土上位外面に沈殿土含有		416		
413	表土	弥生	甕	35.0				口縁部1/5	刷毛	横ナテ	ナテ			内外面丹塗り	細砂粒含	良好	下字状	胎土に「く」の字状	胎土に「く」の字状	422		
414	表土	弥生	甕	28.2				口縁部1/5	横ナテ	刷毛	ナテ			内外面丹塗り	精良	良好	下字状	胎土に「く」の字状	胎土に「く」の字状	423		
415	表土	弥生	甕	16.2				口縁部1/3	横ナテ	刷毛	ナテ			暗褐色	細砂粒含	良好	「く」の字状	胎土に「く」の字状	胎土に「く」の字状	418		
416	表土	弥生	甕	8.4			底部のみ	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	淡褐色	砂粒多	良好		胎土に焼成後胎土から穿孔		421		
417	表土	弥生	甕	6.3			底部のみ		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	暗褐色	砂粒含	良好		胎土に焼成後胎土から穿孔		420		
418	表土	弥生	鉢	13.6				口縁部1/6	横ナテ	刷毛	ナテ			暗褐色	砂粒含	良好		ほぼ直立		430		
419	表土	弥生	鉢	8.2				口縁部1/4	横ナテ	刷毛	刷毛			茶褐色	砂粒多	良好				428		
420	表土	弥生	鉢	16.9		7.9		口縁部5/6	横ナテ	刷毛	刷毛	刷毛	胎土	淡褐色	砂粒含	良好		内面胎土に含有		434		
421	表土	弥生	鉢	17.6		11.0		口縁部1/2	横ナテ	刷毛	刷毛	ナテ	胎土	暗褐色	砂粒多	良好		内面胎土に含有		433		
422	表土	弥生	鉢	21.5		11.2		口縁部1/4	横ナテ	刷毛	刷毛	刷毛	ナテ	淡褐色	砂粒含	良好		内面		436		
423	表土	弥生	鉢	26.0				口縁部1/6	横ナテ	刷毛	ナテ			淡褐色	細砂粒多	良好		深い「く」の字状	胎土に「く」の字状	417		
424	表土	弥生	鉢	28.2		11.9		横ナテ	刷毛	刷毛	ナテ	胎土	胎土	明茶褐色	砂粒含	良好		わずかに内面		435		
425	表土	弥生	高坏	15.9				胎底部3/4	刷毛	刷毛	横ナテ	横ナテ	横ナテ	淡褐色	砂粒少	良好				穿孔(焼成前)有	419	
426	表土	土師	鉢	12.2		6.9		ほぼ定形	横ナテ	横ナテ	ナテ	胎土	胎土	淡褐色	細砂粒多	良好		ほぼ直立		429		
427	表土	黒A	鉢	14.4			1/4	横ナテ	不明	荒磨き	ナテ?	ナテ?	ナテ?	淡褐色	精良	良好		外反		432		
428	28K0320	?	磨製石製石臼						先渾部のみ												9	
429	28X0190	?	磨製石製石臼						先渾部のみ													8
430	表土	?	?						完形												10	
431	28-0647	?	磨製石						1/2												7	
432	表土	?	石臼						1/2												2	
433	28K0350	?	石臼						ほぼ定形												1	
434	28-0683	?	磨製石製石臼						先渾部のみ												5	
435	28-0718	?	磨製石製石臼						先渾部のみ												4	
436	表土	?	磨製石製石臼						基部のみ												3	
437	28-0690	?	磨製石製石臼						中位のみ												6	
438	28K0840	(?)	石臼						ほぼ定形												15	
439	28-0714	(?)	石臼						ほぼ定形												16	

Tab.22 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物観察表①

No.	遺構番号	層位	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色澤	胎土	焼成	口縁部 形状	備考	R-No
441	2S-0995		99F	F1A				ほぼ定形											12
442	2S-0850		99F	F1A				ほぼ定形											11
443	2SK0840			黒曜石				ほぼ定形											14
444	2S-0625		99F	F1A				ほぼ定形											13

Tab.23 梅島遺跡 (第2次調査) 出土遺物観察表②

遺構番号	層位	石材	備考	遺構番号	層位	石材	備考
2S-0089		泥岩?		2S-0753		泥岩?	
2S-0155		々		2S-0785		々	未製品か?
2S-0253		々		2S-1005		々	
2S-0320		々		表土	BT4	々	
2S-0334		々		表土	CJ18	々	
2S-0350		々		表土	CJ18	々	
2S-0469		々		表土		々	

Tab.24 梅島遺跡 (第2次調査) 出土石包丁一覧表

遺構番号	層位	石材	製品名	備考
2S-0260		サヌカイト	スクレイパー?	
2S-0290		黒曜石	ポイント?	
2S-0300		サヌカイト	スクレイパー?	
2S-0526		黒曜石	ドリル	
2S-0559		サヌカイト	スクレイパー?	
2S-0567		サヌカイト	鎌	
2S-0700		黒曜石	鎌	
2S-0870		? (片岩)	石剣	
2S-0933		サヌカイト	スクレイパー	
2S-0980		サヌカイト	鎌?	
表土		緑泥片岩	鎌?	
表土		サヌカイト	スクレイパー?	

Tab.25 梅島遺跡 (第2次調査) 出土石器未製品一覧表

遺構番号	層位	石材	製品名	備考
2S-0140		滑石	石鏝	底部?
2S-0147		滑石	?	穿孔有
2S-0350		?	砥石	
2S-0516		?	砥石	
2S-0710	4層	滑石	石鏝	
2S-1130		?	砥石	
表土		滑石	石鏝	
表土		滑石	石鏝	

Tab.26 梅島遺跡 (第2次調査) 出土その他石製品一覧表

遺構番号	層位	石材	点数	備考	遺構番号	層位	石材	点数	備考
2S-0059		黒曜石	1		2S-0338		サヌカイト	1	
2S-0064		サヌカイト	1		2S-0340		黒曜石	2	
2S-0065		黒曜石	1		2S-0341		黒曜石	1	
2S-0065		サヌカイト	1		2S-0350		黒曜石	1	
2S-0066		黒曜石	1		2S-0350		黒曜石	2	
2S-0071		サヌカイト	1		2S-0350		サヌカイト	1	
2S-0075		黒曜石	1		2S-0350		サヌカイト	1	
2S-0078		黒曜石	1		2S-0350		サヌカイト	5	
2S-0079		黒曜石	1		2S-0350		サヌカイト	1	
2S-0079		サヌカイト	1		2S-0358		黒曜石	1	
2S-0089		黒曜石	1		2S-0362		黒曜石	1	
2S-0139		黒曜石	1		2S-0364		黒曜石	1	
2S-0154		黒曜石	1		2S-0365		黒曜石	2	
2S-0160		黒曜石	1		2S-0379		黒曜石	1	
2S-0173		サヌカイト	1		2S-0382		黒曜石	3	
2S-0179		黒曜石	1		2S-0383		黒曜石	1	
2S-0190		黒曜石	2		2S-0384		黒曜石	1	
2S-0190		サヌカイト	1		2S-0406		黒曜石	2	
2S-0193		サヌカイト	1		2S-0406		黒曜石	1	
2S-0203		サヌカイト	1		2S-0410		チャート	1	
2S-0206		黒曜石	1		2S-0411		黒曜石	1	
2S-0206		黒曜石	1		2S-0425		黒曜石	3	
2S-0206		サヌカイト	1		2S-0426		黒曜石	1	
2S-0207		黒曜石	2		2S-0430		黒曜石	1	
2S-0210		黒曜石	1		2S-0430		黒曜石	1	
2S-0233		黒曜石	1		2S-0430		黒曜石	1	
2S-0270		黒曜石	2		2S-0430		サヌカイト	1	
2S-0270		黒曜石	1		2S-0430		サヌカイト	1	
2S-0270		黒曜石	1		2S-0431		黒曜石	1	
2S-0270		黒曜石	1		2S-0444		黒曜石	2	
2S-0270		サヌカイト	1		2S-0448		黒曜石	1	
2S-0272		黒曜石	1		2S-0457		黒曜石	1	
2S-0281		黒曜石	1		2S-0465		サヌカイト	1	
2S-0297		黒曜石	1		2S-0467		黒曜石	1	
2S-0299		黒曜石	1		2S-0469		サヌカイト	1	
2S-0300		黒曜石	3		2S-0479		黒曜石	1	
2S-0300		黒曜石	1		2S-0495		黒曜石	1	
2S-0300		サヌカイト	1		2S-0512		黒曜石	1	
2S-0300		サヌカイト	1		2S-0542		黒曜石	2	
2S-0314		黒曜石	1		2S-0542		サヌカイト	1	
2S-0320		黒曜石	2		2S-0548		黒曜石	1	
2S-0327		黒曜石	1		2S-0551		黒曜石	1	
2S-0329		黒曜石	1		2S-0553		黒曜石	1	

Tab.27 梅島遺跡 (第2次調査) 出土剥片一覧表①

遺構 番号	層位	石材	点数	備考	遺構 番号	層位	石材	点数	備考
2S-0556		黒曜石	1		2S-0753		サヌカイト	2	
2S-0567		黒曜石	1		2S-0773		サヌカイト	1	
2S-0585		黒曜石	1		2S-0785		黒曜石	1	
2S-0585		サヌカイト	1		2S-0785		サヌカイト	2	
2S-0587		黒曜石	1		2S-0787		黒曜石	1	
2S-0592		黒曜石	2		2S-0790		黒曜石	1	
2S-0592		サヌカイト	1		2S-0794		サヌカイト	1	
2S-0601		黒曜石	4		2S-0799		サヌカイト	1	
2S-0609		黒曜石	1		2S-0803		黒曜石	2	
2S-0613		黒曜石	4		2S-0815		黒曜石	2	
2S-0613		サヌカイト	1		2S-0816		黒曜石	1	
2S-0622		黒曜石	1		2S-0816		サヌカイト	1	
2S-0633		黒曜石	7		2S-0818		黒曜石	1	
2S-0641		黒曜石	1		2S-0820		サヌカイト	1	
2S-0655		黒曜石	1		2S-0820		サヌカイト	1	
2S-0655		黒曜石	1		2S-0822		黒曜石	1	
2S-0656		黒曜石	8		2S-0829		黒曜石	1	
2S-0656		サヌカイト	2		2S-0829		黒曜石	1	
2S-0662		黒曜石	2		2S-0831		黒曜石	1	
2S-0664		黒曜石	1		2S-0840		黒曜石	1	
2S-0672		黒曜石	3		2S-0840		サヌカイト	1	
2S-0673		黒曜石	1		2S-0847		黒曜石	1	
2S-0674		黒曜石	1		2S-0847		サヌカイト	2	
2S-0675		サヌカイト	1		2S-0850		サヌカイト	3	
2S-0675		サヌカイト	1		2S-0870		黒曜石	1	
2S-0680		黒曜石	4		2S-0873		サヌカイト	1	
2S-0680		黒曜石	2		2S-0883		黒曜石	2	
2S-0680		サヌカイト	4		2S-0884		黒曜石	3	
2S-0695		黒曜石	1		2S-0885		黒曜石	1	
2S-0697		サヌカイト	1		2S-0887		サヌカイト	1	
2S-0700		黒曜石	6		2S-0892		サヌカイト	1	
2S-0700		サヌカイト	1		2S-0894		黒曜石	1	
2S-0700		サヌカイト	1		2S-0894		サヌカイト	1	
2S-0710		黒曜石	1		2S-0900		黒曜石	1	
2S-0710		サヌカイト	1		2S-0910		黒曜石	1	
2S-0720		黒曜石	1		2S-0910		サヌカイト	2	
2S-0720		黒曜石	1		2S-0915		黒曜石	1	
2S-0720		黒曜石	1		2S-0920		黒曜石	2	
2S-0720		サヌカイト	3		2S-0920		サヌカイト	2	
2S-0730		黒曜石	1		2S-0922		黒曜石	1	
2S-0747		サヌカイト	1		2S-0941		黒曜石	1	
2S-0749		黒曜石	1		2S-0945		黒曜石	1	
2S-0753		黒曜石	2		2S-0945		サヌカイト	1	

Tab.26 梅島遺跡 (第2次調査) 出土剥片一覧表②

遺構番号	層位	石材	点数	備考
2S-0960		黒曜石	1	
2S-0968		黒曜石	1	
2S-0975		黒曜石	1	
2S-0977		黒曜石	1	
2S-0980		黒曜石	7	
2S-0980		サヌカイト	17	
2S-0995		黒曜石	1	
2S-1000		黒曜石	1	
2S-1000		サヌカイト	1	
2S-1003		サヌカイト	1	
2S-1006		サヌカイト	1	
2S-1010		黒曜石	3	
2S-1010		サヌカイト	1	
2S-1011		黒曜石	1	
2S-1018		黒曜石	1	
2S-1018		サヌカイト	1	
2S-1020		黒曜石	2	
2S-1025		黒曜石	2	
2S-1040		黒曜石	1	
2S-1056		サヌカイト	1	
2S-1100		サヌカイト	1	
2S-1103		黒曜石	3	
2S-1103		サヌカイト	3	
2S-1121		サヌカイト	1	
2S-1125		黒曜石	1	
2S-1129		黒曜石	1	
2S-1130		黒曜石	1	
2S-1133		サヌカイト	1	
2S-1138		サヌカイト	1	
2S-1144		サヌカイト	1	
2S-1155		サヌカイト	1	
2S-1159		サヌカイト	1	
2S-1160		黒曜石	2	
2S-1162		黒曜石	1	
2S-1171		黒曜石	2	
2S-1171		サヌカイト	1	
2S-1173		チャート	1	
2S-1183		サヌカイト	1	
2S-1185		黒曜石	1	
2S-1225		黒曜石	1	
表土		黒曜石	44	
表土		サヌカイト	18	

4) 小結

今回の調査は、平成3年度に実施したもので、平成11年度になってやっと報告書の刊行をみる。

しかしながら、整理を進めて行くにつれ、調査当時の記録が今回の報告書に掲載するに耐えないものであることが判明した。ひとえに調査担当者の力量不足と怠慢によるものであって、結果的に記録保存の措置として適当であったかどうか批判的にならざるを得ない。

そのなかで、今回の報告で調査中から注目していた周溝状遺構についてと、大量に出土した遺物についてを、事実報告のみという形で報告することとなった。遺構の性格や遺跡の性格については今回論及することができないが、別の機会に場を持てればと考えている。

ともかく、遺跡名だけが独り歩きしていた感のある当遺跡の、遺物だけでも公表できたので、各方面から多くのご教示を得られれば幸いである。

Tab.29 梅島遺跡(第2次調査)出土剥片一覧表

IV. 総 括

筑後市内の遺跡に関しては、可能な限り保存に努めているところである。しかし、惜しくも開発などによる掘削や削平が及ぶ区域に関しては、発掘調査による記録保存の措置を余儀なくされている。

今回対象となった県営干拓地等農地整備事業の区域内においても、可能な限り遺跡保存に努めてきたところであるが、残念ながら掘削・削平の及ぶ箇所については筑後西部地区遺跡群の発掘調査として実施をしてきたところである。ただ、これによって多くの記録や資料が蓄積されたことは、筑後市の文化財を知る重要なこととして多大な成果といえ、今後、筑後市の文化財保護の啓発や研究などに生かされていくことであろう。ひとえに文化財にご理解とご協力を頂いた開発事業関係者、並びに調査に参加された作業員の方々の賜と思っている。

さて、筑後西部地区遺跡群の報告は本書をもって完結するが、時間の制約などにより十分な検討がなされないまま本書の刊行に至った。このことを反省し、検討がなされたことについては別書にて随時報告したいと考えている。

おわりに、筑後西部地区遺跡群発掘調査の概要を列記することで総括としたいが、本書に掲載した調査概要は末尾の抄録と重複するためここでは割愛した。また、梅島遺跡（第1次調査）は関連事業の遺跡であるのであわせて掲載した。

1. 梅島遺跡（第1次調査）

- | | |
|-------------|------------------------|
| 1) 遺跡の所在地 | 福岡県筑後市大字常用字梅島 |
| 2) 調査期間 | 平成2年12月22日～平成3年1月10日 |
| 3) 調査面積 | 約420㎡ |
| 4) 調査担当者 | 永見秀徳 |
| 5) 主な検出遺構 | 竪穴式住居、溝、堅穴、土塙、ピットなど |
| 6) 主な出土遺物 | 弥生土器、須恵器、土師器、瓦質土器、白磁など |
| 7) 遺跡の時代と性格 | 弥生時代中期～後期；集落 |
| 8) 報告書名 | 『梅島遺跡』筑後市文化財調査報告書 1992 |

2. 榎崎遺跡

- | | |
|-------------|----------------------------------|
| 1) 遺跡の所在地 | 福岡県筑後市大字下北島字榎崎 |
| 2) 調査期間 | 平成4年7月1日～平成4年12月16日 |
| 3) 調査面積 | 約3,500㎡ |
| 4) 調査担当者 | 小林勇作 |
| 5) 主な検出遺構 | 道路、掘立柱建物、溝、土塙、ピットなど |
| 6) 主な出土遺物 | 弥生土器、須恵器、土師器、瓦器、青磁、白磁、粉青沙器、石製品など |
| 7) 遺跡の時代と性格 | 弥生時代中期～後期；集落、中世～近世；道路 |
| 8) 報告書名 | 『榎崎遺跡』筑後市文化財調査報告書第9集 1993 |

3. 井田西中野遺跡

- | | |
|-------------|---------------------------------|
| 1) 遺跡の所在地 | 福岡県筑後市大字井田字西中野 |
| 2) 調査期間 | 平成5年11月15日～平成5年11月29日 |
| 3) 調査面積 | 671㎡ |
| 4) 調査担当者 | 小林勇作 |
| 5) 主な検出遺構 | 溝 |
| 6) 主な出土遺物 | 土師器、白磁、陶器、石製品など |
| 7) 遺跡の時代と性格 | 中世～近世?；集落 |
| 8) 報告書名 | 『筑後西部地区遺跡群』筑後市文化財調査報告書第15集 1995 |

4. 島田三反田遺跡

- | | |
|-------------|---------------------------------|
| 1) 遺跡の所在地 | 福岡県筑後市大字島田字三反田 |
| 2) 調査期間 | 平成6年9月16日～平成6年12月6日 |
| 3) 調査面積 | 1,360㎡ |
| 4) 調査担当者 | 小林勇作 |
| 5) 主な検出遺構 | 溝、土壇、ピットなど |
| 6) 主な出土遺物 | 弥生土器、須恵器、土師器、青磁、白磁など |
| 7) 遺跡の時代と性格 | 中世～近世：集落 |
| 8) 報告書名 | 『筑後西部地区遺跡群』筑後市文化財調査報告書第15集 1995 |

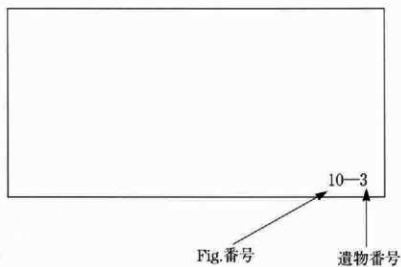
5. 古島島相遺跡

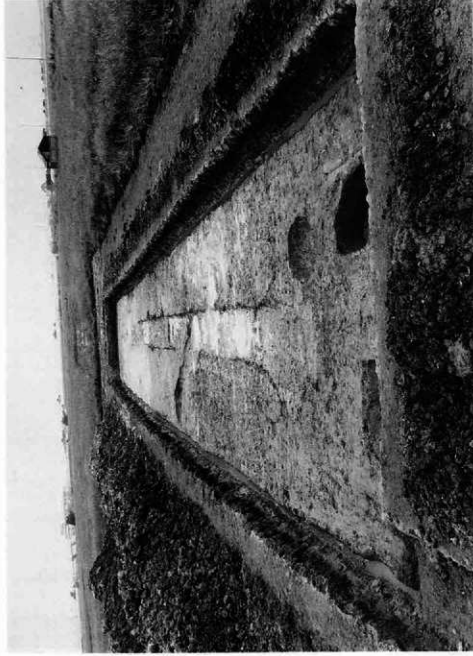
- | | |
|-------------|---------------------------------|
| 1) 遺跡の所在地 | 福岡県筑後市大字古島字島相 |
| 2) 調査期間 | 平成6年9月17日～平成6年12月6日 |
| 3) 調査面積 | 1,920㎡ |
| 4) 調査担当者 | 小林勇作 |
| 5) 主な検出遺構 | 土壇、ピットなど |
| 6) 主な出土遺物 | 弥生土器、須恵器、土師器など |
| 7) 遺跡の時代と性格 | 弥生時代後期～中世：集落 |
| 8) 報告書名 | 『筑後西部地区遺跡群』筑後市文化財調査報告書第15集 1995 |

写 真 図 版

凡 例

遺物の写真図版右下の番号は、以下の要領である。





常用ヒンセン遺跡調査区全景（東から）



土壌完掘状況（西から）



水田正吹道跡調査区A・B全景（真上から）



調査区A (SB020) 完掘状況（南西から）



調査区 A (SB030) 検出状況 (南西から)

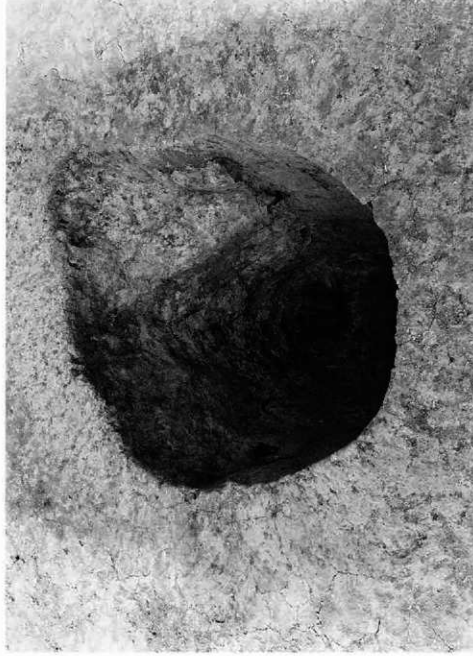


調査区 A (SB040) 検出状況 (南東から)

Pl. 4



調査区 A 土壌群完掘状況 (夏から)



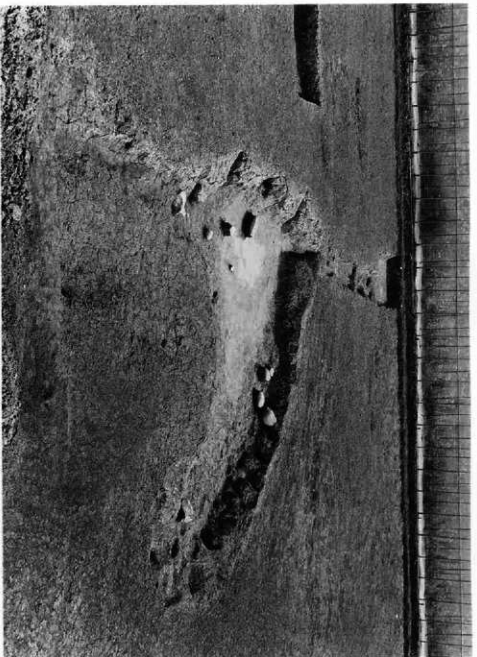
調査区 A (SK005) 遺物出土状況 (南から)



調査区A (SK010) 遺物出土状況 (北から)



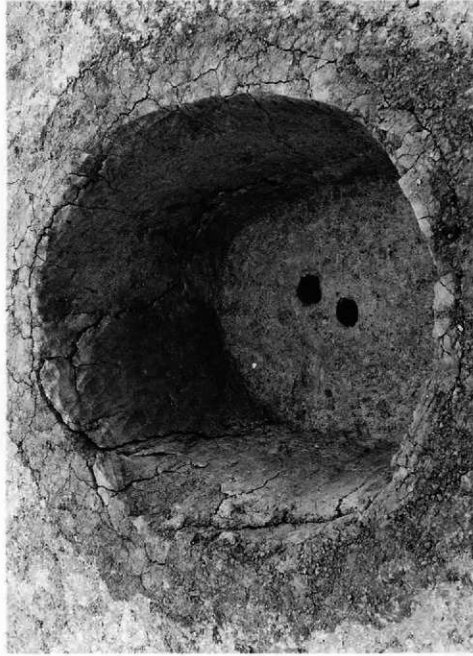
調査区A (SK015) 遺物出土状況 (北から)



調査区 B (SD0050) 完掘状況 (西から)



調査区 B (SK025) 完掘状況 (東から)



調査区 B (SK035) 完掘状況 (北西から)



調査区 B (SK045) 遺物出土状況 (南から)



水田正吹遺跡調査区C全景（真上から）



調査区C (SX100) 遺物出土状況（北東から）



調査区C (S×100) 完掘状況 (南から)



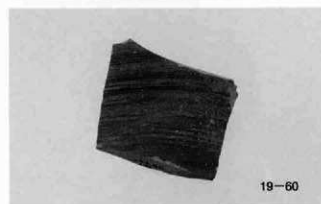
水田正吹遺跡調査区D全景 (西から)

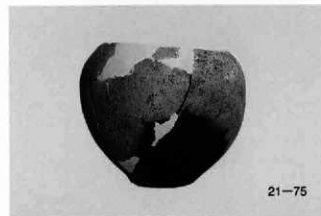


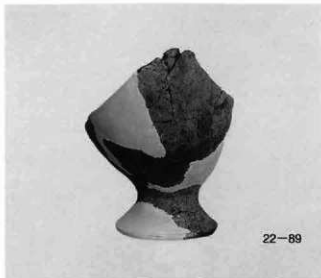
水田正吹通跡調査区E全景（東から）



調査区E (SD137) 完掘状況（南から）



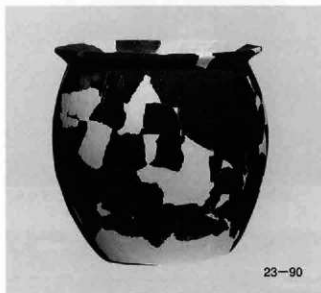




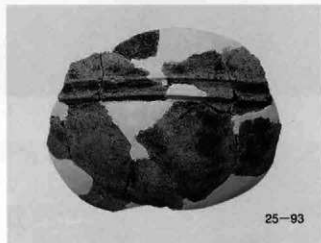
22-89



24-92



23-90



25-93



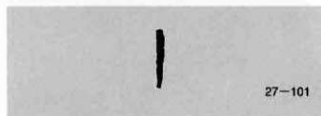
23-91



27-98



27-100



27-101



27-99



島田外屋敷遺跡調査区全景（空中写真：東から）



島田外屋敷遺跡調査区全景（空中写真：西から）



島田外屋敷遺跡調査区A全景（空中写真：真上から）



島田外屋敷遺跡調査区B全景（空中写真：真上から）



鳥田外屋敷遺跡調査区C全景（空中写真：真上から）



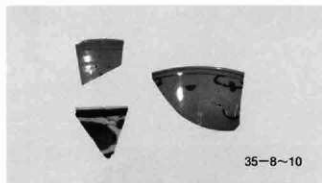
鳥田外屋敷遺跡調査区D全景（空中写真：真上から）



調査区 D (SD10) 完掘状況 (南から)



調査区 D (SK40) 土層断面 (北から)





37-36



37-47



37-37



37-48



37-38



37-50



37-39



37-52



37-40



37-53



37-43



37-54



37-44



37-56



37-45



37-46



37-57



37-58



37-59



37-60



37-62



37-64



37-65



37-67



37-68



37-71



37-72



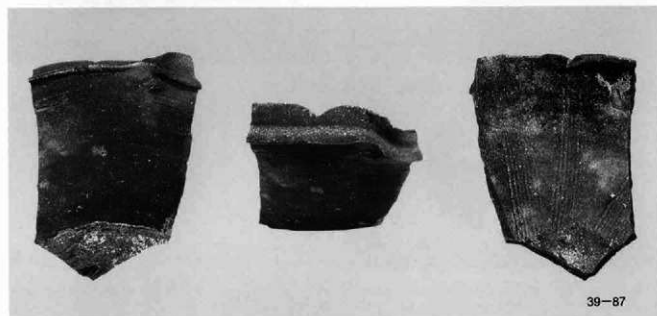
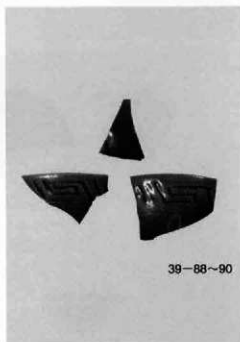
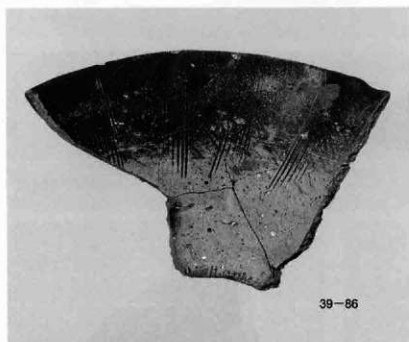
37-73

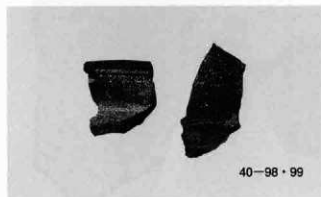
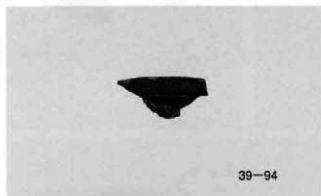
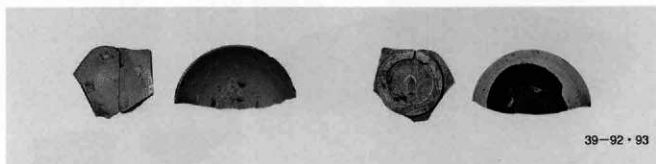
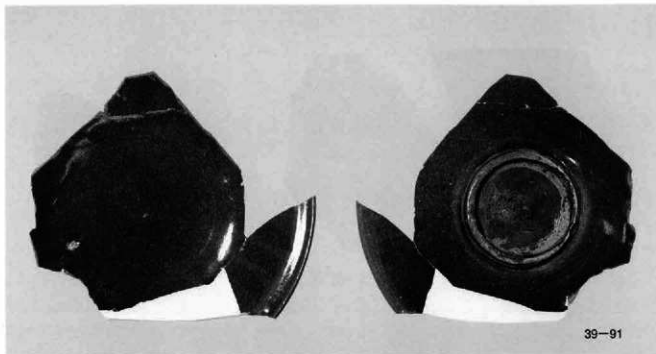


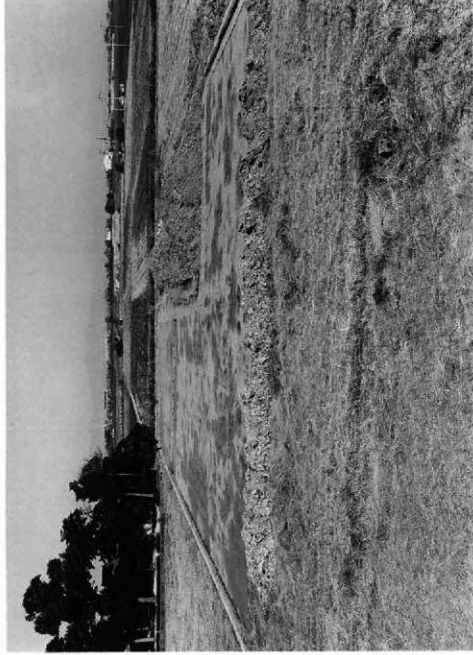
38-78



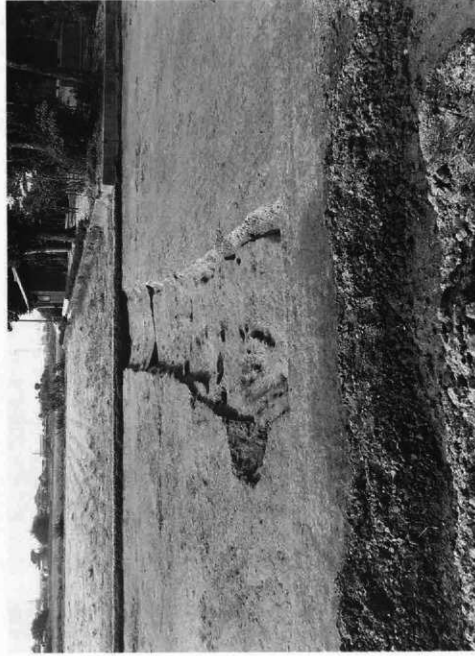
38-80 · 81







井田栗ノ内遺跡調査区全景（南から）



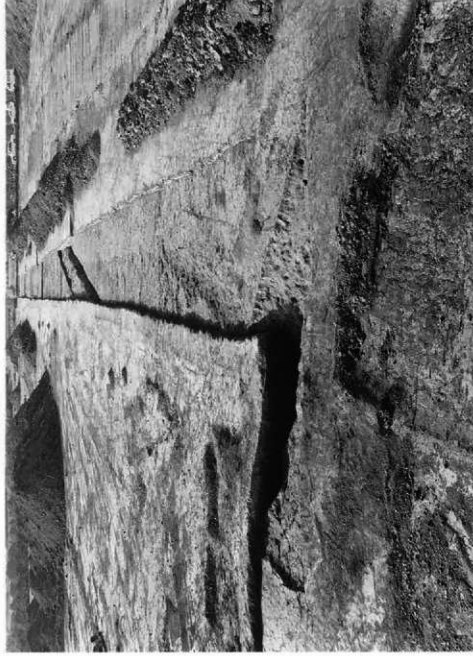
SD1 完掘状況（東から）



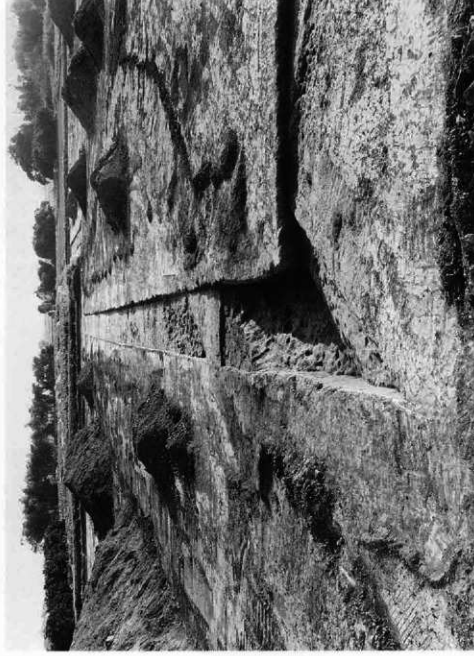
水田伊勢ノ脇遺跡調査区全景① (南から)



水田伊勢ノ脇遺跡調査区全景② (西から)



水田伊勢ノ脇遺跡調査区全景③ (東から)



水田伊勢ノ脇遺跡調査区全景④ (北から)



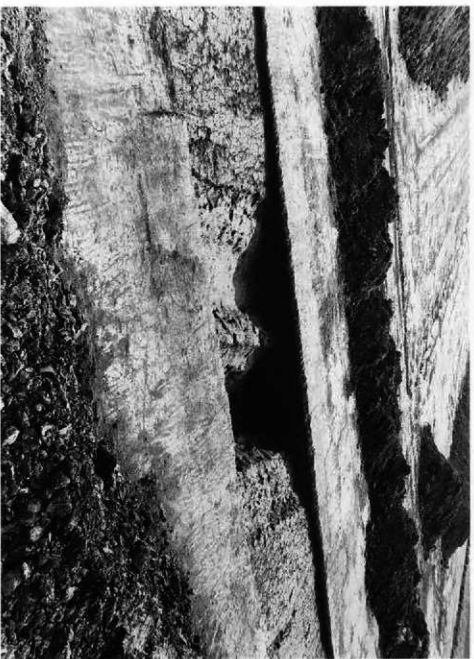
水田伊勢ノ隘遺跡調査区全景⑤ (西から)



水田伊勢ノ隘遺跡調査区全景⑥ (北から)



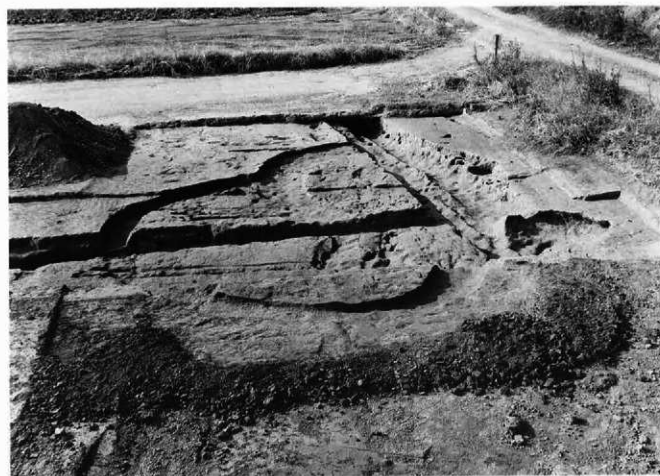
SD010・020発掘状況(西カ5)



SD060・070発掘状況(北カ5)



SD080完掘状況 (東から)



SX040・050完掘状況 (東から)



SK005完掘状況（北西から）



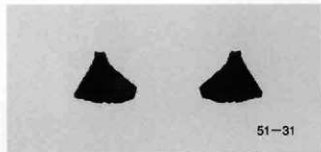
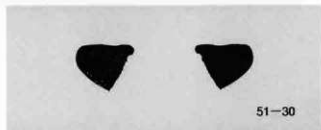
SK035遺物出土状況①（南から）



SK035遺物出土状況② (南から)



SK135完掘状況 (北から)





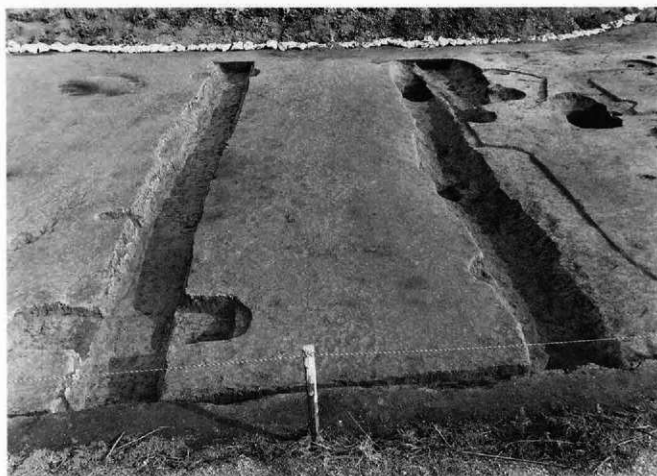
折地長閑寺遺跡調査区全景 (南から)



折地長閑寺遺跡調査区全景 (西から)



SD05・10完掘状況（西から）



SD20・30完掘状況（西から）



SD51完掘状況（北から）



SD52完掘状況（北から）



SD60完掘状況 (南東から)



SK11完掘状況 (西から)



SK29完掘状況（東から）



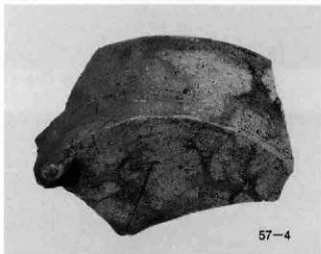
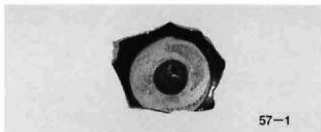
SK42・43完掘状況（西から）

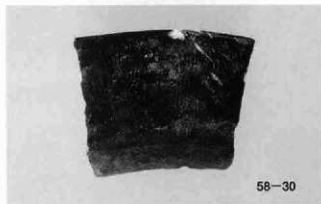
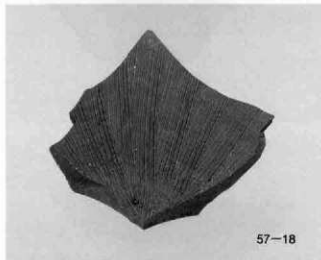
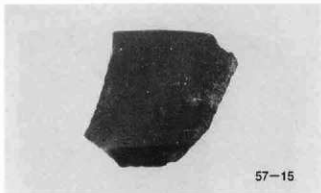


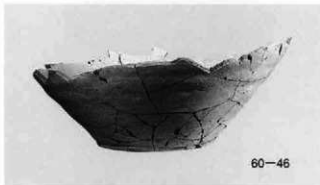
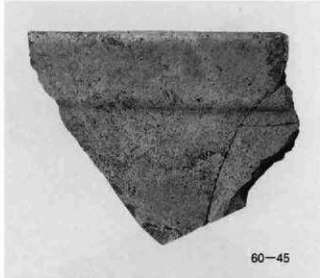
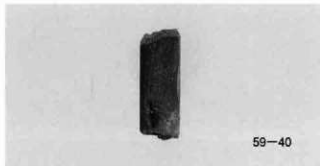
SK50遺物出土状況（西から）

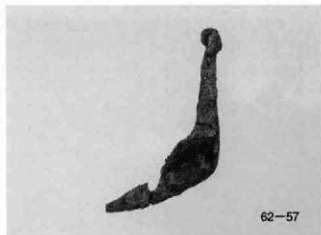
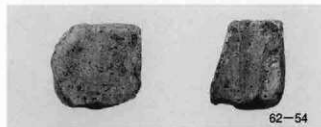
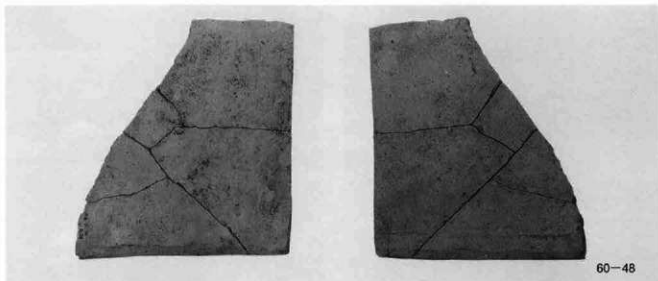


ピット群完掘状況（北西から）







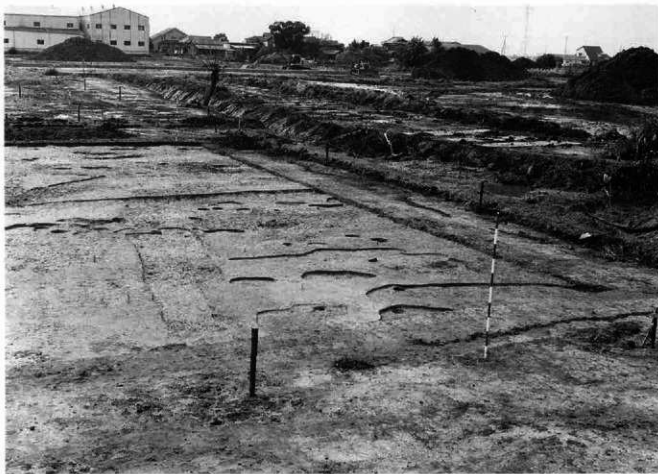




井田堀越遺跡調査区全景（空中写真：東から）



井田堀越遺跡調査区全景（空中写真：西から）



井田堀越遺跡西端部完掘状況（北から）



井田堀越遺跡西部完掘状況（空中写真：真上から）



井田畑越道跡東部完掘状況 (空中写真：真上から)



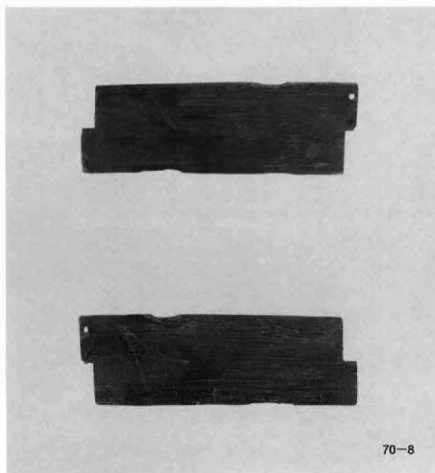
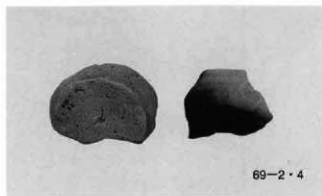
SD15空掘状況 (空中写真：真上から)

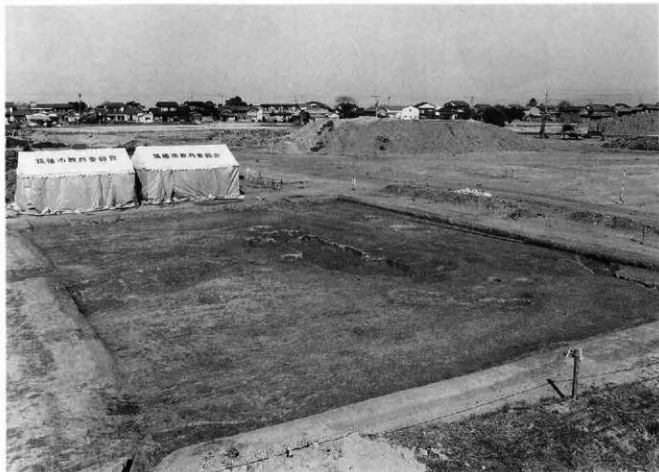


SD10木製品 (木鏟) 出土状況 (西から)



SD10木製品 (拵) 出土状況 (西から)

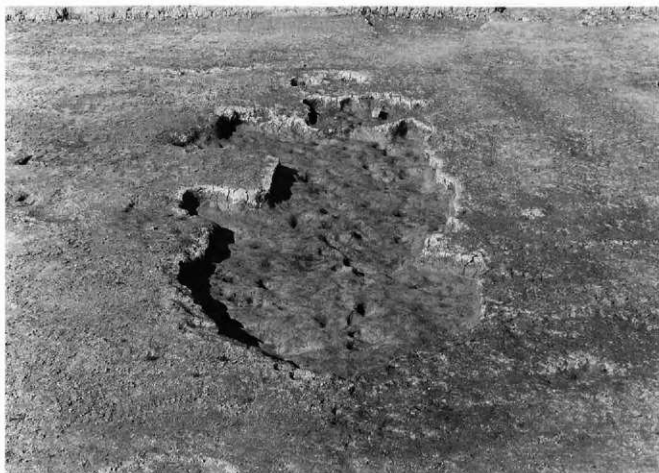




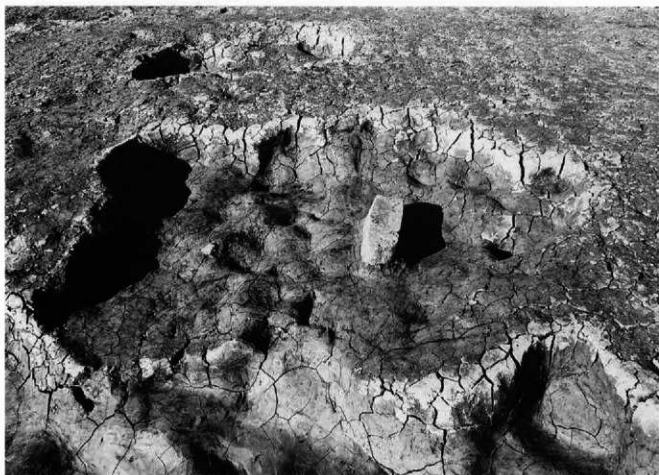
井田下堀越遺跡調査区全景（南から）



SD15完掘状況（北から）

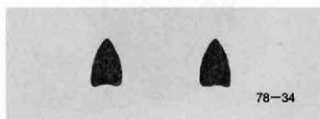
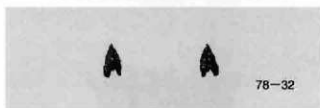


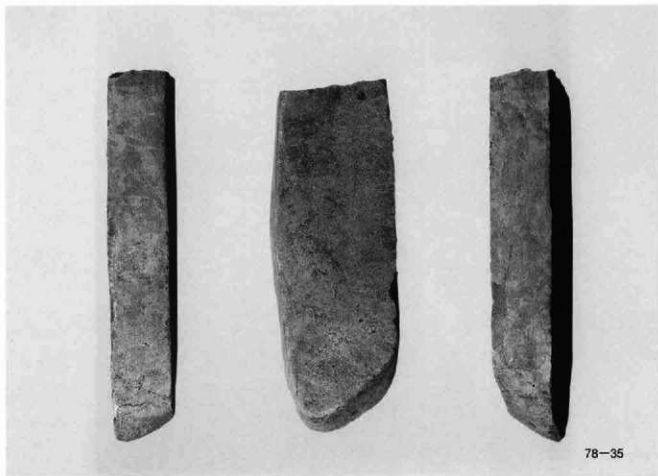
SK10完掘状況（南から）



SK10遺物出土状況（南から）





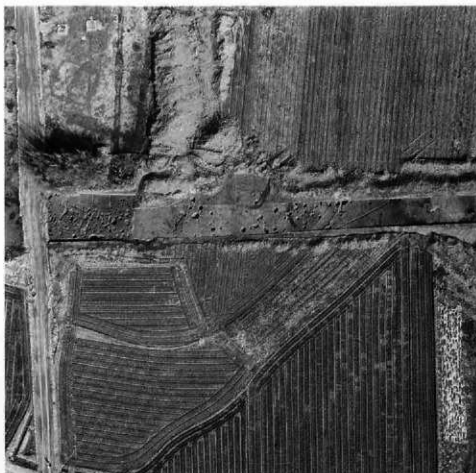




梅島遺跡第2次調査調査区全景（南から）



梅島遺跡第2次調査北東調査区（上が北）



梅島遺跡第2次調査東西調査区東部分（上が北）



梅島遺跡第2次調査東西調査区西部分（上が北）



梅島遺跡第2次調査中央調査区南半部（東から）



梅島遺跡第2次調査中央調査区北半部（東から）



梅島遺跡第2次調査中央調査区南半部(西から)



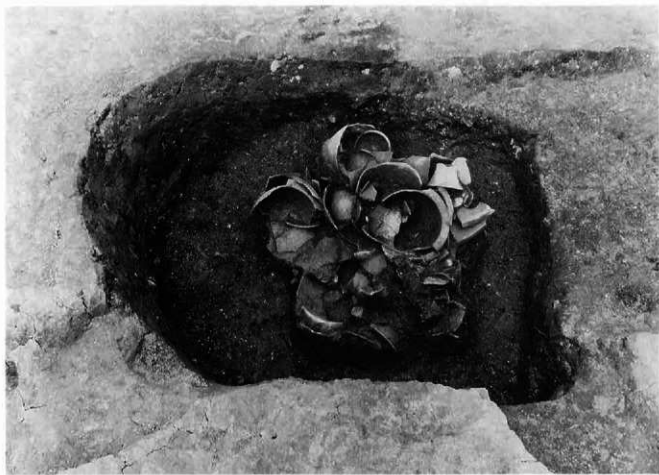
梅島遺跡第2次調査中央調査区北半部(西から)



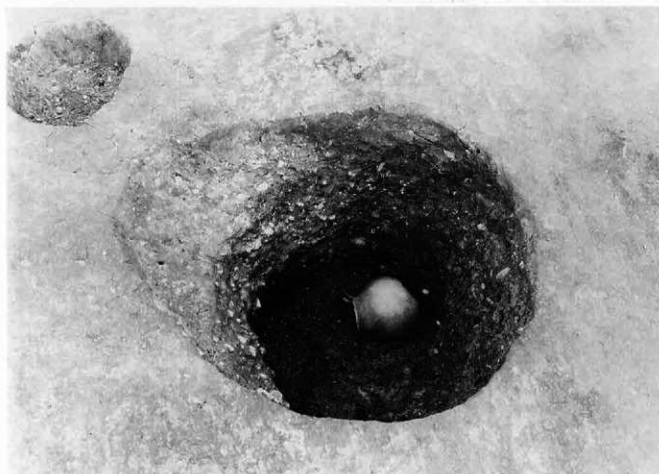
梅島遺跡第2次調査中央調査区水没状況



梅島遺跡第2次調査東西調査区水没状況



梅島遺跡第2次調査2SK0160遺物出土状況



梅島遺跡第2次調査2SK0170遺物出土状況



梅島遺跡第2次調査2SK0180遺物出土状況



梅島遺跡第2次調査2SK0190遺物出土状況



梅島遺跡第2次調査2SK0210遺物出土状況



梅島遺跡第2次調査2SK0299遺物出土状況



梅島遺跡第2次調査2SK0311遺物出土状況



梅島遺跡第2次調査2SK0840遺物出土状況



84-2



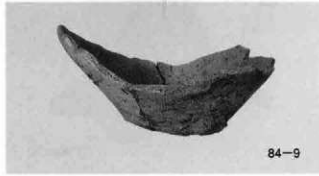
84-4



84-7



84-8



84-9



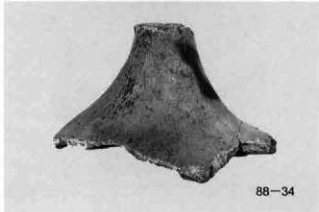
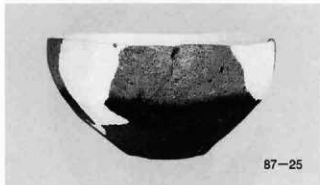
85-14

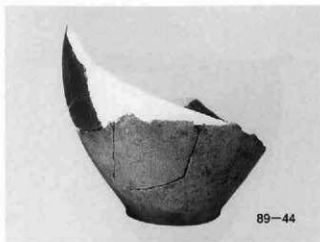
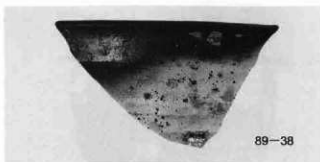


85-17



86-18









93-54



93-56



93-57



94-58



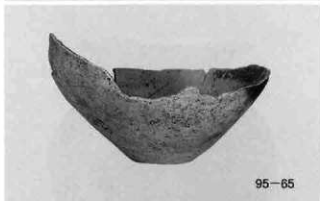
94-59

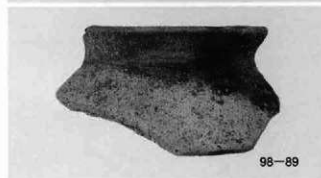
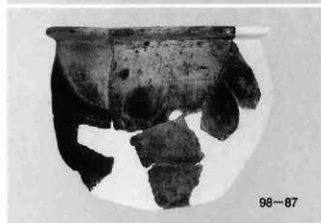
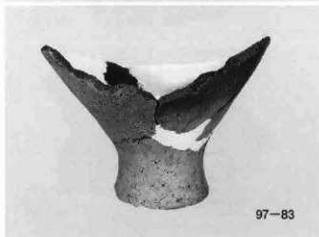
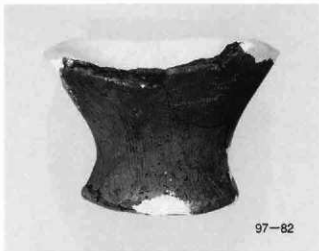


94-61

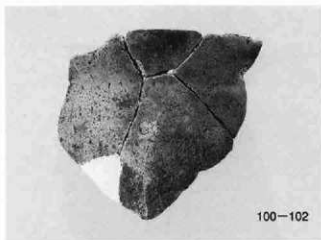


94-62









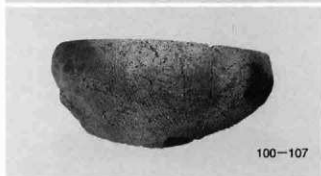
100-102



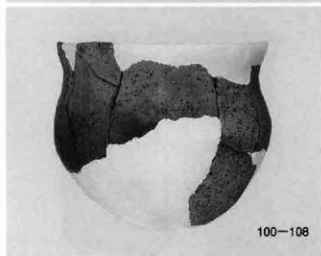
100-106



100-103



100-107



100-108



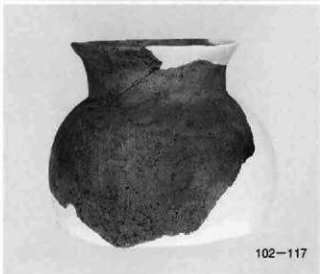
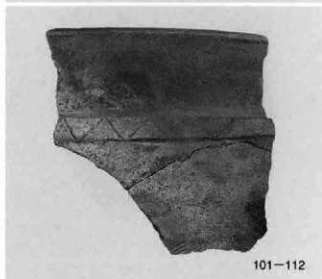
100-104

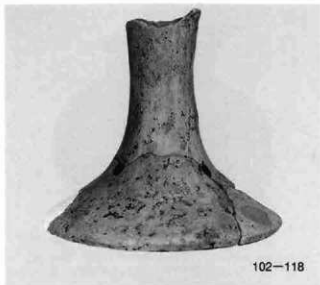


101-109



100-105





102-118



102-119



103-120



103-121



103-122



103-123



103-124



103-125



103-126



104-127



104-128



104-129

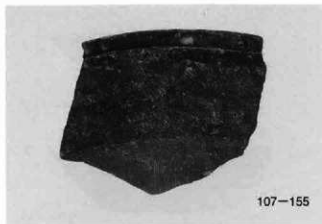


104-130



105-133







107-169



108-174



107-170



108-175



107-171



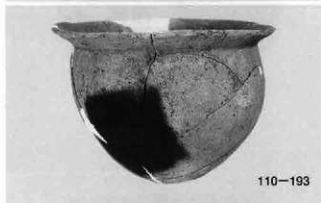
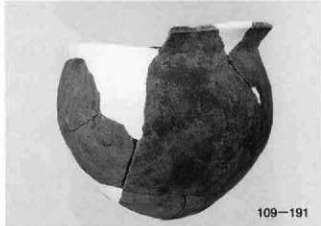
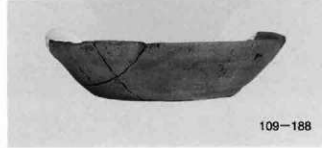
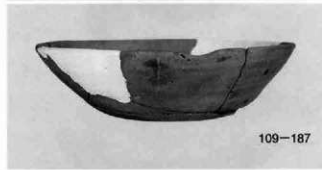
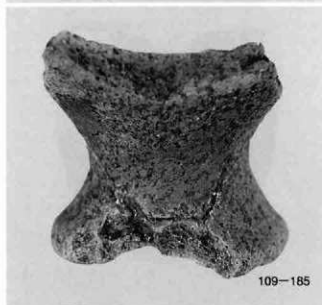
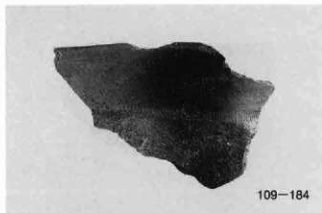
108-178



108-173



108-180





110-197



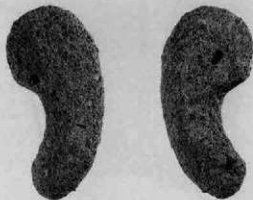
110-198



110-199



111-203



111-205



111-206



112-208



112-211



112-212



112-215



112-216



112-217



113-219



113-220



113-223



113-225



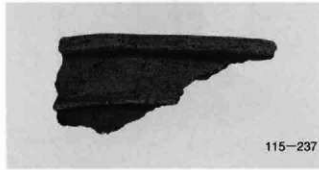
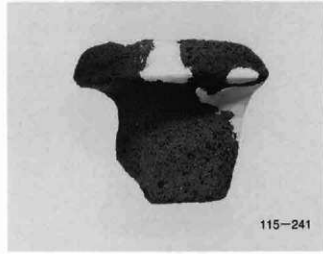
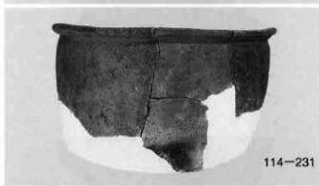
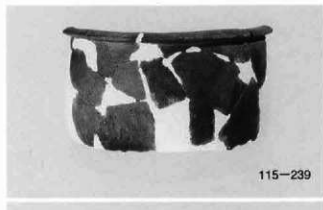
113-226



113-228



114-229





117-245



117-246



117-249



117-250



117-251



117-253



118-254



118-259



119-263



119-265



119-266



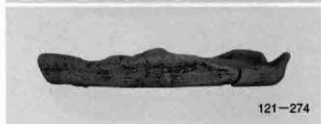
120-271



119-269



121-273



121-274



120-270



121-275



121-276



121-277



121-278



121-279



121-280



121-281



121-282



121-283



121-284



121-285



121-286



121-287



121-288



121-291



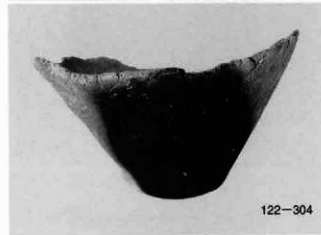
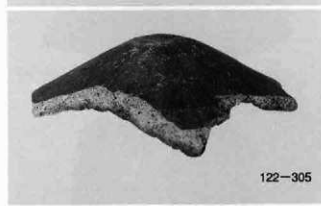
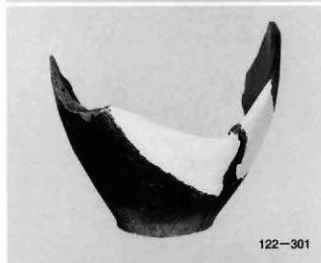
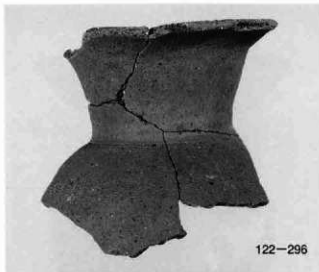
121-292



121-293



121-295

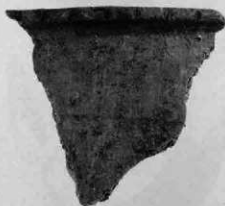




122-305



123-310



123-306



123-311



123-307



123-315



123-308



128-316



128-309



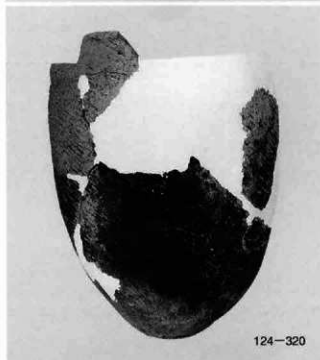
124-319



124-322



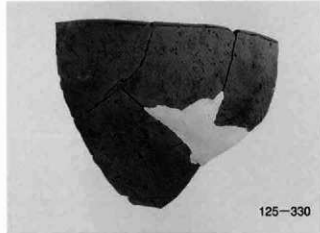
125-325



124-320



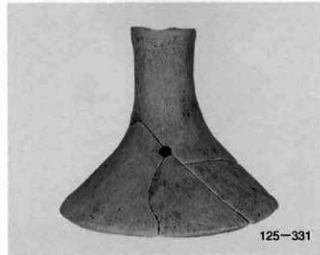
125-328



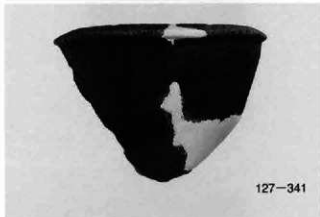
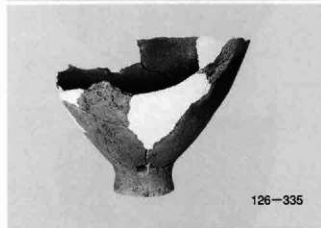
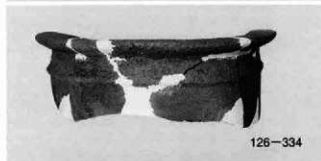
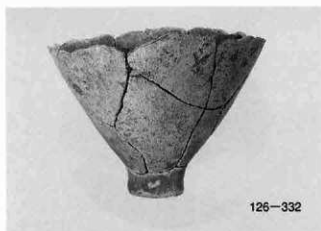
125-330



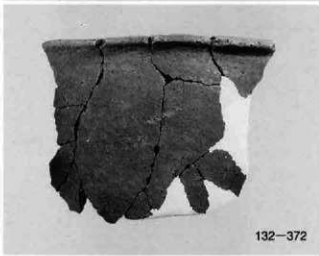
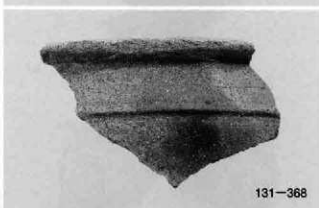
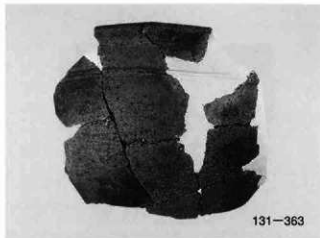
124-321

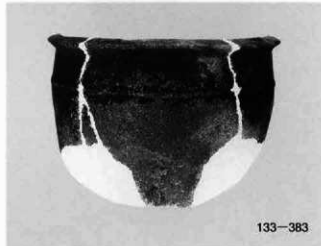
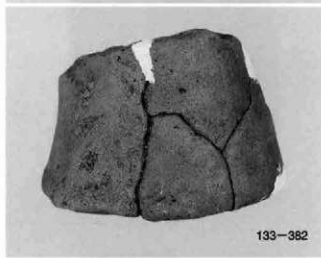
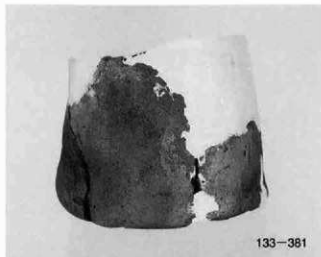
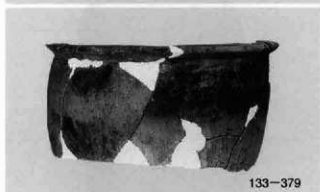


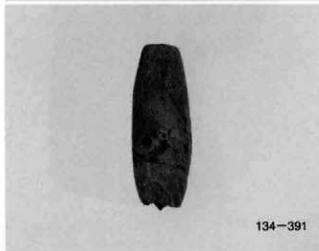
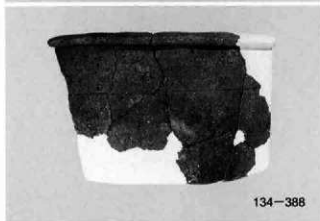
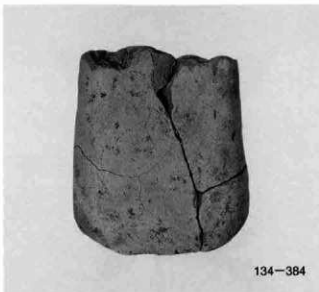
125-331

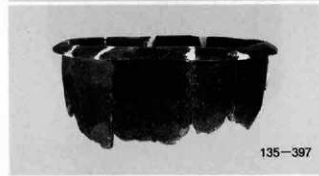
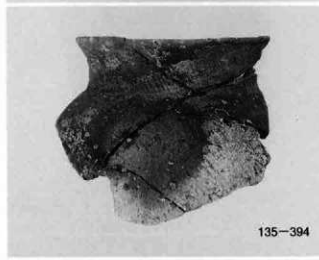
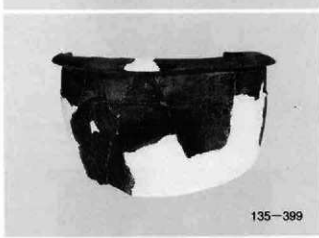


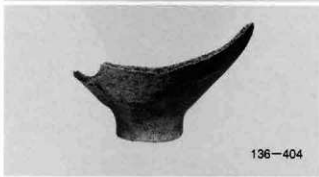


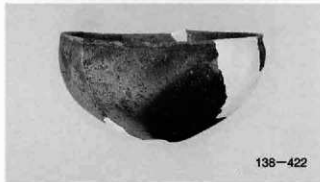
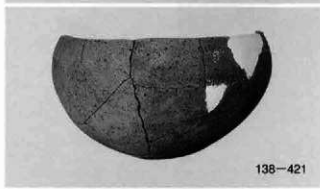
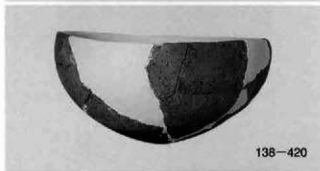
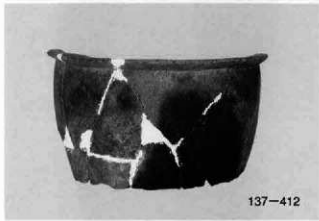
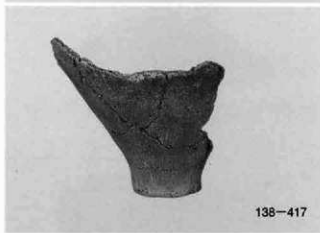














139-424



139-425



139-426



139-427



140-429



140-430



140-431



140-428



141-433



141-434



141-435



141-437



141-436



141-438



142-439



142-440



142-441



142-442



142-443



142-444





4-3



5-2



4-4



5-3



4-6



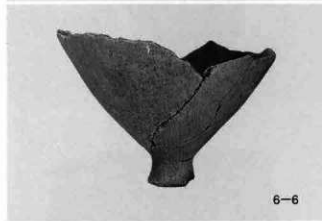
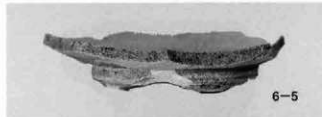
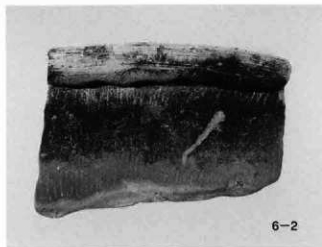
5-7



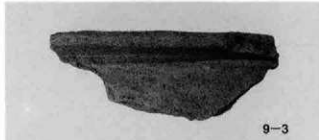
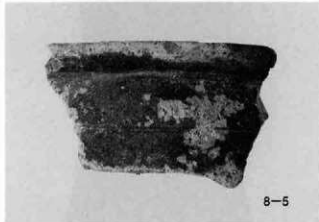
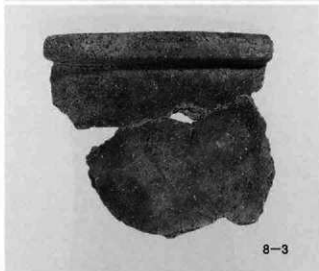
5-1



6-1









10-2



10-3



10-4



10-5



10-6



10-7



11-1



11-2



11-5



11-10



11-12



11-13



12-2



12-3



12-4



12-6



12-7



12-16



13-3



13-5



14-10



14-11



14-14



14-16



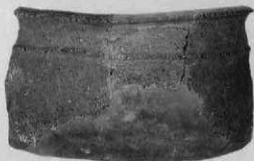
14-22



15-1



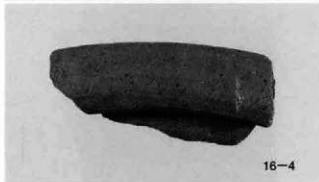
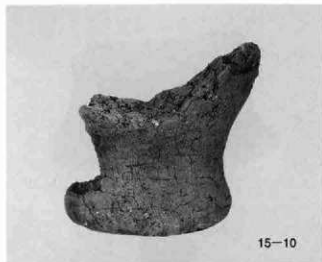
15-2



15-8



15-9





17-4



17-7

筑後西部地区遺跡群Ⅱ

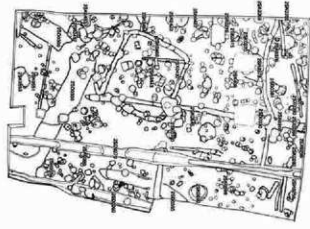
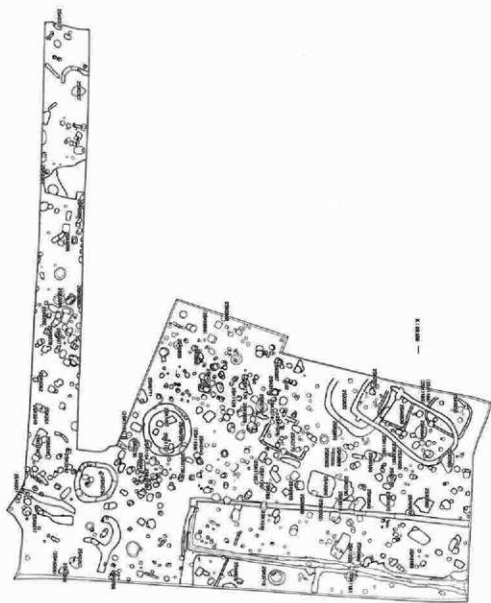
筑後市文化財調査報告書

第29集

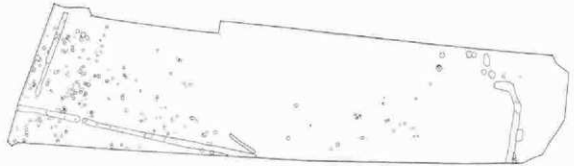
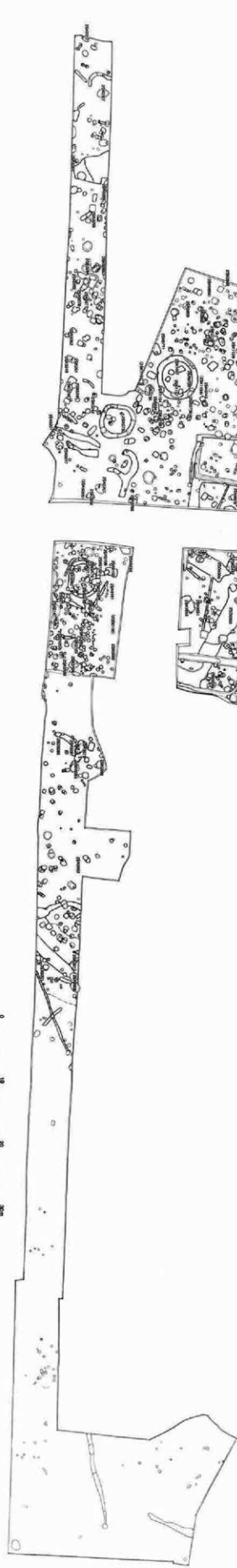
平成12年3月

編集機関 筑後市教育委員会
筑後市大字山ノ井898

印刷 有限会社 新幸印刷
福岡県三井郡北野町上弓削696-6



附圖(3) 東區遺址 (總圖及局部圖) 遺址基本情況圖(1955)



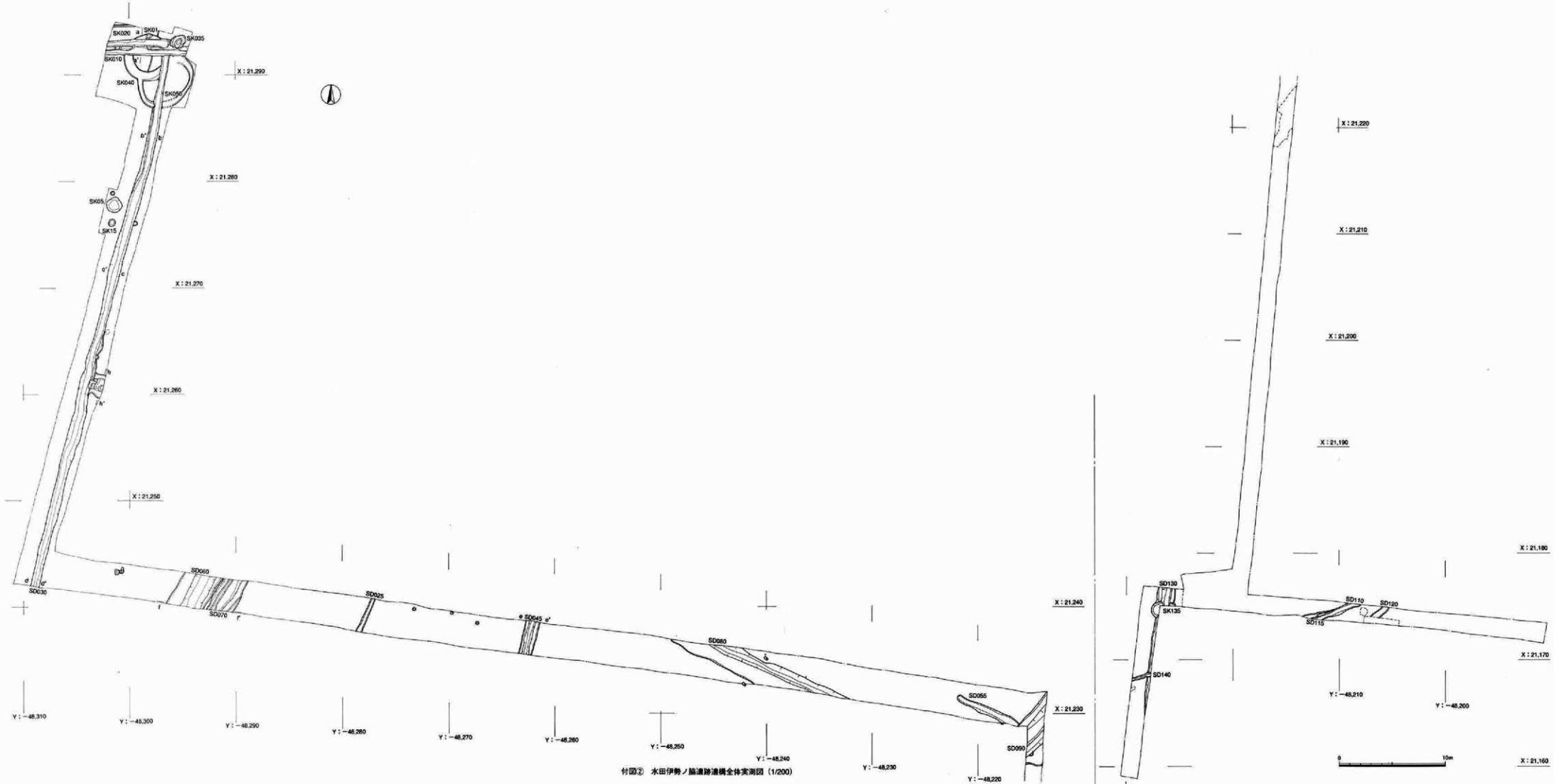
比例尺 1:1000

比例尺 1:1000

比例尺 1:1000

比例尺 1:1000

比例尺 1:1000



付図② 水田伊勢ノ麻溜跡遺構全体実測図 (1/200)